

講 義 概 要

シ ラ バ ス

共通科目	P. 157
専門科目(英語観光学科)	P. 195
専門科目(心理こども学科)	P. 247
教職に関する科目(英語観光学科)	P. 305

現代人間学部
共 通 科 目

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門			11101	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるという権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ぶにしろ、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、KAISEIパーソナリティの異文化理解のIn（国際性）とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K（思いやり）の心を養う。

授業の概要

キリスト教は西暦1世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の3大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

授業計画

- 1 はじめに 宗教とは
- 2 世界の三大宗教(仏教)
- 3 世界の三大宗教(イスラム教)
- 4 創造神話
- 5 アブラハム
- 6 出エジプト
- 7 カナンへの帰還
- 8 王国の成立と発展
- 9 王国の分裂
- 10 バビロン捕囚
- 11 ユダヤ教の成立とメシア待望
- 12 ナザレのイエス―その生涯
- 13 イエスの宣教
- 14 イエスの裁判、十字架上の死と復活
- 15 キリスト教の成立と発展

授業の方法

講義、発問、討議

準備学修

信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』（新共同訳（旧約統編つき）） 日本聖書協会（新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書

百瀬文晃『キリスト教の輪郭』（女子パウロ会）
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』（PHP研究所）

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかり学んで欲しい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論			11105	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 陽子	必修	2				

授業の到達目標

聖書について知ることで、キリスト教文化圏の人々が常識として持っている知識や習慣、考え方について学び、理解や交流の基盤となるような教養を身に着ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、In（国際性）を目指す。

授業の概要

聖書とはどのような書物かということを知るために、それぞれの内容や特徴を順番に概観していく。聖書が教える普遍的な知恵に触れ、苦しみ、愛、悪、救い、徳などのテーマについて考察する。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 モーセ5書①
- 3 モーセ5書②
- 4 歴史書
- 5 知恵文学
- 6 預言書
- 7 マルコによる福音書
- 8 マタイによる福音書
- 9 ルカによる福音書
- 10 ヨハネによる福音書
- 11 使徒言行録
- 12 パウロの手紙①
- 13 パウロの手紙②
- 14 全教会への手紙
- 15 黙示録

授業の方法

講義形式だが、意見やコメントも求める。

準備学修

「聖書」（新共同訳の場合は統編付き）の最初にある、創世記1章～3章まで読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

平常点40%、定期試験60%

欠席について

規定に従う

テキスト

「聖書」新共同訳 旧約聖書統編付き 日本聖書協会発行

参考図書

「旧約聖書」図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社
「聖書Q&A」和田幹男監著 女子パウロ会
「聖書読解へのアクセス」湯浅俊治著 教友社
「カトリック教会のカテキズム」カトリック中央協議会 など

留意事項

授業には「聖書」を持参

オフィスアワー

授業日の昼休み

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修			11109	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

本学と深い関係のあるアジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アシジは訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力を持つ。この授業ではIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジアを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、鑑賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

- 1 研修に出る前の準備のクラス 第1回—イエスの生涯を中心に—
- 2 研修に出る前の準備のクラス 第2回—フランシスコの生涯と思想—
- 3 研修に関する具体的な準備の集まり
- 4 研修の日程1日目:関西空港から出発ミラノ着
- 5 研修の日程2日目:ミラノにて大聖堂、聖アンブロジオ教会等を訪問
- 6 研修の日程3日目:フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
- 7 研修の日程4日目:アシジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
- 8 研修の日程4日目:サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会へ
- 9 研修の日程5日目:アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
- 10 研修の日程5日目:サンダミアーノ修道院へ
- 11 研修の日程6日目:ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
- 12 研修の日程7日目:バチカン美術館、特にシステーナ礼拝堂を訪ねる
- 13 研修の日程7日目:サンピエトロ大聖堂
- 14 研修の日程8日目:日本に向けて出発

15 研修の日程9日目:関西空港着

授業の方法

事前の講義と研修旅行。

準備学修

イエスやアシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

課題・評価方法、その他

その他

欠席について

テキスト

川下勝「アシジのフランシスコ」清水書院、2004

参考図書

j.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳「アシジの聖フランシスコ」ドン・ボスコ社、1988
チェラノのトマス著、石井健吾訳「聖フランシスコ第一伝記」あかし書房、1989

留意事項

研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。また、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代			11113	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 陽子	必修	2				

授業の到達目標

「人間のいのちの尊厳を守る」という、社会におけるキリスト教の根本原理について知り、多様な価値観、多量の情報が行き交う現代世界で、主体的に考え、判断し、行動できることが養われることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を学ぶ。

授業の概要

2000年以上前から保管され伝えられている聖書の教えが、社会で行われる人間活動の様々な分野において、どのように生かされているのかを見て行く。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 社会生活
- 3 教会の社会教説
- 4 社会の目的
- 5 正義の徳
- 6 家族と社会
- 7 経済
- 8 仕事
- 9 環境
- 10 政治
- 11 国家
- 12 世界規模の問題
- 13 平和
- 14 若者と希望
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式だが、意見やコメントも求める。

準備学修

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって授業に臨んでほしい。

課題・評価方法、その他

平常点40％、定期試験60％

欠席について

規定に従う。

テキスト

特に定めず、その都度資料を紹介する。

参考図書

「カトリック教会のカテキズム」カトリック中央協議会
教皇庁正義と平和協議会「教会の社会教説綱要」カトリック中央協議会
その他、カトリック教会の諸文書など

留意事項

授業には「聖書」を持参しなくてもよいが、授業で引用された箇所は、自分で確認しておくこと。

オフィスアワー

授業日の昼休み

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化			11117	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にかんしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

- 1 導入
- 2 聖書と歴史
- 3 出エジプトと歴史研究(1)
- 4 出エジプトと歴史研究(1)
- 5 古代における宇宙観
- 6 古代における天動説と地動説
- 7 中世における天動説
- 8 コペルニクス(1)
- 9 コペルニクス(2)
- 10 ジョルダナーノ・ブルーノの地動説
- 11 ガリレオ・ガリレイ(1)
- 12 ガリレオガリレイ(2)
- 13 科学の発達とキリスト教
- 14 聖骸布
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	ET/PC		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正／南 夏世	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
- (2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- (1)言語2
- (2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- (1)言語3
- (2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- (1)言語4
- (2)キャンパスライフ(相談)
- (1)社会1
- (2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会2
- (2)キャンパスライフ(課外活動について)
- (1)社会3
- (2)キャンパスライフ(課外活動)
- (1)社会4
- (2)スタディスキル(受講)
- (1)数学1
- (2)スタディスキル(理解と表現1)
- (1)数学2
- (2)スタディスキル(理解と表現2)
- (1)数学3

- (2)キャンパスライフ(今後の学修について)
- (1)数学4
- (2)キャンパスライフ(学生相談)
- (1)確認試験1
- (2)スタディスキル(理解と表現3)
- (1)確認試験2
- (2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50%（平常点70% 定期試験30%）
後半学習50%（平常点70% eラーニング30%）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）
3訂 大学 学びのことははじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET/PC		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正／南 夏世	必修	1				

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、I（知性）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、資格免許を取得するための実習について、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1) 言語 1
(2) オリエンテーション
- 2 (1) 言語 2
(2) キャンパスライフ (課外活動についてのディスカッション)
- 3 (1) 言語 3
(2) キャンパスライフ (課外活動についてのディスカッション)
- 4 (1) 言語 4
(2) キャンパスライフ (課外活動についてのディスカッション)
- 5 (1) 社会 1
(2) スタディスキル (教学カルテ入力について)
- 6 (1) 社会 2
(2) キャリアデザイン (社会意識 1)
- 7 (1) 社会 3
(2) キャリアデザイン (社会意識 2)
- 8 (1) 社会 4
(2) キャリアデザイン (社会意識 3)
- 9 (1) 数学 1
(2) キャリアデザイン (社会意識 4)
- 10 (1) 数学 2
(2) スタディスキル (リサーチ 1)
- 11 (1) 数学 3
(2) スタディスキル (リサーチ 2)

- 12 (1) 数学 4
(2) スタディスキル (リサーチ 3)
- 13 (1) 確認試験 1
(2) 社会人への一歩 (今後の学修について)
- 14 (1) 確認試験 2
(2) スタディスキル (リサーチ 4)
- 15 (1) 確認試験 3
(2) アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他

リメディアル50%（平常点70% 定期試験30%）
後半学修50%（平常点60% eラーニング30% 教学カルテ10%）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を取らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	ET/PC①/PC②/PC③		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子／南 夏世／成木 智子／中園 佐恵子	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEI/パーソナリティの項目について学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描くとともに、自らの考えを構築していく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。
それと並行して行われるキャリア教育のプログラムでは、社会で働くことや職種・業界などについて学び、自身の将来に意識を向けていく。
また海星学Ⅰ・はクラス別に行う。

授業計画

- 1 ポートフォリオ (学生カルテ)
- 2 海星学とは
- 3 キャリアプログラム 1「社会を知る・年金制度」
- 4 キャリアプログラム 2「社会で働くとは」
- 5 キャリアプログラム 3「職種・業界を学ぶ」
- 6 キャリアプログラム 4「キャリアを考える」
- 7 進路を踏まえた今後の学びについて
- 8 海星の歴史と建学の精神
- 9 KAISEIパーソナリティについて
- 10 KAISEIパーソナリティについて
- 11 KAISEIパーソナリティについて
- 12 KAISEIパーソナリティについて
- 13 KAISEIパーソナリティについて
- 14 海星学の理解と自分の振り返り
- 15 ポートフォリオ (学生カルテ)
- 16

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、ブレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形態で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリントを使用

留意事項

ステラワーク（スタンダード）の実力診断テストを、同じ科目に偏ることなく100点10クリアすること。
教学カルテを入力しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅱ	ET/PC①/PC②/PC③		11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子／南 夏世／成木 智子／中園 佐恵子	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行して行われるキャリアアッププログラムと合わせ、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描くとともに各自の考えを構築していく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけ、チームでプレゼンテーションを作り上げ発表する。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムでは、自身の将来に対する意識を確立させていく。また海星学Ⅰ・Ⅱを通して、提示されたボランティア活動に参加し、自身の経験や社会性などを育む。授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

- 1 ポートフォリオ(学生カルテ)
- 2 KAISEIパーソナリティの研究発表についての説明
- 3 卒業生によるピアサポート①
- 4 卒業生によるピアサポート②
- 5 社会で働く①(キャリアセンター)
- 6 社会で働く②(学科教員)
- 7 KAISEIパーソナリティについての発表の準備
- 8 テーマについてのグループディスカッション①
- 9 テーマについてのグループディスカッション②
- 10 テーマについてのグループディスカッション③
- 11 プレゼンテーション準備①
- 12 プレゼンテーション準備②
- 13 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
- 14 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
- 15 ポートフォリオ(学生カルテ)
- 16

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなどさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリント使用

留意事項

ステラワーク(スタンダード)の実力診断テストを、同じ科目に偏ることなく(春学期と合わせ)100点20クリアすること。教学カルテを入力しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学Ⅰ			11209	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、学生が1人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。この授業では、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で一人ひとりが責任を持って生きていかねばならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

授業計画

- 1 昨年の時事問題(1)
- 2 昨年の時事問題(2)
- 3 1月頃の時事問題
- 4 2月頃の時事問題
- 5 3月頃の時事問題
- 6 4月頃の時事問題
- 7 5月頃の時事問題
- 8 6月頃の時事問題
- 9 7月頃の時事問題
- 10 8月頃の時事問題
- 11 9月頃の時事問題
- 12 10月頃の時事問題
- 13 11月頃の時事問題
- 14 12月頃の時事問題
- 15 この1年の時事問題

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味

を持った事柄については自分で調べてこと。家族や友人ともそのような話題を取り上げて、いろいろな意見を聞くこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めない

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学 2			11213	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
芝山 豊	必修	2				

授業の到達目標

キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEI パーソナリティのすべての要素をてがかりに、建学の精神を体得し、人間として、女性としての存在の主体的意味を発見する。このクラスではKAISEI パーソナリティの全体について理解を深めるが、とりわけ、共感性に満ちた I(知性)と In(国際性)を養うことを目指す。

授業の概要

身近な体験を通して、「問題」と「神秘」を峻別しつつ、人間存在について多様な角度から考察する。「ビッグバン」から「欲望の資本主義」の時代まで、時の流れの中の「いのち」について、人間がどのように理解し、生きてきたのかを、通時的、共時的な文化の側面から考察し、環境、家族、地域社会、国家等とのかかわりへの理解を深めていく。さらに、「生きることとは何か」、「人間の尊厳とは何か」などを自らに問いかけることによって、人生の旅を探索していく。知的な問いかけだけではなく、内的な精神の営み、超越的な存在への問いかけもとりあげていく。

授業計画

- 1 人間学とは何か
- 2 存在の神秘
- 3 他者とは誰か
- 4 人間の誕生から死まで
- 5 人種・民族・国民
- 6 正義と平和
- 7 宗教と科学
- 8 異文化理解と文化共生
- 9 伝統と近代化
- 10 環境問題と「ラウダー・シ」
- 11 いのちを脅かすもの
- 12 自助・公助・共助
- 13 ケアの文化とケアの倫理
- 14 人間の尊厳
- 15 海星で学ぶということ

授業の方法

講義とディスカッションを土台とし、討論に基づいた発表の時間をとる。

また、グループや個人による課題研究、プレゼンテーション等を課す。

準備学修

WebClassを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題について、各時間に出される回答に基づき、発表を求める。各回の総評をクラス全体へフィードバックする。
- ②評価方法、平常点70％、定期試験30％

欠席について

出席の評価を成績評価全体の15％とし、出席評価は欠席1回につき20％減ずるものとする。

テキスト

使用しない。講義でのスライド、配布するプリントや電子ファイル、指定URLの閲覧、映像資料等を使用する。

参考図書

日本カトリック司教団「いのちへのまなざし 増補改訂版」カトリック中央協議会 2017
教皇フランシスコ「回勅 ラウダー・シ」「回勅 兄弟の皆さん」「使徒的勅告 ラウダー・デウム」(日本語訳 カトリック中央協議会 2016、2021、2023)
来住英俊「キリスト教は役にたつか」新潮選書 2017
三田一郎「科学者はなぜ神を信じるのか」講談社ブルーバックス 2018
浜矩子「共に生きるための経済学」平凡社新書 2020
川本隆史「(共生)から考える 倫理学集中講義」岩波現代文庫 2022
マルティン・ブーバー『我と汝・対話』岩波文庫 1979
ブレイディみかこ「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」新潮文庫 2021
村上靖彦『客観性の落とし穴』ちくまプリマー新書 2023年 他
(参考文献等一覧を適宜配布予定。)

留意事項

自己と他者に関心を持ち、世界の出来事に興味を持ち、現代社会を注視すること。また日本と世界の歴史と文化について理解し、人生に対する自らの姿勢を意識すること。なお、「不利益」という観点も考慮し、各自がノートをとることに重点を置く。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門			11301	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
前田 典子	必修	2	大学キャリアコンサルタント			

授業の到達目標

充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事(人生)のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事(人生)に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEI パーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

授業の概要

生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。出会いを中心にして、これからのキャリア＝仕事(人生)を考えていく。

授業計画

- 1 学長による講義
- 2 適性検査の実施
- 3 人との出会い① 出会いのワーク①
- 4 人との出会い② 出会いのワーク②
- 5 人との出会い③ コミュニケーション演習
- 6 社会との出会い① 社会に出るとは？
- 7 社会との出会い② 社会情勢
- 8 社会との出会い③ 業種・職種・雇用形態
- 9 適性検査の結果報告
- 10 キャリアセンター員による講義 本校のキャリア教育
- 11 学科教員による講義 将来のためにいまずべきこと
- 12 自分との出会い① ライフワークグラフ
- 13 自分との出会い② 現在の私は？未来の私は？
- 14 自分との出会い③ キャンパスライフプラン
- 15 まとめとテスト(作文)

授業の方法

講義(聴く) グループワーク・ペアワーク(話す) セルフワーク(考える)を中心に、ワークシートへの記入(書く)を行う。聴く・話す・考える・書くを中心に発表(プレゼンテーション)までつなげる。

準備学修

日ごろから自分の将来について考える習慣を身につける。社会の出来事に関心をもつ。ニュースに触れる(新聞・TV・ネット)ことで自分はどう思うのか？問いかけ考える時間を毎日20分程度とる。

課題・評価方法、その他

- 課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。
- 評価方法・平常点70％、定期試験30％

欠席について

規定に従う

テキスト

プリント配布

参考図書

随時紹介する

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文化へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面にも注目する。

授業計画

- 1 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1)
- 2 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2)
- 3 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3)
- 4 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4)
- 5 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1)
- 6 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2)
- 7 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3)
- 8 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その4)
- 9 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その1)
- 10 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その2)
- 11 中島敦「悟浄歎異」と「バケモノの子」
- 12 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」
- 13 中島敦「李陵」と「バケモノの子」
- 14 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」
- 15 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その1)

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では一部のみしか鑑賞しない場合もある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、心理学の成り立ち、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し人の心の基本的な仕組み及び働きについて基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

ヴントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉えるうえで、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのようなことであるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら概観する。

授業計画

- 1 オリエンテーション 心理学が誕生するまで
- 2 行動主義と学習理論 1
- 3 行動主義と学習理論 2
- 4 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
- 5 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 2
- 6 発達心理学 1
- 7 発達心理学 2
- 8 認知心理学 1
- 9 動機づけ・情動
- 10 社会的行動理論
- 11 人格の形成
- 12 人格の評価
- 13 臨床心理学 1
- 14 臨床心理学 2
- 15 総括・期末テスト

授業の方法

講義と単元内容（実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床）に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30点、定期試験70%

欠席について

欠席は1回で3点、遅刻は2点の減点とする。欠席5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

『心理学の最先端』あいり出版 2013

参考図書

授業中に適宜紹介する。

留意事項

毎回小テストを実施するので、予習復習を徹底すること。小テスト結果は平常点に加算する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
統計学入門			11321	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分らずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画

- 1 講義ガイダンス
- 2 度数分布表とヒストグラム
- 3 平均値
- 4 分散と標準偏差
- 5 度数分布表からの分散と標準偏差
- 6 標準偏差でデータの評価
- 7 相関と回帰
- 8 正規分布
- 9 正規分布を使って予言を行う
- 10 仮説検定の考え方
- 11 区間推定の考え方
- 12 母集団を調べる①
- 13 母集団を調べる②
- 14 母集団を調べる③
- 15 まとめ

授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学修

いままで学習した簡単な割合の内容を理解していることが望ましい。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

小島寛之著『統計学入門』（ダイヤモンド社）

留意事項

数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義終了後、心理統計学を選択することが望ましい。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ジェンダー論			11325	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

ジェンダーとは何かを説明できる。あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

生物的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。

授業計画

- 1 ジェンダーとは
- 2 「女らしさ」「男らしさ」と性別役割
- 3 教育とジェンダー
- 4 労働とジェンダー 1
- 5 労働とジェンダー 2
- 6 結婚・離婚とジェンダー 1
- 7 結婚・離婚とジェンダー 2
- 8 子育てとジェンダー 1
- 9 子育てとジェンダー 2
- 10 ケアとジェンダー
- 11 暴力とジェンダー
- 12 表現とジェンダー
- 13 政策とジェンダー
- 14 国際化の中の女性問題・男性問題
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本国憲法			11329	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅野 宜之	選択	2				

授業の到達目標

この講義を通じて、学生はニュース報道などで断片的に見聞きする「基本的人権」や「統治機構」とは憲法上いかなるものであるのか、系統的に理解できるようになる。国会が制定する法律や、政府の遂行する政策には時に憲法に違反する疑いのあるものもみられる。これらについて、批判的に検討することができるようになる。KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養うことになる。

授業の概要

この講義では、法律について専門的に学んだことがないという前提の下、日本国憲法に関する基礎的な知識をつけることを目的とする。講義では教科書のほか、パワーポイントとこれにもとづく資料プリントを使用する。まず日本国憲法の原理と制定過程について学んだ後、基本的人権について重要なものを取り上げ、解説する。続いて、統治機構についてそれぞれの組織を取り上げながらその活動の概要を学ぶ。

授業計画

- 1 日本の憲法の位置づけ：大日本帝国憲法と日本国憲法
- 2 平和主義
- 3 国会
- 4 内閣と地方自治
- 5 裁判所
- 6 人権の歴史と享有主体
- 7 人権の制限、二重の基準論
- 8 個人の尊重と幸福追求権
- 9 法の下での平等
- 10 思想、良心、信教の自由
- 11 表現の自由
- 12 生存権：健康で文化的な最低限度の生活を営む権利
- 13 学問の自由と教育の自由、教育を受ける権利と労働権
- 14 経済的自由
- 15 刑事手続き、適正手続の保障

授業の方法

パワーポイントと資料を使用して講義を進める。

準備学修

教科書とさまざまな報道資料をみて準備すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、期末レポート70%
講義内にミニレポートを課した場合は次回以降の講義でフィードバックを行う。
（期末レポート実施日程については講義内で連絡する）

欠席について

正当な事由あるときは、必ず連絡をすること。
（欠席過多の場合定期試験受験資格を失う）

テキスト

『憲法入門！市民講座』大久保卓治ほか編（法律文化社）

参考図書

『憲法判例百選I、II』（有斐閣）
『憲法（第八版）』芦部信喜（岩波書店）

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康科学			11333	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
殿垣 哲也	選択	1	県立高等学校教員			

授業の到達目標

本講義では、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）に掲げられている、現代社会における諸問題、特に保健（環境汚染）、気候変動について深く掘り下げ、将来持続可能な社会を担う学生が、生涯における自身の健康管理だけではなく、社会の一員として活躍するための知識と実践力を身につける。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）およびS（奉仕）を養う。

授業の概要

講義形式および適宜アクティブラーニング（グループディスカッション）を行う。
保健（環境汚染）に関する知識として、水俣病を取り上げ、環境汚染が社会に及ぼす影響について理解を深める。
気候変動に関する知識として、地球温暖化のメカニズムとその地球規模での対策の重要性を理解し、実践力を養う。
なお、授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し、次の授業ではグループディスカッションで意見等を交流させ、双方向での学習の場とする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
講義内容、授業の進め方、評価方法について説明
- 2 環境汚染について考える①
水俣病について
- 3 環境汚染について考える②
水俣病について
- 4 環境汚染について考える③
水俣病について
- 5 環境汚染について考える④
水俣病について
- 6 気候変動について考える①
地球温暖化について
- 7 気候変動について考える②
地球温暖化について
- 8 まとめ
評価テスト

授業の方法

授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し、次の授業ではグループディスカッションで意見等を交流させ、双方向での学習の場とする。

準備学修

日常や社会における健康に関する諸問題について、新聞やメディアなどを通じて意識を高めておく。
（Webで参照すること）

課題・評価方法、その他

- 1）レポート：受講した授業内容から選択し、レポートを提出する
- 2）評価方法：定期試験：70%、授業時の感想ノート：30%

欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

テキスト

使用しない。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1			11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
殿垣 哲也	選択	1	県立高等学校教員			

授業の到達目標

本講義では、近代スポーツを教材化し、みんなが楽しめるスポーツを体験し、スポーツ文化を創造していく過程を学ぶことで、主体者としてスポーツに関わっていくことができるようにする。また、スポーツの上手い下手で固定的な縦の価値観を持つのではなく、みんなで上手くなる水平の価値観に変革する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）I（知性）及びS（奉仕）を養う。

授業の概要

ゴール型、ベースボール型の教材をさらに教材化し、初心者と上級者をつなぎ、みんなで楽しみ上手くなることを目指す。
ゴール型ではアメリカンフットボールを安全に配慮したフラッグフットボール、ベースボール型では3人対3人で行うベース3on3を教材として行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション
フラッグフットボール①
基礎技術の習得
- 2 フラッグフットボール②
1対1、2対2の攻防
- 3 フラッグフットボール③
2対2の攻防
- 4 フラッグフットボール④
2対2の攻防
- 5 フラッグフットボール⑤
2対2の攻防
- 6 フラッグフットボール⑥
3対3の攻防と作戦づくり
- 7 フラッグフットボール⑦
3対3のゲーム
- 8 フラッグフットボール⑧
3対3のリーグ戦
- 9 フラッグフットボール⑨
3対3のリーグ戦
授業のまとめ

- 10 ベース3on3①
基礎技術の練習、2対2の攻防
- 11 ベース3on3②
3対3の戦略・戦術づくり
- 12 ベース3on3③
3対3のゲーム
- 13 ベース3on3④
3対3のゲーム
- 14 ベース3on3⑤
3対3のリーグ戦
- 15 ベース3on3⑥
3対3のリーグ戦
授業のまとめ

授業の方法

実技中心の授業である。
正当な事由があるときは見学とレポート提出を課す。

準備学修

スポーツに関心を持ち、ニュース、新聞、Web等でスポーツに関する情報を獲得するよう努める。日頃より運動を取り入れて健康管理に努める。

課題・評価方法、その他

毎回授業内容の記録をすること。課題と発表に対するフィードバックは授業の中で行う。
評価方法、平常点70％ 定期試験30％

欠席について

規定に従う。
欠席はマイナス評価の対象とする。

テキスト

プリント配布

留意事項

運動に相応しい服装と運動用靴で臨むこと

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）			

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

- 1 年中行事 その壱
（正月について）
- 2 年中行事 その弐
（節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂（葵）祭）
- 3 年中行事 その参
（夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭）
- 4 年中行事 その四
（7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三）
- 5 神々の歴史
『古事記』と荻原規子『空色勾玉』を読む
- 6 縄文時代・弥生時代
たつみや章『月神の統べる森で』を読む
- 7 邪馬台国・古墳時代
森嶋外『生田川』を読む
- 8 邪馬台国のあった頃の中国（魏）
吉川英治『三国志』を読む。
- 9 飛鳥時代
池田理代子『聖徳太子』を読む
- 10 大化の改新
里中満智子『天上の虹』を読む
- 11 奈良時代
手塚治虫『火の鳥』を読む
- 12 平安時代
大和和紀『あさきゆめみし』を読む
清少納言『枕草子』を読む
- 13 鎌倉時代
小泉八雲『耳なし芳一』を読む

- 14 戦国時代
遠藤周作『叛逆』を読む
- 15 江戸時代
菊池寛『忠直卿行状記』を読む

授業の方法

講義中心の授業である。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70％、定期試験30％

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会計学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2	税理士			

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明する。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することである。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」のI（知性）とIn（国際性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することである。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明する。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になる。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義する。

授業計画

- 1 簿記の基礎
- 2 仕訳①～商品売買
- 3 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
- 4 仕訳③～手形
- 5 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
- 6 仕訳⑤～その他の債権債務
- 7 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
- 8 仕訳⑦～租税公課と資本金
- 9 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
- 10 決算①～帳簿への記入
- 11 決算②～試算表の作成
- 12 決算③～伝票制度
- 13 決算④～精算表と財務諸表
- 14 決算⑤～帳簿の締め切り
- 15 まとめと確認

授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修

授業の始まる前には、必ず予習をすること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版

留意事項

電卓は必要なので持参すること。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得する。現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できる。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題をとりあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

- 1 家族とは
- 2 家族に関する基礎知識 1
- 3 家族に関する基礎知識 2
- 4 配偶者の選択
- 5 結婚と夫婦関係
- 6 離婚・再婚と家族関係
- 7 ライフコースと家族
- 8 子どもの養育と家族関係 1
- 9 子どもの養育と家族関係 2
- 10 中年期の家族関係
- 11 高齢期の家族関係
- 12 家族に関する政策と法
- 13 家族と社会的ネットワーク
- 14 家族の変化と家族関係
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「子ども家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉		クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉論				11369	Ⅲ	春	
担当者名		区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三		選択	2	元市職員(福祉事務所長・障がい児療育センター所長) 社会福祉士			

授業の到達目標

高齢化・少子化が同時進行している現代の社会状況の中で、福祉、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。これらの福祉問題の内容を理解し深く考えていくことは、福祉の専門分野に携わっていくためには不可欠なことである。授業では社会福祉の理念、制度や援助などを広い視野から学び主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは主にKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、社会福祉に関する基本的な項目を学習するとともに、最新のデータや資料によりわが国の社会福祉の動向や課題等を理解できるようにする。指定する教科書の構成に従い授業を進めるが、時事的な問題やキーワードとなる内容などは討議しながら内容を深めて確認する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 社会福祉とわたしたち
- 3 社会福祉の歴史の変遷
- 4 社会福祉の理念(意味と考え方)
- 5 現代社会の生活問題と社会福祉
- 6 社会福祉行政と実施体系
- 7 社会福祉と社会保障の制度(生活保護制度を中心に)
- 8 社会福祉の専門職
- 9 共生社会の実現と障害者施策
- 10 子ども家庭福祉と社会福祉
- 11 少子高齢社会と子育て支援
- 12 社会福祉における相談援助
- 13 社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み及び医療福祉
- 14 社会福祉の課題(在宅・地域福祉)
- 15 まとめ講義とレポートの提出

授業の方法

講義を主体としながら視聴覚教材やディスカッションを取り入れていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、レポート60%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

一瀬早百合「社会福祉とわたしたち」萌文書林 2022年
また、授業の中で必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

総合科目〈総合科目〉		クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論				11373	Ⅱ	春	
担当者名		区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦		選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念や、社会にある様々な人権侵害事象について学習し、人権問題に対する知見を深めるとともに人権感覚を高めていく実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導方法を考察する。このクラスではKAISEIパーソナリティ（知性）を養い、人権が尊重される社会を作るにはどうすればよいか、学校教育の中でどうすればよいかを考察する過程で、K（思いやり）の諸能力を生かす。

授業の概要

人権教育は、人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、自己に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成するための教育である。授業では、社会にある様々な人権問題や人権侵害事象についての知見を深めながら、日々目撃する人権意識や人権感覚についても検証し、人権が尊重される社会を作るにはどうすればよいか、教育の中でどうすればよいかを考察する。

授業計画

- 1 ☆人権教育とは？
 - ・「人権問題」にはどんなものがあるか？・今まで学校で受けてきた「人権教育」は？・「戦争」と「人権」・「新型コロナウイルス感染症」と「人権」
- 2 ☆差別はなぜ起こるのか？
 - ・「震災」と「震災デマ」・フェイクニュース・なぜ人は「人権侵害」するのか？・「人権教育」とは？
- 3 ☆人権教育を推進するために
 - ・「人権問題」を考えるにあたって大切なことは？
- 4 ☆同和問題を考える①
 - ・同和問題(部落差別)って何？
- 5 ☆同和問題を考える②
 - ・同和問題(部落差別)とは・同和問題の歴史
- 6 ☆同和問題を考える③
 - ・同和对策審議会答申・33年にわたる同和对策事業・見えにくい「部落差別」問題・部落差別解消推進法・「寝た子」はネットで起こされる
- 7 ☆ヘイトスピーチを考える ～在日コリアンの理解～
 - ・外国人と人権・朝鮮半島と日本の関係・「在日コリアン」とは？・ヘイトスピーチ解消法
- 8 ☆障がい者理解
 - ・人権三法・障害者差別解消法・「障害を理由とする差別」とは・合理的配慮
- 9 ☆特別支援教育・インクルーシブ教育
 - ・特別支援教育をめぐる制度改正・「インクルーシブ教育システム」とは・日本のインクルーシブ教育の現状と課題

- 10 ☆いじめ問題を考える
 - ・いじめ防止対策推進法・いじめ防止基本方針・いじめが起こったらどう対応するか？・「いじめ」をどう教えるか？・情報モラル教育
- 11 ☆セクシュアルマイノリティの理解
 - ・性の多様性に関する基礎知識・日本の「性的マイノリティ教育」の現状・性的指向に関する世界の状況
- 12 ☆人権感覚・基本的人権
 - ・日本の「ジェンダー・ギャップ指数」・自分自身の人権感覚をみつめてみる・人権自己診断・改めて「基本的人権」を考える
- 13 ☆世界人権宣言・子どもの権利条約・ユニセフ(UNICEF)・国連児童基金
- 14 ☆SDGsから考える人権教育
- 15 ☆まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら社会にある様々な人権侵害事象についての学習を深める。また人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

準備学修

報道される人権問題に関心を持っておくこと。毎回配布されるレジュメやプリントをファイルし、整理保存すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

テキスト

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジュメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

本授業では、歴史学のあり方について学ぶ。歴史は小学校から高校まで必ず学ぶ科目であるが、暗記科目と見られることが多い。歴史学者が史料に基づいて如何に過去を明らかにしていくかを体験させる。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

歴史は決して暗記科目ではなく、史料に基づいて過去を再構成していく営みである。先行研究の成果である通説と対峙しつつ、修正・変更を加えて新しい通説を構築していくのが歴史学の進歩である。本授業ではローマ皇帝の対キリスト教政策をテーマとして、そのような歴史学の営みを受講生に体験してもらいたい。

授業計画

- 1 はじめに、歴史学とは何か
- 2 古代ローマ史(1)
- 3 古代ローマ史(2)
- 4 古代ユダヤ史
- 5 ネロの迫害(1)
- 6 ネロの迫害(2)
- 7 ドミティアヌスの迫害
- 8 トラヤヌスの勅令
- 9 1, 2世紀の迫害の実態
- 10 アントニヌス勅令
- 11 デキウス、ヴァレリアヌスの迫害、カリエヌスの平和令
- 12 ディオクレティアヌスの迫害
- 13 ミラノ勅令
- 14 キリスト教国教化
- 15 まとめと試験

授業の方法

講義、討論、演習形式。

準備学修

授業内容の背景を知るため、古代ローマ史やキリスト教史に関する

書物を読んでおくこと。（60時間）

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

テキストは特に定めない。随時、史料のプリントを配布。

参考図書

とくに指定しない。

留意事項

私語は慎み、求められたときは積極的に発言すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家政学概論			11381	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなって、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付け、実践的能力を養う。

授業計画

- 1 様々な家政学
- 2 家政学の定義・目的・対象・方法
- 3 家政学の発展過程と改革
- 4 家庭生活と生活経営
- 5 家庭経済・消費者問題
- 6 家族関係
- 7 食生活 1
- 8 食生活 2
- 9 衣生活 1
- 10 衣生活 2
- 11 住生活 1
- 12 住生活 2
- 13 生活情報
- 14 生活環境
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
経営学入門			11385	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
地頭所 里紗	選択	2				

授業の到達目標

- ①経営学の基礎的な知識を習得し、ビジネス雑誌や経済新聞の内容を自分自身で精査できるようになる。
 - ②身の回りの企業活動に関心を持ち、現実の企業活動を自分自身で分析できるようになる。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う

授業の概要

経営学は企業の成長だけでなく、「人が自分の夢を実現す ためにどうしたらいいのか」ということを考え続けてきた学問である。受講生の皆さんが将来どんな道に進むことになっても、経営学の知識、考え方は皆さんの糧になる。このクラスでは参考文献をベースに具体的な事例を提示しつつ、経営学の基本的な概念や考え方の理解を目指す。受講人数によっては、ケースディスカッションやプレゼンテーションの機会を設けたいと考えている。

授業計画

- 1 導入
- 2 企業経営の全体像
- 3 企業と社会
- 4 企業と金融資本市場・労働市場との関わり
- 5 企業と製品市場・サービス市場との関わり
- 6 競争戦略の基本的な考え方
- 7 競争戦略のマネジメント
- 8 多角化戦略のマネジメント
- 9 国際化のマネジメント
- 10 マクロ組織のマネジメント
- 11 ミクロ組織のマネジメント
- 12 キャリアデザイン
- 13 ファミリービジネスのマネジメント
- 14 非営利組織のマネジメント
- 15 まとめと期末試験

授業の方法

講義を中心として、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

期末レポート 50％
平常点 50％
グループでのディスカッションへの参加や授業内の小レポートの提出を求め、授業内でフィードバックを行う。

欠席について

欠席による加点、減点は行わないが、5回以上欠席した場合は期末試験の受験を認めない。

テキスト

加護野 忠男、吉村 典久（編著）『1からの経営学』第3版
碩学舎
ISBN:10 4502375217

参考図書

その都度授業内で指示する

留意事項

- ①授業内での発言等受講生の積極的な参画を期待する。
- ②授業中はノートを取り、受講後は欠かさず復習をすること。
- ③授業中は医療機器を除くすべての電子機器の使用を禁じる。（PCでのノートテイキング不可）
- ④私語等他の受講生の迷惑となる行為を禁じる。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーション I			11393	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
嘉田 眞典／八木 篤子	選択	1				

授業の到達目標

- ・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 - ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 - ・手話で自己紹介が出来るようにする。
 - ・簡単な会話が出来るようにする。
- このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・聴覚障害者の聞こえのしくみと制度を学ぶ。
- ・手話で自己紹介する。
- ・基本的な会話手話を習得する。
- ・レクリエーション

授業計画

- 1 オリエンテーション「聞こえないこととは」「コミュニケーションとは」／手話表現／指文字
- 2 実技(伝え合ってみよう)
- 3 聴覚障害者の生活
- 4 実技(名前)
- 5 聴覚障害者の課題 1
- 6 実技(趣味)
- 7 実技(仕事)
- 8 聴覚障害者の課題 2
- 9 実技(家族)
- 10 実技(地図 1)
- 11 聴覚障害者の課題 3
- 12 実技(地図 2)
- 13 実技(自己紹介しましょう)
- 14 実技試験
- 15 まとめ

授業の方法

DVDを使って進める。
視覚的ゲーム
手話実技・講義

準備学修

単語学習

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

未定

参考図書

日本語・手話辞典

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅡ			11397	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
嘉田 眞典／八木 篤子	選択	1				

授業の到達目標

- ・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 - ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 - ・手話で会話が出来るようにする。
 - ・講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流が出来るようにする。
 - ・全国手話検定5級取得
- このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・手話の基本的な会話を習得する。
- ・障害者福祉の基礎を学ぶ。
- ・レクリエーション

授業計画

- 1 春学期の復習(夏休みの報告)
- 2 実技(1日のこと)
- 3 実技(1ヶ月のこと)
- 4 聴覚障害者の課題4
- 5 実技(1年のこと)
- 6 実技(行事のお知らせ)
- 7 聴覚障害者の課題5
- 8 実技(会話してみよう1)
- 9 実技(会話してみよう2)
- 10 聴覚障害者の課題
- 11 実技(会話してみよう3)
- 12 実技(応用編1)
- 13 実技(応用編2)
- 14 実技試験
- 15 まとめ

授業の方法

※

準備学修

※

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう（全国手話研修センター）

参考図書

日本語・手話辞典

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
女性と社会			11517	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができる。国内外の社会事象とそこに生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養い、A（自律）やIn（国際性）を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

- 1 文化と歴史の中の女性
- 2 女性のライフコース
- 3 女性と教育
- 4 女性と労働・女性のキャリア形成
- 5 女性と結婚・離婚
- 6 女性と出産・子育て
- 7 ワークライフバランス
- 8 女性と暴力
- 9 女性とメディア・表現
- 10 女性と階層
- 11 女性と加齢
- 12 女性と病
- 13 女性とケア
- 14 女性と社会参画・社会政策
- 15 女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

使用しない。

参考図書

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』
授業中に必要に応じて指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するということは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。また、書写に親しむ時間を毎回設ける。

授業計画

- 1 聞く力を養う。
- 2 質問力・雑談力を高める。
- 3 間違いやすい「敬語」
- 4 尊敬語と謙譲語を学ぶ
- 5 「敬語の種類」
- 6 「日常生活と言葉づかい」(1)
- 7 「日常生活と言葉づかい」(2)
- 8 「ビジネス社会における敬語(1)」
- 9 「ビジネス社会における敬語(2)」
- 10 学校・保育現場の保護者との話し方
- 11 「就職活動と書類」[さまざまな熟語]
- 12 「レポート」の書き方。
- 13 「誤用文と推敲の方法」
- 14 「手紙とはがき(1)」
- 15 「手紙とはがき(2)」
- 16 「ビジネス文書」[修辞法と慣用句]
- 17 「学校・保育現場における通信文」
- 18 まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

小テストやノートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

授業計画

- 1 <評論文>(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
- 2 <評論文>(2) アウトラインのたてかたを学ぶ。
- 3 <評論文>(3) 推敲の仕方を学ぶ。
- 4 <評論文>(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
- 5 <評論文>(5) 引用の規則を学ぶ。
- 6 <新聞投稿> 検索能力を養う。
- 7 <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
- 8 <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
- 9 <意見文・説得文> 結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
- 10 <小説> 語り手の位置を学ぶ。
- 11 <小説> テーマにそった短編小説を書く。
- 12 <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
- 13 <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
- 14 <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
- 15 <随筆> を書く

授業の方法

演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などとおして、書き上げた文章は発表していく。社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらう。
さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEI パーソナリティ」のI（知性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

- 情報活用に必要な数学1～N進法
- 情報活用に必要な数学2～割合
- 情報活用に必要な数学3～統計
- 表計算のしくみ1～計算式
- 表計算のしくみ2～論理式
- 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
- 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
- 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
- 情報検索の基礎3～情報管理の方法
- 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
- ビジネスとコンピュータ1～会計
- ビジネスとコンピュータ2～会計
- 有価証券報告書の読み方1
- 有価証券報告書の読み方2
- 有価証券報告書の読み方3

授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修

初回の授業が始まる前までに、配布するプリントを簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

木村直人「これならわかる決算書キホン50!」＜2024年版＞中央経済社

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 1			11501	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	必修	2				

授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

PCやインターネットの基本操作や注意点を確認した後、3種のオフィスアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）の基礎知識を演習を通して修得する。

授業計画

- 本科目の概要、PC操作の基本
- インターネットの利用法と注意点(セキュリティ・情報倫理)
- ワープロ(Word)① 基礎
- ワープロ(Word)② 表
- ワープロ(Word)③ 画像と図形
- ワープロ(Word)④ 文書作成の実践
- 表計算(Excel)① 基礎
- 表計算(Excel)② 関数
- 表計算(Excel)③ グラフ
- 表計算(Excel)④ データ分析の実践
- プレゼンテーション(PowerPoint)① 基礎
- プレゼンテーション(PowerPoint)② アニメーション
- プレゼンテーション(PowerPoint)③ スライドの作成
- プレゼンテーション(PowerPoint)④ 発表の実践
- まとめ

授業の方法

演習を中心に行い、最後に作成したファイルを提出して成果を確認する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

提出された課題については、教員によるフィードバックを行う。

平常点50% 定期試験50%

欠席について

規定に従う

テキスト

30時間でマスター Office2019 実教出版

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 2			11505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	必修	2				

授業の到達目標

現代ビジネス社会においてさまざまなデータを活用できるスキルを育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

表計算ソフトExcelの演習を通してデータ分析、可視化、データベース操作の基本を修得する。

授業計画

- 1 Excel入門① 授業の概要、基本操作
- 2 Excel入門② グラフ作成の基本
- 3 ワークシートの活用① 行・列の編集
- 4 ワークシートの活用② 罫線
- 5 ワークシートの活用③ 相対参照と絶対参照
- 6 ワークシートの活用④ 条件の判定
- 7 グラフ① 棒グラフ、折れ線グラフ
- 8 グラフ② 円グラフ、3-Dグラフ、複合グラフ
- 9 グラフ③ その他のグラフ
- 10 データベース① データベースの作成方法
- 11 データベース② 検索と抽出
- 12 Excelの応用①
- 13 Excelの応用②
- 14 Excelの応用③
- 15 まとめ

授業の方法

演習を中心に行い、最後に作成したファイルを提出して成果を確認する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

提出された課題については、教員によるフィードバックを行う。
平常点50% 定期試験50%

欠席について

規定に従う

テキスト

30時間でマスター Excel2019 実教出版

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 1			11509	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	選択	2				

授業の到達目標

ビジネス社会において役立つ文書作成能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報リテラシー1で学習したことを元にさらに応用的なビジネス文書の編集を学習する。学習の動機付けをとして、日商PC検定3級（文書作成）の取得を目指す。

授業計画

- 1 ワードの基本操作確認
- 2 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認(書式設定)
- 3 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
- 4 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
- 5 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
- 6 図形練習
- 7 まとめ
- 8 日商PC検定3級文書作成実技対策
- 9 日商PC検定3級文書作成実技対策
- 10 日商PC検定3級文書作成実技対策
- 11 日商PC検定3級文書作成実技対策
- 12 日商PC検定3級文書作成実技対策
- 13 日商PC検定3級文書作成実技対策
- 14 日商PC検定3級文書作成実技対策
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

日商PC検定3級（文書作成）の合格を目指し、実技対策と知識対策をしていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

日商PC検定試験文書作成3級公式テキスト&問題集（ver2019対応） FOM出版

留意事項

テキストを必ず持参すること。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 2			11513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	選択	2				

授業の到達目標

ビジネス実務に必要とされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

情報リテラシー2で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定3級（データ活用）の取得を目指す。

授業計画

- 1 エクセルの基本操作確認
- 2 四則演算復習
- 3 関数練習
- 4 関数練習
- 5 集計について
- 6 集計について
- 7 まとめ
- 8 日商PC検定3級データ活用対策
- 9 日商PC検定3級データ活用対策
- 10 日商PC検定3級データ活用対策
- 11 日商PC検定3級データ活用対策
- 12 日商PC検定3級データ活用対策
- 13 日商PC検定3級データ活用対策
- 14 日商PC検定3級データ活用対策
- 15 確認演習

授業の方法

日商PC検定3級（データ活用）の合格を目指し、実技対策と知識対策をしていく。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

日商PC検定試験データ活用3級公式テキスト&問題集（ver2019対応） FOM出版

留意事項

情報リテラシー2を受講していること。テキストは必ず持参すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1			11601	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	1				

授業の到達目標

このクラスでは、英文をより正確に早く読めるようになるための演習を行う。使用するテキストは、比較的平明な英文毎に習得すべきスキルが提示されており、さまざまなexerciseを行いながら、徐々に速読力と語彙力を身につけることを目標とする。

同時に、楽しく多読を行いながら、英語で読書レポートを作成し、Writing力を伸ばすことを目指す。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を養う。

授業の概要

復習に重点をおき、授業内で読解した箇所については、細部まで読み直し、速読だけに終わるのではなく内容の深部まで理解できるようにする。さらに、学生の自主学習として、（図書館に配架されている）多読テキストを楽しく読み、読解後に英語で読書レポートを提出し、読書発表も行う。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Chapter 1 "For Better Grades—Use Your Brain!"
- 3 Unit 1 Chapter 2 "Oh, No! Not Another Test!"
- 4 Unit 2 Chapter 1 "We're in Vietnam!"
- 5 Unit 2 Chapter 2 "Safe Travel"
- 6 Unit 3 Chapter 1 "Behind the Scenes"
- 7 Unit 3 Chapter 2 "The Rise of J.J.Abrams"
- 8 Review Quiz
多読発表
- 9 Unit 4 Chapter 1 "Laura Dekker: Record-Setter!"
- 10 Unit 5 Chapter 1 "You Are Amazing You Are Human!"
- 11 Unit 6 Chapter 2 "Moving from TV to the Web"
- 12 Fluency Practice "The Film and the Novel: Twilight"
- 13 Unit 6 Chapter 2 "Moving from TV to the Web"
- 14 Fluency Strategy "Movies for the Blind"
- 15 Review Quiz
多読の発表

授業の方法

テキストにより、英文をより正確に早く読むための演習を行う。各自が授業外において多読を行い、毎週、読書レポートを提出し、春学期において2回の多読書についての発表を行う。（図書館所蔵の多読書を利用する。）

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点20% 多読（レポートと発表）40% Review Quiz 40%
小テスト、および Review Quizは授業内でフィードバックを行う。

欠席について

出席を重視する。欠席、および遅刻（早退）は減点される。規定に従う。

テキスト

Neil J. Anderson, Active 2 (Third Edition) —Skills for Reading, Cengage Learning K.K (2013)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。授業と課題に熱心に取り組む姿勢を重視する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2			11605	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	1				

授業の到達目標

このクラスでは、英語 1 に続き、英文をより正確に早く読めるようになるための演習を行う。使用するテキストは、比較的平明な英文毎に習得すべきスキルが提示されており、さまざまなexerciseを行いながら、徐々に速読力と語彙力を身につけることを目標とする。同時に、楽しく多読を行いながら、英語で読書レポートを作成し、Writing力を伸ばすことを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのIn（国際性）とA（自律）を養う。

授業の概要

復習に重点をおき、授業内で読解した箇所については、細部まで読み直し、速読だけに終わるのではなく内容の深部まで理解できるようにする。さらに、学生の自主学習として、（図書館に配架されている）多読テキストを楽しく読み、読解後に英語で読書レポートを提出し、読書発表も行う。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7 Chapter 1 "Sounds from the Past"
- 3 Unit 7 Chapter 2 "For the Record: Album Reviews"
- 4 Unit 8 Chapter 1 "The Right Job for Young Personality"
- 5 Unit 9 Chapter 1 "A Brief History of Chocolate"
- 6 Unit 9 Chapter 2 "The Truth about Chocolate"
- 7 Review Quiz
多読の発表
- 8 Unit 10 Chapter 1 "Ads Are Everywhere"
- 9 Unit 10 Chapter 2 "Brand Engagement Gone Wrong"
- 10 Unit 11 Chapter 1 "Engineering a Better Burger"
- 11 Unit 12 Chapter 1 "Clean Up Australia, Clean Up the World"
- 12 Unit 12 Chapter 2 "Resources for the Future"
- 13 Fluency Practice "The People Behin the Music"
- 14 Fluency Practice "The Life of a Food Critic"
- 15 Review Quiz
多読の発表

授業の方法

テキストにより、英文をより正確に早く読むための演習を行う。各自が授業外において多読を行い、毎週、読書レポートを提出し、春学期において2回の多読書についての発表を行う。（図書館所蔵の多読書を利用する。）

準備学修

Webde参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点20% 多読（レポートと発表）40% Review Quiz 40%
小テスト、および Review Quizは授業内でフィードバックを行う。

欠席について

出席を重視する。欠席、および遅刻（早退）は減点される。規定に従う。

テキスト

Neil J. Anderson, Active 2 (Third Edition) –Skills for Reading, Cengage Learning K.K (2013)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。授業と課題に熱心に取り組む姿勢を重視する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3			11609	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	選択	1				

授業の到達目標

英文を理解した上で分かりやすく音読するスキルを身につけることを主な目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）、I（知性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

英語の絵本を用いて、聞き手に分かりやすく音読をする練習を中心にを行う。さらに物語に込められたメッセージを読み取り、概要を自分の言葉で簡潔に英語でまとめる練習をする。また、3行日記の課題を通して、日常的に使用する英語表現・語彙を学習し、英語の一般的な運用能力を高める。

授業計画

- 1 Course Introduction / English Rhythm
- 2 Phonics 1
- 3 Phonics 2
- 4 Story 1-1
- 5 Story 1-2
- 6 Story 1-3
Presentation of Story 1
- 7 Story 2-1
- 8 Story 2-2
- 9 Story 2-3
Summary and presentation of Story 2
- 10 Story 3-1
- 11 Story 3-2
- 12 Story 3-3
Summary and presentation of Story 3
- 13 Story 4-1
- 14 Story 4-2
- 15 Story 4-3
Summary and presentation of Story 4
- 16 Wrap-up
Exam

授業の方法

日常的な英語表現を用いたリズムの学習、前週の復習、英語で書か

れた物語を用いた音読練習を中心に授業を進める。一つの物語を読む毎に、物語に込められたメッセージを読み取り、概要を自分の言葉で簡潔に英語でまとめる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点60%、定期試験40%
3行日記は週3回以上記入し提出、確認後に返却する。小テストや発表については、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

1）課題の提出がされない又はテストを欠席した場合は、当該評価点を「0」とする。2）欠席した場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認すること。

テキスト

追って通知する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業・課題に取り組む積極性を重視する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 4			11613	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	選択	1				

授業の到達目標

テキストの精読および、このテキストを題材とする実習を繰り返して、英語を「読む、書く、聴く、話す」の4技能を高めることを目標とする。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とA（自律）を考える。

授業の概要

英文文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 New Yorkers
- 3 New Yorkers
- 4 New Yorkers
- 5 New Yorkers
- 6 New Yorkers
- 7 New Yorkers
- 8 New Yorkers
- 9 Frankenstein
- 10 Frankenstein
- 11 Frankenstein
- 12 Frankenstein
- 13 Frankenstein
- 14 Frankenstein
- 15 Frankenstein

授業の方法

当該作品についての内容読解問題と要約、課題英作文。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

随時小テストを行い、講義の中でフィードバックを行う。
小テスト 50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って判定し、評価に反映する。

テキスト

適時指示をする。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5			11617	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	選択	1				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 5 Food, 5.1 My fridge
- 3 5.2 A lifetime in numbers
- 4 5.3 Are you ready to order?
- 5 5.4 Beach Barbecue
- 6 Review
- 7 Presentations
- 8 Mid Term
- 9 Unit 6 The Past, 6.1 In their past
- 10 6.2 Time twins
- 11 6.3 What did you do?
- 12 6.4 Nelson Mandela
- 13 Review
- 14 Presentations
- 15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Frances Eagles and Steve Oaks, SpeakOut: Elementary, 2nd edition. (Pearson)

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

外国語 <外国語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6			11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美	選択	1				

授業の到達目標 This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy. 授業の概要 The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms. 授業計画 1 Introduction 2 Chapter 6 Business, Reading One 3 Chapter 6 Business, Reading Two 4 Chapter 6 Business, Reading Three 5 Review 6 Mid Term 7 Chapter 7 Math, Reading One 8 Chapter 7 Math, Reading Two 9 Chapter 7 Math, Reading Two, Reading Three 10 Chapter 7 Math, Reading Tree 11 Review 12 Chapter 8 Public Speaking, Reading 13 Chapter 8 Public Speaking, Reading Two 14 Chapter 8 Public Speaking, Reading Three 15 Review 授業の方法 Students will work individually, in pairs and in groups 準備学修 Be familiar with the textbook: preview and review 課題・評価方法、その他 Your final grade will be determined using the following scale: <table><tr><td>Final Exam</td><td>40%</td></tr><tr><td>Tests and Quizzes</td><td>30%</td></tr></table>	Final Exam	40%	Tests and Quizzes	30%	Class Participation 20% Homework 10% 欠席について As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given. テキスト Longman Academic Reading Series 2: Reading Skills for College, Kim Sanabria, Pearson 参考図書 Will be assigned as needed 留意事項 Active participation is essential
Final Exam	40%				
Tests and Quizzes	30%				

外国語 <外国語>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7			11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN	選択	1				

授業の到達目標 The course will develop a sense of internationality and autonomy. 授業の概要 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather. 授業計画 1 Introduction 2 Unit 7 Holidays, 7.1 Travel partners 3 7.2 The longest bike ride 4 7.3 Can you tell me the way? 5 7.4 Hong Long 6 Review 7 Presentations 8 Mid Term 9 Unit 8 Now, 8.1 Having a Great Time 10 8.2 What a difference! 11 8.3 What do you recommend? 12 8.4 Changing Trends 13 Review 14 Presentations 15 Presentations 授業の方法 Students will work individually, in pairs and in groups 準備学修 Be familiar with the textbook: preview and review 課題・評価方法、その他 Your final grade will be determined using the following scale: <table><tr><td>Final Exam</td><td>20%</td></tr><tr><td>Tests and Quizzes</td><td>10%</td></tr></table>	Final Exam	20%	Tests and Quizzes	10%	Presentations 40% Class Participation 20% Homework 10% 欠席について As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given. テキスト Frances Eagles and Steve Oaks, SpeakOut: Elementary, 2nd edition. (Pearson) 参考図書 Will be assigned as needed 留意事項 Active participation is essential
Final Exam	20%				
Tests and Quizzes	10%				

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8			11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美	選択	1				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 9 Peace Studies, Reading One
- 3 Chapter 9 Peace Studies, Reading One, Reading Two
- 4 Chapter 9 Peace Studies, Reading Two
- 5 Chapter 9 Peace Studies, Reading Three
- 6 Chapter 9 Peace Studies, Reading Three
- 7 Review
- 8 Mid Term
- 9 Chapter 10 Urban Studies, Reading One
- 10 Chapter 10 Urban Studies, Reading One, Reading Two
- 11 Chapter 10 Urban Studies, Reading Two
- 12 Chapter 10 Urban Studies, Reading Three
- 13 Chapter 10 Urban Studies, Reading Three
- 14 Review
- 15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Academic Reading Series 2: Reading Skills for College, Kim Sanabria, Pearson

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 1			11633	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

平易で実用的な会話を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 1 オリエンテーション, Leçon 0: Bonjour!
- 2 Leçon 0: Je m'appelle Daisuke.
- 3 Leçon 1: Je suis étudiant.
- 4 Leçon 1: Daisuke à l'aéroport
- 5 Leçon 2: J'habite au Japon.
- 6 Leçon 2: Daisuke à l'université
- 7 Leçon 1/2 総復習
- 8 Leçon 3: J'ai dix-neuf ans.
- 9 Leçon 3: La famille de Daisuke
- 10 Leçon 4: J'adore la cuisine française!
- 11 Leçon 4: Daisuke avec sa famille d'accueil
- 12 Graphie et son (綴り字と発音) 第1部のまとめ
- 13 Leçon 5: Qu'est-ce que c'est?
- 14 Leçon 5: Daisuke au café
- 15 まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

webを参照のこと

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
総合点の10%は出席点（1回の欠席を・2点、遅刻を・1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り、歌）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2021 三訂版 駿河台出版社)

参考図書

特になし、必要な場合は授業中に紹介する。練習問題等に関してはこちらで準備する。

留意事項

フランス語1と2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声資料をよく聞いておくこと。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 2			11637	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 1 オリエンテーション, Leçon 0 : Bonjour!
- 2 Leçon 0 : Je m'appelle Daisuke.
- 3 Leçon 1 : Je suis étudiant.
- 4 Leçon 1 : Daisuke à l'aéroport
- 5 Leçon 2 : J'habite au Japon.
- 6 Leçon 2 : Daisuke à l'université
- 7 Leçon 1/2 総復習
- 8 Leçon 3 : J'ai dix-neuf ans.
- 9 Leçon 3 : La famille de Daisuke
- 10 Leçon 4 : J'adore la cuisine française !
- 11 Leçon 4 : Daisuke avec sa famille d'accueil
- 12 Graphie et son (綴り字と発音) 第1部のまとめ
- 13 Leçon 5 : Qu'est-ce que c'est ?
- 14 Leçon 5 : Daisuke au café
- 15 まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

webを参照のこと

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
総合点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2021 三訂版 駿河台出版社)

参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。練習問題についてはこちらで準備する。

留意事項

フランス語1と2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声資料をよく聞いておくこと。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 3			11641	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。日常生活で使える簡単な会話（人や物について、交通手段、天候や時刻、食習慣や値段について尋ねる、説明する、話す）ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 1 既習事項の確認と復習, Leçon 6 : Qu'est-ce qu'ils portent ?
- 2 Leçon 6 : Qu'est-ce qu'ils portent ?
- 3 Leçon 6 : Jeanne et Daisuke
- 4 Leçon 7 : On y va comment ?
- 5 Leçon 7 : Daisuke chez Jeanne
- 6 Leçon 6/7 総復習
- 7 Leçon 8 : Quel temps fait-il ?
- 8 Leçon 8 : Daisuke voyage
- 9 数字、時間等の聞き取り、読みテスト。Civilisation. 第2部のまとめ
- 10 Leçon 9 : Je bois du café.
- 11 Leçon 9 : Daisuke au marché
- 12 Leçon 10 : Je m'amuse !
- 13 Leçon 10 : Daisuke au bord de la Loire
- 14 Leçon 9/10 総復習
- 15 まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

webを参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
総合点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2021 三訂版 駿河台出版社)

参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。練習問題等に関してはこちらで準備する。

留意事項

フランス語1及び2のどちらかを履修していなければ3及び4は履修できない（テキスト内容が継続しているため）。またフランス語3と4はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声資料をよく聞いておくこと。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 4			11645	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。日常生活で利用できる簡単な会話（人や物について、交通手段、天候や時刻、食習慣や値段について尋ねる、説明する、話す）ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 1 既習事項の確認と復習, Leçon 6: Qu'est-ce qu'ils portent ?
- 2 Leçon 6: Qu'est-ce qu'ils portent ?
- 3 Leçon 6: Jeanne et Daisuke
- 4 Leçon 7: On y va comment ?
- 5 Leçon 7: Daisuke chez Jeanne
- 6 Leçon 6/7 総復習
- 7 Leçon 8: Quel temps fait-il ?
- 8 Leçon 8: Daisuke voyage
- 9 数字、時間等の聞き取り、読みテスト. Civilisation. 第2部のまとめ
- 10 Leçon 9: Je bois du café.
- 11 Leçon 9: Daisuke au marché
- 12 Leçon 10: Je m'amuse !
- 13 Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
- 14 Leçon 9/10 総復習
- 15 まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

webを参照のこと

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
総合点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2021 三訂版 駿河台出版社)

参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。練習問題に関してはこちらで準備する。

留意事項

フランス語1及び2のどちらかを履修していなければ3及び4は履修できない（テキスト内容が継続しているため）。またフランス語3と4はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声資料をよく聞いておくこと。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 5			11649	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。複合過去、半過去、単純未来、条件法などを駆使し、日常生活で利用できる簡単な会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 1 既習事項の確認と復習, Leçon 10: Je m'amuse !
- 2 Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
- 3 Leçon 11: J'ai fait les courses.
- 4 Leçon 11: Le week-end de Daisuke
- 5 Leçon 12: Je suis allé à la mer !
- 6 Leçon 12: Voyage de Daisuke à Rouen
- 7 Leçon 10/11/12 総復習
- 8 Leçon 13: J'habitais à Nagano.
- 9 Leçon 13: L'enfance de Daisuke
- 10 Civilisation: Habitudes alimentaires / 第3部のまとめ: 習慣 Habitudes
- 11 Leçon 14: Je dois étudier.
- 12 Leçon 14: Demain, Daisuke se lève tôt.
- 13 Leçon 15: J'irai à la mer.
- 14 Leçon 15: Les projets de Daisuke
- 15 まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

webを参照のこと

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
総合点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2021 三訂版 駿河台出版社)

参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。練習問題等に関してはこちらで準備する。

留意事項

フランス語5、6を履修するには次の条件（1～4のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）が必要である。フランス語5と6はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードをよく聞いておくこと。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 6			11653	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。複合過去、半過去、単純未来、条件法などを駆使し、日常生活で使える簡単な会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

授業計画

- 1 既習事項の確認と復習, Leçon 10: Je m'amuse !
- 2 Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
- 3 Leçon 11: J'ai fait les courses.
- 4 Leçon 11: Le week-end de Daisuke
- 5 Leçon 12: Je suis allé à la mer !
- 6 Leçon 12: Voyage de Daisuke à Rouen
- 7 Leçon 10/11/12 総復習
- 8 Leçon 13: J'habitais à Nagano.
- 9 Leçon 13: L'enfance de Daisuke
- 10 Civilisation: Habitudes alimentaires / 第3部のまとめ:習慣 Habitudes
- 11 Leçon 14: Je dois étudier.
- 12 Leçon 14: Demain, Daisuke se lève tôt.
- 13 Leçon 15: J'irai à la mer.
- 14 Leçon 15: Les projets de Daisuke
- 15 まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

webを参照のこと

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
総合点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

FLASH! (2021 三訂版 駿河台出版社)

参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。練習問題に関してはこちらで準備する。

留意事項

フランス語5、6を履修するには次の条件（1～4のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）が必要である。フランス語5と6はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 7			11657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

実社会で使用頻度の高い語彙や表現、フランスの観光名所や文化イベントについての知識を得ながら、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力を身につける。イベントに参加する、映画館に行く、地方を訪れるなどの際に役立つ会話習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得すると同時に自然な会話を身につけることを目指す実践的授業。希望により仏検対策を行う。

授業計画

- 1 挨拶表現、綴りと発音の関係 / Unité 1・1: Bonjour, madame
- 2 Unité 1・2: Dans le Quartier Latin
- 3 Unité 2・1: Les deux amis au téléphone
- 4 Unité 2・2: Un Anglais à Paris
- 5 Unité 3・1: A la boutique du musée
- 6 Unité 3・2: La jolie robe
- 7 Unité 4・1: Nathalie appelle un taxi
- 8 Unité 4・2: Dans le taxi
- 9 Unité 5・1: Bon anniversaire !
- 10 Unité 5・2: L'addition s'il vous plaît !
- 11 Unité 6・1: Interview d'un jeune champion
- 12 Unité 6・2: Le cours de tennis
- 13 Unité 7・1: A la cinémathèque
- 14 Unité 7・2: Après le film
- 15 まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

webを参照のこと

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
総合点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、30%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Amicalement plus (2021 5刷 駿河台出版社)

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。練習問題等についてはこちらで準備する。

留意事項

フランス語7、8を履修するには次の条件（フランス語1～6のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）が必要である。フランス語7と8はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 8			11661	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

実社会で使用頻度の高い語彙や表現、フランスの観光名所や文化イベントについての知識を得ながら、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力を身につける。イベントに参加する、映画館に行く、地方を訪れるなどの際に役立つ会話習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得すると同時に自然な会話を身につけることを目指す実践的授業。希望により仏検対策を行う。

授業計画

- 挨拶表現、綴りと発音の関係 / Unité 1-1: Bonjour, madame
- Unité 1-2: Dans le Quartier Latin
- Unité 2-1: Les deux amis au téléphone
- Unité 2-2: Un Anglais à Paris
- Unité 3-1: A la boutique du musée
- Unité 3-2: La jolie robe
- Unité 4-1: Nathalie appelle un taxi
- Unité 4-2: Dans le taxi
- Unité 5-1: Bon anniversaire !
- Unité 5-2: L'addition s'il vous plaît !
- Unité 6-1: Interview d'un jeune champion
- Unité 6-2: Le cours de tennis
- Unité 7-1: A la cinémathèque
- Unité 7-2: Après le film
- まとめと試験

授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修

webを参照のこと

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
総合点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、30%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

Amicalement plus（2021 5刷発行 駿河台出版社）

参考図書

特になし。必要があれば授業中に紹介する。練習問題等についてはこちらで準備する。

留意事項

フランス語7、8を履修するには次の条件（フランス語1～6のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）が必要である。フランス語7と8はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードをよく聞いておくこと。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 1			11665	I	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

中国は世界の政治や経済に影響力を持つ大国の一つに発展してきた。そのため中国語は益々重要になり、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず発音から始まり重要な語彙を習いその使い方を説明しさらに使えるように短文の読み書きを練習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導し、各単元で習ったことを身につけるように練習する。

授業計画

- 発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかりと練習する)
- 発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音の練習)
- 日常よく使われる挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
- 第一課 志願者
- 第一課 志願者
- 第二課 閑談
- 第二課 閑談
- 第三課 特忙
- 第三課 特忙
- 第四課 请跟我来
- 第四課 请跟我来
- 第五課 找银行
- 第五課 找银行
- 第六課 点菜
- 第六課 点菜
- まとめ、試験

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳をする。その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語や会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

オリンピックへようこそ 会話編

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

授業中は発音の仕方に注意を向け声を出して練習する。私語は慎むこと。
授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴き、語彙や文を暗記するように。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 2			11669	I	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自分の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

- 1 導入・発音
- 2 発音
- 3 発音
- 4 発音
- 5 第1課 你是中国人吗？
- 6 第1課 你是中国人吗？
- 7 第2課 这是什么？
- 8 第2課 这是什么？
- 9 第2課 这是什么？
- 10 第3課 你去哪儿？
- 11 第3課 你去哪儿？
- 12 第3課 你去哪儿？
- 13 第4課 这个包多少钱？
- 14 第4課 这个包多少钱？
- 15 まとめ・テスト

授業の方法

講義と発表、できればペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点約50%、定期試験約50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹 景春・竹島 毅著『中国語ははじめの一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 3			11673	I	秋	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

本授業は、「中国語1」において基礎を学んだ者が、さらに多くの語彙や文を学び、会話や文作りに応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の語順や表現の仕方を正しく理解し丸暗記した上で、書いたり話したりする練習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

本授業では重要な語彙の発音をよく練習したうえ、使い方や語順を説明し実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中には友達同士や先生との会話ができるように、たくさん話す練習を行い、充実した授業にしたい。

授業計画

- 1 第七課 住宾馆
- 2 第七課 住宾馆
- 3 第八課 问路
- 4 第八課 问路
- 5 第九課 当翻译
- 6 第九課 当翻译
- 7 第十課 看病
- 8 第十課 看病
- 9 第十一課 看比赛
- 10 第十一課 看比赛
- 11 第十二課 再会
- 12 第十二課 再会
- 13 第十三課 欢迎下次再来
- 14 第十三課 欢迎下次再来
- 15 まとめ、試験

授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法や語順を説明し訳する。その応用と会話の練習もする。

準備学修

習った単元の単語と会話の短文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語を読んでみる。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

オリンピックへようこそ 会話編

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

- 1) 常にテープを聴き文を読むこと。
- 2) 会話をする機会を逃さず、積極的に話してみるよう心がけること。
- 3) 解らない所があったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
- 4) 私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 4			11677	I	秋	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

本授業は「中国語 2」に続き、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画

- 1 復習・第5課 你晚上有事吗？
- 2 第5課 你晚上有事吗？
- 3 第5課 你晚上有事吗？
- 4 第6課 你吃饭了吗？
- 5 第6課 你吃饭了吗？
- 6 第6課 你吃饭了吗？
- 7 第7課 你家有几口人？
- 8 第7課 你家有几口人？
- 9 第7課 你家有几口人？
- 10 第8課 你从几点开始打工？
- 11 第8課 你从几点开始打工？
- 12 第8課 你从几点开始打工？
- 13 第9課 你去过美国吗？
- 14 第9課 你去过美国吗？
- 15 まとめ・テスト

授業の方法

講義と発表、できればペアやグループの活動を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点約50%、定期試験約50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹 景春・竹島 毅著『中国語ははじめの一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 5			11681	II	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読め、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業前に予習してもらう。授業後は、習ったテーマについて自分の実際の状況で会話に使う短文を書く練習をする。添削後、その会話を発表してもらう。このようにして同じテーマでも異なった内容のものをいくつも聴くことができる。会話に求められる聴く力と話す力を養う。文化や習慣、または様々な事情を教科書を通して学ぶ。

授業計画

- 1 第一課 一年級
- 2 第二課 一年級
- 3 第三課 主人公的家庭
- 4 第四課 主人公的家庭
- 5 第五課 就要开幕了
- 6 第六課 就要开幕了
- 7 第七課 盛大的开幕式
- 8 第八課 盛大的开幕式
- 9 第九課 想去银行
- 10 第十課 想去银行
- 11 第十一課 日本料理
- 12 第十二課 日本料理
- 13 第十三課 要住双人房
- 14 第十四課 要住双人房
- 15 まとめ、試験

授業の方法

新出単語の発音を確認して、その意味と使い方を説明する。文章についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認する。最後に繰り返し会話を練習する。

準備学修

習った単元の単語と文章を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ全文を読んでみる。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

オリンピックへようこそ 講読編

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、聴ける、話せるように努力すること。
解らない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 6			11685	Ⅱ	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嬌	選択	1				

授業の到達目標

中国語の発音、単語と文法を学び、本文の内容を十分に理解する。単語と本文の読み話す練習を通して、中国語会話能力を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

発音の練習を大事にする。大きな声を出して発音を練習すると同時に、聞く練習と書く練習も行う。単語の意味と使い方を説明し、読むと書くの練習を通して単語をしっかりと覚える。会話を流暢に言えるように繰り返し練習して、中国語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。

授業計画

- 1 第1課:楊麗さんですか
- 2 第2課:荷物は多いですか
- 3 第2課:荷物は多いですか
- 4 第3課:明日はどこへ行きますか
- 5 第3課:明日はどこへ行きますか
- 6 第3課:明日はどこへ行きますか
- 7 第4課:ケーキを食べたいですか
- 8 第4課:ケーキを食べたいですか
- 9 第4課:ケーキを食べたいですか
- 10 第5課:これはいくらですか
- 11 第5課:これはいくらですか
- 12 第5課:これはいくらですか
- 13 第6課:電子辞書を持っていますか
- 14 第6課:電子辞書を持っていますか
- 15 授業のまとめ・テスト

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と「会話練習」を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％。

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

「1冊めの中国語（会話クラス）」 劉穎、喜多山幸子、松田かの子著 白水社

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 7			11689	Ⅱ	秋	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

自信を持ってもっとと読める、書ける、聴ける、そして話せるようになることを目標とする。そのために、授業中により多くの中国語を使い聴いて分かるように、さらに答えられるように鍛える。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

内容に基づいてもっと多くの質問をし答えてもらうために、聴くことと話すことの練習をする。また、書いた作文を添削した後、丸暗記して発表してもらう。他に多くの練習問題をして習ったものを定着させ、翻訳の力を養う。

授業計画

- 1 第八課 向过路人问路
- 2 第八課 向过路人问路
- 3 第九課 给游客当翻译
- 4 第九課 给游客当翻译
- 5 第十課 在医院看病
- 6 第十課 在医院看病
- 7 第十一課 喜欢看的比赛
- 8 第十一課 喜欢看的比赛
- 9 第十二課 请再来观光
- 10 第十二課 请再来观光
- 11 第十三課 北京再会
- 12 第十三課 北京再会
- 13 第十四課 在海关
- 14 第十四課 在海关
- 15 まとめ、試験

授業の方法

新出単語の発音を確認し、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を繰り返し練習する。

準備学修

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の解らない単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％

欠席について

校則に従う。

テキスト

オリンピックへようこそ 講読編

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。積極的に授業に参加し、もっと聴ける話せるように努力すること。解らない所があれば、辞書で調べる習慣を身に付けること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 8			11693	Ⅱ	秋	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嬌	選択	1				

授業の到達目標

中国語の発音、単語と文法を学び、本文の内容を十分に理解する。単語と本文の読み話す練習を通して、中国語会話能力を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

発音の練習を大事にする。大きな声を出して発音を練習すると同時に、聞く練習と書く練習も行う。単語の意味と使い方を説明し、読むと書くの練習を通して単語をしっかりと覚える。会話文を流暢に言えるように繰り返し練習して、中国語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。

授業計画

- 第7課:京劇のチケットを買いました
- 第7課:京劇のチケットを買いました
- 第8課:ファーストフード店がありますか
- 第8課:ファーストフード店がありますか
- 第9課:中国の歌が歌えますか
- 第9課:中国の歌が歌えますか
- 第10課:長城に行ったことがありますか
- 第10課:長城に行ったことがありますか
- 第10課:長城に行ったことがありますか
- 第11課:お腹をこわしました
- 第11課:お腹をこわしました
- 第11課:お腹をこわしました
- 第12課:どのくらいの時間がかかりますか
- 第12課:どのくらいの時間がかかりますか
- 授業のまとめ・テスト

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と「会話練習」を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%。

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

「1冊めの中国語（会話クラス）」 劉穎、喜多山幸子、松田かの子著 白水社

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 1			11697	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1	なし			

授業の到達目標

韓国語 1は韓国に興味（旅行、K-POP、ドラマ、アイドル、食べ物、美容等）を持ちながら今まで体系的学習経験がない学生を対象にした入門クラスである。この講座は韓国語の基礎（文字と発音）から、生き生きとした場面会話を通じて初級レベルのコミュニケーション力を養うことを授業の目標とする。更に韓国の文化等を紹介し隣国を理解する手助けとなる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

入門クラスとして以下のように授業を進める。

- ・授業前半：韓国語の読み、書きができるよう文字と発音をしっかり身に付ける。
- ・授業後半：すぐに役立つ場面会話を中心に基本文型を習い、初級レベルのコミュニケーション力（聞き取る、話す）を身に付けて行く。
- ・各授業の内容を踏まえた上でより学びを楽しめるよう韓国文化を紹介する。

授業計画

- 韓国語の概要(ハングルの成り立ち、文字の構成等)
- 文字と発音 1:基本母音
- 文字と発音 2:子音 1 (平音)
- 文字と発音 3:子音 2 (激音と濃音)
- 文字と発音 4:合成母音
- 文字と発音 5:パッチム 1
- 文字と発音 6:パッチム 2
- 基礎(文字と発音 1～6)のまとめ、中間確認
- 第1課－1:こんにちは。
- 第1課－2:こんにちは。
- 第2課－1:誰ですか。
- 第2課－2:誰ですか。
- 第2課－3:これ、何ですか。
- 第3課－1:アメリカンコーヒーありますか。
- まとめと定期試験

授業の方法

講義とペアやグループ活動を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ・評価方法：平常点（出欠、課題、発表等を合わせて評価）50%、定期試験50%
- ・フィードバック：課題や小テスト、発表等に対するフィードバックは講義中に、又は個別に行う。

欠席について

大学の規定に従う。ただし平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト

どんどん話そう！韓国語／陸心芬・他3名著／朝日出版社

留意事項

配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 2			11701	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1	なし			

授業の到達目標

韓国語 2 は 1 年以上韓国語学習経験を持つ学生を対象にした準中級レベルのクラスである。この講座は韓国語による様々な場面で多様なコミュニケーションができることを授業の目標とする。更に韓国の文化等を紹介し隣国を理解する手助けとなる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

準中級レベルに相応しいコミュニケーションができるよう以下のよう

- に授業を進める。
- ・場面会話を中心に多様な語彙や表現、応用スキルを高める。
- ・ペアやグループで会話演習を行い、実際にネイティブと話せる自信に繋げる。
- ・各授業の内容を踏まえた上でより学びを楽しめるよう韓国文化を紹介する。

授業計画

- 1 初級レベルの確認(丁寧形・数詞・過去形)
- 2 第12課－1：写真見せてください。
- 3 第12課－2：2泊3日で釜山に行って来ました。
- 4 聞き取りと応用演習
- 5 第13課－1：キムチチゲが食べたいです。
- 6 第13課－2：辛いけど、韓国料理が食べたいです。
- 7 聞き取りと応用演習
- 8 第14課－1：思ったより辛いですね。
- 9 第14課－2：映画よりドラマが面白いです。
- 10 聞き取りと応用演習
- 11 第15課－1：薬はお飲みになりましたか。
- 12 第15課－2：この頃、インフルエンザが流行っています。
- 13 第15課－3：ホテル、予約しましたか。
- 14 聞き取りと応用演習
- 15 まとめと定期試験

授業の方法

講義とペアやグループ活動を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ・評価方法：平常点（出欠、課題、発表等を合わせて評価）50％、定期試験50％
- ・課題や小テスト、発表等に対するフィードバックは講義中に、又は個別に行う。

欠席について

大学の規定に従う。ただし平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト

キャンパス韓国語／曹美庚・李希姫 著／白帝社

留意事項

配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 3			11705	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1	なし			

授業の到達目標

韓国語 3 は入門レベルの学習を終え、ハングルの読み書きが出来る学生を対象とする初級クラスである。この講座はより多様な表現力を身に付け、応用できる初級レベルのコミュニケーションのスキルを高めることを授業の目標とする。更に韓国の文化等を紹介し隣国を理解する手助けとなる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

入門で身に付けた基礎力が発揮できるよう、以下のように授業を進める。

- ・いろんな場面会話を中心に多様な語彙や応用スキルを高める。
- ・活発にペアやグループで会話演習を行い、実際にネイティブと話せる自信に繋げる。
- ・各授業の内容を踏まえた上でより学びを楽しめるよう韓国文化を紹介する。

授業計画

- 1 春学期のおさらい：買い物(BTSのグッズ、ありますか。)
- 2 第3課－2：時間ありますか。
- 3 第3課－3：どこにありますか。
- 4 第4課－1：それは何ですか。
- 5 第4課－2：それは何ですか。私も買いたいです。
- 6 第5課－1：ここがスーパーですか。
- 7 第5課－2：コスメショップはどこにありますか。
- 8 前半のまとめ、中間確認
- 9 第6課－1：いくつありますか。
- 10 第6課－2：チーズホットドッグ2つください。
- 11 第7課－1：図書館で勉強をします。
- 12 第7課－2：カフェでアルバイトをします。
- 13 第8課－1：会社に行きます。
- 14 第8課－2：家でユーチューブを見ます。
- 15 まとめと定期試験

授業の方法

講義とペアやグループ活動を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ・評価方法：平常点（出欠、課題、発表等を合わせて評価）50％、定期試験50％
- ・課題や小テスト、発表等に対するフィードバックは講義中に、又は個別に行う。

欠席について

大学の規定に従う。ただし平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト

どんどん話そう！韓国語／陸心芬・他3名 著／朝日出版社

留意事項

配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 4			11709	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1	なし			

授業の到達目標

韓国語 4は準中級レベルのクラスである。この講座は韓国語による様々な場面で多様なコミュニケーション能力を高めることを授業の目標とする。更に韓国の文化等を紹介し隣国を理解する手助けとなる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

準中級レベルに相応しいコミュニケーション力を高めるよう以下のよう授業を進める。

- ・場面会話を中心に多様な語彙や応用スキルを高める。
- ・ペアやグループで会話演習を行い、実際にネイティブと話せる自信に繋げる。
- ・各授業の内容を踏まえた上でより学びを楽しめるよう韓国文化を紹介する。

授業計画

- 第16課－1：大学祭のとき何をするつもりですか。
- 第16課－2：一緒にコンサートに行きませんか。
- 聞き取りと応用演習
- 第17課－1：テニスができますか。
- 第17課－2：週末にスポーツセンターでヨガを習っています。
- 聞き取りと応用演習
- 第18課－1：合コンをしたことがありますか。
- 第18課－2：私はユーモアのある人、運動が得意な人が好きです。
- 聞き取りと応用演習
- 第19課－1：お母さんにプレゼントしようと思っています。
- 第19課－2：この頃一番人気のある商品です。
- 聞き取りと応用演習
- 第20課－1：道を教えていただけますか。
- 第20課－2：あの、すみません。聞き取り
- まとめと定期試験

授業の方法

講義とペアやグループ活動を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ・評価方法：平常点（出欠、課題、発表等を合わせて評価）50％、定期試験50％
- ・課題や小テスト、発表等に対するフィードバックは講義中に、又は個別に行う。

欠席について

大学の規定に従う。ただし平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト

キャンパス韓国語／曹美庚・李希姫 著／白帝社

留意事項

配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 5			11713	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安 在善	選択	1				

授業の到達目標

韓国語の初級2として、様々な韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーションスキルを高める。

- ・入門で学んだことを踏まえ、より多様な表現力を身につける。
- ・基礎の日常会話の表現を身につけて活用できるようにする。
- ・コミュニケーションのスキルを高める。
- ・韓国文化を学ぶ。

この授業ではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う

授業の概要

入門の課程を終えた受講生を対象に以下の内容の授業を構成する。

- ・韓国語の基礎文法をマスターできるようにする。
- ・学習した文法を取り入れた会話を通して、日常会話ができるようになる。
- ・コミュニケーションの幅を広げるための表現力を身につけるようにする。

授業計画

- 제 1 과 지난 주말에 뭐했어요. 1
第1課 前週末に何をしましたか。1
- 제 1 과 지난 주말에 뭐 했어요. 2
第1課 先週末に何をしましたか。2
- 제 2 과 뭐 먹을까요? 1
第2課 何を食べましょうか。1
- 제 2 과 뭐 먹을까요? 2
第2課 何を食べましょうか。2
- 제 2 과 뭐 먹을까요? 3
第2課 何を食べましょうか。3
- 제 3 과 도서관 앞에서 만납시다. 1
第3課 図書館の前で会いましょう。1
- 제 3 과 도서관에서 만납시다. 2
第3課 図書館で会いましょう。2
- 제 3 과 도서관에서 만납시다. 3
第3課 図書館で会いましょう。3
- 제 4 과 한국 음식도 많이 먹을 거예요. 1
第4課 韓国料理もたくさん食べるつもりです。1

- 제 4 과 한국 음식도 많이 먹을 거예요. 2
第4課 韓国料理もたくさん食べるつもりです。2
- 제 5 과 학교에서 올림픽까지 어떻게 가요? 1
第5課 学校からオリンピック公園までどうやって行きますか。1
- 제 5 과 2・제 6 과 여름 방학에 경주 여행 하기로 했어요. 1
第5課 2・6課 夏休みに慶州旅行をすることにしました。1
- 제 6 과 2・제 7 과 친구 생일 선물을 사야 해요. 1
第7課 友達のプレゼントを買いなければなりません。1
- 제 7 과 친구 생일 선물을 사야 돼요. 2
第7課 友達のプレゼントを買いなければなりません。2
- まとめと定期試験

授業の方法

講義とペアワークを中心とする。
毎回、ワークブックで自己確認をする。

準備学修

Webとプリントを参照すること

課題・評価方法、その他

評価方法：平常点50％、定期試験50％

欠席について

80％以上の出席で成績評価をする。

テキスト

We CAN 韓国語／金世徳・張京花 著 / HAKUEISHA

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 6			11717	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安 在善	選択	1				

授業の到達目標

- ・隣国である韓国の言語を理解する。
 - ・基礎的会話表現を覚えてコミュニケーション能力を高める。
 - ・韓国の文化に関しての理解を深める。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

韓国の文化や言語に興味を持つ受講生を対象に言語を含めて文化やK・POP、映画、ドラマを通じて韓国文化に関しての理解を高める。

- ・様々なテーマに沿ってよく使われる表現を身につける。
- ・話すことの楽しさを味わいながら、会話を高める。
- ・「書く」「読む」「聴く」「話す」の4つのことを総合的に学習する。

授業計画

- 1 불규칙 1 (不規則 1)
- 2 불규칙 2 (不規則 2)
- 3 교통 -에서 -까지 얼마나 걸려요?
(交通 〜から〜までどれ位かかりですか)
- 4 김 찾기 1 (道を尋ねる 1)
- 5 김 찾기 2 (道を尋ねる 2)
- 6 전화・SNS (電話・SNS)
- 7 외모 묘사하기 1 (ルックスを言う 1)
- 8 외모 묘사하기 2 (ルックスを言う 2)
- 9 경험 1 (経験 1)
- 10 경험 2 (経験 2)
- 11 경험 3 (経験 3)
- 12 실력확인・회화테스트 (実力確認・会話テスト)
- 13 장래의 꿈 (将来の夢)
- 14 복습 1 (まとめ 1)
- 15 복습 2 와 정기시험 (まとめ 2 と定期試験)

授業の方法

講義とペアワークを中心とする。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％・定期試験50％

欠席について

80%以上の出席で成績評価をする。

テキスト

プリントの配布

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 7			11721	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安 在善	選択	1				

授業の到達目標

- ・初級レベル2の会話や文章の理解・読解を目指す。
 - ・変則などの初級会話2に必要な文法を学習する。
 - ・時制を利用する幅広い会話を通してコミュニケーションのスキルを高める。
- このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う

授業の概要

韓国語に興味がある受講生を対象に、言語及び文化にまで親しめるようにする。

- ・様々な表現を繰り返し練習することで、韓国語の文法・話す・読む・書きをバランスよく学習する。
- ・ドラマ・映画・K・POPなどを通して韓国の日常生活や文化に対する理解を高める。

授業計画

- 1 불규칙 1 不規則 1
- 2 불규칙 중 복습 2 (不規則のまとめ 2)
- 3 제 8 과 영화나 연극을 보러 가요 1
(第8課 映画か演劇を見に行きましょう 1.)
- 4 제 8 과 영화나 연극을 보러 가요 2
(第8課 映画か演劇を見に行きましょう 2.)
- 5 제 8 과 영화나 연극을 보러 가요 3
(第8課 映画か演劇を見に行きましょう 3.)
- 6 제 9 과 산에서 쓰레기를 버리면 안 돼요.1
(第9課 山でゴミを捨ててはいけません)
- 7 제 9 과 산에서 쓰레기를 버리면 안 돼요.2
(第9課 山でゴミを捨ててはいけません 2)
- 8 제 9 과 산에서 쓰레기를 버리면 안 돼요.3
(山でゴミを捨ててはいけません 3)
- 9 제 10 과 여자친구에게 선물을 자주 하겠어요 1
(第10課 彼女にプレゼントをよくするでしょう 1)
- 10 제 10 과 여자친구에게 선물을 자주 하겠어요 2
(第10課 彼女にプレゼントをよくするでしょう 2)
- 11 제 11 과 주말에 우리집에 올 수 있어요? 1
(第11課 週末に我が家に来られますか 1)

- 12 제 11 과 주말에 우리집에 올 수 있어요? 2
(第11課 週末に我が家に来られますか 2)
- 13 제 12 과 한국어를 공부한 지 1 년이 됐어요.1
(第12課 韓国語を勉強してから1年になりました1.)
- 14 제 12 과 한국어를 공부한 지 1 년이 됐어요.1
(第12課 韓国語を勉強してから1年になりました1.)
- 15 복습과 정기시험 (まとめと復習)

授業の方法

講義とペアワークを中心とする。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％・定期試験50％

欠席について

80%以上の出席で成績評価をする

テキスト

We Can 韓国語 2（初級から中級へ）

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 8			11725	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安 在善	選択	1				

授業の到達目標

- ・初級から中級へのレベルの文章の理解・読解を目指す。
 - ・希望の表現などの文法を学習する。
 - ・ドラマのセリフを通して会話力を高める。
- このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

- 韓国語に興味がある受講生を対象に、言語及び文化にまで親しめるようにする。
- ・中級の文法を利用し、文章を書く能力や会話のスキルを高める。
 - ・間接話法の使い方を身につける。
 - ・ロールプレイングを利用して会話力と語彙力を高める。
 - ・韓国の文化との触れ合いを通して韓国人の情緒を理解する

授業計画

- 나는 빵 만드는 일을 해요 1
(私はパンを作る仕事をしています。1)
- 나는 빵 만드는 일을 해요 2
(私はパンを作る仕事をしています。2)
- 등산을 하거나 영화를 보러 가요 1.
(登山をするか映画を見に行きます。1)
- 등산을 하거나 영화를 보러 가요 2.
(登山をするか映画を見に行きます。2)
- 아침마다 운동을 해요 1.
(毎朝、運動をやっています。1)
- 아침마다 운동을 해요 2.
(毎朝、運動をやっています。2)
- 청바지에다가 티셔츠를 입으려고 해요 1.
(ジーパンにTシャツを着ようと思っています。1)
- 청바지에다가 티셔츠를 입으려고 해요 2.
(ジーパンにTシャツを着ようと思っています。2)
- 음악을 들으면서 공부를 해요. (音楽を聴きながら勉強をします。)
- 映画の鑑賞
- 기분과 감정 표현 1
(気分と感情の表現 1)
- 기분과 감정 표현 2
(気分と感情の表現 2)

- (気分と感情の表現 2)
- 회화 테스트 (会話テスト) / 노래 외우기 1 (歌を覚えよう 1)
 - 아/야 보다는복습 1
(〜てみるとまとめ 1)
 - 복습 2 와 정기시험 (まとめ 2 と定期試験)

授業の方法

講義とペアワークを中心とする。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％・定期試験50％

欠席について

80％以上の出席で成績評価をする

テキスト

プリントの配布

現代人間学部 英語観光学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- | | | | | | |
|--------------------|----|------|----|--|--|
| 1 ガイダンス | | | | | |
| 2 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 3 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 4 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 5 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 6 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 7 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 8 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 9 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 10 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 11 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 12 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 13 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 14 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 15 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。
また、文学作品に描かれた文化内容を考察するため、担当教員による文学作品の講読を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

小川洋子『ミーナの行進』（2009年、中公文庫 686円）

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

私たちの社会生活の中でことばによるコミュニケーションは欠かせないものであり、世界のあらゆる言語はその土地の文化や現代社会の課題などとも深く関わっています。ことばのあり方を探ることによって、社会や文化のあらゆる側面を探ります。
このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

言語と文化を中核として社会言語学とコミュニケーション論を基礎として学ぶ。授業では幅広く分野を取り扱い、言語（英語及び日本語）/文化/社会について幅広く興味に応じて対応する。授業は学生主体で行い、調査や分析方法を学びながらプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を行う。

授業計画

- オリエンテーション
- 言語学にどのような分野があるのかを概説する。
- 発表とディスカッション
- 各自の興味関心があることについてクラス内で発表する。
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 個人課題の発表・ディスカッション

授業の方法

それぞれの興味関心について授業で取り扱い、発表とディスカッションを行う。学生の主体的な授業参加が必要となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価は出席30％、発表30％、授業態度20％、課題20％とする。

欠席について

規定の通りとする。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。観光と地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。地域の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- ガイダンス
- 観光による地方創生①
- 観光による地方創生②
- 観光による地方創生③
- 観光による地方創生④
- 観光地と地方創生⑤
- 観光地のブランド化①
- 観光地のブランド化②
- 観光地のブランド化③
- フィールドワーク準備①
- フィールドワーク準備②
- フィールドワーク準備③
- フィールドワーク準備④
- フィールドワーク準備⑤
- まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％、課題30％、プレゼンテーション20％

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。
フィールドワークへの参加は必須である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- | | | |
|--------------------|----|--------|
| 1 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 2 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 3 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 4 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 5 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 6 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 7 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 8 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 9 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 10 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 11 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 12 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 13 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 14 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 15 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。
また、文学作品に描かれた文化内容を考察するため、担当教員による文学作品の講読を行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

万城目学『梧浄出立』（2017年、新潮文庫、490円）

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

私たちの社会生活の中でことばによるコミュニケーションは欠かせないものであり、世界のあらゆる言語はその土地の文化や現代社会の課題などとも深く関わっています。ことばのあり方を探ることによって、社会や文化のあらゆる側面を探ります。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

言語と文化を中核として社会言語学とコミュニケーション論を基礎として学ぶ。授業では幅広く分野を取り扱い、言語（英語及び日本語）/文化/社会について幅広く興味に応じて対応する。授業は学生主体で行い、調査や分析方法を学びながらプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 発表とディスカッション
夏休み期間に学習した内容について発表する。
- 3 参考文献を用いたディスカッション
- 4 参考文献を用いたディスカッション
- 5 参考文献を用いたディスカッション
- 6 参考文献を用いたディスカッション
- 7 参考文献を用いたディスカッション
- 8 参考文献を用いたディスカッション
- 9 参考文献を用いたディスカッション
- 10 参考文献を用いたディスカッション
- 11 参考文献を用いたディスカッション
- 12 参考文献を用いたディスカッション
- 13 参考文献を用いたディスカッション
- 14 参考文献を用いたディスカッション
- 15 個人課題の発表・ディスカッション

授業の方法

それぞれの興味関心について授業で取り扱い、発表とディスカッションを行う。学生の主体的な授業参加が必要となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価は出席30％、発表30％、授業態度20％、課題20％とする。

欠席について

規定の通りとする。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。観光と地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表準備を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化につての事例研究を行う。地域の観光資源調査（フィールドワーク）を実施し、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティング&マネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 フィールドワーク調査確認
- 3 フィールドワーク①
- 4 フィールドワーク②
- 5 フィールドワークの調査結果のまとめ①
- 6 フィールドワークの調査結果まとめ②
- 7 フィールドワーク調査結果まとめ③
- 8 フィールドワークの報告書作成①
- 9 フィールドワークの報告書作成②
- 10 フィールドワーク報告会
- 11 フィールドワークのまとめ
- 12 個人課題の研究発表と討論
- 13 個人課題の研究発表と討論
- 14 個人課題の研究発表と討論
- 15 まとめ

授業の方法

フィールドワークの調査及び報告書の作成とプレゼンテーションを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％、課題30％、プレゼンテーション20％

欠席について

大学規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイアモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習には自主性及び積極性が求められる。
フィールドワークの参加は必須である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 研究の進め方
- 2 研究テーマについて発表
- 3 卒業研究の書き方(研究計画について)
- 4 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
- 5 個人発表と質疑応答
- 6 個人発表と質疑応答
- 7 個人発表と質疑応答
- 8 個人発表と質疑応答
- 9 個人発表と質疑応答
- 10 個人発表と質疑応答
- 11 個人発表と質疑応答
- 12 個人発表と質疑応答
- 13 研究計画書の発表
- 14 研究計画書の発表
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは3年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容より、英米文学をより正確に深く読み取れるよう、日々、英米文学作品に親しむ。
さらに、各自が定めたテーマについて、より適切な書籍や論文等の資料を収集し、丁寧に調査を行い、論の裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現することを目指す。かつ、聴き手が正確に理解できるような研究発表ができるよう、発表の演習も行う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ基礎力をもとに、各自が決定した研究のための資料、データ、先行論文等を調査、分析を行い、授業内において、各自が作成した論文を発表し、それについてゼミの全員でディスカッションを行う。
また、昨年に続き、英米文学やエッセイなどの原書や時事ニュースを読解することにより、英語力の向上を図る。毎授業において、発表とディスカッションを行うので、授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
卒業研究について発表する。
- 2 課題の発表
- 3 課題の発表
- 4 課題の発表
- 5 課題の発表
- 6 課題の発表
- 7 課題の発表
- 8 課題の発表
- 9 課題の発表
- 10 課題の発表
- 11 課題の発表
- 12 課題の発表
- 13 課題の発表
- 14 課題の発表
- 15 最終発表を行う。

まとめ

授業の方法

個人研究の発表とディスカッションを中心に行う。
発表毎にレポートを提出する。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 30%、発表 40%、レポート 30%
課題、発表のフィードバックは授業中に行う。レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

出席を重視する。欠席1回について平常点より4点減点する。
規定に従う。

テキスト

ハンドアウトを使用する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加し、発表と毎回のレポート提出が必須である。
出席を重視する。
平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- 1 ガイダンスと個人研究の進め方
- 2 個人研究テーマの発表
- 3 個人研究発表とディスカッション
- 4 個人研究発表とディスカッション
- 5 個人研究発表とディスカッション
- 6 個人研究発表とディスカッション
- 7 個人研究発表とディスカッション
- 8 個人研究発表とディスカッション
- 9 個人研究発表とディスカッション
- 10 個人研究発表とディスカッション
- 11 個人研究発表とディスカッション
- 12 個人研究発表とディスカッション
- 13 個人研究発表とディスカッション
- 14 個人研究発表とディスカッション
- 15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション、卒業研究第一章発表
- 2 Tales of Mystery and Imagination: “The Fall of the House of Usher”
- 3 Tales of Mystery and Imagination: “The Fall of the House of Usher”
- 4 第1章の原稿発表。
- 5 Tales of Mystery and Imagination: “The Black Cat”
- 6 Tales of Mystery and Imagination: “The Black Cat”
- 7 第二章の構想発表。
- 8 Tales of Mystery and Imagination: “The Mask of Red Death”
- 9 Tales of Mystery and Imagination: “The Mask of Red Death”
- 10 第二章原稿発表。
- 11 Tales of Mystery and Imagination: “William Wilson”
- 12 Tales of Mystery and Imagination: “William Wilson”
- 13 Tales of Mystery and Imagination: “The Tell-Tale Heart”
- 14 Tales of Mystery and Imagination: “The Tell-Tale Heart”
- 15 第三章構想発表。

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70％、レポート20％。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 ガイダンスとスケジュールの決定
- 2 卒業研究作成におけるwordの使い方
- 3 卒業研究の参考文献・引用文献について
- 4 卒業研究のアンケートと図表について
- 5 個人研究発表
- 6 個人研究発表
- 7 個人研究発表
- 8 個人研究発表
- 9 個人研究発表
- 10 個人研究発表
- 11 個人研究発表
- 12 個人研究発表（研究成果の提出）
- 13 個人研究発表
- 14 個人研究発表
- 15 口頭試問

授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートする

こと。

課題・評価方法、その他

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 卒業研究 口頭試問

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

海外、および日本の文化や社会的事情に常に関心を持ち、それらを詳しく調査、分析を行い考察することが重要である。たとえ日本文化に属する研究内容であっても、現在のような情報化社会においては、海外の資料や情報が欠かせない。各自が定めたテーマについて調査をし、裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現し、発表する。最終的に卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

各自の興味のあるテーマについて、国内のみならず海外の資料も入手して、丁寧な調査を行い、論的思考を身につけ、卒業研究を書き上げる。授業では、各自の研究について発表とディスカッションを行うので授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
研究発表
- 2 卒業研究の発表とディスカッション
- 3 卒業研究の発表とディスカッション
- 4 卒業研究の発表とディスカッション
- 5 卒業研究の発表とディスカッション
- 6 卒業研究の発表とディスカッション
- 7 卒業研究の発表とディスカッション
- 8 卒業研究の発表とディスカッション
- 9 卒業研究の発表とディスカッション
- 10 卒業研究の発表とディスカッション
- 11 卒業研究の発表とディスカッション
- 12 卒業研究の発表とディスカッション
- 13 卒業研究の発表とディスカッション
- 14 総まとめ
口頭試問について
- 15 総まとめ

授業の方法

各自が選んだテーマについて、国内、および海外の書物、文献、論

文などの資料を収集し、正確に読解する。各自で論を構成できるよう論理的思考が身につける。授業では、各自の発表後にクラス内でのディスカッションを行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 30%、発表 40%、レポート 30%

欠席について

出席を重視する。欠席1回について平常点より4点減点する。規定に従う。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加し、発表と毎回のレポート提出が必須である。出席を重視する。平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

- ガイダンスと卒業研究進行状況報告
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- 個人研究発表とディスカッション
- まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- イントロダクション
- 第三章原稿発表。
- The Unquiet Graves: The Picture
- 教員からの添削をもとに1章を完成する。
- The Unquiet Graves: Rats
- The Unquiet Graves: The Casting Runes
- 教員からの添削をもとに2章を完成する。
- The Unquiet Graves: The Experiment
- The Unquiet Graves: “Oh, Whistle, Come to You, My Boy”
- 教員からの添削をもとに3章を完成する。
- 教員からの添削をもとに序章を完成する。
- 教員からの添削をもとに結論を完成する。
- 教員からの添削をもとに全体の推敲を確認する。
- I, Robot: Catch That Rabbit
- I, Robot: The Liar

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70％、レポート20％。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 101			13903	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 1 Health Science, Reading One: In the Presence of Animals
- 3 Reading One, Reading Two: Canine Companions May Help Kids Learn to Read
- 4 Reading Two
- 5 Review
- 6 Mid Term
- 7 Chapter 2 Psychology, Reading One: Round Football Players Injured, but Not Forgotten
- 8 Reading One, Reading Two: Who Moved My Cheese?
- 9 Reading Two
- 10 Review
- 11 Chapter 3 Linguistics, Reading One: An Unbreakable Code
- 12 Reading One, ReadingTwo Language Did Out,Taking History Along
- 13 Reading Two
- 14 Review
- 15 Review (Chapter 1 , 2 , 3)

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam	40%
Tests and Quizzes	30%
Class Participation	20%
Homework	10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence" . If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Academic Reading Series 1: Reading Skills for College, Kim Sanabria, Pearson

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 102			13905	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Who am I?
- 3 Unit 1 Who am I?
- 4 Unit 2 An important place
- 5 Unit 2 An important place
- 6 Unit 3 An ideal partner
- 7 Unit 3 An ideal partner
- 8 Mid Term
- 9 Unit 4 My favorite photo
- 10 Unit 4 My favorite photo
- 11 Unit 5 My seal
- 12 Unit 5 My seal
- 13 Unit 6 Party Time
- 14 Unit 6 Party Time
- 15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report	20%
Tests and Quizzes	10%
Class Participation	20%
Homework	50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence" . If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1			13806	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	1				

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Testスコア400点到達を目指す。
そのために必要な英語力（語彙力、読解力、リスニング力）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）、およびA（自律）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、文法事項の復習、リスニング力、語彙力、読解力の育成を行う。基本的な読解力向上のために多読（図書館に配架されている楽しく読みやすい多読書を読む）を行う。多読書1冊読解毎に読書レポートを作成する。また、TOEICの問題形式に慣れるために、テキストだけでなく、他のTOEICテスト形式の問題演習も実施する。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Shopping
- 3 Unit 1 Shopping
- 4 Unit 2 Transportation/ Street Scenes
- 5 Unit 2 Transportation/ Street Scenes
- 6 Unit 3 Travel
- 7 Unit 3 Travel
- 8 Review Quiz
- Listeningのためのニュース動画、またはDVD鑑賞
- 9 Unit 4 Restaurants/ Cooking
- 10 Unit 4 Restaurants/ Cooking
- 11 Unit 5 Health
- 12 Unit 5 Health
- 13 Unit 6 In the Office
- 14 Unit 6 In the Office
- 15 総復習
- Review Quiz

授業の方法

授業内容の復習は必須である。毎週、1冊以上多読書を読み、読書レポートを提出する。小テスト、およびReview Quizを実施する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験（小テスト含む）40% 多読 30%
小テスト、および Review Quizは授業内でフィードバックを行う。

欠席について

欠席1回につき、平常点から3点減点する。
規定に従う。

テキスト

Mastery Drills for the TOEIC® L&R Test, Revised Edition>新形式対応！（Cengage Learning）、Basic Grammar in Use（Cambridge University Press）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。
授業と課題に熱心に取り組む姿勢を重視する。
英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 104			13908	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

英語の音声的特徴、特に聞き手が理解する上で重要な英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い英語の音素の特徴を理解し、実践できるようにする。また教職課程履修者が、中学校及び高等学校の生徒が理解しやすい英語の発音を身につけることも目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。「伝わる」英語の発話及び聴解力の向上を目指し、クリアな発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を学ぶ。特に「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。実践的に聴いて繰り返し練習をするだけでなく、理論的に理解をすることで、初めて読む英文でも分かりやすく読むことができるようになることを目指して学修する。

授業計画

- 1 導入（英語学習における発音学習の位置づけ、事前診断テスト）
- 2 事前診断テスト解答解説と練習
- 3 音節（音節とリズム、カタカナ語と英語の音節数の違い）
- 4 音節（語の音節数、現在形と過去形の音節数の違い）
- 5 母音（アルファベット読みとフォニックス読み）
- 6 英語特有の子音（アルファベット読みとフォニックス読み）
- 7 語強勢（強勢と母音の長さ）
- 8 語強勢（強勢と母音の音色、押韻）
- 9 語強勢（語強勢の法則）
- 10 文強勢（内容語と機能語、品詞）
- 11 文強勢（文の内容に即した強勢）
- 12 文強勢（強勢の付く機能語）
- 13 その他の子音（日本語との違い）
- 14 文章の音読
- 15 練習、復習、まとめ

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

欠席について

- 1) 課題の提出がされない又はテストを受けない場合は、当該評価を「0」とする。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認すること。

テキスト

Judy B. Gilbert, Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension, 4th ed. CUP.

留意事項

発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能である。上達させるために練習を繰り返すこと、また授業中も積極的に声を出すことが求められる。

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 200			13909	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	必修	1				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 3 People, 3.1 Big happy families
- 3 3.2 Real friends?
- 4 3.3 Are you free?
- 5 3.4 Diwali Celebrations
- 6 Review
- 7 Presentations
- 8 Mid Term
- 9 Unit 4 Places, 4.1 A place to stay
- 10 4.2 Around town
- 11 4.3 Can I help you?
- 12 4.4 Favourite Places
- 13 Review
- 14 Presentations
- 15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam	20%
Tests and Quizzes	10%

Presentations	40%
Class Participation	20%
Homework	10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Frances Eagles and Steve Oaks, SpeakOut: Elementary, 2nd edition. (Pearson)

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 201			13911	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 4 Animal Behavior, Reading One: Elephant Orphanage
- 3 Reading One, Reading Two: Elephant Behavior
- 4 Reading Two
- 5 Review
- 6 Mid Term
- 7 Chapter 5 Social Psychology, Reading One: A Class Divided
- 8 Reading One, Reading Two: Fourteen Years Later
- 9 Reading Two
- 10 Review
- 11 Chapter 6, Reading One: What is Public Art?
- 12 Reading One, Reading Two: Christo and Jeanne-Claude
- 13 Reading Two
- 14 Review
- 15 Review (Chapter 4, 5, 6)

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam	40%
Tests and Quizzes	30%
Class Participation	20%
Homework	10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Academic Reading Series 1: Reading Skills for College, Kim Sanabria, Pearson

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 202			13913	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7 Thank you note
- 3 Unit 7 Thank you note
- 4 Unit 8 Movie review
- 5 Unit 8 Movie review
- 6 Unit 9 Friendship
- 7 Unit 9 Friendship
- 8 Mid Term
- 9 Unit 10 Superhero powers
- 10 Unit 10 Superhero powers
- 11 Unit 11 Advertisements
- 12 Unit 11 Advertisements
- 13 Unit 12 Lessons learned
- 14 Unit 12 Lessons learned
- 15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

- | | |
|---------------------|-----|
| Final Report | 20% |
| Tests and Quizzes | 10% |
| Class Participation | 20% |
| Homework | 50% |

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 2			13807	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Testスコア500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語と読解力）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を中心に授業を行う。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7 Business and Sales
- 3 Unit 7 Business and Sales
- 4 Unit 8 Media / News
- 5 Unit 8 Media / News
- 6 Unit 9 Economy
- 7 Unit 9 Economy
- 8 TOEIC mini Test
- 9 Unit 10 Advertisement
- 10 Unit 10 Advertisement
- 11 Unit 11 International Trade
- 12 Unit 11 International Trade
- 13 Unit 12 Environment
- 14 Unit 12 Environment
- 15 復習、期末考査

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

授業内で指示をする。

課題・評価方法、その他

平常点（小テスト含む）50%、試験（Mini Test、TOEIC IPテストも含む）50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Winning Formula for the TOEIC® L&R Test, Revised Edition（センゲージラーニング）、Basic Grammar in Use（Cambridge University Press）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

ダウンロード音声を用いて確実に復習すること。毎回、英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 204			13916	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	専門学校講師、社団法人国際英語発音協会理事			

授業の到達目標

日本語と特に違いの大きい子音と母音の発音に習熟し、相手に伝わりやすい発話ができることを目標とする。このクラスではKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を涵養する。

授業の概要

英語音声に関する実践的訓練を行い、「伝わる」英語発音を目指す。

授業計画

- ガイダンス、U 1「口の中を意識する」、U 2「英語らしい音」
- U 4「thankのth」、U 5「thisのth」
- U 6「feelのf」、U17「appleのa」
- U 7「visitのv」、U18「upのu」
- U 8「rightのr」、U 9「liveのl」
- U19「birdのir」
- U10「practiceのpr」、U20「carのar」
- U11「playのpl」、中間考査
- U12「rとl(応用編)」
- U21「あいまいな母音」
- U13「woodのw」、U22「lowのowとlawのaw」
- U14「inのn」、U23「itのiとeatのea」
- U15「singerのng」、U24「footのooとfoodのoo」
- U16「まぎらわしい子音s,z,t」、Part 3の復習
- Part 2の復習、期末考査

授業の方法

リズムと強勢を意識し、多くの演習と音読練習を行う。また練習と復習の成果をチェックするため毎回個人的に発音チェックを行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点より2点減点する。

テキスト

静哲人著『発音入門 音トレーニングドリル』（アルク）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

付属CD教材を用いて確実に復習すること。毎回、発音記号が記載されている英和辞書（紙版、電子版など）を必ず持参すること。

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 300			13917	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	必修	2				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

- Introduction
- Unit 5 Food, 5.1 My fridge
- 5.2 A lifetime in numbers
- 5.3 Are you ready to order?
- 5.4 Beach Barbecue
- Review
- Presentations
- Mid Term
- Unit 6 The Past, 6.1 In their past
- 6.2 Time twins
- 6.3 What did you do?
- 6.4 Nelson Mandela
- Review
- Presentations
- Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence” . If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Frances Eagles and Steve Oaks, SpeakOut: Elementary, 2nd edition. (Pearson)

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 301			13919	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 6 Business, Reading One
- 3 Chapter 6 Business, Reading Two
- 4 Chapter 6 Business, Reading Three
- 5 Review
- 6 Mid Term
- 7 Chapter 7 Math, Reading One
- 8 Chapter 7 Math, Reading Two
- 9 Chapter 7 Math, Reading Two, Reading Three
- 10 Chapter 7 Math, Reading Tree
- 11 Review
- 12 Chapter 8 Public Speaking, Reading
- 13 Chapter 8 Public Speaking, Reading Two
- 14 Chapter 8 Public Speaking, Reading Three
- 15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Academic Reading Series 2: Reading Skills for College, Kim Sanabria, Pearson

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 302			13921	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 About me
- 3 Unit 1 About me
- 4 Unit 2 Career consultant
- 5 Unit 2 Career consultant
- 6 Unit 3 A dream come true
- 7 Unit 3 A dream come true
- 8 Mid Term
- 9 Unit 4 Invent
- 10 Unit 4 Invent
- 11 Unit 5 It changed my life!
- 12 Unit 5 It changed my life!
- 13 Unit 6 Exciting destinations
- 14 Unit 6 Exciting destinations
- 15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 2, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 1			13822	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	必修	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Test スコア500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1 ガイダンス、Unit 9 Phone Calls
- 2 Unit 9 Phone Calls、単語テスト1
- 3 Unit 10 Construction & Landscaping、単語テスト2
- 4 Unit 10 Construction & Landscaping、単語テスト3
- 5 Unit 11 Personnel、単語テスト4
- 6 Unit 11 Personnel、単語テスト5
- 7 Unit 12 Business Ventures、単語テスト6
- 8 Unit 12 Business Ventures、単語テスト7
- 9 Unit 13 Media、単語テスト8
- 10 Unit 13 Media、単語テスト9
- 11 Unit 14 Entertainment、単語テスト10
- 12 Unit 14 Entertainment、単語テスト11
- 13 Unit 15 Publishing、単語テスト12
- 14 Unit 15 Publishing、単語テスト13
- 15 復習、期末考査

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Smart Route to the TOEIC (C) L&R Test (Cengage Learning)、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・ダウンロード音声も用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 304			13924	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	専門学校講師、社団法人国際英語発音協会理事			

授業の到達目標

日本語と特に違いの大きい子音と母音の発音に習熟し、正しいリズムと強勢を伴って相手に伝わりやすい発話ができることを目標とする。また正しい発音を身につけることによってリスニング力を向上させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を涵養する。

授業の概要

英語音声に関する実践的訓練を行い、「伝わる」英語発音を目指す。

授業計画

- 1 ガイダンス、Program One 外国語学習法
- 2 Program One 外国語学習法
- 3 Program Two ついてない日
- 4 Program Two ついてない日
- 5 Program Three お気に入りの時間
- 6 Program Three お気に入りの時間
- 7 復習、中間考査
- 8 Program Four ジョーク集・1
- 9 Program Five さまざまなアナウンス
- 10 Program Six 禁煙
- 11 Program Seven 体形と体調の保ち方
- 12 Program Eight ジョーク集・2
- 13 Program Nine クリスマスプレゼント O・ヘンリー短編より
- 14 Program Nine クリスマスプレゼント O・ヘンリー短編より
- 15 総復習、期末考査
- 16

授業の方法

リズムと強勢を意識し、多くの演習と音読練習を行う。また練習と復習の成果をチェックするため毎回個人的に発音チェックを行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点より2点減点する。

テキスト

森沢洋介著「みるみる英語力がアップする音読パッケージトレーニング」（ベレ出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

付属CD教材を用いて確実に復習すること。毎回、発音記号が記載されている英和辞書（紙版、電子版など）を必ず持参すること。

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 400			13925	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN	必修	2				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7 Holidays, 7.1 Travel partners
- 3 7.2 The longest bike ride
- 4 7.3 Can you tell me the way?
- 5 7.4 Hong Long
- 6 Review
- 7 Presentations
- 8 Mid Term
- 9 Unit 8 Now, 8.1 Having a Great Time
- 10 8.2 What a difference!
- 11 8.3 What do you recommend?
- 12 8.4 Changing Trends
- 13 Review
- 14 Presentations
- 15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 20%
- Tests and Quizzes 10%

- Presentations 40%
- Class Participation 20%
- Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Frances Eagles and Steve Oaks, SpeakOut: Elementary, 2nd edition. (Pearson)

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 くコア・イングリッシュく	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 401			13927	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 9 Peace Studies, Reading One
- 3 Chapter 9 Peace Studies, Reading One, Reading Two
- 4 Chapter 9 Peace Studies, Reading Two
- 5 Chapter 9 Peace Studies, Reading Three
- 6 Chapter 9 Peace Studies, Reading Three
- 7 Review
- 8 Mid Term
- 9 Chapter 10 Urban Studies, Reading One
- 10 Chapter 10 Urban Studies, Reading One, Reading Two
- 11 Chapter 10 Urban Studies, Reading Two
- 12 Chapter 10 Urban Studies, Reading Three
- 13 Chapter 10 Urban Studies, Reading Three
- 14 Review
- 15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 40%
- Tests and Quizzes 30%

- Class Participation 20%
- Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Academic Reading Series 2: Reading Skills for College, Kim Sanabria, Pearson

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 402			13929	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7 Classifying classmates
- 3 Unit 7 Classifying classmates
- 4 Unit 8 The job interview
- 5 Unit 8 The job interview
- 6 Unit 9 Personal goals
- 7 Unit 9 Personal goals
- 8 Mid Term
- 9 Unit 10 Architect
- 10 Unit 10 Architect
- 11 Unit 11 My role models
- 12 Unit 11 My role models
- 13 Unit 12 Be a reporter
- 14 Unit 12 Be a reporter
- 15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report	20%
Tests and Quizzes	10%
Class Participation	20%
Homework	50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 2, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 2			13823	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	必修	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Test スコア550点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1 Unit 01 人物の動作表現／品詞・代名詞
- 2 Unit 02 疑問詞で始まる疑問文／態・分詞、単語テスト1
- 3 Unit 03 店・ホテルでの会話／読解の基礎を身につける、単語テスト2
- 4 Unit 04 留守番電話／詳細情報を特定する、単語テスト3
- 5 進捗調整、単語テスト4
- 6 Unit 05 物に関する描写／話の展開を読み取る、単語テスト5
- 7 Unit 06 Yes/No疑問文・選択疑問文／接続詞・前置詞、単語テスト6
- 8 Unit 07 日常生活における会話／内容把握に挑戦する、単語テスト7
- 9 Unit 08 アナウンス・宣伝／語彙問題・その他、単語テスト8
- 10 進捗調整、単語テスト9
- 11 Unit 09 ステートメント・付加疑問文／時制・代名詞・語彙、単語テスト10
- 12 Unit 10 オフィスでの会話①／マルチプルパッセージ(2つの文書)、単語テスト11
- 13 Unit 11 トーク(会議・イベント)／Part 5の復習、単語テスト12
- 14 Unit 12 オフィスでの会話②／つなぎ語・文選択、単語テスト13
- 15 復習、期末考査

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

Mastery Drills for the TOEIC L&R Test All in One Advanced (桐原書店)、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・ダウンロード音声も用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	ホテル実務			

授業の到達目標

ホスピタリティは産業界では魔法の言葉の様に使われている。「ホスピタリティ溢れる企業だ」「我社はホスピタリティを提供している」など様々である。本来のホスピタリティとはどのようなものを歴史的視点、宗教的視点から考察する。日本語では「おもてなし」とも訳されているが、本来のホスピタリティとは何かを説明できることがこの授業の到達目標である。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

授業の概要

授業は、ホスピタリティを歴史的視点から考察するだけでなく、宗教的視点からも考察する。特に、キリスト教の聖書からホスピタリティ精神の理解を深める。さらに、現代社会でのユニバーサルデザインに注目し、ホスピタリティ精神の活用を検証する。観光産業におけるユニバーサルとホスピタリティとの関係を理解する。ホスピタリティ精神に基づくユニバーサル対応の接遇マニュアルの解説も行う。

授業計画

- 1 ガイダンス
(ホスピタリティ精神とはどのような意味か、また何を学修をするのか。)
- 2 世界の宗教
(奉仕の精神で、何だろう)
- 3 聖地巡礼とホスピタリティ精神
(いつか訪れたいな聖地)
- 4 ホスピタリティと都市国家
(ボリスに暮らす人たちはどのように身を守ったのだろうか)
- 5 組織とホスピタリティ
(経営者はどのようにホスピタリティ精神を活用すべきか)
- 6 ホスピタリティとマナー
(マナーとホスピタリティの違い)
- 7 ユニバーサルデザイン
(ユニバーサルデザインはあなたの周りに沢山あります)
- 8 ユニバーサルデザインに基づく接遇
(ユニバーサルデザインはハードだけでなく、ソフトが重要)
- 9 接遇マニュアル宿泊部門
(宿泊接遇のポイントを学ぼう)
- 10 旅行代理店とユニバーサルツーリズム

- (ユニバーサルツーリズムとはどのような旅なの)
- 11 観光都市とユニバーサル
(都市経営に必要なユニバーサルデザイン、少子高齢化の未来へ挑戦)
- 12 医療とホスピタリティ
(医療現場で患者を〇〇様と呼ぶ?)
- 13 ホテル業に観るホスピタリティ
(サービスを超越するホスピタリティとはどのようなこと)
- 14 まとめとホスピタリティ精神についてグループディスカッション
(どれだけホスピタリティ精神を理解したでしょう)
- 15 統括試験とホスピタリティの課題
- 16

授業の方法

PowerPointによる講義と受講者間の意見交換を中心に進めていく。

準備学修

聖書の中からホスピタリティ関連の言葉(文例)を探しておくこと。

課題・評価方法、その他

課題30%
統括試験70%

欠席について

大学規定通り

テキスト

特になし
適宜資料配布

参考図書

聖書

留意事項

必修科目です。ノートをとること。

オフィスアワー

指定日に研究室で実施。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。また、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化についての理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

多様な文化的背景を持つ複数のゲストスピーカーを講師に招き、習慣や行動、その背景にある価値観などを学ぶ。また、グループで様々な国・地域の歴史・社会・文化の特徴について発表し、全体で討議することを通して、国際理解を深める。

授業計画

- 1 受講のガイダンス
- 2 英語圏の文化①(ヨーロッパ/北アメリカ/オセアニア地域を中心に)
- 3 グループ課題の発表と討議
- 4 英語圏の文化②
- 5 英語圏の文化③
- 6 文化とは何か
- 7 異文化の認識
- 8 振り返り
- 9 価値観
- 10 差別を考える①
- 11 差別を考える②
- 12 異文化コミュニケーション
- 13 異文化摩擦/カルチャーショック
- 14 全体のまとめ
- 15 試験

授業の方法

講義を中心とし、グループ発表とディスカッションを取り入れる。また、各項目ごとに指定するWebページに自身の意見や考えを復習として提出し、それらを共有することで学びを深める。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（50%）、定期試験（50%）

欠席について

学則に従い、欠席は減点とする。

テキスト

池田 理知子・塙幸枝 編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション-身近な「異」から考える』（三修社）

参考図書

必要に応じて授業前、または授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学入門			13413	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

長い歴史と伝統を持つイギリスと近代になってから成立したアメリカそれぞれの文学の世界に対する理解を深め、人間の生きる世界の多様性を学ぶとともに異文化理解の複合的視点を養うことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

イギリス文学とアメリカ文学を中心に英語文学の歴史的、文化的、社会的背景を概観し、それぞれの時代と文化が反映された主要な文学作品を鑑賞する。同時に、詩や演劇、小説、随筆など多様な作品を鑑賞することにより、豊かな人間の想像力や内面の世界に触れ、英米文学作品の持つ面白さを味わう。

授業計画

- オリエンテーション
- イギリス：古英語・中英語の文学、ルネサンスの散文と詩
- ルネサンスの演劇、シェイクスピア（創作第一期から第二期）
- シェイクスピア（創作第三期）、王政復古後の文学
- 小説の誕生、ロマン主義時代の詩
- ヴィクトリア朝の小説（大都市が舞台）
- ヴィクトリア朝の小説（大都市、地方都市が舞台）
- ヴィクトリア朝の小説（地方都市が舞台）と詩
- 20世紀以降の詩と小説
- アメリカ：ロマンティズム時代の文学（独立革命前後）
- ロマンティズム時代の文学（アメリカン・ルネッサンス）
- リアリズム時代の文学（辺境消滅から第一次大戦まで）
- リアリズム時代の文学（第一次大戦から第二次大戦まで）
- リアリズム時代の文学（第二次大戦以降）
- 現代アメリカ文学、その他の英語文学

授業の方法

講義を中心に、レポート提出や発表を多く取り入れる。

準備学修

初回講義時に配布するスケジュール表・作品リストに沿って作品を

読み、期日までにレポートを二回提出すること。講義の中でフィードバックを行う。課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。また教科書は指示された範囲を必ず読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、レポート40%、定期試験30%

欠席について

出席点は平常点の10%とし、欠席は1回につき2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

川崎寿彦『イギリス文学史入門』研究社、1986。他にハンドアウトを配布する。

参考図書

大橋吉之輔『アメリカ文学史入門』研究社他、毎回のハンドアウトで紹介する。

留意事項

授業が始まるまでに下記の何れかに目を通しておくこと。河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会、2010年。小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。澤田昭夫著『論文の書き方』講談社学術文庫、1991年。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばと社会			13405	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

社会は多様なものであり、その多様な社会と接触する言語にはいったいどのようなものがあり、その言語社会に暮らす人々は、どのようにしてそれらの言語を使い分けるのか。共通の言語をもたない人同士、異なる地域・社会階級・性・年齢に属する人々は、どのようにコミュニケーションをし、影響し合っているのかを学ぶ。言語を中心に、身の回りの社会から世界まで、大きな視野を持つことを目指す。

授業計画

- 社会言語学とは何か
- 言語の選択(1)：多言語社会、ダイグロッシア
- 言語の選択(2)：ドメイン
- 言語の選択(3)：二言語話者とコードスイッチング
- 言語の選択(4)：ピジンとクレオール
- 言語のバリエーション(1)：ウィリアム・ラボフの古典的研究
- 言語のバリエーション(2)：方言
- 言語のバリエーション(3)：地域方言とはなにか
- 言語のバリエーション(4)：社会方言とはなにか
- 振り返り
- 言語のバリエーション(5)：黒人英語
- 言語のバリエーション(6)：国家と言語
- 言語のバリエーション(7)：ジェンダーと言語
- 言語のバリエーション(8)：年齢と言語
- まとめ

授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

東照二『社会言語学入門（改訂版）―生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とI（知性）とを養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

- 落語 その壹 「寿限無」「芝浜」
- 落語 その貳 英語落語の可能性・「鷺取り」
- 落語 その参 創作落語：グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」
- 落語 その四 女性落語家の活躍 落語「花嫁修業」
- 着物の基礎知識 その壹 浴衣の着付け
- 着物の基礎知識 その貳 帯結び
- 歌舞伎 その壹 現代歌舞伎：シネマ歌舞伎の可能性「阿弓流為」
- 歌舞伎 その貳 海外で最も人気の演目「連獅子」・「勧進帳」
- 歌舞伎 その参 日本作品を海外へ：和事歌舞伎の新演出 故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演
- 歌舞伎 その四 海外作品を日本へ：NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」
- 狂言 「附子」大藏流茂山狂言と和泉流野村狂言
- 能 その壹 能「鉄輪」と野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り
- 能 その貳 能「鉄輪」における、シテ方・ワキ方・狂言方
- 文楽 その壹 「曽根崎心中」
- 文楽 その貳 三谷幸喜による「其成礼心中」

授業の方法

講義が中心となるが、その他に古典芸能を鑑賞する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
コミュニケーションと文化			13419	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前に目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの一端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

授業計画

- イントロダクション
- 文化について
- 言語とは何か
- コミュニケーションの性質と要素
- 言語コミュニケーション
- 非言語コミュニケーション
- 振り返り
- グローバル化とメディア①
- グローバル化とメディア②
- 異文化交流の意味
- 差異とアイデンティティ
- 多文化共生①
- 多文化共生②
- 振り返り
- 試験

授業の方法

講義形式をとる。また、毎回テーマにあわせた質問事項を提示し、それに対する回答を必須とする。それを元に共に考え、意見交換をする。積極的な授業への参加が求められる。

準備学修

事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくること。また事後学習では、テキストや配布資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

池田 理知子・埜幸枝 編著『グローバル社会における異文化コミュニケーションー身近な「異」から考える』（三修社）適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業内で適宜紹介する

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
翻訳・通訳論入門			13301	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
榎本 雄三／和泉 有香	選択	2	榎本：テクニカルライター、実務翻訳者 和泉：劇団通訳、全国通訳案内士（英語）			

授業の到達目標

榎本：翻訳文作成技術と背景知識調査手法を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

和泉：英語と日本語という構造の全く異なった2言語の中に共通点を見出し、特に英語知識の深化を図ることにより、文字と音声において2言語を自由に行き来する能力を身につける。また日本と日本文化への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）の涵養を目指す。

授業の概要

榎本：従来の英文解釈と翻訳との違い、翻訳に必要な発想の転換を学ぶ。 和泉：単なる「英文和訳」・「和文英訳」ではない通訳技術の基本と同時に、人前で話すための技術を身につける。

授業計画

- 1 榎本・和泉：ガイダンス、授業の概要
- 2 適語を見つける
- 3 訳出の順序
- 4 無生物主語
- 5 分詞構文
- 6 順送りの訳
- 7 さまざまな英文解釈
- 8 AI自動翻訳
- 9 大学生活
- 10 趣味（スポーツ、音楽、読書）
- 11 海外文化
- 12 国際交流（1）実践演習1
- 13 国際交流（2）実践演習2
- 14 日本の文化（和食、温泉、回転寿司）
- 15 総復習、期末考査

授業の方法

榎本（前半担当）：事前課題を課し、訳文作成と翻訳内容の検討を行う。 和泉（後半担当）：大量の演習と暗唱が中心となる。なお授業計画については柔軟に対応する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

榎本：定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。 和泉：平常点50%、定期試験50%

欠席について

榎本：欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。 和泉：欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

榎本：特定のテキストを使用せず、英字新聞、英文雑誌などの記事を教材にする。 和泉：オリジナルプリント

参考図書

榎本：「赤毛のアン」をめぐる言葉の旅 上白石萌音・河野万里子 著（NHK出版） 和泉：授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

榎本：授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。 和泉：英和辞書（紙版、電子版いずれでも可）を必ず持参すること。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論			13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

本講義は英語の成り立ちや英語の仕組みを幅広く理解することを目的とし、英語を科学的にひもといていく。KAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養うと同時に、より理解を深めるためのグループワークを通してK（思いやり）を学ぶ。

授業の概要

英語学の分野で取り扱われている研究領域全体を次の授業計画に従って概観する。英語が人と歩んできた歴史とその今、語や文の構造や仕組み、英語が伝える意味について講義をする。基本的に講義形式をとるが、より深い理解のため、様々な理論を踏まえながらグループワークやディスカッションを通して考える。

授業計画

- 1 オリエンテーション 授業の進め方や履修条件、言語学研究の概説を行います。
- 2 英語史（1） 英語の成り立ちから現在までの歴史を概観、古期英語
- 3 英語史（2） 中期英語・近代英語
- 4 世界の中の英語 世界で使用される英語、現在の国際共通語として使用されている英語
- 5 音韻論（1） 発音する際の身体の器官、英語の音の構造
- 6 音韻論（2） 英語の音の構造
- 7 形態論（1） 分野の概観
- 8 形態論（2） 語の内部構造、語形成のパターン
- 9 統語論（1） 分野の概観
- 10 統語論（2） 文構造とそのパターン
- 11 意味論（1） 分野の概観
- 12 意味論（2） 語の意味と文の意味の関連
- 13 語用論（1） 分野の概観
- 14 語用論（2） 言葉の意味と話し手の意図
- 15 振り返り

授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

稲木昭子・堀田知子・沖田知子『新・えいご・エイゴ・英語学』（松柏社）
その他適宜プリントを配布

参考図書

影山太郎、日比谷潤子、プレント デ・シェン 著『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』（くろしお出版）

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET		13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）（箕野）私立中学高等学校教員（科目「英語」）（宮副）			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけることも観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（箕野）
すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。（宮副）

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。（箕野）
英米の児童文学の文化と歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外ではフランスの1作品を鑑賞する。（宮副）

授業計画

- 1 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
- 2 「金太郎」・「酒吞童子伝説」
- 3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 4 有島武郎「一房の葡萄」
- 5 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 6 岡田淳「竜退治の騎士になる方法」
- 7 日本の現代児童文学について
- 8 英米の児童文学の歴史
- 9 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- 10 ナーサリーライム（マザーグース）
- 11 L.M.オルコット『若草物語』
- 12 R.L.スティーブンソン『宝島』
- 13 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 14 ペートルクス・ボター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。（箕野）
講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。（宮副）

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験（レポート）30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。（箕野）
平常点30% レポート（2回）60% 提出物等 10%、で評価する。（宮副）
レポートは2回であるが、ミニレポートの提出も2～3回求める。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。（箕野）
『英米児童文化 55のキーワード』白井澄子、笹田裕子編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。（宮副）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（海外）			13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、In（国際性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

興味のある学生は登録のうえ、選択するプログラムをメールで連絡すること。
下記プログラムはコロナ後開催が確約されていないものもある。
留学関係の情報を掲示板及び、4月と10月に開催される留学説明会にて確認すること。
【アシスタント・ティーチャープログラム】
英語圏の幼稚園や公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。
開催国及び開催時期の情報は随時更新される。
・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上
・期間：春季休暇中または夏季休暇中10日以上
【イベントコース：まつりインハワイ】
「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。
・対象学科・学年：ET学科2年次生以上
・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修
・現在新型コロナウイルスの影響により開催未定。

授業計画

- 1 事前学習
- 2 事前学習
- 3 現地実習
- 4 現地実習
- 5 現地実習
- 6 現地実習
- 7 現地実習
- 8 現地実習
- 9 現地実習

- 10 現地実習
- 11 現地実習
- 12 現地実習
- 13 現地実習
- 14 現地実習
- 15 ポートフォリオの提出（日報、レポートなど）及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法、その他

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。
各々のインターンシップは原則以下のプログラムによって構成される。
①2～3回の事前学習（英語研修や実習準備など）
②現地実習
③ポートフォリオの提出（日報、レポートなど）と発表

欠席について

事前学習は必ず出席しなければならない。
欠席となった場合は必ず補講に出席すること。

テキスト

適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山でなく社会の課題を観光の視点から考察する。観光全般の基礎知識の習得が目標である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光立国を目指す理由を考察する。観光概論は歴史、経済、政策、心理、主な観光産業等幅広い内容で講義される。

授業計画

- 1 ガイダンス
観光の現状を理解する。
- 2 観光学と観光の歴史
(観光の語源と定義・日本観光史他)
- 3 世界の観光史
- 4 観光と地域文化
(観光と環境)
- 5 新時代の観光文化
(観光資源とコンテンツツーリズム)
- 6 観光と多文化理解
- 7 観光心理
- 8 観光とマーケティング
- 9 観光の諸政策
(観光政策と仕組み)
- 10 主要な観光事業・鉄道事業
- 11 主要な観光事業・航空運送業
- 12 主要な観光事業・宿泊業
- 13 主要な観光事業・旅行業
- 14 主要な観光事業・遊園地とテーマパーク
- 15 観光学まとめ
総括試験

授業の方法

パワーポイントによる講義とグループディスカッション

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

課題30％ 統括試験70％

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

適宜資料配布

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社
高柳直弥他『新時代の観光を学ぶ』八千代出版 2019

留意事項

観光領域の基礎科目である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル経営			

授業の到達目標

GDP（国内総生産）の中で観光分野は大きなシェアを占めている。それは雇用の面でも同様である。観光は経済的な側面だけでなく国際交流の一面を持つ。世界の人々が国境を越えて互いに交流することは相互理解の促進に寄与する。この交流こそが平和への道筋である。お互いを理解し、認め合うことが、観光を通じて達成されるものと確信する。この授業の到達目標は、国際交流が観光を通してどの様に形成されたのか、今後どのようにすれば国際間、民族間の相互理解が可能かを理解する能力を身に付けることにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

国際観光交流論の中心テーマは、アウトバンドとインバウンドである。明治以降の日本のインバウンドの歴史や観光政策から戦後の訪日外国人観光客の実態までを理解する。特に、新たな産業政策のひとつに組み込まれたインバウンド政策を具体的に検証していく。また、観光先進国のフランス、ハワイの観光を理解することで今後の日本の観光戦略を考える。

授業計画

- 1 ガイダンス
国際観光交流論で何を学修するのかを理解する
- 2 日本における国際観光政策
- 3 国際観光政策と訪日外国人観光客
- 4 ビジット・ジャパン・キャンペーンと実態
- 5 コンベンションと国際観光
- 6 海外マーケットから見る国際観光
- 7 国際観光と旅行業
- 8 観光産業(宿泊・運輸・観光地)と国際観光
- 9 インバウンド政策と法律
- 10 外客誘致機関と戦略
- 11 フランスの観光と歴史(コートダジュールの事例から)
- 12 ハワイの観光の歴史と現状
- 13 シンガポールとIR
- 14 まとめ(国際観光の意義や今後の課題)
- 15 総括試験と解説

授業の方法

PowerPointによる講義を中心に行う。適宜、グループディスカッションを行う予定。

準備学修

図書館で講読されている国際観光、ホテルレストラン、観光経済新聞等を閲覧しておくこと。

課題・評価方法、その他

課題30%

総括試験70%

欠席について

大学規定通り

テキスト

資料は適宜配布

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社
その他、講義で紹介

留意事項

講義から得た知識から幅広く学修を重ねることに期待する。

オフィスアワー

オフィスアワー指定日は研究室で実施します。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光地理論			13840	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

旅行地理の基礎と国内外の観光・歴史・宗教・文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本及び海外の観光地における地理とその地域における観光資源、文化歴史などについて深く学ぶ。各地域の観光地としての価値や地域伝統の継承などについて資料を基に解説を行う。

授業計画

- オリエンテーション
- 北海道
- 東北地方
- 関東地方
- 中部地方
- 関西地方
- 中四国地方
- 九州・沖縄地方
- アジア
- ヨーロッパ①
- ヨーロッパ②
- 南北アメリカ
- オセアニア
- 中東・アフリカ
- まとめと試験

授業の方法

テキスト及び配布資料を基にアクティブラーニングを行い、講義を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、課題20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り

テキスト

国内旅行地理 **ブラクティカル**（JTB能力開発）
海外旅行地理 **ブラクティカル**（JTB能力開発）

参考図書

講義内で案内します

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国連は2017年「開発のための持続可能な観光の国際年」と定めた。「持続可能な観光」について学び、グローバル社会における観光と環境に関わる課題について考える。また世界的な認証である「サステイナブルツーリズム国際認証」について学び、自然環境と観光を融合した「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」などについての理解を深めることを目的とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

国連の「持続可能な開発目標（SDG's）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標（持続可能な開発のための2030アジェンダ）であり、この目標は観光においても例外ではない。2017年国連が「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定するなど、現在「サステイナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっている。世界の観光旅行人口は約13億人を超え、多くの人々が世界各地の観光地を訪れている。その中でいかに自然環境を守りつつ、観光を持続的に発展させていくのかを学ぶ。講義では主に「サステイナブルツーリズム」、「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」について学び、自然環境と共存し持続可能なツーリズムの仕組みについて事例を通して理解を深める。

授業計画

- オリエンテーション
- SDG'sと「持続可能な開発のための2030アジェンダ」について
- サステイナブルツーリズムと国際認証について
- サステイナブルツーリズムの事例と課題
- エコツーリズムについて（エコツーリズム推進法）
- エコツーリズムの事例と課題①（国内）
- エコツーリズムの事例と課題②（海外）
- グリーンツーリズムについて
- グリーンツーリズムの事例と課題①（国内）
- グリーンツーリズムの事例と課題②（海外）
- 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
- ジオパークとジオツーリズム
- 観光におけるシェアリングエコノミーについて
- オーバーツーリズムについて

15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『サステナブルツーリズム』 藤稿亜矢子著 晃洋書房
『SDG'sの実践』自治体・地域活性化編 村上周三他著 宣伝会議
『外国人が熱狂するクールな田舎の作り方』 山田拓 新潮新書
『楽しもう！エコツーリズム』 風見信昭著 秀明出版会
『MaaS モビリティ改革の先にある全産業のゲームチェンジ』 日高洋祐編著 日経BP社

留意事項

アクティブラーニングを中心とするので積極的な講義への取り組みを求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目 く観光	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行業			

授業の到達目標

観光は、観光行政（官）と観光産業（民）で構成される。これらを合わせて観光事業である。観光を推進し、地域を活性化させる政策とはどのようなものかを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解し、課題を見つけることが目標である。また、産業としての観光事業を各業界別に理解し、未来を展望する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。この講義は観光概論を発展させ、より深く探求する。このクラスは、KAISEI パートナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策に重点を置き、観光産業との2分野を中心に学修する。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業等の役割と戦略を理解し、グローバル社会での観光の問題を全体のテーマとする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光事業の変遷
- 3 観光事業の現状と課題
- 4 観光政策①(観光立国)
- 5 観光政策②(観光基本法)
- 6 観光政策③(DMO)
- 7 海外の観光政策①(欧米)
- 8 海外の観光政策②(アジア)
- 9 旅行事業
- 10 宿泊事業
- 11 航空事業
- 12 IR事業
- 13 テーマパーク事業
- 14 地域の観光事業
- 15 まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグルー

プに分け課題に対し意見交換し、発表を行う。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点20%、課題30%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

「入門 観光学」竹内正人編著 ミネルヴァ書房
「現代の観光事業」北川 宗忠著 ミネルバ書房
「1からの観光事業論」高橋一夫著 碩学舎

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目 く観光	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について学ぶ。また観光地として人気の高い国内及び海外の世界遺産を取り上げて、世界遺産の歴史や観光地としての価値について理解することを目標とする。このクラスではKAISEI パートナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制度について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題や観光地としての価値と課題についてグループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 世界遺産条約と登録制度
- 3 文化的景観について
- 4 日本の文化遺産①
- 5 日本の文化遺産②
- 6 日本の文化遺産③
- 7 海外の文化遺産①
- 8 海外の文化遺産②
- 9 海外の文化遺産③
- 10 自然遺産の分類と特徴
- 11 自然遺産①(国内)
- 12 自然遺産②(海外)
- 13 危機遺産・負の遺産
- 14 トランスバウンダリー・サイトとシリアル・ノミネーションについて
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著 マイナビ出版

参考図書

『世界文化遺産の思想』西村幸夫著 東京大学出版会
『世界遺産ビジネス』木曽功著 小学館新書

留意事項

世界遺産検定2級・3級の取得を推奨する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,200万人を超えた訪日外国人観光旅行（インバウンド）ビジネスや2025年に開催される大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空（交通）についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス（訪日外国人旅行）について、地域との連携や課題について学ぶ。また、オリンピック、マラソンなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 観光ビジネスの変遷について(マスツーリズムからの脱却)
- 3 旅行業ビジネス①
- 4 旅行業ビジネス②
- 5 旅行業法・約款、景品表示法等
- 6 宿泊業ビジネス
- 7 航空業ビジネス
- 8 交通事業ビジネス
- 9 MICEビジネス①
- 10 MICEビジネス②
- 11 スポーツツーリズム
- 12 インバウンドビジネス①
- 13 インバウンドビジネス②
- 14 地域創生と観光ビジネス
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著
東洋経済新報社
『CSV観光ビジネス』 藤野公孝編著 学芸出版社
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著 大修館書店

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊事業実務			

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。企業が生まれ、成長し、発展していくが、その企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献できる企業とは。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの（A）自律と（In）国際性を養う。

授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。各業界における市場環境はどのようになっているのか。企業が生き残るためのリスクとは何か。研究対象の企業は、成長分野であるのか、衰退するのか、差別化はできているのかなどをポイントに分析をする。講義の主な業種はホスピタリティ産業から金融、製造業など様々な企業を対象とする。有価証券報告書を参考に同業種や他産業の比較の中で、企業の姿を理解していく。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 株式会社と株式市場
- 3 企業と市場環境
- 4 企業研究(製造業・金融業)
- 5 企業研究(製造業・金融業)
- 6 企業研究(製造業・金融業)
- 7 企業研究の発表
- 8 企業研究の発表
- 9 前半のまとめ
企業研究の要点
- 10 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 11 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 12 企業研究(ホスピタリティ産業)
- 13 企業研究の発表
- 14 企業研究の発表
- 15 後半のまとめ
企業研究と発表
- 16

授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はPowerPointでおこなう。

準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。
授業で注目した企業を紹介する。

課題・評価方法、その他

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。
評価基準は課題レポート（70%）と発表（30%）

欠席について

規定通り

テキスト

日経業界地図（日経出版社）

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
 2. 旅行会社での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
 3. グループワーク課題を実践する。
 4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。（総合旅程管理主任者資格の取得）
- このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う

授業の概要

春休みの1週間を利用して海外の観光地を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。またそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地では旅行会社の協力を得ながらホテル視察、観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを実地体験する。また旅程管理研修（3日間）を受講する必要がある、終了テストに合格する必要がある。

授業計画

- 1 オリエンテーション・事前準備の確認
- 2 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
- 3 旅程管理研修①
- 4 旅程管理研修②
- 5 旅程管理研修③
- 6 実地研修1日目：関空出発～目的地
- 7 実地研修2日目：ホテル研修・現地旅行会社訪問他
- 8 実地研修3日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
- 9 実地研修4日目：研修地の移動
- 10 実地研修5日目：ホテル研修・現地旅行会社訪問他
- 11 実地研修6日目：日系企業訪問
- 12 実地研修7日目：帰路の空港見学・帰国
- 13 現地でのグループワークの事後発表の準備

- 14 現地でのグループワークの事後発表
- 15 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また旅程管理研修の講義を受け、試験に合格する必要がある、研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの実地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法、その他

事前研修、海外研修の総合評価。

欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り欠席はできない。

テキスト

総合旅程管理主任者テキスト（受講者に事前説明有り）

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座（ツアーコンダクター）と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更又は中止になる事がある。また研修実施には最少催行人員（10名）の規定が適用される。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ツーリズム実務特論			13450	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	1	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光業界は大きな転換期を迎えており、新しいビジネスモデルが日々創出されている。現在、観光業はコロナウイルスの影響を受け、新たな事業収益を創造している。また2025年には大阪万博やIR事業の開設などを控えて、観光産業は大きなビジネスチャンスが到来している。各分野の第一線で活躍しているビジネスパーソン講師から事業現場の話聞き、課題を発見し、解決策を見出すことを目標とする。このクラスはKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

本講義は、観光分野のプロフェッショナルの外部講師による講演を中心に行う。各分野で活躍する講師には旅行、ホテル、航空会社、観光局（DMO）などから招き、現場の最前線での仕事内容や課題などについて学ぶ。各講義前には登壇する講師の業界について調査し、講義後「気づきや学び」をレポートとして提出する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 講義①
- 3 講義②
- 4 講義③
- 5 講義④
- 6 講義⑤
- 7 講義⑥
- 8 まとめと試験

授業の方法

外部講師による講義を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求める。

評価は平常点50％・課題レポート50％

欠席について

学則の通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

外部講師による講義の為、講義中の態度・服装には留意すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目 く観光く	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English I			13605	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	選択	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will have:

- acquired the functional language to discuss a range of business-related topics
- developed key business skills such as networking, dealing with conflict, and making sales
- enhanced the communication skills necessary to deal with a range of professional situations such as building rapport, responding to customers' concerns, and managing a conversation.
- been exposed to a range of realistic business case studies

授業の概要

This high-level English course aims to develop students' professional language abilities and their key employability skills. Students will be exposed to authentic business stories, broadening their understanding of issues faced by businesses and employees. Students will also be expected to work through a number of realistic case studies, providing practical training in handling issues in the workplace.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1: Career Choices - Discussion
- 3 Unit 1: Career Choices - Skills Development
- 4 Unit 1: Career Choices - Workshop
- 5 Unit 2: Business Sectors - Discussion
- 6 Unit 2: Business Sectors - Skills Development
- 7 Unit 2: Business Sectors - Workshop
- 8 Midterm Test
- 9 Unit 3: Projects - Discussion
- 10 Unit 3: Projects - Skills Development
- 11 Unit 3: Projects - Workshop
- 12 Unit 4: Global Markets - Discussion
- 13 Unit 4: Global Markets - Skills Development
- 14 Unit 4: Global Markets - Workshop
- 15 Final Test

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review.

課題・評価方法、その他

Participation	30%
Midterm Test	20%
Final Test	20%
Case studies	20%
Homework	10%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class, then the student should submit a "Notification of Exceptional Absence" to the instructor. Unexcused absences will result in a lower grade or failure of the class.

テキスト

Business Partner B1. Margaret O'Keeffe, Lewis Lansford, Ros Wright, Evan Frendo, Lizzie Wright.

留意事項

Students are expected to actively participate and be engaged during class.

基幹科目 く観光く	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English II			13609	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	選択	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will have:

- acquired the functional language to discuss a range of business-related topics
- developed key business skills such as networking, dealing with conflict, and making sales
- enhanced the communication skills necessary to deal with a range of professional situations such as building rapport, responding to customers' concerns, and managing a conversation.
- been exposed to a range of realistic business case studies

授業の概要

This high-level English course aims to develop students' professional language abilities and their key employability skills. Students will be exposed to authentic business stories, broadening their understanding of issues faced by businesses and employees. Students will also be expected to work through a number of realistic case studies, providing practical training in handling issues in the workplace.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 5: Design and Innovation - Discussion
- 3 Unit 5: Design and Innovation - Skills Development
- 4 Unit 5: Design and Innovation - Workshop
- 5 Unit 6: Safet and Security - Discussion
- 6 Unit 6: Safet and Security - Skills Development
- 7 Unit 6: Safet and Security - Workshop
- 8 Midterm Test
- 9 Unit 7: Customer Service - Discussion
- 10 Unit 7: Customer Service - Skills Development
- 11 Unit 7: Customer Service - Workshop
- 12 Unit 8: Communication - Discussion
- 13 Unit 8: Communication - Skills Development
- 14 Unit 8: Communication - Workshop
- 15 Final Test

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review.

課題・評価方法、その他

Participation	30%
Midterm Test	20%
Final Test	20%
Case studies	20%
Homework	10%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class, then the student should submit a "Notification of Exceptional Absence" to the instructor. Unexcused absences will result in a lower grade or failure of the class.

テキスト

Business Partner B1. Margaret O'Keeffe, Lewis Lansford, Ros Wright, Evan Frendo, Lizzie Wright.

留意事項

Students are expected to actively participate and be engaged during class.

展開科目 く英語・言語・文化く	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 500			13939	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN	選択	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to :

- participate in group discussions and interviews
- identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
- make inferences and give advice
- ask for and give reasons and supporting opinions
- identify facts and opinions
- demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
- prepare and deliver two 3・5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include leisure activities, jobs, daily routines, and special days.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Leisure and Sport
- 3 Unit 1 Leisure and Sport
- 4 Unit 2 Firsts and Lasts
- 5 Unit 2 Firsts and Lasts
- 6 Review
- 7 Presentations
- 8 Mid Term
- 9 Unit 3 Work and Rest
- 10 Unit 3 Work and Rest
- 11 Unit 4 Special Days
- 12 Unit 4 Special Days
- 13 Review
- 14 Presentations
- 15 Presentations

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam	20%
Tests and Quizzes	10%
Presentations	40%
Class Participation	20%
Homework	10%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Pre-Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation in class is essential

展開科目 く英語・言語・文化く	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 501			13941	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	選択	2				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
- 3 Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
- 4 Chapter 2 Young Women Changing the World
- 5 Chapter 2 Young Women Changing the World
- 6 Chapter 3 Student Learning Teams
- 7 Chapter 3 Student Learning Teams
- 8 Mid Term
- 9 Chapter 4 Learning to Speak
- 10 Chapter 4 Learning to Speak
- 11 Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
- 12 Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
- 13 Chapter 6 Culture Shock
- 14 Chapter 6 Culture Shock
- 15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam	40%
Tests and Quizzes	30%
Class Participation	20%
Homework	10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Select Readings Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms A Tale of Two Cities by Charles Dickens retold by Ralph Mowat

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

展開科目 く英語・言語・文化く	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 502			13943	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 4 Descriptive Paragraph
- 3 Unit 4 Descriptive Paragraph
- 4 Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph
- 5 Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph
- 6 Unit 6 Process Paragraph
- 7 Unit 6 Process Paragraph
- 8 Mid Term
- 9 Unit 7 Narrative Paragraph
- 10 Unit 7 Narrative Paragraph
- 11 Unit 8 Summary Paragraph
- 12 Unit 8 Summary Paragraph
- 13 Unit 9 Analysis Paragraph
- 14 Unit 9 Analysis Paragraph
- 15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Report 20%
- Tests and Quizzes 10%
- Class Participation 20%
- Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cengage Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay, Matthew Taylor & David Kluge

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

展開科目 く英語・言語・文化く	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 600			13947	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE	選択	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to :

- participate in group discussions and interviews
- lead a group discussion
- agree and disagree with opinions
- ask for and give clarification
- use a variety of intonation and word stress for key words
- demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
- prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include city life, equipment, accidents and injuries, and survival items.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 8 Places to Live
- 3 Unit 8 Places to Live
- 4 Unit 9 Old and New
- 5 Unit 9 Old and New
- 6 Review
- 7 Presentations
- 8 Mid Term
- 9 Unit 10 Take Care
- 10 Unit 10 Take Care
- 11 Unit 11 The Best Things
- 12 Unit 11 The Best Things
- 13 Review
- 14 Presentations
- 15 Presentations

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 20%
- Tests and Quizzes 10%
- Presentations 40%
- Class Participation 20%
- Homework 10%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Pre-Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation in class is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 601			13949	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	2				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 8 A Young Blind Whiz
- 3 Chapter 8 A Young Blind Whiz
- 4 Chapter 9 How to Make a Speech
- 5 Chapter 9 How to Make a Speech
- 6 Chapter 10 Conversational Ball Games
- 7 Chapter 10 Conversational Ball Games
- 8 Mid Term
- 9 Chapter 11 Letters of Application
- 10 Chapter 11 Letters of Application
- 11 Chapter 12 Out to Lunch
- 12 Chapter 12 Out to Lunch
- 13 Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
- 14 Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
- 15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam	40%
Tests and Quizzes	30%
Class Participation	20%
Homework	10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford, Select Readings Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Patricia MachLachlan (1985). *Sarah, Plain and Tall* (西出公之編註) (1995). 『のっぽのサラ』成美堂.

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 602			13951	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 10 Cause and Effect Paragraph
- 3 Unit 10 Cause and Effect Paragraph
- 4 Unit 11 Persuasive Paragraph
- 5 Unit 11 Persuasive Paragraph
- 6 Unit 12 Problem-Solution Paragraph
- 7 Unit 12 Problem-Solution Paragraph
- 8 Mid Term
- 9 Unit 13 About the Essay
- 10 Unit 13 About the Essay
- 11 Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
- 12 Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
- 13 Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
- 14 Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
- 15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report	20%
Tests and Quizzes	10%
Class Participation	20%
Homework	50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cengage Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay, Matthew Taylor & David Kluge

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 700			13955	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	選択	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to:

- listen to and comprehend short lectures and presentations
- give short presentations on a topic
- participate in small group discussions
- express their opinion on a topic

授業の概要

The purpose of this class is to improve students' English communication abilities, focusing on developing their speaking and listening skills. Throughout the course, students will be exposed to presentations on a variety of topics, gathering information about the world and other cultures. Emphasis is placed on improving students' critical thinking skills, allowing them to better express their opinions and participate more in discussions.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 1: Making a difference
- 3 Unit 1: Making a difference
- 4 Unit 2: Trends
- 5 Unit 2: Trends
- 6 Unit 3: Improving Lives
- 7 Unit 3: Improving Lives
- 8 Presentation 1
- 9 Unit 4: Designing the Web
- 10 Unit 4: Designing the Web
- 11 Unit 5: Community Builders
- 12 Unit 5: Community Builders
- 13 Unit 6: Clear Communication
- 14 Unit 6: Clear Communication
- 15 Final Presentation

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review.

課題・評価方法、その他

Participation 20%
Presentation 1 30%
Presentation 2 30%
Homework 20%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class, then the student should submit a "Notification of Exceptional Absence" to the instructor. Unexcused absences will result in a lower grade or failure of the class.

テキスト

Keynote 3. Lewis Lansford

留意事項

Students are expected to actively participate and be engaged during class.

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Academic Purposes 701			13957	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	選択	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to:

- listen to and comprehend short lectures and presentations
- give short presentations on a topic
- participate in small group discussions
- express their opinion on a topic using academic English

授業の概要

The purpose of this class is to empower students to be able to succeed in academic situations. The course will teach students important skills such as listening for main ideas, listening for details, note-taking, and presentation skills. It will also teach students how to think critically about a topic and how to use more formal English to express their ideas, both verbally and in writing.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 1: Marriage, Family, and the Home.
- 3 Chapter 1: Marriage, Family, and the Home.
- 4 Chapter 2: The Power of the Group
- 5 Chapter 2: The Power of the Group
- 6 Presentation Preparation
- 7 Presentation 1
- 8 Chapter 3: Gender Roles
- 9 Chapter 3: Gender Roles
- 10 Chapter 4: Gender Issues Today
- 11 Chapter 4: Gender Issues Today
- 12 Presentation Preparation
- 13 Presentation 2
- 14 Introduction to Debate
- 15 Debate

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review.

課題・評価方法、その他

Participation 20%
Presentations 60%
Debate 20%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class, then the student should submit a "Notification of Exceptional Absence" to the instructor. Unexcused absences will result in a lower grade or failure of the class.

テキスト

Academic Encounters Level 3 Speaking and Listening (2nd Edition) . Kim Sanabria

留意事項

Students are expected to actively participate and be engaged during class.

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 800	.		13961	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	選択	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to:

- listen to and comprehend short lectures and presentations
- give short presentations on a topic
- participate in small group discussions
- express their opinion on a topic

授業の概要

The purpose of this class is to improve students' English communication abilities, focusing on developing their speaking and listening skills. Throughout the course, students will be exposed to presentations on a variety of topics, gathering information about the world and other cultures. Emphasis is placed on improving students' critical thinking skills, allowing them to better express their opinions and participate more in discussions.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Unit 7: Identity
- 3 Unit 7: Identity
- 4 Unit 8: Transportation Solutions
- 5 Unit 8: Transportation Solutions
- 6 Unit 9: New Words
- 7 Unit 9: New Words
- 8 Presentation 1
- 9 Unit 10: Understanding Emotions
- 10 Unit 10: Understanding Emotions
- 11 Unit 11: Leaders and Thinkers
- 12 Unit 11: Leaders and Thinkers
- 13 Unit 12: Well-being
- 14 Unit 12: Well-being
- 15 Final Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review.

課題・評価方法、その他

Participation	20%
Presentation 1	30%
Presentation 2	30%
Homework	20%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class, then the student should submit a "Notification of Exceptional Absence" to the instructor. Unexcused absences will result in a lower grade or failure of the class.

テキスト

Keynote 3. Lewis Lansford

留意事項

Students are expected to actively participate and be engaged during class.

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Academic Purposes 801			13963	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
David John SANDEMAN	選択	2				

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to:

- listen to and comprehend short lectures and presentations
- quickly read and comprehend complicated texts
- give short presentations on a topic
- participate in small group discussions
- express their opinion on a topic using academic English
- write an academic paper in English

授業の概要

The purpose of this class is to empower students to be able to succeed in academic situations. The course will teach students important skills such as listening for main ideas, listening for details, note-taking, and presentation skills. It will also teach students how to think critically about a topic and how to use more formal English to express their ideas, both verbally and in writing.

授業計画

- 1 Introduction
- 2 Chapter 5: Mass Media Today
- 3 Chapter 5: Mass Media Today
- 4 Chapter 6: Impact of Media in Our Lives
- 5 Chapter 6: Impact of Media in Our Lives
- 6 Presentation Preparation
- 7 Presentation 1
- 8 Chapter 7: Crime and Criminals
- 9 Chapter 7: Crime and Criminals
- 10 Chapter 8: Controlling Crime
- 11 Chapter 8: Controlling Crime
- 12 Introduction to Academic Writing
- 13 How to write a cause-effect essay
- 14 Proof-reading and Peer Review
- 15 Essay submission and course feedback

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review.

課題・評価方法、その他

Participation	20%
Presentation	40%
Final Essay	40%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class, then the student should submit a "Notification of Exceptional Absence" to the instructor. Unexcused absences will result in a lower grade or failure of the class.

テキスト

Academic Encounters Level 3 Speaking and Listening (2nd Edition) . Kim Sanabria

留意事項

Students are expected to actively participate and be engaged during class.

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 3			13964	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Test スコア600点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。類出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1 ガイダンス、【TEST1 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策
- 2 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト1
- 3 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト2
- 4 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト3
- 5 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト4
- 6 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト5
- 7 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト6
- 8 【TEST2 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト7
- 9 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト8
- 10 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト9
- 11 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト10
- 12 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト11
- 13 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト12
- 14 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト13
- 15 Part 7（複数文書）対策、期末試験
- 16

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

公式TOEIC (R) Listening & Reading問題集9（IIBC）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 4			13966	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

授業の到達目標

TOEIC (R) Listening & Reading Test スコア650点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。類出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

- 1 ガイダンス、【TEST1 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策
- 2 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト1
- 3 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト2
- 4 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト3
- 5 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト4
- 6 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト5
- 7 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト6
- 8 【TEST2 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト7
- 9 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト8
- 10 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト9
- 11 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト10
- 12 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト11
- 13 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト12
- 14 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト13
- 15 Part 7（複数文書）対策、期末試験
- 16

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

公式TOEIC (R) Listening & Reading問題集10（IIBC）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
榎本 雄三	選択	2	テクニカルライター、実務翻訳者			

授業の到達目標

文芸翻訳とは異なる実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

授業の概要

和文英訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの実際の文書を使って演習を行う。毎回授業内容に基づいた宿題を課し、翌週の授業でその説明を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

- 1 授業の概要/実務翻訳の特徴
- 2 和文英訳の基本技術/ライティングの3C
- 3 可算名詞、不可算名詞/定冠詞、不定冠詞
- 4 強い動詞/自動詞と他動詞
- 5 無生物主語/冗長な英文
- 6 分詞構文
- 7 英文説明書の表現
- 8 英文手順書の表現
- 9 プレゼンテーションの英文
- 10 英文表記規則
- 11 簡潔な表現
- 12 英文リライト
- 13 和文英訳演習
- 14 和文英訳演習
- 15 翻訳支援ツール/AI自動翻訳

授業の方法

訳文作成と翻訳内容の検討を中心とする。翻訳に必要な背景知識の説明も行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題の提出を求め、授業中にフィードバックを行う。定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞、英文雑誌、インターネットニュースなどの記事や各種パンフレットなどを教材にする。

参考図書

それわ英語じゃないだらふ、大西泰斗、幻冬舎
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社

留意事項

ほぼ毎回課題を宿題として出すので、自分の訳文を作成して授業に参加すること。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	2				

授業の到達目標

様々な国々とジャンルの英語圏学を楽しく読みながら、文学読解に注目すべき要素やさまざまな表現法を学ぶ。同時に、それらの作品に表現されている海外の文化を理解する。このクラスでは、KAISEI パーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を考える。

授業の概要

授業では、Edgar Allan Poe、Charles Dickens、Graham Greene、Ernest Hemingway、Katherine Mansfieldなど著名な作家の短編について解説されたテキストで学ぶとともに、その原書についてもできる限り読みすすめることとする。原書を正確に読解し、それぞれの作品にこめられたテーマを理解することにより深く感動する経験をしてもらいたい。

原書読解する作品については、担当者を決めて発表後、グループディスカッションを実施する。また各作品についてレポートの提出が必須となる。

またDVDなどの視聴覚教材によって「読み、聴き、書く」という英語の3分野のスキルを養成する。

授業計画

- 1 Introduction
- 2 1. Edgar Allan Poe/“The Tell-Tale Heart”について
- 3 1.“The Tell-Tale Heart”テキスト内容の理解、発表とディスカッション、
- 4 20. Graham Greene/“The Invisible Japanese Gentlemen”について
- 5 20.“The Invisible Japanese Gentlemen”テキスト内容の理解、発表とディスカッション
- 6 9. Earnest Hemingway/“Hills Like White Elephants”について
- 7 9.“Hills Like White Elephants” テキスト内容の理解、発表とディスカッション、
- 8 13. Irwin Shaw/“The Girls in Their Summer Dresses”について
- 9 13.“The Girls in Their Summer Dresses” テキスト内容の理解、発表とディスカッション
- 10 23.“Raymond Carver/“Are These Actual Miles?”について
- 11 23.“Are These Actual Miles?” テキスト内容の理解、発表とディスカッション
- 12 2. Charles Dickens/“Christmas Carol”
テキスト理解とDVD鑑賞

- 13 7. Katherine Mansfield/“The Garden Party”
- 14 7.“The Garden Party”テキスト内容の理解、発表とディスカッション
- 15 総復習 授業内で読んだ作品についてディスカッションを行う。

授業の方法

講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。授業内では原書を中心に授業を実施するが、読解が難しい場合は、図書館等で翻訳書を借りて読んでもよい。

準備学修

Webを参照する。

課題・評価方法、その他

授業内での積極的な発表や意見交換を高く評価する。
また、授業内で読解した各作品についてレポートを作成する。
平常点30% レポート60% 提出物等10%、で評価する。

欠席について

出席重視。授業参加がなければ、レポートをこなすことは困難である。
規定に従う。

テキスト

『TOP 30—Essential Short Stories in English: 1843 to 2000』Jim Knudsen著 南雲堂
および、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

授業で取り上げる原書の作品、および授業進度は、学生の要望や読解力等により変更することがある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

- 1 <人魚>をテーマに、アンデルセン(ヨーロッパ)・ディズニー(アメリカ)・小川未明(日本)の表現の違いを考察する
- 2 <民話>をテーマに、南洋諸島と戦前の日本委任統治の歴史的背景を考察する
- 3 <怪談>をテーマに、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が描いた日本を考察する
- 4 <絵本>、<人形>をテーマに、物語に託されたそれぞれの国の文化的背景を考察する
- 5 <移民>をテーマに、日本からのブラジル移民に注目し、当時の政府の政策と神戸港の対応を考察する
- 6 (MANGA)をテーマに、日本の漫画の発展と世界進出について考察する
- 7 <レビュー>をテーマに、宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する
- 8 <留学>をテーマに、森鷗外「舞姫」に描かれた、明治初期のドイツと日本の社会状況の相違について考察する
- 9 宝塚歌劇「MAIHIME」を考察する。(原作:森鷗外「舞姫」)
- 10 塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1 ヴェネチア」に描かれた、イタリアとトルコの文化背景の違いを考察する
- 11 宝塚歌劇「ヴェネチアの紋章」を考察する。(原作:塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1」ヴェネチア)
- 12 プレゼンテーション 発表授業
- 13 プレゼンテーション 発表授業

- 14 プレゼンテーション 発表授業
- 15 <ディズニー映画>に注目し、アメリカが描く東アジアについて考察する。

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況（30％）、ノート評価（30％）、発表（20％）、レポート（20％）により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（国内）			13969	Ⅱ	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・観光局など）及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日～2週間となる。尚、体験発表は10月上旬（秋学期・土曜日）に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 業界研究
- 3 企業研究
- 4 エントリーシート作成(自己PR)
- 5 インターンシップの目標設定
- 6 就業体験①
- 7 就業体験②
- 8 就業体験③
- 9 就業体験④
- 10 就業体験⑤
- 11 就業体験発表

授業の方法

グループワークを中心とした講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30％、就業体験50％、プレゼンテーション20％
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

講義内で紹介する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。
学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。（最低5日間の就業体験が必要）
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。
履修者が30名を超えた場合は抽選とするので、第1回目オリエンテーションは必ず参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊事業実務			

授業の到達目標

ビジネスにはWin・Winの関係が必要不可欠である。製造業の組織管理とホスピタリティ産業の組織管理の違いを学ぶ。ホスピタリティマネジメントはホスピタリティ産業の運営手法を学ぶ。ホスピタリティ産業は、形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティ産業の組織は、どのように管理されるべきか、どのように運営すべきかを考える。ホスピタリティ産業のマネジメント&マーケティングを理解することで、経営感覚を身に付ける。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。Dr.kotlerの理論に基づき、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティング戦略の基本を中心に構成されている。市場における競争優位は、製品の差別化で達成できるのか、模倣されない差別化とは何かを考える。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしで収益を上げることは可能か、収益とはどこからくるのかを理解する。マーケティングのフレームワークを理解し、外部環境やどのような戦略があるのかを学ぶ。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業（ホテル・旅館・テーマパーク等）から学ぶ。

授業計画

- 1 ガイダンス
(どの様なことを学修するか解説)
- 2 ホスピタリティの歴史と文化
(ホスピタリティ精神論での学びを復習)
- 3 ホスピタリティ・サービスの語源
(「最高のサービスを受けた」で、これってホスピタリティなの)
- 4 ホスピタリティ産業の製品特性
(ホスピタリティ産業には共通する特性がある。あなたはディズニーリゾートから帰った夜に手元に何が残っていますか)
- 5 マーケティング戦略・マーケティングミックス
(「製品・サービスが良ければ人は購入するの?」の疑問に答える)
- 6 ホスピタリティ産業における企業理念・ビジョン
(バイト先の朝礼で「我社は〇〇を目指す」これって必要かなあ?)
- 7 ホスピタリティ産業におけるSWOT分析とPDCA
(世の中の影響を受ける企業、乗り切る企業、どう違うの)
- 8 ホスピタリティ産業における労働生産性
(ホテル・旅館の労働生産性が低い? どうすればいいの、考えよう)
- 9 ホスピタリティ産業における顧客サービス
(顧客サービスで収益アップ、バイト先のあなたの行動が収益を変える)
- 10 企業の広報とリスクマネジメント

(社長の「私は寝てないんだよ!」「どこもやっています」の一言で会社が潰れる)

- 11 .ザ・リッツカールトンに観るホスピタリティの実践
(グローバル企業に観るホスピタリティの実践に迫る)
- 12 組織と価値観 道頓堀ホテルの事例
(ラグジュアリーホテルだけでない、愛されるホテルは大阪にもあった)
- 13 .事例で考えるクレーム処理
(クレームを企業イノベーションに活用しよう)
- 14 企業再生 行き詰った企業を再生する
(企業を再生する本当の主役は誰だ?)
- 15 まとめと総括試験

授業の方法

PowerPointによる講義。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%

総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

特に予定していない。

適宜資料配布

参考図書

服部勝人『ホスピタリティマネジメント入門』丸善
Jay B. Barney (岡田正大訳) 『企業戦略論』ダイヤモンド社
P.F.Drucker (上田惇生訳) 『マネジメント』
Kotler (平井祥訳) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を観る事で講義の内容が活かされる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光はディステーションと輸送機関、そして宿泊業の連携が重要である。特定の企業だけが独り勝ちができない。市場環境や地域性で影響を受ける。観光マーケティング論では観光事業の市場での行動を理解し、顧客が求める製品・サービスは何か、顧客価値を高めるにはどのようにすればよいかを理解する。ビジネスにはWin・Winの関係が必要不可欠である。観光マーケティングは観光産業全般に関する製品・サービスとリレーションを学修しマーケティング全般の理解を深める。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

講義はコトラ「ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング」を参考文献とし、マーケティングの基礎的内容から学修する。産業の特性やマーケティング戦略、ブランドポジショニングなどの基本理論を含め幅広く学修する。講義は事例を挙げて解説される。事例は、観光地・ホテル業・旅行業・レストラン業・ファストフード業・航空業などを取り上げる。事例を通してマーケティング理解する。

授業計画

- 1 ガイダンス:観光マーケティング論概要
- 2 観光とマーケティング
- 3 ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
- 4 戦略計画におけるマーケティングの役割
- 5 マーケティング環境
- 6 マーケティング情報システム
- 7 消費者の心理と購買行動
- 8 競争市場の原理
- 9 市場細分化における戦略
- 10 マーケティングミックス(製品)
- 11 マーケティングミックス(価格)
- 12 マーケティングミックス(流通)
- 13 マーケティングミックス(プロモーション)
- 14 テーマパーク運営から考えるマネジメント手法
- 15 まとめ

授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%総括試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

なし。資料配布する。

参考図書

Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』上・中・下ダイヤモンド社

留意事項

基礎科目（観光概論、観光事業論）の発展科目である。本学唯一のマーケティング講座である。観光領域を学ぶ学生は履修すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空事業論			13843	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石井 由美子	選択	2	日本航空株式会社元国際線客室乗務員研修講師として人材育成、インバウンド接客、SDGs教育に携わる			

授業の到達目標

グローバル市場の中で航空事業の歴史、ビジネス戦略を学び、航空事業について基本的な説明ができる。
航空事業の歴史やオープンスカイ政策とその後の各航空会社のビジネス戦略を理解し、グローバルアライアンス、台頭するLCC（格安航空会社）とFSC（フルサービスキャリア）の戦略の違い、変化する世界の空港やその機能を理解する。また、一便の飛行機の運航の安全性と快適性がいかに多くの人々、セクションによって担保されているのかを総合的に理解する。
感染症、ウクライナ情勢、脱炭素社会など、変化し続ける社会情勢にあって、航空業界がどのような課題を持ち、それに向けて対応しているか、どのような未来に向かうかを考える。
また、航空業界に限らず共通する「接遇・おもてなし」についても基本的な考えを学び、普段の生活にも役立ち立ち居振る舞いを身につける。これらを通して、このクラスではKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の視座を持つことを目標とする。

授業の概要

エアラインビジネスのオペレーションの概要や歴史、航空政策、空港の機能、経済特性、経営動向やエアラインが置かれている社会環境や課題などについて、身近な例や豊富な写真などを用いて、わかりやすく学習する。
航空業界は世界経済や社会情勢によって日々変化を余儀なくされる。新型コロナウイルスの感染拡大によって航空需要は一時コロナ前の9割にまで落ち込んだ。そして航空需要が復活した現在は、コロナ前とは違った価値観、需要が生まれている。航空事業に限らずどの業界にあって、地球温暖化、脱炭素は生き残りをかけた戦略となっている。変化し続ける社会情勢にあって、航空業界がどのような課題をもち対応しているのか、知識を得た上で自ら考える姿勢を養う。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、航空機の歴史
- 2 航空自由化への流れ オープンスカイ
- 3 空港の機能
- 4 客室乗務員の仕事
- 5 空港業務と旅客ハンドリング
- 6 JALとANA
- 7 接遇の基本

- 8 SDGsとツーリズム
- 9 ネットワークとアライアンス
- 10 FFP・ブランド戦略
- 11 LCCの台頭とFSCへの影響
- 12 空の安全
- 13 CIQの機能
- 14 航空貨物ビジネス
- 15 航空業界の脱炭素への取り組みと未来

授業の方法

講義を中心とするが、双方向のコミュニケーションをもち、グループディスカッション、間違えることを恐れず自由に発言できる機会をもつ。

準備学修

関連項目をWEB、関連図書で参照すること。

課題・評価方法、その他

課題提出40％、平常点（ワークショップなどの積極的な姿勢など）20％、定期試験40％

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。
基本的には投影資料についてメモをとること。

参考図書

「エアラインビジネス入門 第2版」（2022）稲本恵子 編書
「航空産業入門 第2版」（2017）ANA総合研究所

留意事項

積極的な発言、参画意識を持つこと。
世界の航空産業の動きや日本の観光立国に向けた航空政策、観光業界、航空業界の脱炭素の取り組みなどに関するニュースなどは注目しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合はオフィスアワーを活用すること。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客誘致を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 ホテル産業史Ⅰ
- 3 ホテル産業史Ⅱ
- 4 ホテル産業史Ⅲ
- 5 宿泊産業の市場特性
- 6 ホテルの組織と役割
- 7 客室事業・基本業務
- 8 客室事業・組織とサービス
- 9 客室事業・価格戦略
- 10 料飲事業
- 11 バンケット事業
- 12 プライダル事業
- 13 MICE事業
- 14 ホテル再生
- 15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法、その他

課題30％、総括試験70％

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

適宜資料配布

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』
鈴木博、大庭祺一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

- 神戸と海の物語
神戸のミステリー作家、陳舜臣の作品を中心に、神戸居留地の歴史を振り返る。
- 神戸異人館物語（1）
上田早夕里「トラットリア・ラファエル」を読み、現在の異人館通りの様相や、神戸のスイーツやパン、洋食文化に触れる。
- 神戸異人館物語（2）
宮本輝「花の降る午後」・妹尾河童「少年H」を読み、雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。
- 阪神間モダニズム
小川洋子「ミーナの行進」を読み、神戸から影響を受けて発展した、阪神間のモダニズム文化を考察する。
- 神戸の発展を支えた女性たち
玉岡かおる「負けんとき ヴォーリズ満喜子の種まく日々」・「お家さん」を読み、神戸の発展を支えた女性の生き方を考察する。
- 神戸トアロード物語
稲垣足穂「星を造る人」を読み、トアロード発信の神戸モダニズムについて考察する。また、堀辰雄「旅の絵」を読み、外から見た神戸文化について考察する。
- 神戸新開地物語
横溝正史のミステリーを読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
- 川崎造船所と神戸の町
原田マハ「美しき愚かものたちのタブロー」を読み、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れる。
- 1923年関東大震災と神戸

谷崎潤一郎「細雪」、山本周五郎「須磨寺附近」を読み、関東大震災によって神戸にやって来た人々が、どのような文化交流をなしていったかを考察する。

- 神戸と坂の物語
神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある村上春樹「ノルウェイの森」・「5月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- 映画に登場する神戸の風景
有川浩原作の映画「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。
- 神戸灘区青谷周辺の物語

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況（30%）、ノート評価（30%）、発表（20%）、レポート（20%）

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス中国語			13832	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嬌	選択	2				

授業の到達目標

中国語の発音、基礎単語と基礎文法を学び、練習問題を通して、中国語の基本表現を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。自己紹介が流暢にできるように繰り返し練習する。中国語会話を楽しく勉強して、コミュニケーション能力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

中国語学習の中に一番大事な部分は発音である、正確な発音を覚えるために、発音練習以外に聞くの練習もたくさんする。中国語の基礎単語と基礎文法をいろんな形で練習して覚える。異文化を理解するために、中国の文学作品及び唐詩を紹介する。中国の歌も一曲歌えるように挑戦する。中国語検定試験問題の指導を行う。

授業計画

- 第1課～第4課ポイントのまとめ（あいさつする、名前を尋ねる等）
- 第5課～第8課ポイントのまとめ（予定を尋ねる、場所を尋ねる等）
- 「自己紹介」を学ぶ
- 第9課、出来事を尋ねる①
- 第10課、出来事を尋ねる②
- 第11課、希望を尋ねる
- 第12課、行き方を尋ねる
- 第13課、経験を尋ねる
- 第9課～第13課の復習
- 第14課、相手の都合を尋ねる
- 第15課、比較する
- 第16課、条件・情報を尋ねる
- 第17課、進行状況を尋ねる
- 第18課、別れを告げる
- 授業のまとめ・テスト

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。
毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と会話練習を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

「できる・つたわる コミュニケーション中国語」 岩井伸子、胡興智著 白水社

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			13837	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	2	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

〈観光客としてフランスを旅行する〉また〈日本を訪れたフランス語話者とコミュニケーションをとる〉ために最低限必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス（首都、地方）、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について、関連項目の映像資料を参考にしながらテキストを講読する。またフランスの国、地方、歴史、観光地、食文化、スポーツ等、学生の積極的な発表を軸に授業を進める。

授業計画

- 1 Orientation, "La France"
- 2 "La France" "Pairs"
- 3 "Paris"
- 4 "Les cafés"
- 5 "La vie des étudiants"
- 6 "Le pain, le vin et le fromage"
- 7 "La Bretagne"
- 8 "La Bretagne"
- 9 "La Provence"
- 10 "La Provence"
- 11 "L'Alsace"
- 12 "L'Alsace", 映画鑑賞(フランス語)
- 13 "Trois grands personnages de l'histoire française"
- 14 "Le français dans le monde"
- 15 まとめと試験

授業の方法

多彩なテーマについて書かれた関連資料の講読と学生の発表（テーマについて観察、調査、考察をしたもの）による。

準備学修

web参照のこと

課題・評価方法、その他

出席点10%、平常点20%、研究発表30%、学期末試験40%

欠席について

授業出席は必要不可欠。やむを得ない場合、授業で進んだところまでの内容について自らの補習が必要である。

テキスト

Amicalement plus（2023 刷発行 駿河台出版社）
テキスト講読に関しては予め単語帳及び解説プリントを準備する。

参考図書

必要があれば授業で紹介する。その他、観光案内資料や学生の興味の対象となる資料記事を配信する予定。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。毎回「10分間 Classroom English」を行う。

授業計画

- 1 小学校英語教育の目的(1)小学校学習指導要領の理解
- 2 小学校英語教育の目的(2)世界の言語政策事情
- 3 小学校英語教育の目的(3)異文化理解
- 4 小学校英語教育の目的(4)児童文学
- 5 第2言語習得研究(1)年齢と言語習得
- 6 第2言語習得研究(2)学習と環境
- 7 第2言語習得研究(3)学習者要因、指導者要因
- 8 第2言語習得研究(4)児童期の第2言語習得における語彙習得
- 9 第2言語習得研究(5)児童期の第2言語習得における文法習得
- 10 第2言語習得研究(6)児童期の第2言語習得における音声習得
- 11 技能の育成(1)リスニング
- 12 技能の育成(2)スピーキング
- 13 技能の育成(3)リーディング
- 14 技能の育成(4)ライティング
- 15 まとめ、小学校英語指導に求められる資質と能力

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。
適宜プリントを配布する。

参考図書

[参考文献]
『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス 2021
『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅰ			13705	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	2	中学校・高等学校英語科教諭、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

小学校・中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の基礎を、次に続く英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業との連携も視野に入れて身に付ける。
英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

授業の概要：学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導についての基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身につける。
教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」で最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができればならない。それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとっての重要課題と捉え、学生が積極的に考え、課題発表や実践をしてもらう予定である。

授業計画

- 英語教育の目的(1)小・中・高等学校学習指導要領の理解
- 英語教育の目的(2)小・中・高等学校を通した英語教育の在り方
- 第2言語習得研究(1)学習者の特質:認知的要因
- 第2言語習得研究(2)学習者の特質:情意的要因
- 第2言語習得研究(3)学習者の特質:動機付け
- 英語教材研究(1)音声とつづり字
- 英語教材研究(2)語彙と表現
- 英語教材研究(3)文法と情報構造
- 英語教材研究(4)Eラーニング、ICT教育
- 音声言語指導 リスニング・スピーキング(やり取り・発音)の指導
- 音声言語指導 リスニング・スピーキングの授業展開、ティームティーチング

- 書記言語指導 リーディング・ライティングの指導
- 言語能力の測定と評価(1)パフォーマンス評価等評価方法と評価基準
- 言語能力の測定と評価(2)テストの意義と作成上の留意点
- 総括 英語教師の資質と能力

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40％、発表点40％、レポート20％

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

『新・グローバル時代の英語教育 ―新学習指導要領に対応した英語科教育法』 岡秀夫 編著 成美堂

参考図書

『中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】』(文部科学省)
『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】』(文部科学省)
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表に際しては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ			13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「英語」)			

授業の到達目標

中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導の基礎及び異文化理解を、次に続く英語科教育法Ⅲ・Ⅳの授業との連携も視野に入れて徹底する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」の養成を重要な柱と位置づけ、以下（授業計画）の具体的項目に関して教育法の鳥瞰図的全体像を示し、学生の自覚・理解を促す。

授業計画

- はじめに:授業の概要について
- 学習指導要領の理解
- 英語の指導目標と内容
- 学習者の要因
- 言語習得の理論と諸問題
- 発音の指導
- 文字と綴りの指導
- 語彙表現、文法の指導
- リスニングの指導
- スピーキングの指導
- リーディングの指導
- ライティングの指導
- 言語技術を統合した指導
- 異文化理解
- 総括(複数領域を統合した言語活動の指導を中心に)、および期末評価

授業の方法

講義のほかに各自の発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：講義のテーマによってはレポート作成を課し、講義中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。
評価方法：平常点20％ 発表20％ レポート 30％ 定期試験30％
授業中の積極的な質疑応答を高く評価する。

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『最新英語科教育法入門』研究社

参考図書

白井恭弘『外国語学習の科学―第二言語習得論とは何か』(岩波書店)
中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】(文部科学省)
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅠ	ET		13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can・Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	ET		13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	2	児童英語講師、児童英語・小学校英語指導者養成指導、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュⅠで体験した指導法を活用し、年齢・発達過程にあった指導案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した指導法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、指導案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

- 1 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「指導案作成のポイント」
- 2 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成法」
- 3 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「指導案草案発表」
- 4 実習授業指導案作成(1)『教材研究』
- 5 実習授業指導案作成(2)『教具作成』
- 6 実習授業指導案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 7 実習授業指導案発表と模擬授業
- 8 第1回 小学校英語活動 実習授業
- 9 実習リフレクション
- 10 実習授業指導案作成(4)『教材研究・指導案発表』
- 11 実習授業指導案作成(5)『教具作成』
- 12 実習授業指導案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 13 実習授業指導案発表と模擬授業
- 14 第2回小学校英語活動 実習体験
- 15 まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成
- 16

授業の方法

指導案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の指導・支援を実際に現場で体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、レポート30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、教材配布

参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂
『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店
『小学校英語 はじめる教科書』小川隆夫・東仁美 mpi

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。
実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅲ			13737	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語教育の第一目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第1・第2言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業やディスカッション等を通して考える。

授業計画

- 1 英語教育の目標と学習指導要領
- 2 第1言語習得と第2言語習得
- 3 主な外国語教授法の流れ(1) 文法・翻訳法～ダイレクト・メソッド
- 4 主な外国語教授法の流れ(2) オーディオ・リンガル・メソッド
- 5 コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Dell Hymes)
- 6 コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Canale and Swaine, Henry Widdowson)
- 7 コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Keith Johnson)
- 8 授業の準備、学習指導案の作成
- 9 授業の工夫(1): Warm-upとreview、文法・文型の導入
- 10 授業の工夫(2): 文法・文型の練習と発展活動
- 11 授業の工夫(3): 語彙の導入と指導、本文の読解指導
- 12 模擬授業(Grammarを中心に)
- 13 模擬授業(Readingを中心に)
- 14 模擬授業(Communicationを中心に)
- 15 まとめ

授業の方法

講義、ワークショップ、DVD視聴、模擬授業、ディスカッションによって授業を進める。

準備学修

・ 次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
・ Grammar I～IIIを徹底的に復習するなどして、常に文法力の向上に努めること。
・ 中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、レポート30%、模擬授業40%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂 『[新版]英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
土屋澄男（編著）他 『新編 英語科教育入門』（研究社）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

・ 平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。
・ 毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけでなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅳ			13741	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語科教育法I～IIIで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等についてディスカッションを行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価と及び評価方法の一つであるテストについても学ぶ。

授業計画

- 1 学習指導要領における各科目の目標と内容
- 2 模擬授業の準備(1): 1時間の授業の流れ(中学校)
- 3 模擬授業の準備(2): 1時間の授業の流れ(高等学校)
- 4 模擬授業の準備(3): 教科書全体の構成、扱う単元の教材研究
- 5 模擬授業の準備(4): 授業の構成と学習指導案の作成
- 6 模擬授業の準備(5): ALT等とのチーム・ティーチング
- 7 模擬授業の準備(6): 英語でのインタラクション
- 8 模擬授業の準備(7): 授業における各活動の目的と工夫1
- 9 模擬授業の準備(8): 授業における各活動の目的と工夫2
- 10 評価とテスト(Evaluation and Testing)
- 11 模擬授業と授業観察(Grammarを中心に)
- 12 模擬授業と授業観察(Readingを中心に)
- 13 模擬授業と授業観察(Communicationを中心に)
- 14 模擬授業と授業観察(Writingを中心に)
- 15 模擬授業の総括、教育実習に向けて

授業の方法

DVDの視聴、ワークショップ、模擬授業を中心とする。各活動の後にはディスカッションを行う。

準備学修

1 単元の学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業（各自2回

程度）を行うための準備（教材研究、教具の作成、授業の練習等）をすること。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（模擬授業観察を含む）30%、模擬授業 70%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂 『[新版]英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
土屋澄男（編著）他 『新編 英語科教育入門』（研究社）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

・ 評価は、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業の観察・参加の記録、出席状況、日頃の学習態度を基準に行う。
・ 毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけでなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）			13733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	1	児童英語講師、児童英語・小学校英語指導者養成指導、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化された。小学校英語指導者養成のキッズ・イングリッシュ・プログラムの最終段階として、学生自身が、英語活動・英語教育を、活動内容の企画、活動案・教具作成、模擬授業での練習を積み重ねた後、幼稚園や小学校現場で指導者として、実習体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュⅠ、Ⅱで学習した小学校英語教育を、幼稚園・小学校現場で出前授業の形で授業体験する。この体験から、理論を踏まえた実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語教育とは何かを体系的に考える。実習計画①実習する指導案・教材教具を作成し、授業準備を行う。②作成した指導案で自身が小学校現場で授業できるように、模擬授業で練習する。③実習園・実習校の通常授業で、実習授業を行う。④実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

授業計画

- 1 小学校英語教育実習授業
- 2 第1回 小学校英語教育実習授業
- 3 第1回 小学校英語教育実習授業
- 4 第1回 小学校英語教育実習授業
- 5 第1回 小学校英語教育実習授業
- 6 第1回 小学校英語教育実習授業
- 7 第1回 小学校英語教育実習授業
- 8 第1回 小学校英語教育実習授業体験
- 9 第2回 小学校英語教育実習授業
- 10 第2回 小学校英語教育実習授業
- 11 第2回 小学校英語教育実習授業
- 12 第2回 小学校英語教育実習授業
- 13 第2回 小学校英語教育実習授業
- 14 第2回 小学校英語教育実習授業体験
- 15 総括
「指導目標・授業・評価の一体化」

授業の方法

理論、ワークショップでの指導法体験を活かし、自らが指導案を作成、実際に小学校現場での英語活動を指導・支援する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、レポート30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること。

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、教材配布

参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂
『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店
『小学校英語 はじめる教科書』小川隆夫・東仁美 m.p.i.

留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
外国語教授法			13745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	2	中学校・高等学校英語科教諭、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

本講義では、グローバル化に対応した英語教育改革のゴールを考え、小学校から中学校・高校への英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の連携が図れる「外国語教授法」のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

本授業では、小学校英語教科化となった現在の日本における外国語教育のあり方そのものを考える。小学校英語を中心に、外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法、そして、学習者側における効果的な外国語学習法の理論とその実践方法を学ぶ。

授業計画

- 1 小学校英語教育
- 2 言語習得理論
- 3 教授法の理論的背景(1)
- 4 教授法の理論的背景(2)
- 5 発表(1) All in Englishでの授業
- 6 学習到達目標、指導計画
- 7 4技能(1)
- 8 4技能(2)
- 9 発表(2) リスニングとスピーキングの授業
- 10 4技能(3)
- 11 4技能(4)
- 12 4技能統合の指導
- 13 発表(3) 4技能統合の指導
- 14 評価
- 15 これからの小学校英語 中学・高校との連携
- 16

授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、発表40%、レポート20%

欠席について

講義内容に関するレポート・実践及び発表などの課題も評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。適宜ハンドアウト、及びプリント配布。

参考図書

『新・グローバル時代の英語教育 ―新学習指導要領に対応した英
語科教育法』 岡秀夫 編著 成美堂
『小学校英語 はじめる教科書』 小川隆夫・東仁美 mpi
『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂

留意事項

参考図書、参考文献をあらかじめ読んでおくこと

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（中高）			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を理解する。教員の資質能力と職務内容について理解し、身につけることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

未来を語るキーワードとして「Society5.0・AI・IoT・ICT・SDGs」が語られ、また学習指導要領、生徒指導提要が改訂され、教育を取り巻く今日の課題が、大きく変わってきている。このような状況の中、教育の課題を整理しながら、教員の資質や能力の向上、研修方法について学び、さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の学校教育の在り方や、「教職」の意義、教員の役割を考察していく。

授業計画

- 1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義(学校制度の変遷・公教育の目的・学校の組織・教職員研修)
- 2 教育を取り巻く今日の課題
- 3 新学習指導要領がめざすもの ～外国語教育～
- 4 新学習指導要領がめざすもの ～道徳教育～
- 5 生徒指導
- 6 いじめ問題・情報モラルセキュリティ
- 7 教員に求められる資質能力
- 8 教員の服務と義務・働き方改革
- 9 人権教育・教員の人権感覚
- 10 特別支援教育・インクルーシブ教育
- 11 安全・防災教育と危機管理について
- 12 特別活動
- 13 キャリア教育と進路指導・総合的な学習(探究)の時間
- 14 校種間連携・地域連携・チーム学校・コミュニティスクール
- 15 「評価」について・まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、義務教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（キッズ）			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を理解する。教員の資質能力と職務内容について理解し、身につけることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

未来を語るキーワードとして「Society5.0・AI・IoT・ICT・SDGs」が語られ、また学習指導要領、生徒指導提要が改訂され、教育を取り巻く今日の課題が、大きく変わってきている。このような状況の中、教育の課題を整理しながら、教員の資質や能力の向上、研修方法について学び、さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の学校教育の在り方や、「教職」の意義、教員の役割を考察していく。

授業計画

- 1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義(学校制度の変遷・公教育の目的・学校の組織・教職員研修)
- 2 教育を取り巻く今日の課題
- 3 新学習指導要領がめざすもの ～外国語教育～
- 4 新学習指導要領がめざすもの ～道徳教育～
- 5 生徒指導
- 6 いじめ問題・情報モラルセキュリティ
- 7 教員に求められる資質能力
- 8 教員の服務と義務・働き方改革
- 9 人権教育・教員の人権感覚
- 10 特別支援教育・インクルーシブ教育
- 11 安全・防災教育と危機管理について
- 12 特別活動
- 13 キャリア教育と進路指導・総合的な学習(探究)の時間
- 14 校種間連携・地域連携・チーム学校・コミュニティスクール
- 15 「評価」について・まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、義務教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目 <キッズ・教職>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET		13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援を発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方として理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を具体的には、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

15回出席を原則とし、1回の欠席で5点減点とする。

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスクミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目 <キッズ・教職>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）			13854	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

学習指導要領が改訂され、教育に求められる課題も変わってきている。「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」をキーワードに教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。授業のまとめとして、「総合的な学習（探究）の時間」の単元計画の作成に取り組む。

授業計画

- 1 ☆はじめに・教育課程と総合学習
 - ・「教育課程」とは？・標準授業時数・「学習指導要領」とは？・「学習指導要領」の法的根拠・教育課程は、誰が決めるのか？・「総合的な学習（探究）の時間」の創設
- 2 ☆新学習指導要領のめざすもの
 - ・学習指導要領の改訂・新学習指導要領のめざすもの（改訂にこめられた願い）・新学習指導要領が示す具体的な改定のポイント
- 3 ☆「主体的・対話的で深い学び」とは
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師力・「カリキュラムマネジメント」の視点から
- 4 ☆「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の具体を考える①
 - ・宿泊行事について企画する・「教員の連携、複数の教科等の連携」を意識して
- 5 ☆「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の具体を考える②
 - ・宿泊行事について企画する・「カリキュラムマネジメント」の視点から
- 6 ☆先進校の実践に学ぶ
- 7 ☆小中一貫教育と教育課程
 - ・学校現場の課題の多様化と複雑化・小中一貫教育の大目的・小中一貫教育の成果
- 8 ☆小中連携・小中高連携
 - ・先進校の実践に学ぶ
- 9 ☆中学校学習指導要領 外国語科の改訂のポイント
 - ・先進校の実践に学ぶ
- 10 ☆総合的な学習（探究）の時間～学習指導要領改訂のポイント～
 - ・「総合的な学習の時間」の経緯

- 11 ☆総合的な学習の時間の目標
 - ・総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント
- 12 ☆目標を実現するにふさわしい探究課題
 - ・「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」を読む・「総合的な探究の時間」でぶつかる壁・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」より
- 13 ☆総合的な学習の時間の単元計画を考える
 - ・学校における実践事例・単元計画の具体例・探究的な学習の指導のポイント
- 14 ☆研究開発学校制度・単元計画を考える
 - ・研究開発学校制度について・総合的な学習の時間の単元計画を考える
- 15 ☆まとめテスト

授業の方法

毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）を読んでおく

課題・評価方法、その他

平常点（70%）、定期試験（30%）

欠席について

やむを得ず欠席する場合には、事前、事後に届け出る

テキスト

中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）最新版

参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小）文部科学省編 教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中）文部科学省編 教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（高）文部科学省編 教育出版

留意事項

毎回の授業のレジュメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	ET		13856	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	1	市教委人権同和指導主事県特別活動研究部長阪神淡路震災避難所支援市公開異人館副館長			

授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を修得する。さらに、多様な教材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に付け、基礎的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

- 1 教育方法学の歴史
- 2 カリキュラム論
- 3 教科書と学校教育の関係
- 4 授業の構造について
- 5 教育技術論
- 6 授業の方法と実践
- 7 学力と教育評価について
- 8 模擬授業実践(人権教育)、まとめ

授業の方法

最初に、まとめてレジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修

Webで参照（中学校学習指導要領等）しておくこと

課題・評価方法、その他

課題：各回の講義中に課題を出すのでレポートを提出すること
評価方法：平常点70%、試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト

なし

参考図書

中学校学習指導要領解説（総則編）ぎょうせい出版

留意事項

最初に配布した資料をもとに授業を進める。毎回レポートも作成する

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育における I C T 活用			13859	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	選択	1				

授業の到達目標

教育におけるICTの活用について現状を知り、理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

初等中等教育におけるICT活用のねらいを理解し、その方法について具体例を通して知る。

授業計画

- 1 学習指導におけるICT活用の考え方
- 2 ICTを活用した学習指導について
- 3 ICT機器について
- 4 興味関心を高めるICT活用の具体的な方法や場面
- 5 一人一人の能力を引き出すICT活用の具体的な方法や場面
- 6 思考や理解を深めるICT活用の具体的な方法や場面
- 7 学習準備と評価に関するICTの活用
- 8 まとめ プログラミング教育

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①講義の中で、キーワード等をもとに振り返りを行う
- ②評価については、平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて資料提供する

参考図書

必要に応じて紹介する

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論（中高）			13853	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援市教委河和教育室指導主事公開異人館副館長文科省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、こども園・学校と地域との連携の取り組みの中から全ての学校種の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 はじめに、公教育について
- 2 教育行政と公教育の仕組み
- 3 教育改革の歴史概要
- 4 教職教養のまとめ、教育時事
- 5 現代の学校で学ぶもの
- 6 学校経営と教師力
- 7 学校と地域の連携と協働Ⅰ
- 8 学校と地域の連携と協働Ⅱ
- 9 学校力と課外活動(部活動)
- 10 安全教育、安全管理についての取り組み
- 11 学級経営における効果的な指導法
- 12 学校が災害時に果たす組織的な役割
- 13 学校における危機管理のあり方
- 14 開かれた学校づくり、人権感覚の醸成法
- 15 教育経営の基本(保護者対応と姿勢)・まとめ

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

Webで世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に

調べる。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。
授業中に配布したレジメ等の資料を整理しファイリングしておくこと

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

『教育相談ワークブック』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著 北樹出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論（中等）	教職中等		13829	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーⅠ（知性）を養う。

授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。また、多様な道徳教育の指導法を学修し、実際の教科書を使用して指導案検討を行う。

授業計画

- 1 道徳教育の目標・特別の教科 道徳
- 2 道徳の歴史
- 3 道徳の指導案を考える・内容項目について
- 4 道徳教育と国際理解教育
- 5 諸外国の道徳教育の状況・指導案演習
- 6 道徳科の指導・指導案演習
- 7 子ども達をつなぐ授業手法・指導案演習
- 8 モラルジレンマ・指導案演習
- 9 いじめ問題を考える①・指導案演習
- 10 いじめ問題を考える②・模擬授業
- 11 いじめ問題を考える③・指導案演習
- 12 いじめ問題を考える④・情報モラル・指導案演習
- 13 安全防災教育・指導案演習
- 14 防災教育・指導案演習
- 15 まとめテスト(指導案作成)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義とグループワークでの演習なども取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」最新版

参考図書

神戸市立小学校採用の道徳の教科書「きみがいちばんひかるとき」1～6年用（光村図書）
神戸市立中学校採用の道徳の教科書「中学道徳 あすを生きる」1～3年用（日本文教出版）

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

現代人間学部 心理こども学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	必修	2				

授業の到達目標

日常の生活の中には、音や音楽があふれている。つまり人間が存在するということはそこに音があり、音楽とともに生きていくということである。そんな音や音楽の研究を通して自分の知見を広げ、発表や意見交換を重ねながら、研究すること、論文を書くことの基本を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

演習 I では、自分と関わりのある身近な音や音楽、または音楽教育に関わる文献を読み、発表や意見交換を通して、文章力やプレゼンテーション力を高めるとともに自分の知識や興味の幅を広げる。また、自らが探求したい研究テーマを模索し、研究方法を学修する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 研究の方法 1
- 3 文献購読
- 4 文献購読
- 5 文献購読
- 6 文献購読
- 7 各自の研究テーマについて
- 8 音・音楽の研究
- 9 研究の方法 2
- 10 個人研究のリサーチと発表
- 11 個人研究のリサーチと発表
- 12 個人研究のリサーチと発表
- 13 個人研究のリサーチと発表
- 14 研究の方法 3
- 15 まとめと次期に向けて
- 16

授業の方法

講義、プレゼンテーション、ディスカッションを均等に実施する。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題の提出
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて、提示・紹介する。

参考図書

必要に応じて、提示・紹介する。

留意事項

課題の提出等は、定められた締め切りを守ること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学論文の研究論文を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 全員で共通の文献講読 1
- 3 全員で共通の文献講読 2
- 4 全員で共通の文献講読 3
- 5 共同研究のためのリサーチの準備
- 6 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 7 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 8 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 9 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 10 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 11 リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
- 12 共同研究の発表の準備
- 13 共同研究の発表の準備
- 14 共同研究の発表の準備
- 15 全体の振り返りと、個人のテーマの評価

授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身に付ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

共同研究への取り組みと課題の提出状況を評価する。

欠席について

一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎回の授業で提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	必修	2				

授業の到達目標

保育や教育、養護について、自分の興味関心のあるテーマについて文献を調べることができる。また、文献講読を要約し発表することができる。発表での質疑応答の内容やディスカッションで出た意見を踏まえて考察できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

保育・教育現場における関心のある分野や今日の課題となっているテーマについて文献講読をし、個々に考察を行ったものを発表する。ディスカッションを通して、多様な意見があることを知り理解を深めていく。関心のあるテーマから研究するためのテーマへと絞っていく。文献や先行文献の選定について学び、各自の卒業研究に活かすために調べを進める。

授業計画

- オリエンテーション
- 保育・教育現場に関する文献講読(1)共通テーマ
- 保育・教育現場に関する文献講読(2)共通テーマ
- 保育・教育現場に関する文献講読(3)共通テーマ
- 保育・教育現場に関する文献講読(4)共通テーマ
- 保育・教育現場に関する文献講読(5)共通テーマ
- 個人研究の調査活動(1)
- 個人研究の調査活動(2)
- 個人研究の調査活動(3)
- 個人研究の調査活動(4)
- 個人研究の調査活動(5)
- 個人研究発表(1)
- 個人研究発表(2)
- 個人研究発表(3)
- まとめと振り返り

授業の方法

ディスカッションを中心とする。また、各自の関心のあるテーマの文献講読をし適宜発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業内でフィードバックや助言を行う。平常点70％、定期試験30％で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

主体的に授業や課題に取り組み、他の意見にも耳を傾け自らの研究に活かすこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究を目標に、各自の研究テーマを検討する。先行文献の探索、研究方法の考察、研究計画を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰの学修を元に自らの研究テーマを絞り、参考文献、先行研究を探索する。それらの研究論文を通して自らの研究の意味を確立させ、研究計画を考える。

授業計画

- 研究論文の進め方について
- 先行文献のリサーチと購読
- 先行文献のリサーチと購読
- 先行文献のリサーチと購読
- 街の音楽文化を探る
- 街の音楽文化を探る
- 研究テーマの検討
- テーマに即した調査、研究の検討
- テーマに即した調査、研究の検討
- テーマに即した調査、研究の検討
- 調査、研究の発表と討議
- 調査、研究の発表と討議
- 調査、研究の発表と討議
- 調査、研究の発表と討議
- まとめ
-

授業の方法

各自文献のリサーチや要約、さらに研究に必要な調査方法の発表を行い、グループディスカッションで学びを深める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- 発表の準備、課題の提出
- 平常点70％、定期試験30％

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて、提示・紹介する。

参考図書

必要に応じて、提示・紹介する。

留意事項

課題の提出等は、定められた締め切りを守ること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 共同研究発表の準備
- 3 共同研究発表の準備
- 4 共同研究発表の準備・反省会
- 5 各自のリサーチ発表1
- 6 各自のリサーチ発表2
- 7 各自のリサーチ発表3
- 8 研究法・手続きについての話し合い1
- 9 研究法・手続きについての話し合い2
- 10 各自のリサーチ発表4
- 11 各自のリサーチ発表5
- 12 各自の研究計画の立案と発表4
- 13 各自の研究計画の立案と発表5
- 14 卒業研究発表・質疑応答の練習
- 15 まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文のリサーチ・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

共同研究への取り組みの状況と、毎回の提出課題を評価の対象とする。

欠席について

欠席は1回につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の提出する論文の要約文を元に文献講読を実施するため、テキストはその都度適宜紹介することとする。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎週提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨佳	必修	2				

授業の到達目標

個人の研究テーマを決定し、文献の収集、調査、考察を行う。個人の研究でありながらも、社会や保育・教育現場に貢献できる研究となるような意識をもち、状況把握力や課題解決力を養う。卒業研究の作成に向けて研究計画を立て、問いについて明らかにしていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

演習Ⅰでの学びや個人研究の調査・発表を通して、研究テーマを決定する。卒業研究の作成に向けて、具体的に研究計画を立てる。研究計画に沿って、必要な文献の収集、調査、考察を行う。中間発表を行い、個人の研究に多角的な意見を踏まえて卒業研究に向け調査や視点を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 演習Ⅱの進め方や個々の方向性の共有
- 3 研究のためのディスカッション(1)
- 4 研究のためのディスカッション(2)
- 5 研究のためのディスカッション(3)
- 6 グループ発表
- 7 研究の調査活動とディスカッション(1)
- 8 研究の調査活動とディスカッション(2)
- 9 研究の調査活動とディスカッション(3)
- 10 研究のためのフィールドワーク(1)
- 11 研究のためのフィールドワーク(2)
- 12 個人研究のミニポスター発表
- 13 調査の方法について
- 14 研究計画や研究方法の仮作成
- 15 まとめ

授業の方法

ディスカッションを中心とする。個人研究テーマ決定後、個別に指導を行う。中間発表を行い、多様な意見を聞き更なる調べにつなげる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業内でフィードバックや助言を行う。平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

主体的に授業や課題に取り組み、他の意見にも耳を傾け自らの研究に活かすこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究計画書を作成する。卒業研究全体の3分の1を完成させる。研究する視点や態度、論理的に考え書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

自分の研究テーマに基づいて研究を進める。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、研究を深める。

授業計画

- 卒業研究テーマの確認
- 卒業研究の方法等の確認
- 卒業研究の執筆手順
- 卒業研究中間報告 1
- 卒業研究中間報告 2
- 卒業研究中間報告 3
- 卒業研究中間報告 4
- 卒業研究中間報告 5
- 卒業研究中間報告 6
- 卒業研究中間報告 7
- 卒業研究中間報告 8
- 卒業研究中間報告 9
- 卒業研究中間報告 10
- 今後の研究の進め方
- まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

漠然とした研究のテーマを先行文献や資料を読み深めることで、具現化する。仲間の研究過程を聞き合い、コミュニケーション能力も身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

参考図書、先行文献、関連資料の収集から始めてそれらの考え方との類似、相違を模索しながら、発見と納得による研究を進める。

授業計画

- テーマについて
- 先行文献について知る
- 先行文献の感想を発表し合う 1
- 先行文献の感想を発表し合う 2
- 問題と目的を明らかにする
- 問題と目的について討議する 1
- 問題と目的について討議する 2
- 問題と目的について討議する 3
- 問題と目的について討議する 4
- 研究の方法を知る
- 個々の研究方法を討議する 1
- 個々の研究方法を討議する 2
- 個々の研究方法を討議する 3
- 個々の研究方法を討議する 4
- 卒業研究のアウトラインを完成させる

授業の方法

学生相互で討議しながら、互いの考え方を客観的に捉えることができるようにする。

準備学修

テーマに関連するニュースや資料を、出典を明確にして収集すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

必要に応じて指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して研究テーマに迫る。そのため、的確なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見直しをもつようにする。

授業計画

- 1 演習Ⅲの進め方について
- 2 卒業研究・論文のまとめ方について
- 3 研究対象と調査期間について
- 4 研究方法と分析方法について
- 5 調査の進捗報告と討議①
- 6 調査の進捗報告と討議②
- 7 各自の先行文献調査のまとめ①
- 8 各自の先行文献調査のまとめ②
- 9 「問題と目的」の発表・討議①
- 10 「問題と目的」の発表・討議②
- 11 「研究方法」の発表・討議①
- 12 「研究方法」の発表・討議②
- 13 仮説と今後の見直しについて発表・調整①
- 14 仮説と今後の見直しについて発表・調整②
- 15 まとめを行ってから試験をする
- 16

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への助言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う
- ②平常点70%、定期試験30%
- ③卒業研究ルーブリックに中間自己評価を記入する

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 リサーチ1・発表・ディスカッション1
- 3 リサーチ2
- 4 リサーチ3
- 5 リサーチ4
- 6 各自の研究の問題と目的について設定・発表
- 7 各自の研究の研究方法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
- 8 進行報告2
- 9 進行報告3
- 10 調査報告1
- 11 調査報告2
- 12 調査報告3
- 13 結果のまとめ方について1
- 14 結果のまとめ方について2
- 15 結果のまとめ方について3

授業の方法

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

毎週の課題の提出状況と演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題の提出は毎週とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	必修	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

授業の到達目標

演習Ⅱにおいて決定した研究テーマに基づき、卒業研究計画書を作成して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

各自の研究テーマに基づいて卒業研究を進めていく。研究の方法を決定し、文献の収集、講読、要約等を行い、中間発表を通して、研究を深めていく。

授業計画

- 1 演習Ⅲにおけるオリエンテーション
- 2 卒業研究の方法等の確認
- 3 卒業研究の執筆手順やスケジュールの確認を行う。
- 4 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。①
- 5 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。②
- 6 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。③
- 7 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。④
- 8 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。⑤
- 9 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。⑥
- 10 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。⑦
- 11 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。⑧
- 12 卒業研究中間報告を行う①
- 13 卒業研究中間報告を行う②
- 14 今後の研究の進め方を確認する。
- 15 まとめ

授業の方法

研究内容や取組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

「よくわかる卒論の書き方」第2版 ミネルヴァ書房
各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

卒業研究に対して各自主体的に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	f		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究へ向けて研究テーマを明確にしていくステップとして、自身の研究テーマについて文献や様々なデータに基づきながら調べて解釈し、研究計画を立てる方法を学ぶ。自身の研究テーマを共有し他者との意見交換をしつつ、研究をより深めていけるようにする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究に向けて研究計画を進めつつ、先行研究の文献や関連する文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。また、自身の卒業研究で必要な調査方法の検討と、調査の必要性について検討し研究計画を作成する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 先行研究や関連文献のまとめと発表(1)
- 3 先行研究や関連文献のまとめと発表(2)
- 4 先行研究や関連文献のまとめと発表(3)
- 5 調査方法の検討(1)
- 6 調査方法の検討(2)
- 7 各自の研究(研究法、進行状況)について発表(1)
- 8 各自の研究(研究法、進行状況)について発表(2)
- 9 調査研究について(1)
- 10 調査研究について(2)
- 11 調査研究について(3)
- 12 調査研究と結果のまとめについて(1)
- 13 調査研究と結果のまとめについて(2)
- 14 再リサーチの検討
- 15 まとめ

授業の方法

ディスカッションを中心とする。個人研究テーマについて調べて発表を行い、その後個別に指導を行う。中間発表を行い、多様な意見を聞き、さらなる調べにつなげる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業内でフィードバックや助言を行う。
平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

主体的に授業や課題に取り組み、他の意見にも耳を傾けながら自らの研究に活かすこと。
提出物は期限を守ること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究を完成させる。研究する視点や態度と論理的に書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 演習と卒業研究の進め方
- 2 研究発表と質疑応答 1
- 3 研究発表と質疑応答 2
- 4 研究発表と質疑応答 3
- 5 研究発表と質疑応答 4
- 6 研究発表と質疑応答 5
- 7 研究発表と質疑応答 6
- 8 研究発表と質疑応答 7
- 9 研究発表と質疑応答 8
- 10 研究発表と質疑応答 9
- 11 研究発表と質疑応答 10
- 12 卒業研究の要約
- 13 卒業研究の修正
- 14 卒業研究の発表
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

自分のこだわり・気掛かりを大切にテーマを決める。そのテーマにそって研究を続けながら文章表現の力をつける。それらの成果を卒業研究としてまとめる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

個々のテーマに即してディスカッションを多く採り入れて指導する。さらに、正確な情報を選択、採用する資質能力を養い卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 卒業研究の概略説明
- 2 卒業研究の計画、作成の確認
- 3 卒業研究の報告と討議 1
- 4 卒業研究の報告と討議 2
- 5 卒業研究の報告と討議 3
- 6 卒業研究の報告と討議 4
- 7 卒業研究の報告と討議 5
- 8 卒業研究の報告と討議 6
- 9 卒業研究の報告と討議 7
- 10 卒業研究の報告と討議 8
- 11 卒業研究の報告と討議 9
- 12 論文推敲 1
- 13 論文推敲 2
- 14 最終報告と討議
- 15 まとめ

授業の方法

学生同士で論文の方向性や課題を発表し合い、コミュニケーション能力を高める手立てとする。

準備学修

選考文献を多く収集し、熟読すること

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

個々に応じて指示する

参考図書

個々に応じて推薦する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力する。そして、自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）I（知性）E（倫理）を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、考察をより深めるようにする。

授業計画

- 1 分析結果報告・仮説の検証①
- 2 分析結果報告・仮説の検証②
- 3 分析結果と考察①
- 4 分析結果と考察②
- 5 分析結果と考察③
- 6 分析結果と考察④
- 7 分析結果と考察⑤
- 8 研究のまとめと総合考察①
- 9 研究のまとめと総合考察②
- 10 今後の課題について
- 11 分析結果一覧表の作成
- 12 卒業研究の校正①
- 13 卒業研究の校正②
- 14 最終発表と調整
- 15 まとめ
- 16

授業の方法

各自の調査結果の報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う
- ②平常点70％、定期試験30％
- ③卒業研究ループリックに最終自己評価を記入する

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意欲と責任感を持ち続けること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 調査結果のまとめ1
- 2 調査結果のまとめ2
- 3 調査結果のまとめ3
- 4 結果報告1
- 5 結果報告2
- 6 結果報告3
- 7 結果報告4
- 8 まとめと考察1
- 9 まとめと考察2
- 10 まとめと考察3
- 11 要約作成・発表1
- 12 要約作成・発表2
- 13 要約作成・発表3
- 14 研究発表1
- 15 研究発表2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題の提出状況、演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

1回の欠席につき5点、遅刻につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する

留意事項

心理統計法を受講していることが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	必修	2	公立保育所保育士・私立保育園保育士			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、色々な角度から研究を見直し、卒業研究を完成させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 卒業研究の進捗状況の確認①
- 2 卒業研究の進捗状況の確認②
- 3 卒業研究の進捗状況の確認③
- 4 卒業研究の報告と討議①
- 5 卒業研究の報告と討議②
- 6 卒業研究の報告と討議③
- 7 卒業研究の報告と討議④
- 8 卒業研究の報告と討議⑤
- 9 卒業研究の報告と討議⑥
- 10 卒業研究の報告と討議⑦
- 11 卒業研究の修正とまとめ
- 12 卒業研究の要約
- 13 卒業研究の修正
- 14 卒業研究の発表
- 15 まとめ

授業の方法

研究内容や取り組み状況の報告・発表を通して、討議することを中心に授業を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

「よくわかる卒論の書き方」第2版 ミネルヴァ書房
各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

授業中に必要に応じて紹介する。

留意事項

卒業研究に対して、各主体的に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	f		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究完成に向けて、また保育や教育などに関する研究を深めていくものとして様々な観点や探求心を身につけ、具体的に根拠に基づきながら物事を解釈し考察の方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究作成に向けて、各自の研究テーマに沿った個別指導を実施する。また、卒業研究執筆に向けて執筆手順や具体的な方法を全体指導する。研究経過の発表やディスカッションを行い各自調整をしていく。

授業計画

- 1 調査結果・分析のまとめ発表(1)
- 2 調査結果・分析のまとめ発表(2)
- 3 調査結果・分析のまとめ発表(3)
- 4 調査結果・分析のまとめ発表(4)
- 5 研究結果から読み取る考察(1)
- 6 研究結果から読み取る考察(2)
- 7 研究結果から読み取る考察(3)
- 8 研究結果から読み取る考察(4)
- 9 卒業研究の総合的なまとめと考察(1)
- 10 卒業研究の総合的なまとめと考察(2)
- 11 卒業研究の総合的なまとめと考察(3)
- 12 卒業研究の要約作成(1)
- 13 卒業研究の要約作成(2)
- 14 卒業研究発表と討議・修正(1)
- 15 卒業研究発表と討議・修正(2)

授業の方法

ディスカッションを中心とする。個人研究テーマ決定後、個別に指導を行う。中間発表を行い、多様な意見を聞き、さらなる調べにつなげる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業内でフィードバックや助言を行う。
平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

主体的に授業や課題に取り組み、各自で計画的に行動することが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉		クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学				17201	I	秋	
担当者名		区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎		必修	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。特に以下の点を重視する。

1 認知機能の発達 2 自己と他者との関係の在り方と心理的発達 3 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 4 発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 5 高齢者の心理
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開をとつての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する。さらに特に以下の点を重視する。

1 認知機能の発達 2 自己と他者との関係の在り方と心理的発達 3 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 4 発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 5 高齢者の心理

授業計画

- 1 精神機能を発生的に把握すること 生物としての発生
- 2 精神機能を発生的に把握すること 遺伝と環境
- 3 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
- 4 知的精神機能の発達:感覚運動期1（新生児期）
- 5 知的精神機能の発達:感覚運動期2（乳幼児期）・運動の発達
- 6 知的精神機能の発達:前操作期1（幼児期）・言語の発達
- 7 知的精神機能の発達:前操作期2（幼児期）・認知の発達
- 8 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
- 9 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降) 学習活動の在り方
- 10 初期経験と発達:野生児の例から
- 11 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
- 12 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達

- 13 発達研究における生態学的視点
- 14 発達における障害の位置づけと診断・療育
- 15 人格としての生涯発達およびまとめ
- 16

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき5点の減点とする

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』培風館
川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』福村出版 2010

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉		クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情・人格心理学				17311	I	春	
担当者名		区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子		選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学の様々な理論、人格の形成要因や発達過程、感情が行動におよぼす影響、心の病などの視点から人格とは何かを学び、人間の個性を理解することで人間の心に関する理解を深める。「感情に関する理論及び感情喚起の機序」、「感情が行動に及ぼす影響」、「人格の概念及び形成過程」、「人格の類型、特性等」について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を学ぶ。

授業の概要

人間の行動の仕方には個人差があることから人格という言葉がうまれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、人格の形成過程や人格理論、さらには不適応の問題についても学び、自己と他者のより深い理解をめざす。

授業計画

- 1 はじめに:人格の定義と歴史
- 2 人格を理解する観点と理論Ⅰ:理論
- 3 人格を理解する観点と理論Ⅱ:類型論
- 4 人格を理解する観点と理論Ⅲ:特性論
- 5 人格の発達Ⅰ:人格形成の要因
- 6 人格の発達Ⅱ:ライフサイクル
- 7 人格と関係性
- 8 人間関係と性格(適性)
- 9 適性とやる気
- 10 適応と不適応
- 11 パーソナリティと不適応
- 12 交流分析とTEGⅡ他心理査定
- 13 感情とは何かⅠ—感情に関する理論および感情喚起の機序
- 14 感情とは何かⅡ—感情の進化と行動に及ぼす影響
- 15 総括

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。また、適宜心理検査を紹介する。

準備学修

授業後の復習が必要である。

課題・評価方法、その他

定期試験（50%）、小レポート（20%）、出席状況（15%）、授業後の感想レポート（15%）

欠席について

欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

適宜プリント資料として配布する。

参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』サイエンス社
大山泰宏・佐々木玲仁『感情・人格心理学』NHK出版

留意事項

「授業」は授業者と学生の相互の協力のもとに成立するものであるから、学生諸君は要望、意見を忌憚なく述べて欲しい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学概論			17327	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史の変遷を概観し、臨床心理学の代表的な理論について学習する。その上で、臨床心理学の実際として、心理アセスメントと基本的な心理療法について学ぶ。そして最終的に、臨床心理学における基礎知識とさらに、臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

本講義では、臨床心理学の成り立ちを歴史の変遷を通して概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の理論（人格理論・精神発達理論）を中心に解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントや代表的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解することについて考えてもらう。

授業計画

- 1 臨床心理学とは
- 2 臨床心理学の成り立ち
- 3 こころのしくみとパーソナリティ①フロイトの考え方
- 4 こころのしくみとパーソナリティ②ユングの考え方
- 5 こころの発達理論①エリクソンの考え方
- 6 こころの発達理論②クラインの考え方
- 7 こころの発達理論③マラーの考え方
- 8 こころの発達理論④ウイニコットの考え方
- 9 臨床心理学の実際ー心理アセスメントについて
- 10 臨床心理学の実際ー心理療法とは
- 11 心理療法①精神分析療法・分析心理学派
- 12 心理療法②クライエント中心療法
- 13 心理療法③森田療法・内観療法・遊戯療法
- 14 心理療法④芸術療法・認知行動療法・家族療法
- 15 総括・テスト

授業の方法

講義を中心に進めていくが、授業時間中にわからなかったところなどを確認するために、感想レポートなどの提出も適宜課していく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

テキスト

特に決まったテキストは用いない。

参考図書

授業の中でその都度紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
知覚・認知心理学			17331	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの理解を深める。人の感覚・知覚等の機序及びその障害、また、人の認知・思考等の機序及びその障害についても理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということを、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察していく。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 人間の知覚的特性:視覚
- 3 人間の知覚的特性:聴覚
- 4 人間の知覚的特性:運動感覚と認知
- 5 人間の知覚的特性:空間知覚
- 6 注意と記憶 1
- 7 注意と記憶 2
- 8 イメージ処理
- 9 言語と談話理解 1
- 10 言語と談話理解 2
- 11 推論と問題解決
- 12 思考と言語 1
- 13 思考と言語 2
- 14 社会的認知
- 15 まとめと期末テスト

授業の方法

講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に実験などの活動を通じて毎時間回答しながら学習をすすめる。レポート作

成が課題となる。また小テストも実施する。

準備学修

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

『心理学の最先端』末田啓二編著 あいり出版 2013

留意事項

毎週実験を実施するため、欠席した場合は必ず補習を受け、実験レポートを提出すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学統計法			17339	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安岡 勇輝	選択	2				

授業の到達目標

心理学で用いられる統計手法の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味と、統計に関する基礎的な知識について解説する。講義は、できる限り具体的なデータを学生が扱い、実際の統計の手法について触れ、記述統計から推測統計まで、処理プロセスと統計手法、個々の概念について学んでゆく。

授業計画

- 1 データの性質について①
- 2 データの性質について②
- 3 データの表現
- 4 代表値と散布度
- 5 標準化とは何か
- 6 相関係数とは何か①
- 7 相関係数とは何か②
- 8 標本と母集団①
- 9 標本と母集団②
- 10 統計的仮説検定の考え方①
- 11 統計的仮説検定の考え方②
- 12 ノンパラメトリックな検定
- 13 平均値の差の検定
- 14 データの分散と条件の比較
- 15 試験

授業の方法

講義と単元内容と相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値、散布度、標準化、相関係数、カイ二乗検定、t検定など具体的な計算や検定作業を行いながら、レジメと教科書を用いて学習を進める。

準備学修

事前に記述統計の基本について、復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
吉村寿夫 1998 本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
南原風朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項

本講義では「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学実験			17342	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 心理学実験と統計の基礎知識
- 3 知覚1ーミューラー・リヤー錯覚
- 4 知覚2ーミューラー・リヤー錯覚
- 5 認知・学習1ー鏡映描写
- 6 認知・学習2ー鏡映描写
- 7 記憶と忘却1
- 8 記憶と忘却2
- 9 要求水準1
- 10 要求水準2
- 11 イメージの測定(SD法)1
- 12 イメージの測定(SD法)2
- 13 社会的促進1
- 14 社会的促進2
- 15 まとめ

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。(10時間)

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理的アセスメント			17344	Ⅱ	秋	15名以下、聴講生は聴講料を課せざる。
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被検査者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1 はじめに：心理検査法概論
- 2 東大式エゴグラム
- 3 矢田部・ギルフォード性格検査
- 4 コーネルメディカルインデックス
- 5 BIG FIVE尺度
- 6 津守・稲毛式乳幼児発達診断1
- 7 津守・稲毛式乳幼児発達診断2
- 8 遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9 新版K式発達検査①
- 10 新版K式発達検査②
- 11 新版K式発達検査③
- 12 WISC知能検査①
- 13 WISC知能検査②
- 14 WISC知能検査③
- 15 総括・期末試験

授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法			17345	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	認知症専門病院の心理判定士、児童心理治療施設・児童養護施設の主任セラピスト、臨床心理士・公認心理師			

授業の到達目標

- ・心理学における調査法の基本的な考え方を理解する。
- ・実際に調査を行い、得られたデータを統計的な解析に持ち込み、評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を身につける。
- ・このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究法のとりわけ調査法について、統計的な手法を用い、データ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法について、問題の設定、質問紙の作成、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

授業計画

- 1 質問紙法による人間理解：心理学の各研究法の特徴について学ぶ
- 2 質問紙作成の基礎：心理学の各研究法の特徴と各研究法の長所と短所について、比較しながら学ぶ
- 3 質問紙法の実施方法①：項目作成の基礎と、回答方法の種類について学ぶ
- 4 質問紙法の実施方法②：質問紙法の実施法、特にサンプリングの方法について学ぶ
- 5 質問紙法の実施方法③：質問紙法の実施法の種類と長所・短所、また研究における倫理などについても学ぶ
- 6 コーディングと入力：コーディングと入力の仕方について学ぶ
- 7 心理尺度の作成：心理尺度の作成と、尺度の信頼性と妥当性について学ぶ
- 8 量的資料収集のための質問紙作成：量的資料収集のための質問紙の作成について学ぶ
- 9 質的資料収集のための質問紙作成：質的資料収集のための質問紙の作成、文章完成法と自由記述法を学ぶ
- 10 心理尺度の作成：項目分析と信頼性と妥当性の検討について学ぶ
- 11 データの処理法①質的データの集計：実際のデータを用いながら、質的データの取り扱いについて学ぶ
- 12 データの処理法②平均値の比較：平均値の比較について、t検定を

学ぶ

- 13 データの処理法③相関分析：相関分析について学ぶ
- 14 質問紙法の実践：質問紙法の実践について学ぶ
- 15 質問紙法のまとめ：授業の振り返り、まとめを行う

授業の方法

単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順を教科書を中心に、レジュメ等の資料を用いて講義形式で学習を進める。

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業はテキストに沿って進めるため、テキストを購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学研究法			17387	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学における基礎的な研究方法には様々な方法がある。本講義は「心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）」、「データを用いた実証的な思考方法」、「研究における倫理」について学ぶ。実証的な研究方法、データの分析、研究倫理の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

主に心理学における研究方法の基礎知識について学ぶ。研究計画を立て、データを分析し、考察を加えるという基本的な研究の流れと各研究方法について学び、研究する力を養う。

授業計画

- 1 心理学における研究
- 2 心理学研究の基礎知識
- 3 先行研究の調査
- 4 研究法の概説 量的研究
- 5 研究法の概説 質的研究
- 6 心理統計法 1
- 7 心理統計法 2
- 8 実験法
- 9 調査法
- 10 観察法
- 11 面接法
- 12 研究倫理 1
- 13 研究倫理 2
- 14 研究のまとめ方
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

三浦麻子 著『心理学ベーシック第1巻 なるほど！心理学研究法』北大路書房

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会・集団・家族心理学			17399	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

人は社会の中で生き、他者から影響を受ける存在である。本講義は「対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程」、「人の態度及び行動」、「家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響」について学ぶ。対人関係や集団、人の態度に関わる心の働き、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

主に社会心理学と家族心理学の基礎知識を身につける。集団や対人関係、人の態度に関わる心理学的な知識を学ぶ。また、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。最も身近な集団である家族と家族に関わる心理についても学ぶ。

授業計画

- 1 社会心理学とは
- 2 認知と感情
- 3 自己概念と自己評価
- 4 ステレオタイプ
- 5 態度と態度変化
- 6 対人関係
- 7 集団と個人 1
- 8 集団と個人 2
- 9 組織と個人
- 10 集団行動
- 11 心と文化 1
- 12 心と文化 2
- 13 家族という集団
- 14 家族の心理
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

池田謙一・唐沢 稔・工藤恵理子・村本由紀子 著『社会心理学補訂版』 有斐閣

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論			17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

- 1 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
- 2 子ども文化の意義、定義とその構造
- 3 子どもを取り巻く生活環境の変化
- 4 子どもを取り巻く生活環境について
- 5 現代の子どもたちの遊びと生活
- 6 集団遊びの重要性
- 7 異年齢集団の遊びの重要性
- 8 自然とのかかわりについて（教室を出ての実体験）
- 9 自然の中での遊びの重要性
- 10 伝承遊びについて
- 11 児童文化財について
- 12 1年を通して、季節の子どもの文化と遊び
- 13 季節の遊びについて（お正月）
- 14 子どもを取り巻く「ひと」「もの」「こと」
- 15 まとめ・定期試験

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	PC		17411	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援を発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方として理解する。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を具体的には、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点減点とする

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

授業で指示する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの理解と援助			17412	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅田 裕子	選択	1	公立保育所保育士 私立こども園保育アドバイザー			

授業の到達目標

保育実践において、子ども一人一人の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもが、生活や遊びの中で、何を体験し学んでいくのか、子どもを理解するための基本的な考え方を学ぶ。合わせて子どもの心身の発達や保育実践について学ぶと共に保育における発達援助の基本について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

子どもの発達と学びをとらえ、子どもを理解する際に必要となる様々な視点や方法について、具体的な事例や演習を通して学び、考察する。また特別な配慮を要する子どもへの援助や保幼小の接続、保護者支援など、子どもをめぐる課題についても理解を深めるようにする。

授業計画

- オリエンテーション
- 子どもの発達と保育実践① 子ども理解における発達の把握
- 子どもの発達と保育実践② 保育者のかかわりと子どもの発達
- 生活や遊びを通した学びの過程① 子どもの生活と学び
- 生活や遊びを通した学びの過程② 子供の遊びと学び
- 保育における発達援助① 基本的生活習慣の獲得と発達援助
- 保育における発達援助② 特別な配慮を要する子どもへの理解と援助
- まとめ・定期試験

授業の方法

事例を多く取り入れ講義を進める。またグループ討議や意見発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席数は成績評価に反映する。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考図書

保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）
子ども理解と保育実践（萌文書林）

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽2			17421	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を高めることがねらいである。子どもの発達や現代の環境をふまえ、幅広い表現活動が展開できる保育者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「楽典」については、コード学習に加え、調性やカデンツの学習と演習を重ねる。「歌唱・弾き歌い」については、弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。さらに、「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を、表情豊かに演奏できるようにピアノ技能を高めていく。その際、各自の目標として定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

- コード復習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- こどもの発達と歌唱教材。連弾。
- こどもの発達と歌唱教材。連弾。
- 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
-

授業の方法

前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行

い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法、その他

- ①毎時間ピアノレッスンを行い、フィールドバックを行う。
- ②平常点70％ 定期試験30％
定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の3項目を実施する。授業内で行われる連弾・コード等の小テストは平常点に反映する。
- ③個人の進度に応じて与えられた課題を終えなければ定期試験を受けることはできない。

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

弾き歌いテキスト「マイレパートリー」（yamaha music media corporation）
ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。
授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。
日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと表現（音楽）			17423	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	1				

授業の到達目標

領域「表現」の目標・内容を学び、活動内容や保育者としての配慮を理解するために、音に対する感性を育て、音素材を活かした様々な表現活動を理解し、幼児期の表現活動を展開させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

領域「表現」のねらい及び内容を理解し、幼児の発達に適した様々な表現の知識・技能を学ぶとともに、保育者としての豊かな表現力を培う。

授業計画

- 領域「表現」について
- 幼児の表現活動
- リズムと楽器
- 音を聴く
- 歌うこと、演奏すること
- 歌うこと、演奏すること
- 様々な表現活動を振り返る

授業の方法

講義とその内容に即した演習を実施し、授業の最後に発表を行う。個人、グループ、クラス全体など様々な活動形式をとる。

準備学修

webで参照する。

課題・評価方法、その他

授業での活動は積極的に行うこと。
平常点70％、定期試験30％

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて、提示・紹介する。

参考図書

必要に応じて、提示・紹介する。

留意事項

楽器に触れることが多いので、爪は短く切っておくこと。動きやすい服装で参加すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと人間関係			17434	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解し、幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）I（知性）との育成を目指す。

授業の概要

現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論を理解し、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期に人と関わる力が育つことを理解する。

授業計画

- 子どもと取り巻く人間関係（現代社会と幼児の人間関係）
- 保育における人間関係（領域「人間関係」、園生活の中で育まれる「人間関係」）
- 乳児期の人間関係（0歳児の人間関係、愛着、大人（保育者、保護者）の役割）
- 1歳以上3歳未満児の人間関係（自我の芽生え、遊びと生活、保育者の役割）
- 3歳以上児の人間関係（自我の育ちと自己調整、遊びと生活、保育者の役割）
- 子どもの人間関係と社会性・道徳性（自己理解、他者理解、道徳性の育ち）
- 家庭や地域との連携（保護者と保育者の人間関係、地域、専門機関との連携）
- 保育者が紡ぐ「人間関係」（保育者自身の人間関係、子ども理解）まとめ
定期試験

授業の方法

保育実践の事例等を取り入れ具体的にわかりやすい講義を行う。グループ討議等を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

ワークで学ぶ保育内容「人間関係」 みらい
幼稚園教育要領解説

参考図書

授業内で紹介する。

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。
日頃から人間関係力について考えておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合はオフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC		17437	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）（箕野）私立中学高等学校教員（科目「英語」）（宮副）			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（箕野）

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。（宮副）

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。（箕野）

英米の児童文学の文化と歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外ではフランスの1作品を鑑賞する。（宮副）

授業計画

- 1 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
- 2 「金太郎」・「酒吞童子伝説」
- 3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 4 有島武郎「一房の葡萄」
- 5 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 6 岡田淳「竜退治の騎士になる方法」
- 7 日本の現代児童文学について
- 8 英米の児童文学の歴史
- 9 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- 10 ナーサリーライム（マザーグース）
- 11 L.M.オルコット『若草物語』
- 12 R.L.スティーブンソン『宝島』
- 13 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 14 ペアトリクス・ボター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。（箕野）
講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。（宮副）

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験（レポート）30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。（箕野）

平常点30% レポート（2回）50% 提出物等20%、で評価する。（宮副）

レポートは2回であるが、ミニレポートの提出も2～3回求める。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。（箕野）
『英米児童文化 55のキーワード』白井澄子、笹田裕子編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。（宮副）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと言葉			17439	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

（1）人間の言葉の意義と機能では、人間の言葉の意義と機能を理解し、言葉の発達過程とその特徴について理解すること （2）言葉に対する感覚を豊かにする実践では、言葉の感覚を豊かにする指導について基礎的な知識や、言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を育む基礎的に実践を身に付ける （3）言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財と実践について、その意義について説明できるように、児童文化財を教材とした基礎的な実践を身に付ける、以上を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識を身に付ける。人間らしさの特徴でもある言葉の意義と機能を理解し、幼児の言葉を豊かに育み、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識と技能を身に付ける。

授業計画

- 1 人間の言葉とその機能及び意義
- 2 子どもの言葉の発達過程
- 3 言葉に対する感覚を豊かにすることの重要性
- 4 言葉に対する感覚を豊かにする保育の実践（情報機器及び教材の活用を含む）
- 5 子どもの言葉を豊かに育む児童文化財とその意義
- 6 子どもの言葉を豊かに育む絵本・物語・紙芝居
- 7 子どもの言葉を豊かに育む教材を使った保育の実践（情報機器及び教材の活用を含む）
- 8 子どもの言葉による伝え合いと小学校教育への接続
- 9

授業の方法

講義とディスカッション、発表を取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出や教材提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年 株式会社フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説』平成30年 株式会社フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』平成30年 株式会社フレーベル館

参考図書

太田光洋、古相正美、野中千都『保育ニュー・スタンダード 保育内「言葉」一話し、考え、つながる言葉の力を育てる』2021年 株式会社同文書院 その他適宜配布する

留意事項

日頃から、絵本に親しみ読書量を増やすように努めること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨佳	選択	2				

授業の到達目標

乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。乳幼児期の発達過程における基本的な理論や知識を身につけ、乳幼児に対する理解を深める。また、人の一生の中で乳幼児期がどのような時期なのかについて考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

保育者として実践にかかわる際に、子どもの発達理論の基礎と、発達をとらえる視点を身につけておく必要がある。そのため、この授業では特に乳幼児期の身体・運動、認知、言語発達の過程について、新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさと多様性についての知識を深めるとともに、環境構成された保育場面で対人的な相互作用に着目しつつ学びを深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション:子ども観・保育観と発達
- 2 子どもの発達と環境
- 3 子どもの身体的機能と運動の発達
- 4 子どもの情動や感情と社会性の発達
- 5 乳児期の知覚・認知発達
- 6 乳児期の感覚運動発達
- 7 乳幼児期の言葉の獲得と発達
- 8 子どもの心理的な発達(心の理論)
- 9 幼児期の認知発達(思考と行動)
- 10 子どもの自己中心性
- 11 発達障害の理解と心理①ASDと療育
- 12 発達障害の理解と心理②SLDとADHD
- 13 対人的なコミュニケーションを通じた発達
- 14 子どもの特性に応じた学びの体験や環境の構成
- 15 子どもの発達課題と学びを支える保育者の役割や対応

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

適宜配布する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・言語心理学			17447	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

人は言語を獲得することを通して、思考や行動の統制、気持ちを表現する力を身に付ける。本講義は「人の行動が変化する過程」と「言語の習得における機序」について学ぶ。人が新たに行動を獲得する心理学的な理論及び、言語を獲得する発達過程、言語の持つ力、心理学のナラティブ理論について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

子どもの行動の学習とことばの発達過程について学ぶ。前半は、人が新しい行動を身に付ける過程を示した学習理論や、動機づけ、認知について学ぶ。後半は、言葉の発達過程を中心に、言葉と自己、思考、行動のコントロールについて学ぶ。また、言葉に関わる心理学の分野であるナラティブについても学ぶ。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 学習理論1
- 3 学習理論2
- 4 学習理論と動機づけ
- 5 自己とことば1
- 6 自己とことば2
- 7 ことばの発達1
- 8 ことばの発達2
- 9 ことばの発達3
- 10 ことばの発達4
- 11 思考とことば
- 12 行動のコントロール
- 13 ことばを育むために
- 14 ことばにおけるナラティブ理論
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、具体例を紹介しつつ、基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

毎日30分程度、予習・復習を行う。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

松川利広監修 横山真貴子編著 『子どもの育ちとことば』教育情報出版

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと環境			17454	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解し、幼児期の思考・科学的概念の発達や幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成を目指す。

授業の概要

領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児の身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。

授業計画

- 1 保育と環境
- 2 領域「環境」のとらえ方と考え方
- 3 保育環境の構成
- 4 人的環境（友だちや保育者とともに育つ）
- 5 物的環境（豊かな生活を育む環境をデザインする）
- 6 自然環境（生き物や植物、自然の事象に関心をもつ）
- 7 社会的環境（自分と取り巻く社会の文化にふれる）・子どもを守る安全な環境
- 8 まとめ

授業の方法

保育実践の事例等を取り入れ、具体的にわかりやすい講義を行う。グループ討議等を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

新時代の保育双書 保育内容環境 第3版 みらい
幼稚園教育要領解説

参考図書

授業内で紹介する

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを心掛けること。
日頃から環境について考えておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語科指導法			17467	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容（1）年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容（2）教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容（3）ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究（1）音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法（ワークショップ）（1）音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究（2）文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法（ワークショップ）（2）文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究（3）表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法（ワークショップ）（3）表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究（4）言語使用の場面・背景（物語）に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法（ワークショップ）（4）物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can・Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点30％、プレゼンテーション50％、レポート20％

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキスト 『小学校英語はじめる教科書 改訂版』 吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

専門分野科目 くこどもの生活世界	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	PC		17469	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	2	児童英語講師、児童英語・小学校英語指導者養成指導、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュⅠで体験した指導法を活用し、年齢・発達過程にあった指導案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した指導法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、指導案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

- 1 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「指導案作成のポイント」
- 2 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成法」
- 3 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「指導案草案発表」
- 4 実習授業指導案作成(1)『教材研究』
- 5 実習授業指導案作成(2)『教具作成』
- 6 実習授業指導案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 7 実習授業指導案発表と模擬授業
- 8 第1回 小学校英語活動 実習授業
- 9 実習リフレクション
- 10 実習授業指導案作成(4)『教材研究・指導案発表』
- 11 実習授業指導案作成(5)『教具作成』
- 12 実習授業指導案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 13 実習授業指導案発表と模擬授業
- 14 第2回小学校英語活動 実習体験
- 15 まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成
- 16

授業の方法

指導案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の指導・支援を実際に現場で体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、レポート30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、教材配布

参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂
『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店
『小学校英語 はじめる教科書』小川隆夫・東仁美 mpi

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

専門分野科目 くこどもの生活世界	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽4			17477	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

豊かな感性と表現を育てることができる指導者を目指すために、領域「表現」についてのねらい・内容を理解し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう教材を研究し、実践する方法を修得する。
この授業ではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）とS（奉仕）を身につける。

授業の概要

領域「表現」の目標・内容を学び、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を修得する。まず合奏の演習を通して、手拍子・リズム奏・リズム遊び等からリズムについての理解を深め、合わせて合奏譜を各自で作成することにより、楽典・読譜の基礎を固める。そして、日々の活動に必要な弾き歌いの演習を通して、実習に向けて模擬授業の実践を行う。さらに、実習や表現活動に必要なピアノ演習やグループのテーマによる活動の練習から、総括として現場で実践するための指導力を身につけていく。

授業計画

- 1 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
- 2 わらべうたと子どもの歌など歌唱教材研究と演習。
- 3 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
- 4 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
- 5 打楽器の奏法とリズム合奏。
- 6 合奏演奏と編曲法。
- 7 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
- 8 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
- 9 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
- 10 指導の実践。
- 11 指導の実践。
- 12 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
- 13 さまざまな表現活動とそのまとめ。
- 14 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
- 15 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
- 16

授業の方法

実技が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①項目ごとにテスト、発表を実施し、フィールドバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30% レポート提出も求める。

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『弾こう♪歌おう♪子どもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。
音楽に合わせた身体表現発表が適宜あるので、動きやすい服装で受講すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職小		17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

『教育相談ワークブック』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著 北樹出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
地域子育て支援 I			17502	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割が明確化され、幼稚園や保育所で子育て支援について様々な場や対象に即した支援を行っている。その中で地域の子育て家庭に対する支援について、実践を通し具体的に理解し、積極的に取り組んでいける保育者を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養う。

授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園、保育所、地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を目指している学生が何故子育て支援が必要なのか、親子が求める子育て支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践を積極的に体験する。

授業計画

- 1 子育て支援とは何か。(DVD視聴「子育て支援とは？」)
- 2 地域子育て支援事業拠点における支援
- 3 地域子育て支援の取り組みへの参加(1)
- 4 地域子育て支援の取り組みへの参加(2)
- 5 地域子育て支援の取り組みへの参加(3)
- 6 地域子育て支援の取り組みへの参加(4)
- 7 地域子育て支援の取り組みへの参加(5)
- 8 振り返りとまとめ。

授業の方法

演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺顕一郎編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

受講者は子育て支援に関心のあるもの。本学が行う子育て支援事業「海星子育てひろば」に参加し、実践を行い子育て支援の理解を深め、また、保育技術の向上を図る。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
地域子育て支援 II			17503	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割が明確化され、幼稚園や保育所で子育て支援について様々な場や対象に即した支援を行っている。その中で地域の子育て家庭に対する支援について、実践を通し具体的に理解し、積極的に取り組んでいける保育者を旨とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養う。

授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園、保育所、地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を旨としている学生が何故子育て支援が必要なのか、親子が求める子育て支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践を積極的に体験する。

授業計画

- 1 地域子育て支援Ⅰの振り返り。
- 2 地域子育て支援の取り組みへの参加(1)
- 3 地域子育て支援の取り組みへの参加(2)
- 4 地域子育て支援の取り組みへの参加(3)
- 5 地域子育て支援の取り組みへの参加(4)
- 6 地域子育て支援の取り組みへの参加(5)
- 7 地域子育て支援の取り組みへの参加(6)
- 8 振り返りとまとめ。

授業の方法

演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺顕一郎編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

受講者は子育て支援に関心のあるもの。本学が行う子育て支援事業「海星子育てひろば」に参加し、実践を行い子育て支援の理解を深め、また、保育技術の向上を図る。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論			17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員（福祉事務所長・障がい児療育センター所長）、社会福祉士			

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に多様なボランティア活動に参加することを目標とする。またボランティア論の講義を通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを旨とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議などを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」「ボランティアの意義と課題」などを授業を通じて考えていく。まず基本理念や歴史、組織や活動の実態についての概略を学んだあと、人と防災未来センターや国際協力機構関西センター（JICA関西）での学習により内容を深めていく。次に各分野のボランティア活動の現況を学び、社会福祉施設での授業やボランティア実習も行う。これらの多様な視点からの学びによりそれぞれにとってのボランティアの意義や参加意識を深めていくことがねらいである。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ボランティアの基本理念(ボランティアを考えるために)
- 3 ボランティアの歴史
- 4 人と防災未来センター及び国際協力機構関西センター(JICA関西)での実習(土曜日)
- 5 災害とボランティア活動(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
- 6 国際社会とボランティア活動(JICA関西の事業を中心に)
- 7 社会福祉施設でのボランティア活動
- 8 社会福祉施設での授業とボランティア実習1(土曜日)
- 9 社会福祉施設での授業とボランティア実習2(土曜日)
- 10 子どもの貧困とボランティア活動
- 11 環境問題とボランティア活動
- 12 地域社会とボランティア活動
- 13 医療福祉とボランティア活動
- 14 プレゼンテーション(ボランティア論で学んだことを発表)

15 まとめとしての講義の後、ボランティア論のレポート提出を求めらる。

授業の方法

講義を主体としながらディスカッション、プレゼンテーションや視聴覚教材を取り入れていく。また人と防災未来センターや国際協力機構関西センター（JICA関西）での実習及び社会福祉施設での実習に参加する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 40%、プレゼンテーション 10%、レポート 50%で評価します。

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

留意事項

- 1. 人と防災未来センターと国際協力機構関西センター（JICA関西）での学習に参加すること（土曜日1回）
- 2. 社会福祉法人での授業とボランティア活動を体験すること（土曜日1回）

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと表現（造形）			17510	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

(1) 乳幼児の表現の発達過程を理解できるように、表出から表現に至る乳幼児の心身の発達を説明できることや、表現を豊かにする題材、事物との出会いの重要性を説明できるようになること、
(2) 保育における身体・音楽・造形等の多様な表現に関する知識・技能を身に付けるように、イメージを豊かに育み、情緒を安定させ自分らしい表現ができることや、多様な表現を組み合わせたり、鑑賞したりして豊かな感性を育むことの説明ができるようになることを目指す。また協同活動により豊かな表現につなげていくことの大切さがわかることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

豊かな感性や表現する力を養う領域「表現」の指導の基盤となる、幼児期の表現やその発達、創造性や感性を育む環境構成等の知識・技能・表現力を身に付ける。

授業計画

- 1 領域「表現」のねらいと内容、造形表現の理解
- 2 乳幼児の表出から表現へかく・つくるに着目した発達の特徴と過程
- 3 身近な自然を体感し、身体の諸感覚を通して表現する
- 4 素材の特性を知り、発達に即して具体的な表現にいかす
- 5 イメージを豊かにする題材、事物との出会いと環境構成
- 6 鑑賞活動と豊かな感性（情報機器及び教材の活用を含む）
- 7 仲間と創る総合的な表現活動の楽しさ—絵本や物語をいかしたパフォーマンス・アーツへ—
- 8 乳幼児の素朴な表現の分析・評価、定期試験
- 9

授業の方法

講義に加え、実技や鑑賞活動を取り入れる。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①課題レポートや作品の提出を求め、授業内にフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点の減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』株式会社フレーベル館

参考図書

樋口一成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』2018年（株）萌文書林、その他適宜配布する

留意事項

日頃から作ったり描いたりすることを生活に取り入れれたり、様々な自然・人工素材に親しんだりしておく

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語			17511	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的な項目に従って身に付ける。毎回「10分間 Classroom English」を行う。

授業計画

- 1 小学校英語教育の目的(1)小学校学習指導要領の理解
- 2 小学校英語教育の目的(2)世界の言語政策事情
- 3 小学校英語教育の目的(3)異文化理解
- 4 小学校英語教育の目的(4)児童文学
- 5 第2言語習得研究(1)年齢と言語習得
- 6 第2言語習得研究(2)学習と環境
- 7 第2言語習得研究(3)学習者要因、指導者要因
- 8 第2言語習得研究(4)児童期の第2言語習得における語彙習得
- 9 第2言語習得研究(5)児童期の第2言語習得における文法習得
- 10 第2言語習得研究(6)児童期の第2言語習得における音声習得
- 11 技能の育成(1)リスニング
- 12 技能の育成(2)スピーキング
- 13 技能の育成(3)リーディング
- 14 技能の育成(4)ライティング
- 15 まとめ、小学校英語指導に求められる資質と能力

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス 2021
『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
その他、必要に応じて、随時紹介する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育			17513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 正実	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校学習指導要領、及び幼稚園要領に基づき、教材の実技を体験する。教材の概略を知って、運動学習の工夫を学ぶ。グループワークを通してKSAISEIパーソナリティK（思いやり）とA（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校体育の教材内容に繋がる実技を通して、運動の楽しさを感じ取る。またグループ活動を通じて、他への思いやりや仲間とのつながりの大切さを学ぶ予定である。

授業計画

- オリエンテーション。自己紹介。初等体育の学習内容について概略を講義、班分け・準備運動をする。
- 体づくり運動系 体ほぐしの運動の実技をする。
- 体づくり運動系 体の動きを高める運動の実技をする。
- 陸上運動系 ①走の運動遊び ②障害走 等をする。
- 陸上運動系 ①幅、高跳び遊び ②投の運動 ③リレー 等の実技をする。
- 集団行動について学び、その実技をする。
- 器械運動系 固定施設を使った運動遊び・マット運動の実技をする。
- 器械運動系 跳び箱運動の実技をする。
- 器械運動系 マット・跳び箱運動実技をする。
- ボール運動系 鬼遊び、ドッジボール・ボール蹴り等のゲームをする。
- ボール運動系 ベースボール型のゲームをする。
- ボール運動系 ネット型のゲームをする。
- ボール運動系 ゴール(サッカー)型のゲームをする。
- ボール運動系 ゴール(バスケットボール)型のゲームをする。
- 学習のまとめ、体育学習の工夫等について実技・講義をする。

授業の方法

体育の実技を行う。グループ活動を主として、運動の方法や工夫を話し合い、ともに楽しく運動する予定である。

準備学修

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育篇、」、令和2年度版「神戸市小学校体育指導の手引き」を元にした資料等を読み、体育指導について、事前学習及び、復習等を60時間行う。

課題・評価方法、その他

平常点30点、毎時の小テスト（学習カード等）70点

欠席について

欠席はなるべくしない。実技なので参加することに意義がある。

テキスト

使用しない

参考図書

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育篇 令和2年度版神戸市小学校体育指導のてびき

留意事項

登校できるなら欠席をしない。見学も学習であることを学ぶ予定である。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと健康			17514	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

- 乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する
- 乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する
- 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する
- 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する、以上の4点について理解し、保育指導力（立案・実施・評価・改善）につながる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）K（思いやり）を養う。

授業の概要

健康の定義、乳幼児期の健康の意義について詳説する。また、安全教育や怪我・事故については日頃の報道内容に注目し、ICTを活用したり協働学習での発表やディスカッションを行ったりしてPBL（課題解決型）学習を行う。そして、運動を遊びや日常生活に取り入れる保育実践から領域「健康」の内容を理解し、領域「健康」の指導の基盤となる知識・技能を身に付ける。

授業計画

- 健康の定義と乳幼児の健康
- 乳幼児期の心身の発達とその特徴
- 乳幼児期の生活習慣の形成とその意義
- 乳幼児期の安全教育とリスク・ハザード
- 乳幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防
- 乳幼児期の運動発達とその特徴
- 乳幼児期の日常生活と集団生活における運動遊び
- まとめを行ってから試験をする

授業の方法

参考資料を配布する。運動遊びの指導案の分析や協働学習と発表を取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％

欠席について

欠席1回につき2点減点、遅刻1回につき1点減点

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』株式会社フレーベル館

参考図書

適宜紹介する

留意事項

日頃から自分の心と体の健康維持に留意し、保育者として子どもに明るく元気な姿で毎日接することができるように努める。また、乳幼児期の体や運動、事故に関する情報に着目し、その特徴を捉えるようにすること。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職小		17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

- 1 教育の理念と目的について理解する。
- 2 教育に関する歴史及び思想について理解する。
- 3 日本と諸外国の学校制度について理解する。
- 4 現代社会における教育の現状と課題について理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と講義概要について説明する。
- 2 人とは？教育とは？
- 3 学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
- 4 学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
- 5 教育に関する法規
- 6 現行法における日本の学校教育の目的
- 7 教育課程と教育内容
- 8 学習指導要領の変遷
- 9 教師の仕事と専門性
- 10 よい授業とは
- 11 現代社会と教育問題－いじめ・不登校問題など
- 12 教育改革の新しい動きと方向について
- 13 日本と諸外国の教育制度
- 14 生涯学習の意義と生涯学習の機会
- 15 まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関しての思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

- ・「問いからはじめる教育学」【改訂版】 勝野 正章・庄井 良信著
出版社：有斐閣
- ・取得を希望する校種の学習指導要領総則解説
その他 必要に応じて資料を配付

参考図書

- ・「はじめての子どもの教育原理」 福元真由美著 出版社：有斐閣
- ・「やさしい教育原理」 田嶋 一他著 出版社：有斐閣
- ・「教育の原理を学ぶ」 遠藤 克弥・山崎 真之著 出版社：川島書店

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子ども家庭福祉			17523	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
久松 睦典	選択	2	公立中学校スクールカウンセラー			

授業の到達目標

現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。どのようにして地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題を考察し、その実態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶ。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 子ども家庭福祉とは
- 3 子ども家庭福祉のあゆみ
- 4 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
- 5 子どもと家庭を支援する法律の体系
- 6 子どもと家庭を支援する制度の体系
- 7 子どもと家庭を支援する施設の体系
- 8 子どもと家庭を支援する専門職
- 9 子どもと家庭を支援する活動方法
- 10 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－虐待について
- 11 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－親子関係
- 12 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－非行
- 13 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－保育
- 14 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－一人親家庭
- 15 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－貧困

授業の方法

講義のテーマや単元に応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

準備学修

できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点減点し、欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

吉田眞理編『児童の福祉を支える子ども家庭福祉』萌文書林

参考図書

適時紹介する。

オフィスアワー

講義の前後

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒障害児・知的障害児教育			17539	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

- 1 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
- 2 保育士・教師としてできる個別配慮
- 3 介助者が加わったときの役割
- 4 室内トラブルへの対応その1 解決のポイント
- 5 室内トラブルへの対応その2 たち歩きやエスケープ
- 6 室内トラブルへの対応その3 人間関係のトラブル
- 7 室内トラブルへの対応その4 パニックを起こしたときの対処
- 8 保護者とともに子どもを育てるその1 保護者面談の進め方
- 9 保護者とともに子どもを育てるその2 親から学ぶ支援のあり方
- 10 周りの子どもやその保護者への対応その1 周辺の子どもの
- 11 周りの子どもやその保護者への対応その2 保護者に対して
- 12 チーム支援その1 確かな情報を共有する
- 13 チーム支援その2 実態の把握方法
- 14 チーム支援その3 組織的支援の進め方
- 15 学校・園に合ったチェックリストを作成
- 16

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グルーブトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
福祉心理学			17543	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	認知症専門病院の心理判定士、児童養護施設・児童心理治療施設の主任セラピスト、臨床心理士・公認心理師			

授業の到達目標

- ・福祉心理学関連の法・制度・用語を理解できる。
- ・福祉現場において生じる問題及びその背景について理解できる。
- ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。
- ・虐待についての基本的知識を身につける。
- ・このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのS（奉仕）とE（倫理）を養う。

授業の概要

福祉心理学の分野は幅広く支援対象者もさまざまであり、必要となる支援内容も多岐にわたる。しかし人の安全・安心を保障し、安定した生活へと支援していくという点では共通している。このクラスでは福祉領域における心理臨床について、まずは福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を総論的に学び、その後に福祉心理学的心理支援の実践について実践内容を中心に学ぶ。その中で虐待をはじめとする福祉現場における心理社会的課題や必要な支援、さらには福祉現場で生じる問題とその背景についても理解し、実践的知識を身につける。

授業計画

- 1 第1章 社会福祉の展開と心理支援
- 2 第2章 総論：生活を支える心理支援
- 3 第3章 暴力被害者への心理支援
- 4 第4章 高齢者への心理支援
- 5 第5章 障害・疾病のある人への心理支援
- 6 第6章 生活困窮・貧困者への心理支援
- 7 第7章 児童虐待への心理支援の実践
- 8 第8章 子どもと親への心理支援の実践
- 9 第9章 認知症高齢者の心理支援の実践
- 10 第10章 ひきこもり・自殺予防の心理支援の実践
- 11 第11章 精神障害者への心理支援の実践
- 12 第12章 家族・職員への心理支援の実践
- 13 第13章 福祉分野での多職種協働と心理職の位置づけ
- 14 第14章 多職種協働実践事例報告
- 15 福祉心理学のまとめ
- 16

授業の方法

授業は基本的に各章のテキストの内容に沿って講義形式で進める。福祉現場への理解を深めるため、適宜レジュメを配布し、実践的知識の習得を目指す。

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

野島一彦・繁樹算男 監修 中島健一 編 2018 公認心理師の基礎と実践⑩ 福祉心理学 遠見書房

留意事項

講義は基本的にテキストの各章の内容に沿って行う。テキストを購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17555	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	選択	1				

授業の到達目標

幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解し、多様な保育者像、環境、考え方と出逢うことによって、自分なりの保育者像・環境イメージを持てるようになる。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容について十分に理解するとともに、教育・保育の歴史の変遷や現在の取り巻く状況を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

幼稚園・保育所等就学前教育における子ども理解、保育の計画、環境の構成、援助の実践について知識や理解を深め、保育者として保育を構想する力や実践力を身につける。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解し、幼児教育の基本や環境を通して行う教育を踏まえて、5領域の保育内容の考え方及び指導方法についての基本的事項を習得する。

授業計画

- オリエンテーション:幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
- 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解
- 保育内容の歴史の変遷
- 子どもの発達の特性(個と集団の育ちを支える保育)
- 幼児教育の目指すもの(環境を通して行う保育・教育)
- 現代の保育の課題(養護と教育が一体的に展開する保育)
- 保育の内容と指導計画
- 遊びを体験する(1)手遊び(教材収集)
- 遊びを体験する(2)作ったもので遊ぶ(教材研究)
- 遊びを体験する(3)手遊びと製作(グループ発表)
- 保育内容の展開(1)小学校との接続を踏まえた保育
- 保育内容の展開(2)家庭や地域との連携をふまえた保育
- 保育内容の展開(3)子育て支援、保育の多様な展開
- 保育内容の展開(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
- まとめ:保育・教育を取り巻く現状と課題や今後の展望

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題の提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点70% 定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）			17601	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

乳幼児の造形表現遊びを指導するための理論と保育実践例を学び、自らの表現力・鑑賞力を高める。教材や用具の扱い方の基礎基本を理解し環境を構成する力や作品を読み取る力、保育指導案を立案し実践する力を身に付ける。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

造形表現における乳幼児の発達や特徴について詳述する。造形表現で扱う材料用具の基礎基本事項と技法について演習を行い、鑑賞活動を通して感性をより高める。教材研究を継続して行い、保育指導案作成のポイントを学び、実践力を身に付ける。造形表現に使う材料を自ら収集し、それらを使って模擬保育や協同学習を行う。授業での制作物の一部は地域や学内の子育ての支援活動に活かす。

授業計画

- 領域「表現」のねらいと内容、乳幼児の造形表現の意義について
- 造形表現における乳幼児の発達と他領域との関連
- 情報機器、視聴覚教材の活用法及び保育指導案の構成と展開
- 地域や美術館との連携、小学校教育への接続
- 園行事やごっこ遊び、お話の世界と造形表現
- 様々な技法や身近な材料、自然物を使った楽しい造形表現
- 模擬保育の実践とカリキュラムマネジメント
- まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義と実習を中心とする。学修のまとめとして模擬保育を行い学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①製作遊びの作品提出、ワークシート、収集した教材の提出、保育指導案の作成と実践を課題とする。講義においてフィードバックを行う。

- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

樋口一成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』2018年（株）萌文書林

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』 株式会社フレーベル館

留意事項

日頃の生活において身近な素材や自然に触れる経験を積み、感性を磨いたり、鑑賞する機会をもったりすること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	選択	2				

授業の到達目標

保育と保育者のあり方について基本的な理解を深め、保育の思想や歴史、制度、内容や方法などについて基礎的な用語を学ぶ。また、今日の保育を取り巻く状況や社会環境、保育所のみならず家庭や地域社会での子育ての問題などにふれ、国内外における子育ての現状と課題を把握し保育の問題をとらえる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

幼稚園や保育所では様々な保育が行われ、多様な保育の考え方が存在する。そこで、子どもを取り巻く近年の社会状況や環境等に視野を広げながら様々な保育課題を考察すると共に、保育の基本的事項（基本原則、保育における養護、目標、内容、環境構成等）や保育の歴史の変遷を踏まえた保育の実践について学びを深める。さらに、幼稚園・保育所と地域との連携（子育て支援活動の実践等）に関する理解及び幼稚園・保育所の安全への対応に関する基本的知識を身に付ける。

授業計画

- 1 オリエンテーション：保育の意義と本質
- 2 保育制度の枠組みとその課題
- 3 保育所の社会的機能と役割
- 4 保育の理念と目的
- 5 保育の目標と方法
- 6 保育者の専門性と資質向上
- 7 日本における保育の思想と歴史
- 8 諸外国の保育の思想と歴史
- 9 保育のねらいと内容
- 10 保育の計画と評価
- 11 子どもの健康と安全
- 12 子どもの発達と保育内容(多様な子どもの理解と保育)
- 13 学校や地域、関係機関との連携と保育
- 14 保育における保護者との連携と子育て支援
- 15 保育の近年の動向と今後の課題・展望

授業の方法

講義を中心とするが、適宜グループワークやディスカッションを取

り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

「シリーズ知のゆりかご つながる保育原理」株式会社みらい

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（小）			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を理解する。教員の資質能力と職務内容について理解し、身につけることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

未来を語るキーワードとして「Society5.0・AI・IoT・ICT・SDGs」が語られ、また学習指導要領、生徒指導要領が改訂され、教育を取り巻く今日の課題が、大きく変わってきている。
このような状況の中、教育の課題を整理しながら、教員の資質や能力の向上、研修方法について学び、さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の学校教育の在り方や、「教職」の意義、教員の役割を考察していく。

授業計画

- 1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義(学校制度の変遷・公教育の目的・学校の組織・教職員研修)
- 2 教育を取り巻く今日的課題
- 3 新学習指導要領がめざすもの ～外国語教育～
- 4 新学習指導要領がめざすもの ～道徳教育～
- 5 生徒指導
- 6 いじめ問題・情報モラルセキュリティ
- 7 教員に求められる資質能力
- 8 教員の服務と義務・働き方改革
- 9 人権教育・教員の人権感覚
- 10 特別支援教育・インクルーシブ教育
- 11 安全・防災教育と危機管理について
- 12 特別活動
- 13 キャリア教育と進路指導・総合的な学習(探究)の時間
- 14 校種間連携・地域連携・チーム学校・コミュニティスクール
- 15 「評価」について・まとめテスト(小論文)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、義務教育関連の情報積極的に収集したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（幼保）			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

教職の意義や教員（保育者）の役割を理解する。接続する学校教育や教員（保育者）をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や、今後の教員（保育者）に求められる資質能力について学び自らの適性を見出す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育や就学前教育の現状について詳述し、調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員・保育士の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師・保育者像を明確にもつようにする。

授業計画

- 1 教職・保育者論の概要について
- 2 教職・保育職の意義
- 3 幼児教育と小学校教育
- 4 教員の歴史、女性と教職・保育職
- 5 学校園の組織と運営
- 6 教員（保育者）の職務内容
- 7 教員（保育者）に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
- 8 学び続ける教員（保育者）へ（教員・保育者のライフステージと研修制度）
- 9 国際化・情報化と教員（保育者）の役割
- 10 学校園における社会体験とキャリア教育
- 11 様々な問題行動とカウンセリングマインド
- 12 特別な支援を要する乳幼児への対応
- 13 チーム学校（園）の意義と実際について
- 14 今後の教員（保育者）に求められる資質・能力（専門職としての教員）
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またワークシート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点 50%、定期試験 50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

古橋和夫（編）『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年（株）萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣
アルマ、文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』、
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士資格と幼稚園教諭免許の併有による「保育教諭」としての社会要請も高まりつつある。教員・保育士を目指す養成校の学生として意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育学原理			17617	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

幼児教育の意義や目的、歴史、今日の幼児教育の課題について理解する。また、幼児教育における「環境」「遊び」の意義や、幼稚園教育要領についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

幼児教育の意義や目的、歴史を学び、そのことを踏まえた上で、幼稚園教育要領を読み解く。幼児教育の実践の様子から、環境構成や遊びにつながる遊びの重要性や、課題を見出しディスカッションや発表を通して、関心を深めていく。

授業計画

- 1 幼児教育の意義
- 2 幼児教育の目的
- 3 子どもの発達と人間形成
- 4 子ども観・教育観の変遷
- 5 諸外国の教育の歴史
- 6 日本の教育の歴史
- 7 子どもの教育に関わる制度と仕組み
- 8 現代の教育課題①
- 9 現代の教育課題②
- 10 幼稚園教育の基本と役割
- 11 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- 12 幼児教育の内容・方法・計画と評価
- 13 多様な幼児教育実践から学ぶ①
- 14 多様な幼児教育実践から学ぶ②
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

参考資料を配布する。DVD視聴やディスカッション、発表を取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点、遅刻1回につき減点1点

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』株式会社フレーベル館

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』は保育者になる上で重要な資料となる。保育の概要を理解し保育者を目指す学生として自学自修に励むこと

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程論			17623	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨佳	選択	2				

授業の到達目標

幼児期の子どもの育ちに関する問題に関心を持ち、それを多角的にとらえて考え子どもの育ちを支えるカリキュラムの特性を理解する。幼児を理解し、適切な評価に基づいて改善していくための基本的な考え方や方法を理解し、基本的な知識と技術を身につける。また、幼児期の教育における教育課程の役割・機能・意義を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

現代社会における幼児教育をめぐる世界的な動向を踏まえ、幼児期に子どもがどのような学びや経験を実現するのか、その枠組みを定めるカリキュラムと教育課程に関する基本的な理解をする。幼児期における教育課程の意義とその編成原理、及びカリキュラム・マネジメント（教育・保育計画と評価）について学び、幼児教育の専門家として求められる知識と技術を身につける。遊ぶ子どもの姿から、豊かな保育や教育を保障するために有効な指導計画のあり方について考える。

授業計画

- オリエンテーション:幼児期の子どもの育ちを考える
- 幼児期の教育課程の役割・機能・意義
- 幼児期教育課程の編成と基本原理
- 幼児期とカリキュラム(1)子どもの育つ環境の変化
- 幼児期とカリキュラム(2)世界の保育カリキュラム
- 園づくりとカリキュラム・マネジメント
- 幼稚園の指導計画の作成、保育所・認定こども園の指導計画の作成
- 幼児理解に基づいた評価
- ねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の考え方と指導計画の関係
- 0歳児、1歳から3歳未満の指導計画について(グループワーク)
- 3歳・4歳・5歳の指導計画について(グループワーク)
- 月の指導計画(月案)の作成について(グループワーク)
- 週の指導計画(週案)の作成について(グループワーク)
- 日の指導計画(日案)の作成について
- まとめ:教育課程をめぐる現状と課題

授業の方法

講義を中心とするが、適宜グループワークを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- 平常点70％、定期試験30％で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

留意事項

図書館にある「保育とカリキュラム」や各領域の指導書や文献を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、保育の視野を広げること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の指導・人間関係			17630	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのとA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。

授業計画

- 領域「人間関係」について
- 子どもの生活の中で育まれる人間関係
- 子どもの遊びの中で育まれる人間関係
- 保育の展開と指導計画
- 指導計画と実践①
- 指導計画と実践②
- 指導計画と実践③発表
- 多様な配慮と保育構想
- 小学校生活への接続
- 地域連携と保育の構想
- 事例検討①
- 事例検討②
- 事例検討③
- 事例検討④
- 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッション、模擬保育を行う。グループディスカッション・模擬保育後は担当教員がフィードバックを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30％、課題レポート（指導案作成）20％、定期試験50％

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

ワークで学ぶ保育内容「人間関係」みらい

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

留意事項

日頃から人間関係力について考えておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要を理解する。言葉を獲得し思いを伝え合うようになるための環境や遊び、指導援助の方法について学ぶ。発達を理解し、生活の流れに即した教材選定力や保育指導案の作成力と実践力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

乳幼児の言葉の発達を詳説し、視聴覚教材を活用して、さらにイメージを確かなものにする。そして、言葉の育ちを促す絵本やお話の教材研究や、保育指導案作成と模擬保育を行う。また、発達に即した教材制作を通して言葉を育む環境を整え、乳幼児の豊かな言葉と言語活動を育てる保育を学ぶようにする。

授業計画

- 領域「言葉」について
- 乳幼児の言葉の育ちを支える要因
- 1歳未満児の発達と言葉の獲得
- 1歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
- 満1歳以上満3歳未満児の発達と言葉の獲得
- 満1歳以上満3歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
- 満3歳以上の幼児の発達と言葉の獲得
- 満3歳以上の幼児の言葉の発達を促す保育と教材
- 言葉の獲得において特別な支援を要する乳幼児への保育
- 豊かな言葉を育む児童文化（歌、手遊び、言葉遊び）（情報機器及び教材の活用を含む）
- 豊かな言葉を育む児童文化（絵本や紙芝居）
- 豊かな言葉を育む児童文化（人形劇やペープサート、パネルシアターやエプロンシアター等）
- 模擬保育実践とカリキュラムマネジメント
- 伝え合い分かり合う楽しい劇遊び（情報機器及び教材の活用を含む）
- まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、言葉を育む保育実践についての発表を加える。また、教材を制作し教育実習や保育実践にいかす。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題シートの提出を求め、模擬保育（乳児用・幼児用読み聞かせ指導案や教材の作成を含む）を行う。講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

岸井勇雄・無藤隆、湯川秀樹[監修]太田光洋[編著]『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 第三版』2018年（株）同文書院

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』 株式会社フレーベル館

留意事項

保育の基礎技術を高めるため、わらべ歌や言葉遊び、絵本、幼児用テレビ番組などに日頃から親しんでおくこと。地域の図書館での企画展示やおはなし会などに関心をもち見ておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護 I			17639	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
曾田 里美	選択	2	児童養護施設職員			

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を養う。

授業の概要

社会的養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを養育する施設では、子どもと家族の育成に積極的にいかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、（１）社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、（２）社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、（３）児童福祉施設などにおける養護の実践を理解し、児童観や施設養護観を身につける。

授業計画

- 1 オリエンテーション 社会的養護トピックス
- 2 私たちが生きる社会
- 3 社会的養護の体系
- 4 施設への入所に至る経過
- 5 施設における生活①
- 6 施設における生活②
- 7 施設における生活③
- 8 施設における生活④
- 9 施設における支援—ライフストーリーワーク—
- 10 施設の利用方式
- 11 利用・契約制度を基本とする施設
- 12 社会的養護の歴史
- 13 施設における支援内容
- 14 里親制度
- 15 まとめ

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じて視聴覚教材等で社会的養護の現状

について理解を深める。また、ディスカッションや発表を取り入れ双方向の授業を行う。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法、その他

評価方法は、平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席以外の欠席は原則認めない。欠席は成績評価において減点する。

テキスト

原田旬哉・杉山宗尚 編著『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』萌文書林、2018、ISBN 9784893472793

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健			17643	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
俊野 尚彦	選択	2	医師			

授業の到達目標

子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く環境の理解などを深める必要がある。そのために以下の項目を理解する。
1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

授業の概要

解剖生理から心の発達、疾病、子供を取り巻く社会制度やビジネスなどについて解説する。
学生自らも情報を集めていく。
※授業計画表は参考記載。予定は受講人数や状況に応じて適宜変更する。

授業計画

- 1 子どもの心身の健康と保健の意義（1）生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
- 2 子どもの心身の健康と保健の意義（2）健康の概念と健康指標
- 3 子どもの心身の健康と保健の意義（3）現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
- 4 子どもの心身の健康と保健の意義（4）地域における保健活動と子ども虐待防止
- 5 子どもの身体的発育・発達と保健（1）身体発育及び運動機能の発達と保健
- 6 子どもの身体的発育・発達と保健（2）生理機能の発達と保健
- 7 子どもの心身の健康状態とその把握（1）健康状態の観察
- 8 子どもの心身の健康状態とその把握（2）心身の不調等の早期発見
- 9 子どもの心身の健康状態とその把握（3）発育・発達の把握と健康診断（Ⅰ）
- 10 子どもの心身の健康状態とその把握（3）発育・発達の把握と健康診断（Ⅱ）
- 11 子どもの心身の健康状態とその把握（4）保護者との情報共有
- 12 子どもの疾病の予防及び適切な対応（1）主な疾病の特徴（Ⅰ）

- 13 子どもの疾病の予防及び適切な対応（1）主な疾病の特徴（Ⅱ）
- 14 子どもの疾病の予防及び適切な対応（1）主な疾病の特徴（Ⅲ）
- 15 子どもの疾病の予防及び適切な対応（2）子どもの疾病の予防と適切な対応

授業の方法

スライドや板書を用いた講義。ゲスト講義や体験・グループワークを予定している。
受講人数や要望に応じて適宜考慮する。

準備学修

授業内容に関するニュース（研究、難病、社会問題など）に関心を持つ。
PC、特にWordやPowerPoint等を各学生が使用することがある。

課題・評価方法、その他

評価方法
①出席を重視
②積極性・授業中の発表や質問など
※状況によってレポートや小テストなどを課す可能性がある。

欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

テキスト

新版よくわかる子どもの保健 丸尾良浩 / 竹内義博 ミネルヴァ書房

参考図書

病気が見える Vol15 小児科

オフィスアワー

授業後

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの健康と安全			17647	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について理解する。関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解する。子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。
※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月厚生労働省）
「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月 厚生労働省）
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。子どもの体調不良等について適切な対応（応急処置や救急処置及び救急蘇生法含む）、感染症対策について具体的に理解する。保育における保健的対応の中で3歳未満児、個別的な配慮を要する子ども、障がいのある子どもへの対応について学ぶ。健康及び安全の管理の実施体制について具体的に理解する。

授業計画

- 1 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
保険における健康及び安全管理①
- 2 保育における健康及び安全管理②
- 3 救急処置及び蘇生法 感染症対策について
- 4 小児救急法【演習】
- 5 小児救急法【演習】

- 6 保育における保健的対応、健康及び安全の管理について
- 7 沐浴指導【演習】まとめ
- 8 まとめ 定期試験

授業の方法

講義及び演習を中心とする。グループワークも取り入れる。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも留意する。
事前に必ずテキストを熟読しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点40％ 課題レポート10％ 定期試験50％

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「子どもの健康と安全」 ななみ書房

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
授業時に随時紹介する。

留意事項

演習については事前に連絡する。小児救急法（演習）の参加を必須とする。
欠席の場合は別途課題提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

子どもの発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子どもの食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。保育者は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）を養う。

授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体の仕組みおよび発達などを理解する必要がある。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状と課題、及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

授業計画

- 1 保育における子どもの食と栄養
- 2 子どもの心身の健康と食生活
- 3 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
- 4 食事の摂取基準と献立作成・調理の基本
- 5 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活(1)
- 6 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活(2)
- 7 幼児期の心身の発達と食生活
- 8 学童期、思春期の心身の発達と食生活
- 9 食育の内容と計画および評価(1)
- 10 食育の内容と計画および評価(2)
- 11 家庭や児童福祉施設における食事と栄養(1)
- 12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養(2)
- 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1)

- 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2)
- 15 子どもの食生活の現状と課題 まとめ

授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる。

準備学修

Webで詳細を参照すること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、課題レポート20% 定期試験50%
授業内での提出物の評価は平常点に入れる。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。
欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」 萌文書林

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の指導・表現（音楽）			17656	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることが出来る指導者を目指し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえて様々な音楽表現活動が展開出来るよう教材を研究し、実践する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

1. 領域「表現」の目標・内容を学び、活動内容や保育者としての配慮を理解する。
2. 音楽の基本となるリズムについて学習し、手拍子やリズム合奏および身体表現活動などの演習を通して、リズムの意義や活動を理解する。
3. 日々の活動に必要な歌唱教材を研究し、子どもの成長に合わせた活動内容や指導方法を修得する。

授業計画

- 1 領域「表現」について・子どもの成長と音楽的発達
- 2 リズム・リズム遊び
- 3 器楽合奏
- 4 器楽合奏
- 5 器楽合奏
- 6 身体表現の音楽
- 7 身体表現の音楽
- 8 身体表現の音楽
- 9 身体表現の音楽
- 10 子どもの歌について(わらべうたと童謡)
- 11 子どもの歌教材研究
- 12 子どもの歌教材研究
- 13 子どもの歌教材研究
- 14 指導案作成と実践
- 15 指導案作成と実践
- 16 授業の振り返りとまとめ

授業の方法

講義内容に則り、演習・発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①授業の課題ごとの発表や演奏に対し、フィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

「あそびうた大全集200」細田淳子著 永岡書店発行
「マイレパートリー」(yamaha music media corporation)

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

爪は必ず切ること。動きやすい服装で受講すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17658	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	1	市教委人権同和教育室指導主事阪神淡路大震災避難所支援市公團異人館副館長県特別活動研究部長			

授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を習得する。さらに、多様な人材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、とI（知性）を養う。

授業の概要

教育計画の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に着け、基本的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画

- 1 教育方法学の歴史
- 2 カリキュラム論
- 3 教科書と学校教育の関係
- 4 授業の構造について
- 5 教育技術論
- 6 授業の方法と実践
- 7 学力と教育評価について
- 8 模擬授業実践(人権教育)、まとめ

授業の方法

最初に、まとめてレジメを配布し授業を進める。レポート作成やロールプレイングに取り組む。

準備学修

WEBで参照（小学校学習指導要領）しておくこと

課題・評価方法、その他

課題：各回の授業中に課題を出すので、レポートを提出すること
評価方法：平常点70%,試験30%

欠席について

やむを得ない事情があるときは事前事後に届け出ること

テキスト

なし

参考図書

小学校学習指導要領解説（総則編）ぎょうせい出版

留意事項

最初に配布した資料をもとに授業を進める。毎回レポートを作成する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育における I C T 活用			17659	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	選択	1				

授業の到達目標

教育におけるICTの活用について現状を知り、理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

初等中等教育におけるICT活用のねらいを理解し、その方法について具体例を通して知る。

授業計画

- 1 学習指導におけるICT活用の考え方
- 2 ICTを活用した学習指導について
- 3 ICT機器について
- 4 興味関心を高めるICT活用の具体的な方法や場面
- 5 一人一人の能力を引き出すICT活用の具体的な方法や場面
- 6 思考や理解を深めるICT活用の具体的な方法や場面
- 7 学習準備と評価に関するICTの活用
- 8 まとめ プログラミング教育

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①講義の中で、キーワード等をもとに振り返りを行う。
- ②評価については、平常点50％、定期試験50％。

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて資料提供する

参考図書

必要に応じて紹介する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
藤田 昌央	選択	2	公立小学校教員、教育委員会指導主事			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践する方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）、I（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、授業の見通しと到達目標の確認
- 2 指導要領と国語科の目標・内容(国語科で付けたい力)
- 3 国語科の学習計画、指導法と評価
- 4 知識及び技能①「言葉の特徴及び使い方」
- 5 知識及び技能②「情報の扱い方」 「伝統的な言語文化」
- 6 知識及び技能③「書写」「読書」
- 7 話すこと・聞くことの内容と指導
- 8 書くことの内容と指導
- 9 音読・朗読の指導
- 10 読むこと(説明的な文章)の指導
- 11 読むこと(文学的な文章)の指導
- 12 模擬授業(選択学年)
- 13 模擬授業(選択学年)
- 14 模擬授業(選択学年)
- 15 国語科におけるICT機器の活用(デジタル教科書及び教材の活用を含む)
- 16

授業の方法

発表やディスカッション、実際の指導を想定した模擬指導、模擬授

業を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①毎時間のふりかえりとレポート（3回）の提出を求め、授業の中でフィードバックを行う。
- ②指導案と模擬授業について、批評とアドバイスをを行う。
- ③評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」東洋館出版
「国語四上かがやき」光村図書

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備やレポート等を含む）を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（幼小）			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒を理解し、学習上又は生活上の困難を把握し、個別的教育的ニーズに対して、他の教職員・他職種・関係機関と連携しながら組織的に対応していくための支援方法を説明することができる。
この授業では、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、よりよい教育方法や支援のありかたについて理解する。このためには、ライフステージを見通した支援について学習する。また、障害種別ごとに障害特性の正確な理解について学ぶ。これらの基礎的な学習をふまえて、個別的教育ニーズに対応していくための支援方法について、検討していく。

授業計画

- 1 ライフステージを見通した支援について
- 2 障害の理解と支援
- 3 発達障害①について
- 4 障害の理解と支援
- 5 発達障害②について
- 6 障害の理解と支援
- 7 知的障害について
- 8 障害の理解と支援
- 9 言語障害について
- 10 障害の理解と支援
- 11 肢体不自由について
- 12 障害の理解と支援
- 13 聴覚障害について
- 14 障害の理解と支援
- 15 視覚障害について
- 16 障害の理解と支援
- 17 病弱について
- 18 障害の理解と支援
- 19 重症心身障害や医療的ケアについて
- 20 障害児保育の基本について

- 12 発達をめざしたさまざまな連携について
- 13 小学校との接続について
- 14 思春期・青年期にむけて
- 15 これからの障害児保育・教育について
- 16

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業後に提出する課題60%
定期試験40%

欠席について

1回の欠席で5点減点とする。

テキスト

特別支援学級はじめての第一歩 坂本裕著

参考図書

適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法			17684	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。指導主事経験あり。総合的な学習の時間では、国際理解のテーマで研究発表会も行う。			

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、発表・討議を通して深めていく。
また、総合的な学習の時間の意義や目標、各小学校の目標に沿った指導計画の作成、授業づくり・指導法についてのポイントを明確にしていく。
KaiseiパーソナリティーのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域の教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。
また、総合的な学習の時間の指導法においては、目標に基づいた指導計画、単元計画の作り方、事例研究、指導案作りを進めていく。

授業計画

- 1 教育課程改定の経緯と基本原則
- 2 教育課程の基準
- 3 学習指導要領の改訂の変遷
- 4 特色ある教育の推進とカリキュラム・マネジメント
- 5 教育課程の編成
- 6 教育課程の授業改善
- 7 教育課程の改善と学校評価(教育課程におけるPDCA)
- 8 児童の発達支援(発達支援と個に応じた指導の充実)
- 9 道德教育推進上の配慮事項(豊かな体験活動、家庭・地域社会・学校間の連携)
- 10 総合的な学習の時間の歴史と目標
- 11 総合的な学習の時間の指導計画
- 12 総合的な学習の時間の実践と評価
- 13 総合的な学習の時間の指導の具体的事例に学ぶ
- 14 総合的な学習の時間の単元計画を作成する。
- 15 教育課程論と総合的な学習の時間の指導法の振り返り・定期試験

授業の方法

学生の発表・論述を大切に、そこから生まれる疑問について理解を深めていく。学校現場での具体的な実践を常にはさむことで、現

場での取り組みについて共感を深めていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマに対して自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。
評価方法：平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「総則」「総合的な学習の時間」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼保）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨佳／森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、保育力における自己の課題を確認するとともに保育者としての役割と責務についての認識を深める。職務への使命感、豊かな人間性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力の基礎を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す。

授業計画

- 1 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
- 2 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任
- 3 保育者の豊かな人間性と対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)
- 4 幼児理解や学級経営
- 5 保育計画案・教材の作成
- 6 保育計画案・教材の発表
- 7 多様な保育・教育を考える①
- 8 多様な保育・教育を考える②
- 9 模擬保育と討議①
- 10 模擬保育と討議②
- 11 事例研究(ロールプレイと相互評価)①
- 12 事例研究(ロールプレイと相互評価)②
- 13 保育の現状と課題、社会の期待
- 14 保幼小の連携と実際
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 平成30年3月』

参考図書

適宜、紹介する。

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

- 1 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
- 2 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
- 3 社会性や対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)についての講義・グループ討議
- 4 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
- 5 保育計画案・学級経営案の作成
- 6 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
- 7 学校園現場の見学・調査①
- 8 学校園現場の見学・調査②
- 9 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
- 10 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
- 11 模擬保育・模擬授業と討議①
- 12 模擬保育・模擬授業と討議②
- 13 事例研究とロールプレイング①
- 14 事例研究とロールプレイング②
- 15 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

課題・評価方法、その他

- ①レポートや作品等の提出物については、担当教員が指導助言を行う。
②評価方法は平常点 70%、定期試験 30% とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅰ	教職幼		17691	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	選択	1				

授業の到達目標

幼児期の子どもの教育と幼稚園教諭の職務についての知識を身につける。その上で、教育実習の基本となる観察力や状況把握力を養い、実習での学びを深められるようにする。教育実習に向けて準備すべきことや心構えを学ぶ。実習記録や指導計画の作成をし、実践力を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）の育成をめざす。

授業の概要

教育実習に向けての事前指導および実習後の振り返りを行う。1週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学ぶ。また、実習生の心得や遵守すべきことについて理解する。実習後の振り返りでは、子ども理解や幼稚園教諭の職務について理解を深めると共に、自らの課題を明確にし、資質向上をめざす。

授業計画

- 1 幼児教育・幼稚園教諭とは
- 2 教育実習の意義と目的、個人目的の設定
- 3 教育実習園の選択と決定
- 4 教育実習園の教育などの理解
- 5 教員に求められる資質
- 6 週間実習に向け、園への依頼の仕方
- 7 実習記録の取り方と記載について
- 8 実習記録の記載に際しての留意事項
- 9 実習に際しての具体的な留意事項
- 10 実習後について(礼状の作成など)
- 11 1週間実習を終えての成果や課題について協議①
- 12 1週間実習を終えての成果や課題について協議・発表②
- 13 実習記録について個人指導及び指導①
- 14 実習記録について個人指導及び指導②
- 15 実習記録について個人指導及び指導と3週間実習に向けての準備

授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、実習園から返却された実習記録や評価をもとに、自らの成果

と課題を明確にする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題の提出を求め、授業内で評価と助言を行う。
②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

基本的に欠席は認められない。必ず全回出席すること。やむを得ず欠席する時は必ず事前に申し出ること。その場合のみ1回につき3点の減点とする。

テキスト

本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」
「あそびうた大全集200」永岡書店

参考図書

「保育とカリキュラム」ひかりのくに社
幼稚園教育指導資料「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」チャイルド社

留意事項

免許取得のための教育実習に向けた授業であることを十分心得ておくこと。
授業内で取り組む内容には、実習園へ提出する書類作成等も含まれる。そのため、提出期限を厳守すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職小		17697	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	1				

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

授業計画

- 1 「介護等体験」の目的と概要
- 2 社会福祉施設 1
- 3 社会福祉施設 2
- 4 介護の心構えと実際
- 5 高齢者の心と身体
- 6 特別支援学校
- 7 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
- 8 「介護等体験」に臨む心構え・留意事項

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校校長会『介護等体験ガイドブック 新フィリア』ジ
アース教育新社

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅱ			17707	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨佳	選択	1				

授業の到達目標

1 週間実習の成果と課題を振り返り、さらに学びを深める3週間実習となるよう自己目標を設定する。教育実習の目的意識を再確認し子どもの年齢にあった指導案の立案、幼児教育や指導などの実践力を身に付ける。実習終了後は評価反省を行い、自己の教育・保育観を見だし幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。

授業の概要

1 週間実習の成果と課題を自ら明確にし、3週間実習に意欲的に取り組めるようにする。実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。指導案の作成や歌唱指導、模擬保育を行い子どもの発達を踏まえた実践力を養う。実習終了後は自らの課題を明確にし、その課題克服に努める。

授業計画

- 1 実習園でのオリエンテーション(依頼電話のかけ方、訪問に際して等)
- 2 指導実習に向けての教材の作成①
- 3 指導実習に向けての教材の作成②
- 4 指導実習に向けての教材の作成③
- 5 絵本の読み聞かせとリズム遊び①
- 6 絵本の読み聞かせとリズム遊び②
- 7 実習園のオリエンテーションを受ける。
- 8 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。
- 9 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成①
- 10 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成②
- 11 実習記録の記入方法について
- 12 実習に向けて留意事項の再確認
- 13 礼状の作成
- 14 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。
- 15 まとめ

授業の方法

実習園の教育方針について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、模擬授業など実践に即した内容で授業を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題の提出を求め、授業内で評価と助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

基本的に欠席は認められない。必ず全回出席すること。やむを得ず欠席する時は必ず事前に申し出ること。その場合のみ1回につき3点の減点とする。

テキスト

「幼稚園教育実習の手引き」本学作成
「あそびうた大全集200」永岡書店

参考図書

「教員をめざそう！」文部科学省
「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

留意事項

免許取得のための教育実習に向けた授業であることを十分心得おくこと。
授業内で取り組む内容には、実習園へ提出する書類作成等も含まれる。そのため、提出期限を厳守すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援市教委同和教育室指導主事公開異人館副館長文部省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基本的な知識を学ぶ。さらに、こども園や学校と地域の連携の取り組みの中から全ての学校種の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 はじめに、公教育について
- 2 教育行政と公教育の仕組み
- 3 教育改革の歴史の概要
- 4 教職教養のまとめ、教育時事
- 5 現代の学校で学ぶもの。
- 6 学校経営と教師力
- 7 学校と地域との連携と協働Ⅰ
- 8 学校と地域の連携と協働Ⅱ
- 9 学校力と課外活動(部活動)
- 10 安全教育、安全管理についての取り組み
- 11 学級経営における効果的な指導法
- 12 学校が災害時に果たす組織的な役割
- 13 学校における危機管理のあり方
- 14 開かれた学校づくり、人権感覚の醸成法
- 15 教育経営の基本(保護者対応と姿勢)・まとめ

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。
レポートを書き、グループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

WEBで世界各国の教育制度や教育の現状、教育方法について事前に調べておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70％、定期試験30％。

欠席について

やむえず欠席する場合は、事前事後に届け出ること。

テキスト

なし。

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。
授業中に配布したレジメや資料等を整理しファイリングしておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
竹安 知枝	選択	2				

授業の到達目標

・保育内容の領域「健康」について、他の領域とも関連させながら、説明ができる。・保育者として必要とされる知識や技能（乳幼児が生活習慣を獲得していくための、子どもとの関り方や援助の方法など）を身に付ける。・小学校の教科等とのつながりも意識した保育が実践できるように、それらのための資質と能力を身に付ける。
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）を養うことを目指す。

授業の概要

乳幼児期の発達（認識・思考や運動発達・生理的発達等）について学習し、この時期の基本的な生活習慣の獲得（食事・睡眠・運動）について、ディスカッションを行い、具体的に考えていく。また、子どもを取り巻く、現在における問題点について焦点をあて、その改善策について多面的に考えながら、保育者としての役割について様々な観点から考察し、発表を行う。そして、指導案の作成や模擬保育を通して、様々な指導場面を想定した保育実践ができるよう、授業を展開していく。

授業計画

- 1 保育内容の領域について
- 2 領域「健康」の全体構造
- 3 乳幼児期の発達 0～3歳児
- 4 幼児期の発達 4～6歳児
- 5 乳幼児期の食事(栄養)と睡眠
- 6 乳幼児期の運動(遊び) 0～3歳児
- 7 幼児期の運動(遊び) 4～6歳児
- 8 日常生活物を使用した遊びと自然遊び
- 9 基本的な生活習慣の獲得(食事・睡眠・運動)・教材の研究(重要な視点)と情報機器の操作方法
- 10 ケガ・病気の予防と感染症
- 11 指導案の作成(1)(書き方の基本)
- 12 指導案の作成(2)(テーマごとの作成)
- 13 模擬保育(1)(実践・振り返り)
- 14 模擬保育(2)(振り返り・改善における視点)
- 15 安全対策・小学校教科とのつながり・まとめ

授業の方法

講義を中心とする。テーマによっては、ディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題や発表に対するフィードバック
グループ発表や提出物に関して、全体へのフィードバックを行う。
- ②評価方法
提出物（レポート）50％ 発表 20％ 学習意欲・授業態度 30％

欠席について

大学の規定に従う。（欠席回数が規定を超える場合は、評価の対象外となる）

テキスト

幼稚園教育要領（平成29年3月）文部科学省

参考図書

授業内で紹介する。

オフィスアワー

授業前後の時間帯に、講師控え室（もしくは教室）で対応します。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

近年の社会の変化にもなっており、子どもを取り巻く様々な環境も従来とは変わり続けている。この現状をしっかりと受け止め、子どもを取り巻く環境のあり方や保育者の役割を理解する。環境が成長過程に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となることを踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。子どもたちが園内外の“自然・文化・人・もの・事象・文字・記号”などに自ら触れ、生きる力を育む直接的体験を積み重ねられる環境を準備するために、保育者自身が様々な環境に対し興味や関心を持ち理解し、子どもの主体性を引き出す為にどのような環境づくりをしていけばいいのか、指導案作成と模擬保育等を通して、保育者自身も常に主体性を持って環境について学び、専門的な能力を身につけていけるようにする。

授業計画

- 1 保育と「環境」
- 2 領域「環境」とは
- 3 子どもの育ちと領域「環境」(DVD視聴「子どもを育む保育の環境」)
- 4 教室を出ての実体験とグループワーク
- 5 子どもを取り巻く自然環境
- 6 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち(DVD視聴「動物を知る」)
- 7 子どもを取り巻く人的環境
- 8 子どもを取り巻く人的環境(事例検討)
- 9 子どもを取り巻く物的環境
- 10 子どもの活動をひきだす保育環境(数量・図形・文字・標識への興味と認識の育ち)
- 11 子どもの活動をひき出す保育環境(教室を出て実体験、DVD視聴)
- 12 子どもの生きる力を育む環境
- 子どもを取り巻く社会的環境

- 13 環境を通した保育の内容・教材研究
- 14 子どもを守り育てる環境
- 気になる子どもと環境
- 15 環境を通した教育・保育の現在の課題
- 16 まとめ

授業の方法

講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%。
レポートの提出や振り替えりテストなどについて講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」岡澤陽子、杉本裕子、平野麻衣子、松山洋平、山下文一、萌文書林

参考図書

保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説 フレーベル館
3,4,5歳児が夢中になる実践「造形遊び」 平田智久監修 ナツメ社
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実体験等を含むので、授業計画が変更する可能性がある為、教務課前のボードをよく注意して見ておくこと

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

幼児期の教育・保育の実践にあたり、基本となる教育内容の再認識と指導力の習得をめざす。この科目ではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児期の教育の基本を再認識するとともに、視覚教材を通して、子どもの生活や遊びの具体について学ぶ。また教材研究と演習、指導案作成と模擬保育を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

授業計画

- 1 幼児の生活と幼稚園の役割、幼児期の発達の特徴
- 2 領域「健康」と指導法①
- 3 領域「健康」と指導法②
- 4 領域「人間関係」と指導法①
- 5 領域「人間関係」と指導法②
- 6 領域「環境」と指導法①
- 7 領域「環境」と指導法②
- 8 領域「言葉」と指導法①
- 9 領域「言葉」と指導法②
- 10 領域「表現」と指導法①
- 11 領域「表現」と指導法②
- 12 子どもの遊びを見取り、保育を構想する
- 13 模擬保育とカリキュラムマネジメント①
- 14 模擬保育とカリキュラムマネジメント②
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

幼稚園生活の様子をDVDを視聴したり、フォトカンファレンスをしたりしながら学修を進める。また、教材作成、演技演習、グループディスカッションなどを通して、指導力の基礎を身に付ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①教材作成や指導案作成、模擬保育実践を行い、授業内で教員によるフィードバックを行う
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』株式会社フレーベル館

参考図書

文部科学省『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』チャイルド本社

留意事項

自分の得意分野をいかす教材作成や指導案作成・保育実践を自信をもって行うことを期待する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児理解の理論と方法（教育相談を含む）			17727	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児の実態に即し、生育環境や集団の中での育ち合い等の多様な環境を背景とした幼児理解の意義を理解する。また、幼児の発達や学びを捉える基礎資料となる観察、記録の基礎的事項、多面的な考察と分析の重要性を理解する。幼児のつまずき等の発達上の課題や保護者の多様な思いに対応する保育者の姿勢やカウンセリングの方法を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践やエピソード記録、カンファレンスの実践を通して、幼児を多面的に理解する力を身に付ける。また、幼児の発達や生育環境など、幼児一人ひとりの実態に即した指導や、専門家を交えたチームでの対応方法、保護者の心情を理解した連携とカウンセリングマインドを基にした支援方法を身に付ける。

授業計画

- 1 保育の場における相談ニーズとカウンセリングマインド
- 2 子どもの発達理解と相談・支援
- 3 保護者理解とその対応(1)
- 4 保護者理解とその対応(2)
- 5 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(1)
- 6 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(2)
- 7 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ
- 8 保育場面でのカウンセリング技法の活用(1)
- 9 保育場面でのカウンセリング技法の活用(2)
- 10 【演習】事例検討 保護者対応を想定したロールプレイから学ぶ支援の在り方
- 11 【演習】行動観察やエピソード記録を通した幼児理解
- 12 園・地域における専門家との連携による相談・支援
- 13 保育者の専門性と相談活動
- 14 基礎的対人関係のトレーニング
- 15 まとめ

授業の方法

保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議や演習を行

い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで詳細を参照とすること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。
欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「子どもの理解と保育・教育相談【第2版】」 みらい

参考図書

「どの子にもあ～楽しかった！の毎日を」 ひとなる書房
「やさしく学べる保育カウンセリング」 金子書房
文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

留意事項

グループ演習等が多いため、毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。
毎回の授業での振り返りシートの提出を求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

教科「音楽」の意義を理解し、実態を視野に入れた授業を構成できる能力や、幅広い音楽活動の指導ができる技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を修得するとともに、これからの音楽教育について考察する。歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習や発表を行い、現代の環境に適した音楽指導法を研究する。

授業計画

- 1 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
- 2 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
- 3 楽典の基礎と他教科とのかわり。
- 4 リコーダーの理解と合奏
- 5 いろいろな楽器の理解と奏法
- 6 合奏教材と指揮法基礎演習
- 7 歌唱教材の研究と演習
- 8 歌唱教材の研究と演習
- 9 鑑賞教材の研究（音楽の歴史）
- 10 鑑賞教材の研究（日本の音楽・世界の音楽）
- 11 日本の音楽教育
- 12 ピアノ演習
- 13 模擬授業
- 14 模擬授業
- 15 振り返りと展望
- 16

授業の方法

講義と個人あるいはグループでの演習や研究発表。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①授業で研究発表、演奏を行い、フィードバックをする。
- ②平常点50%、定期試験50% 各項目ごとの発表は平常点に反映する。定期テストは筆記試験を実施する。

欠席について

授業時の発表や演習も評価の対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

初等科音楽教育法（音楽之友社）

参考図書

小学校音楽用指導書（教育芸術社）

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
初田 隆	選択	2	公立中学校教員・国立大学付属小学校教員			

授業の到達目標

小学校学習指導要領にある図画工作科の低・中・高学年それぞれの目標を理解し、教材研究や模擬授業等をととして指導上必要な知識と技術を習得し、授業実践できる力を身に付けることが到達目標である。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

講義やディスカッション、模擬授業、教材研究をととして図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について学ぶ。

授業計画

- 1 図画工作科の目標等と役割
- 2 図画工作科の年間計画、授業設計、指導案を考える。
- 3 児童画における造形発達と心理投影
- 4 教科内及び他教科との横断的学習の可能性
- 5 図画工作科としての言語活動と評価
- 6 絵画の表現形式
- 7 絵画表現に関する教材研究－感覚横断的な学習を手がかりに
- 8 版画の表現技法と版を用いた教材
- 9 モダンテクニックを用いた教材の可能性
- 10 様々な材料、用具を使った立体・工作の表現
- 11 立体・工作に関する用具の安全な使用方法
- 12 造形遊びに関する用具や材料の使用方法和場所の活用方法
- 13 身近な作品や展示物、美術館を活用した効果的な鑑賞指導と授業設計
- 14 図画工作科の意義と現代的課題
- 15 まとめと定期テスト

授業の方法

講義と作品制作（教材研究）

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70％定期試験30％の割合で評価する。評価の観点は知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう姿勢等である。

欠席について

欠席1回について3点減点、遅刻1回について1点減点

テキスト

日本文教出版『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。学習指導要領に示された小学校家庭科の目標と内容、その指導上の留意点を理解する。小学校家庭科とその背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。小学校家庭科の学習指導の理論と方法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

小学校家庭科の目標と内容、家庭科教育のために必要な学習指導の理論と方法、教材研究などを学ぶ。さらに、子どもの発達段階や生活実態を踏まえた、また情報機器及び教材を活用した授業設計と学習指導案の作成を学び、模擬授業を行う。

授業計画

- 1 小学校家庭科の目標と内容
- 2 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する指導上の留意点
- 3 「消費生活・環境」に関する指導上の留意点
- 4 小学校家庭科の評価
- 5 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する教材研究
- 6 「消費生活・環境」に関する教材研究
- 7 子どもの発達・生活と家庭科教育
- 8 小学校家庭科の施設・設備（情報機器含む）
- 9 小学校家庭科の学習指導の理論と方法
- 10 小学校家庭科の学習指導計画
- 11 小学校家庭科の学習指導案の作成
- 12 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」の模擬授業
- 13 「消費生活・環境」の模擬授業
- 14 模擬授業の検討・改善
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて授業中に指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 正実	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

体育科の学習指導案を作成し、体育科の模擬授業を行う力を養う。併せて、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校体育科の目標、指導計画、学習指導法、教材内容の扱い方等を把握する。理解した知識を基に学習指導計画を立て、模擬授業を実施する。また、授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

- オリエンテーション。「先生を目指す」ということ。目指す体育授業①
- 体育実技を通して「小学校学習指導要領、体育編の内容」に触れる。目指す体育授業②
- 小学校学習指導要領・体育編の内容を知る。 目指す体育授業③。
- 運動の特性について 目指す体育授業④
- 学習評価について 目指す体育授業⑤
- 授業参観から指導案作りを学ぶ 目指す体育授業⑥
- 学習指導案の書き方について
- 指導案を作成する。〈外1〉
- 指導案を作成する。〈外2〉
- 指導案を作成する。〈外3〉
- 模擬授業を実施する。〈外1〉
- 模擬授業を実施する。〈外2〉
- 模擬授業を実施する。〈外3〉
- 模擬授業を振り返る。体育授業における教師のマネジメント
- 学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

少人数グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。模擬授業に伴う体育の実技も実施予定である。

準備学修

文部科学省 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育

編」、令和2年度版「神戸市小学校体育指導の手引き」 等を読み、学習指導計画案等を事前に調べ、予習・復習等60時間を費やすこと。

課題・評価方法、その他

- ①学習指導計画案と模擬授業、体育授業のマネジメント等について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点45点、学習指導計画案30点、模擬授業25点とする。

欠席について

原則欠席をしない事。登校できる程度なら実技・模擬授業見学でも出席すること。

テキスト

使用しない。

参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」令和2年度版「神戸市小学校体育指導の手引き」

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。学外にて、体育授業の参観を行う予定である。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティー I（知性）を養う。

授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。また、多様な道徳教育の指導法を学修し、実際の教科書を使用して指導案検討を行う。

授業計画

- 道徳教育の目標・特別の教科 道徳
- 道徳の歴史
- 道徳の指導案を考える・内容項目について
- 道徳教育と国際理解教育
- 諸外国の道徳教育の状況・指導案演習
- 道徳科の指導・指導案演習
- 子ども達をつなぐ授業手法・指導案演習
- モラルジレンマ・指導案演習
- いじめ問題を考える①・指導案演習
- いじめ問題を考える②・模擬授業
- いじめ問題を考える③・指導案演習
- いじめ問題を考える④・情報モラル・指導案演習
- 安全防災教育・指導案演習
- 防災教育・指導案演習
- まとめテスト(指導案作成)

授業の方法

毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義とグループワークでの演習なども取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」最新版

参考図書

神戸市立小学校採用の道徳の教科書「きみがいちばんひかるとき」1～6年用（光村図書）
神戸市立中学校採用の道徳の教科書「中学道徳 あすを生きる」1～3年用（日本文教出版）

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小		17753	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学教頭小学校校長			

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA（自律）でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK（思いやり：傾聴力）とI（知性）状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

- 1 生徒指導の意義と目的・「生徒指導提要」の改訂
- 2 教職員の人権感覚・組織対応
- 3 教育の現場の実践から学ぶ
- 4 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導①
- 5 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導②
- 6 セクシャルマイノリティの理解
- 7 性に関する課題
- 8 いじめ問題・情報モラル
- 9 インターネット・携帯電話に関わる問題
- 10 少年非行①
- 11 少年非行②
- 12 自殺
- 13 安全防災教育・危機管理
- 14 進路指導とキャリア教育
- 15 まとめテスト

授業の方法

授業は「生徒指導提要（令和4年12月）」にそって、毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

テキスト『生徒指導提要（令和4年12月）』（文部科学省）を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「生徒指導提要（令和4年12月）」

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジュメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護Ⅱ			17640	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
曾田 里美	選択	1	児童養護施設職員			

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育機能は脆弱化している。家庭養育だけでは子どもの養育は困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護および家庭養護の本質と機能を理解し、援助技術について実践的活動事例を通して学びを深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を養う。

授業の概要

家庭のもとを離れて施設や里親家庭で生活する社会的養護の子どもたちの背景や実情を理解するとともに、子どもたちが置かれている状況について想像力を働かせ、必要な関わりや支援につなげていくことを目指す。児童養護施設、児童虐待、里親、生い立ちの整理、子どもの貧困など社会的養護に関連する新聞記事や事例、映像などを通して、子どもやその家族の実態や問題の背景について理解を深める。

授業計画

- 1 オリエンテーション 社会的養護Ⅱを学ぶにあたって
- 2 施設における生活と支援
- 3 児童養護施設の事例
- 4 「こうのとりのゆりかご」を通して考える社会的養護①
- 5 「こうのとりのゆりかご」を通して考える社会的養護②
- 6 乳児院の事例
- 7 里親家庭の事例
- 8 まとめ
- 9
- 10

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。双方向の授業のため積極的な参加を求める。

準備学修

日ごろから新聞、ニュース等で子どもを取り巻く問題に関心を深め

ておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

公欠以外の欠席は原則認めない。欠席は成績評価において減点する。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子ども家庭支援の心理学			17763	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
島田 麻美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

生涯発達という視点から、発達の諸特徴や発達課題、初期経験の重要性について学ぶ。また、社会や文化の時代的変化とともに変容し、多様化してきた家族・家庭について理解を深める。保育者として、人の生涯発達について理解した上で、家庭の持つ意味と現状、そしてさまざまな課題を抱える子どもや家庭の理解と支援につながる力を身につけることを目指す。テーマに関連する事例を挙げ、具体的な支援場面へどうつなげていくかを考える。

授業計画

- 1 オリエンテーション、生涯発達とは
- 2 乳幼児期から学童期前期にかけての発達
- 3 学童期後期から青年期にかけての発達
- 4 成人期から老年期にかけての発達
- 5 家族関係・親子関係の理解
- 6 子育ての経験と親としての育ち
- 7 子育てを取り巻く社会的状況
- 8 ライフコースと仕事・子育て
- 9 多様な家庭とその理解
- 10 特別な配慮を要する家庭への支援①
- 11 特別な配慮を要する家庭への支援②
- 12 子どもの精神保健とその課題
- 13 子どもの生活・生育環境とその影響
- 14 子どもの心の健康にかかわる問題
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

グループ発表後は、担当教員よりフィードバックを行う。
平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜プリントを配布する。

参考図書

原信夫・井上美鈴編著『子ども家庭支援の心理学』北樹出版
松本園子他『子ども家庭支援の心理学』ななみ書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子育て支援			17768	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者支援（相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）I（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

保育士の行う子育て支援の特性を理解し、実践事例を考察しながら、保育士の行う子育て支援の展開として、支援計画や環境構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて理解を深める。また、保育士の行う子育て支援とその実際として具体例を挙げ、双方向の討議を取り入れて意見交換できるようにする。様々な子どもに対する対応やその家庭に対する支援について理解する。まとめとして、「子どもの最善の利益」を保障するための6つの視点からこれからの子育て支援について考察する。

授業計画

- 1 保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援の必要性
- 2 子育て支援の基本について
- 3 環境構成を活用した子育て支援
- 4 子育て支援のむずかしさ
- 5 保育者の「役割の二重性」と子育て支援の葛藤
- 6 「子どもの最善の利益」を保障するための6つの視点
- 7 保育士の行う子育て支援の実践
- 8 まとめ 定期試験

授業の方法

保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議等を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点40% 課題レポート10% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

「保育の専門性を生かした子育て支援」わかば社

参考図書

授業内で紹介する。

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。地域の子育て支援について調べておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子ども家庭支援論			17759	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。保育の専門性をいかした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。子育て家庭に対する支援の体制について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともに、K（思いやり）を考える。

授業の概要

家族の機能、家庭の意義や役割、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子ども家庭支援の意義と役割、保育士による子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援体制や支援方法等について解説する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開や関係機関との連携を考える。

授業計画

- 1 子ども家庭支援の意義と必要性
- 2 子ども家庭支援の目的と機能
- 3 子ども家庭支援における保育士等の役割
- 4 保育士に求められる基本的態度
- 5 保育の特性と保育士の専門性をいかした子ども家庭支援
- 6 保護者との相互理解と信頼関係の形成
- 7 家庭の状況に応じた支援
- 8 地域の資源の活用と関係機関との連携・協力
- 9 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
- 10 子育て支援施策・次世代育成支援策
- 11 子ども家庭支援の内容と対象
- 12 保育所等利用児童の家庭への支援
- 13 地域の子育て家庭への支援
- 14 要保護児童等およびその家庭に対する支援
- 15 子ども家庭支援に関する現状と課題・まとめ

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

松村和子編著『子ども家庭支援論』建帛社

参考図書

内閣府『少子化社会対策白書』
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育 I			17778	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して保育の内容を理解する。また、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）E（倫理）を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史的変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を資料を基に把握し、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を理解する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実態を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

- 1 乳児保育とは(DVD視聴「乳幼児の発達と保育 0歳児」)
- 2 乳児保育の歴史と0・1・2歳児の保育の現状
- 3 思春期を見通した乳児の保育
- 4 愛されて育つということの意味(DVD視聴「アタッチメント関係」)
- 5 胎児の世界
- 6 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
- 7 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
- 8 乳児保育の実態
- 9 乳児期の環境と人間関係(DVD視聴「人とかかわりの中で学ぶ」)
- 10 乳児期の環境(DVD視聴「物とかかわりの中で学ぶ」)
- 11 乳児期の生活と保育
- 12 乳児の発達過程と援助
- 13 0・1・2歳児をめぐる現状と子育て支援
さまざまな発達の考え方
- 14 保育所における全体的な計画と0・1・2歳児の指導計画

15 まとめ
16

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％
レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育第4版 (株)みらい 大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一 フレーベル館
保育の内容・方法を知る 乳児保育〔新版〕 増田まゆみ編著 北大路書房
保育所保育指針解説 フレーベル館
乳児の生活と保育 ななみ書房

留意事項

教室を出ての実験体験等を含むため、授業計画の変更もある。授業課前のボードをよく注意して見ておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育Ⅱ			17779	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

乳児保育Ⅰを踏まえて、乳児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助やかかわりについての理解を深め、養護と教育の一体性を考えた生活や遊びと、保育の方法について、実際体験を通して具体的に理解する。また、そのための指導計画のあり方を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）E（倫理）を考える。

授業の概要

乳児保育Ⅰでの授業を振り返りながら、乳児保育とはどういうものであるかを、実際体験や演習を通して再認識し、またその保育をする上での計画について理解を深め、乳児保育にあたる保育者として専門的能力を身につけられるようにする。

授業計画

- 1 乳児保育の基本 乳児保育はなぜ必要か。
- 2 乳児保育の基本 乳児保育の役割。
- 3 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 4 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 5 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 6 乳児保育の実際（教室を出て実際体験をする。DVD視聴）
- 7 乳児保育における計画の実際
- 8 乳児保育における配慮の実際
- 9
- 10

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%
レポート提出を求め、講義の中でのフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

はじめて学ぶ 乳児保育 第3版 同文書院 志村聡子編著者

参考図書

保育所保育指針解説（フレーベル館）
新時代の保育双書 乳児保育 第3版 （株）みらい 大橋貴美子編
乳児の生活と保育（改訂版） ななみ書房 松本園子編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実際体験もあるため、授業計画の変更もある。教務課前掲示板をよく注意しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

- ①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
 - ②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
 - ③障害児その他の配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
 - ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
 - ⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。
- 以上をライフステージを見通して理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

障害児保育を支える理念を理解し、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と保育における発達の援助について、個々の特性を具体例を挙げて理解を深めていく。また、子どもの保育の実践として、指導計画及び個別の支援計画の作成や個々の発達を促す生活や遊びの環境、子ども同士の関わりと育ち合いについて、実践例から考えていく。グループディスカッションを通して、意見交換を行い、発表を行う。
発表後、教員がフィードバックを行う。障害児その他の配慮を要する子どもの家庭支援について、具体例を挙げて解説する。最後に現状と課題について考察していく。

授業計画

- 1 障害児保育を支える理念
- 2 知的障害児の理解と支援
- 3 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケアの理解と支援
- 4 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援
- 5 言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援
- 6 発達障害児の理解と支援①（ASD）
- 7 発達障害児の理解と支援②（ADHD・LD）
- 8 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助
- 9 子ども同士の関わりと育ち合いと子どもをみる視点
- 10 指導計画および個別の支援計画の作成、職員間の連携・協働

- 11 保護者や家族に対する理解と支援、保護者間の交流や支え合い
- 12 障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関の連携・協働
- 13 小学校等との連携・就学に向けて
- 14 特別な配慮を必要とする子どもの保育に関わる現状と課題
- 15 まとめ 定期試験

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

障害児保育演習ブック ミネルヴァ書房

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障害者施策および事業に関心を持つ

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的にしている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

授業計画

- オリエンテーション
- 特別支援教育の現状
- 視覚障害の理解と特別支援教育
- 聴覚障害の理解と特別支援教育
- 言語障害の理解と特別支援教育
- 知的障害の理解と特別支援教育
- 発達障害の理解と特別支援教育 1
- 発達障害の理解と特別支援教育 2
- 肢体不自由の理解と特別支援教育
- それぞれの障害の理解と特別支援教育 1
- それぞれの障害の理解と特別支援教育 2
- 特別支援教育の変遷
- 生涯発達支援について 1
- 生涯発達支援について 2
- まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するのかを考える時間を設ける。

準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

課題・評価方法、その他

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	1	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画

- 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
- 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 実習中の心得(勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物)
- 実習中の心得(学級経営、給食指導、休み時間)
- 児童や教職員との接し方
- 実習記録の書き方
- 学習指導と生徒指導
- 算数科模擬授業(低学年)
- 算数科模擬授業(高学年)
- 教育実習の成果と課題
-

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I A			17812	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

- 1 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
- 2 保育所の役割と機能を理解する
- 3 発達過程の理解を深める
- 4 保育の計画について再認識し、理解を深める 実習指導案の書き方を知る
- 5 保育内容の実践
- 6 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続きについて理解する
- 7 実習記録の書き方を知る
- 8 実習に際しての心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3. 4. 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I B			17813	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

- 1 実習の意義・目的・概要について理解する。
- 2 各施設の役割と機能を理解する。①
- 3 各施設の役割と機能を理解する。②
- 4 施設実習の準備と心構えを理解する。①
- 5 施設実習の準備と心構えを理解する。②
- 6 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
- 7 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
- 8 実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようにしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。遅刻は3点減点とする。

テキスト

「施設実習 パーフェクトガイド」 わかば社
「【改訂2版】これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉」わかば社

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導Ⅱ			17821	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 民間保育士			

授業の到達目標

保育実習ⅠAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を目指して学習し、出来る限り実践能力を養い保育実習Ⅱに取りくむことができるようにする。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習ⅠAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、保育指導案や保育実践に取り組めるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

- 1 保育実習Ⅱの意義・目的を理解する
- 2 保育実習Ⅱに関する事務手続き、書類等の配布と指導 個人票の書き方について
- 3 保育実習に向けての遊びの指導①
- 4 保育実習に向けての遊びの指導②
- 5 保育実習に向けての遊びの指導③
- 6 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践
- 7 実習記録の書き方について。
- 8 実習の心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価 課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席1回につき5点減点。遅刻1回につき3点減点。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
あそびうた大全集 永岡書店
3, 4, 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神経・生理心理学			17827	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
古谷 真樹	選択	2				

授業の到達目標

中枢神経や自律神経の構造と機能について理解し、注意や記憶、感情等の生理学的反応の機序、夢などのトピックから、心と脳の関係および高次脳機能障害の概要について説明できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神経・生理心理学は複雑で多様な人間の心理とそれに伴う行動について、脳神経をはじめ生理指標から考察する学問である。中枢神経や自律神経の構造や機能といった基礎的な内容から医療や福祉、教育現場における応用まで幅広く学ぶ。

授業計画

- 1 神経心理学・生理心理学とは
- 2 中枢神経系(脳神経系)の構造及び機能)
- 3 ニューロンと活動電位
- 4 高次脳機能障害とその原因疾患
- 5 高次脳機能障害(注意障害・記憶障害)
- 6 高次脳機能障害のリハビリテーション
- 7 睡眠中の認知活動
- 8 動機づけと脳神経系
- 9 自律神経系と情動
- 10 皮膚電気活動と筋電図
- 11 神経伝達物質
- 12 ホルモン
- 13 リラクゼーション法
- 14 テストバッテリー
- 15 まとめと試験
- 16

授業の方法

事前学修としてプリントに次回の内容を調べて提出してもらう。
毎回、授業始めに復習の小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点60%（事前学修のプリントまとめ30%、小テスト30%）、定期試験40%

欠席について

1回欠席で5点減点（小テスト含む）、5回以上の欠席で不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
司法・犯罪心理学			17831	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
十倉 利廣	選択	2	法務省心理専門職として犯罪アセスメントや処遇に従事する。少年鑑別所長、矯正研修所長等を歴任する。			

授業の到達目標

- ・司法・犯罪分野の制度及び同分野の心理臨床の領域を概観できる。
- ・犯罪原因やメカニズムに関する諸理論を理解できる。
- ・警察関係機関、家庭裁判所（少年及び家事）、少年鑑別所、少年院、刑事施設（刑務所）、保護観察所、被害者支援領域における心理臨床業務に関する知識を習得する。
- ・非行・犯罪に関するアセスメント及び処遇技法に関する基礎知識を習得する。
- ・この授業を通して、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を身につける。

授業の概要

司法・犯罪領域における心理臨床の理論や業務を理解するために、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につけるとともに、司法・犯罪分野の問題に対して必要な心理支援についての基本的知識を身につける。

授業計画

- 1 司法・犯罪心理学の基礎知識
- 2 犯罪心理学理論の進展 1
- 3 犯罪心理学理論の進展 2
- 4 各種犯罪 1（窃盗）
- 5 各種犯罪 2（薬物犯罪）
- 6 各種犯罪 3（性犯罪）
- 7 各種犯罪 4（暴力犯罪）
- 8 捜査心理学 1（プロファイリング）
- 9 捜査心理学 2（虚偽検出、証言）
- 10 精神鑑定
- 11 家庭裁判所における心理臨床
- 12 少年鑑別所における心理臨床
- 13 少年院・刑務所における心理臨床
- 14 犯罪被害者支援
- 15 まとめ及び試験

授業の方法

講義を中心とする。資料等について、Web上で提供する。
なお、新型コロナウイルス感染症等の拡大状況によっては、授業方法が変更されることがある。

法が変更されることがある。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

適宜レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70％、定期試験30％
なお、新型コロナウイルス感染症等の拡大状況によっては、評価方法が変更されることがある。

欠席について

原則として、欠席数が5回を超える場合は成績評価対象外とする。

テキスト

毎回講義資料を配布する。

留意事項

なお、新型コロナウイルス感染症等の拡大状況によっては、授業方法や評価方法等が変更されることがあるので、留意しておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康・医療心理学			17835	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石川 慎一	選択	2	精神科、心療内科における診療、保健所での精神保健相談、児童福祉施設での精神医療、産業医活動。			

授業の到達目標

- ① ストレスと心身の疾病との関係
 - ② 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援
 - ③ 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援
 - ④ 災害時に必要な心理に関する支援
- 以上を習得し、公認心理師資格の取得を目標に行われる講義である。
このクラスではKAISEIパーソナリティの、K（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

公認心理師の国家資格の受験資格要件に必要な科目の1つを提供する。健康保健・医療分野における、心理職に必要なとされる心理学的概念とその操作を学習し、そのもとで展開される実際の活動を幅広く理解する。健康心理学、医療心理学の基礎概念である、健康とは何か、疾病予防の考え方、健康増進に対する心理学的なアプローチ、ストレスと心理支援を獲得し、多職種協働の行動様式で実践される健康・医療の様々な現場における心理支援の実践について領域ごとに学ぶ。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 1 章 健康医療心理学
- 2 章 健康心理学におけるアセスメントと支援
- 3 章 ストレスマネジメント
- 4 章 各種の心理支援法
- 5 章 医療心理学
- 6 章 医療心理学におけるアセスメントと支援
- 7 章 精神科、児童精神科（精神科コンサルテーション・リエゾン）
- 8 章 院内独立型心理室
- 9 章 心療内科
- 10 章 小児科（母子保健含む）
- 11 章 緩和医療
- 12 章 産業保健
- 13 章 地域保健活動の実践
- 14 章 災害医療
- 15 章 多職種協働と医療連携

15 1－15章 総括

授業の方法

講義形式で行う。

準備学修

テキストの予習復習、レポートの提出。

課題・評価方法、その他

出席・レポート：60点（各授業、出席2点・レポート2点x15回）
終了時課題：40点
*提出物は期限内に提出されたもののみ採点
*レポートは所定の電子ファイルのみで採点
*出席点は実際に講義に参加した場合のみ加点

欠席について

各授業への欠席、遅刻で2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格。

テキスト

宮脇聡他編『健康・医療心理学』医歯薬出版株式会社

留意事項

本講義は公認心理師カリキュラムの必修科目である。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理演習			17839	IV	秋	関心心理師等 10名まで 履修可能
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

医療機関・福祉施設・教育機関等での臨床心理士または心理専門職としての心理支援に関する実務経験をもとに具体的な場面を設定した演習を実施し、公認心理師として必要とされる知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とする。このクラスでは、KAISEI パーソナリティの I(知性)と E(倫理)を養う。

授業の概要

心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討等を実施する。

授業計画

- オリエンテーション
対人支援者としての姿勢、公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解する
- コミュニケーション実習(1) 非言語的交流
身なり、他者に添う動き、姿勢、距離、アイコンタクト等の非言語的交流の意識化を行い、話し手が話を聴いてもらっていると感じる関わりについて学ぶ。
- コミュニケーション実習(2) 傾聴と応答
あいづち、短い言葉の応答のみを行いながら、相手の話を傾聴し、話し手の気持ち、感情を理解する。
- コミュニケーション実習(3) 傾聴とストーリー理解
傾聴後、大切と思われる箇所を相手の言葉を使用して短い言葉でのみ返し、理解の確認、質問、話の焦点づけを行いながらストーリーを理解する。
- コミュニケーション実習(4) 傾聴とストーリー理解の伝え直し
実習(1)～(3)で学んだことを総合し、話し手の伝えたい感情や内容を、相手の言葉を用いてストーリーとして伝え直す関わり方について学ぶ。
- 心理面接のロールプレイング(1)
CI役、CIの観察者役、Th役、Thの観察者役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、その後フィードバックを行う。
- 心理面接のロールプレイング(2)
CI役、CIの観察者役、Th役、Thの観察者役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、そのフィードバックを行う。
- 心理検査のロールプレイング(1) 質問紙法
心理検査の準備、ラボールの持ち方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。
- 心理検査のロールプレイング(2) 描画法
心理検査の準備、ラボールのつけ方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。
- 心理検査のロールプレイング(3) 投影法
心理検査の準備、ラボールのつけ方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。

- 事例の理解(1)
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
- 事例の理解(2)
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
- 事例の理解(3)
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
- 多職種連携と地域支援
支援を要する者等に対するチームアプローチの意義、および多職種間の連携と地域支援について理解する。
- 総括・振り返り・達成度の評価
ここまでの授業内容の振り返りを行う。出題された授業内課題を各自行う。

授業の方法

講義、ロールプレイング、グループ学習を通して、支援者としての姿勢を身につけていく。逐語記録の提出等の課題作業もある。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

2～10回はロールプレイ等への積極的参加、授業終了時の達成度、授業内・事後課題がある場合にはその内容を評価する
11～14回は事例検討への積極的参加、授業内・事後課題がある場合にはその内容を評価する
15回は授業内に行う課題を評価する
評価の配分は2～14回が各回7点満点、15回が9点満点とする。

欠席について

欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

参考図書

プロカウンセラーの聞く技術、東山紘久著、創元社

留意事項

公認心理師養成大学院受験予定者は受講すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
公認心理師の職責			17843	IV	春	関心心理師等 10名まで 履修可能
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

公認心理師が担う職務と責任の内容を理解し、公認心理師を目指すための基礎的な知識を習得する。

- ① 公認心理師の役割について理解し、法的義務や倫理、チーム支援、守秘義務のあり方等についての知識を身につける。
- ② 保健医療、福祉、教育、司法・矯正、産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務の内容について理解し、説明できる。
- ③ 心理的援助者としての自己の課題に向き合い、課題解決能力を身につけるのに必要なことを考え、生涯学習の準備に取り組んでいく態度を獲得する。

このクラスでは、KAISEI パーソナリティの K(思いやり) I(知性)と E(倫理)を養う。

授業の概要

公認心理師の学びの導入として、公認心理師の職責に求められる8つの事項を踏まえた授業内容となる。8つの事項は次のとおりである。「①. 公認心理師の役割」「②. 公認心理師の法的義務及び倫理」「③. 心理に関する支援を要する者等の安全の確保」「④. 情報の適切な取り扱い」「⑤. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務」「⑥. 自己課題発見・解決能力」「⑦. 生涯学習への準備」「⑧. 多職種連携及び地域連携」

授業計画

- オリエンテーション
- 心理学的支援の歴史 心理学・臨床心理学の成り立ちについての振り返り
- 公認心理師の役割 公認心理師法
- 公認心理師の法的義務・倫理
- 公認心理師の職業倫理
- 心理に関する支援を要する者等の安全の確保
- 情報の適切な取り扱いについて
守秘義務 個人情報保護
- 情報共有・連携について
多職種連携・地域連携 多職種連携 地域連携 生物・心理・社会モデル
- 公認心理師の業務①
保健医療分野における公認心理師の具体的な業務

- 10 公認心理師の業務②
福祉分野における公認心理師の具体的な業務
- 11 公認心理師の業務③
教育分野における公認心理師の具体的な業務
- 12 公認心理師の業務④
司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務
- 13 公認心理師の業務⑤
産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務
- 14 問題解決能力と生涯学習
- 15 期末試験

授業の方法

テキストを中心にした講義形式である。リサーチしたことを発表する時間も設定する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回の欠席につき平常点より3点減点、遅刻は2点減点となる。

テキスト

野島一彦編 公認心理師の職責 遠見書房 2018

留意事項

- ① 公認心理師養成大学院受験予定者は受講すること。
- ② 事例等を活用した倫理問題などを扱うこともあるので、受講者はしっかりとプライバシー保護の意識をもって授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
産業・組織心理学			17847	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安岡 勇輝	選択	2				

授業の到達目標

人が幸福に働くとはどういうことか、働く上での心理的問題をどう考えるかについて、産業・組織倫理学の知見をもとに深めていく。特に職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援や、組織における人の行動について取り扱う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

産業・組織心理学の知見を学びながら、人が幸福に働くためには何が必要なのか、働く上での心理的問題にどう対応し、どのように支援していくかについて学習する。また、消費者のニーズはいかに成立するのか、その過程についても学習する。

授業計画

- 1 産業・組織心理学の歴史
- 2 ワーク・モティベーション
- 3 採用と面接
- 4 人事評価
- 5 キャリア発達①
- 6 キャリア発達②
- 7 職場のコミュニケーションと人間関係①
- 8 職場のコミュニケーションと人間関係②
- 9 リーダーシップ
- 10 消費者行動とマーケティング
- 11 仕事の能率と安全①
- 12 仕事の能率と安全②
- 13 職場のストレスとメンタルヘルス①
- 14 職場のストレスとメンタルヘルス②
- 15 試験

授業の方法

レジメと教科書を用いて、講義形式で授業を進める。

準備学修

事前に産業・組織心理学の基本的な分野について予習を進めておく

こと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

山口裕幸・金井篤子 2007 よくわかる産業・組織心理学 ミネルヴァ書房

参考図書

太田信夫 監修 金井篤子 編集 2017 シリーズ心理学と仕事 産業・組織心理学

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
精神疾患とその治療			17851	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石川 慎一	選択	2	精神科、心療内科における診療、保健所での精神保健相談、児童福祉施設での精神医療、産業医活動。			

授業の到達目標

- ①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）
 - ②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化
 - ③医療機関との連携
- 以上を習得し、公認心理師資格の取得を目標に行われる講義である。このクラスでは、海星パーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

精神医学の考え方、精神医学の診断、精神疾患の治療方法である、薬物療法（向精神薬の種類、作用・副作用等）や心理療法（心理療法の種類、本人や家族への支援等）等について概説する。また、代表的な精神疾患について成因、特徴、症状、経過、治療について解説する。さらに、精神医学の応用例として、コンサルテーションリエゾン、多職種協働、医療連携について学び、公認心理師の精神科医療での役割や業務について理解する。

授業計画

- 1 精神疾患とは
- 2 精神症状のみかた・精神疾患の診断
- 3 精神疾患と薬物療法
- 4 心理療法について
- 5 統合失調症
- 6 うつ病、双極性障害
- 7 強迫症、不安症群
- 8 適応障害
- 9 神経発達症群
- 10 児童・思春期における心理的問題
- 11 女性の心理的問題
- 12 高齢期における心理的問題
- 13 公認心理師の役割
- 14 リエゾン精神医学、多職種協働
- 15 まとめ

授業の方法

テキストを用いた講義形式で行う。毎回課題が出される。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席・レポート：60点（各授業、出席2点・レポート2点x15回）
終了時課題：40点
*提出物は期限内に提出されたもののみ採点
*レポートは所定の電子ファイルのみで採点
*出席点は実際に出席した場合に加点

欠席について

各授業への欠席、遅刻で2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格。

テキスト

公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療 三村将ら編 医歯薬出版

参考図書

専門医がやさしく語る はじめての精神医学 改訂第2版 渡辺雅幸 中山書店 2007

留意事項

本講義は公認心理師カリキュラムの必修科目である。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人体の構造と機能及び疾病			17855	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
俊野 尚彦	選択	2	医師			

授業の到達目標

公認心理師の大学で修得すべき資格要件科目を満たす授業として、以下の理解を到達目標とする。

- ・心身機能と身体構造およびさまざまな疾患や障害
- ・がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。
また、自らで心理的な支援に関連する様々な分野についての情報に触れ吟味し他者に伝達出来るようになる。

授業の概要

できるだけ難解な専門分野に偏らず日々の生活や社会人となってからも役立つような授業を目指す。
※授業計画表は参考程度に記載している。受講人数や状況に応じて適宜変更する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 医学総論
- 3 医学総論
- 4 人体の正常構造と機能
- 5 人体の正常構造と機能
- 6 主要な症候と疾病
- 7 主要な症候と疾病
- 8 主要な症候と疾病
- 9 主要な症候と疾病
- 10 主要な症候と疾病
- 11 心理的支援が必要な主な疾病
- 12 心理的支援が必要な主な疾病
- 13 心理的支援が必要な主な疾病
- 14 まとめ
- 15 まとめ

授業の方法

スライドや板書を用いてテキストに沿って解説していく。
適宜、ゲスト講義、グループワークや症例検討を行う。
生理学・医学に関するニュース（研究、難病、社会問題など）に関心を持つ。

準備学修

生理学・医学に関するニュース（研究、難病、社会問題など）に関心を持つ。
PC、特にWordやPowerPoint等を各学生が使用することがある。

課題・評価方法、その他

- ①出席
 - ②積極性・授業中の発表など
- ※状況によってレポート小テストを課す可能性がある。

欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

テキスト

第21巻 人体の構造と機能及び疾病（公認心理師の基礎と実践）単行本
2019/9/25 斎藤清二 他 遠見書房

参考図書

公認心理師カリキュラム準拠 人体の構造と機能及び疾病 武田克彦他 医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

授業後

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
関係行政論			17859	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安岡 勇輝	選択	2	学校心理士SV 臨床心理士 上級教育カウンセラー、小学校長、教育委員会			

授業の到達目標

心理・社会福祉に関する支援を求められる分野を理解する。さらに、代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な臨床活動を支える基本的な考え方を理解する。

本授業で扱う領域は以下の通りである。

- ①保健医療分野に関する制度
- ②福祉分野に関する制度
- ③教育分野に関する制度
- ④司法・犯罪分野に関する制度
- ⑤産業・労働分野に関する制度

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

公認心理師に求められる法律・制度は、社会のニーズに応じて刻々と変わっている。柔軟な姿勢で臨めるよう指導する。
クライエントが課題を乗り越える支援として法律の基本をきちんと押さえる。

授業計画

- 1 公認心理師に関する法規紹介と全体像を理解する。
- 2 教育分野では、教育基本法を頂点とする各法律の中で、公認心理師が担うべき内容を理解する。
- 3 学校教育と教育委員会な関係、チームワークについて理解する。
- 4 学習指導要領の特に総則について理解を深め、学校教育への支援の在り方を学ぶ。
- 5 保健医療分野では、医療制度の概略を理解する。
- 6 公認心理師が主にかかわるであろう精神保健福祉法、医療観察法の内容を理解する。
- 7 高齢化社会に向けて、益々介護保険法の知識が必要となると思われるので、事例を入れながら理解を深める。
- 8 児童虐待が激増している社会状況を踏まえ、児童福祉法の概略を理解する。
- 9 インクルーシブシステムが様々な現場で認知され始めたことを受け、障害児(者)の福祉関連法規を理解する。
- 10 増々の高齢化社会に向け、高齢者福祉領域のニーズは格段に増え

つつある。心理職の関わり方を理解する。

- 11 若者の犯罪が急増している現代、少年法、犯罪被害者支援法等について理解する。
- 12 家族崩壊や夫婦離婚、それらに関連する子どもの養育問題等、司法、犯罪分野の知識理解を深める。
- 13 産業・労働分野、特に労働者のメンタルヘルスは重要である。そこで、これらの関連法規を理解する。
- 14 男女共同参画、で女性も企業にとって活躍している現代において、多忙な家庭生活が予想される。産業・労働分野における心の健康について深く考える。
- 15 労働者を守る「労働三法」についてきちんと知識を蓄えて、支援できるように理解を深める。講義後に全体を振り返り、試験を課す。

授業の方法

法規の文言は難解な語句が多いので、事例を加えながら解説していく。

準備学修

社会の出来事に日ごろから関心を持つこと

課題・評価方法、その他

レポート、発表、定期試験

欠席について

学内基準に準拠

テキスト

野島一彦・繁樹算男 監修 元永拓郎 編 黒川達雄 法律監修
2018 公認心理師の基礎と実践 関係行政論

参考図書

授業で指示する

オフィスアワー

授業で指示する

現代人間学部 英語観光学科
教職に関する科目

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職中等		14115	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

- 1 教育の理念と目的について理解する。
- 2 教育に関する歴史及び思想について理解する。
- 3 日本と諸外国の学校制度について理解する。
- 4 現代社会における教育の現状と課題について理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と講義概要について説明する。
- 2 人とは？教育とは？
- 3 学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
- 4 学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
- 5 教育に関する法規
- 6 現行法における日本の学校教育の目的
- 7 教育課程と教育内容
- 8 学習指導要領の変遷
- 9 教師の仕事と専門性
- 10 よい授業とは
- 11 現代社会と教育問題－いじめ・不登校問題など
- 12 教育改革の新しい動きと方向について
- 13 日本と諸外国の教育制度
- 14 生涯学習の意義と生涯学習の機会
- 15 まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関しての思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

- ・「問いからはじめる教育学」【改訂版】 勝野 正章・庄井 良信著 出版社：有斐閣
- ・取得を希望する校種の学習指導要領総則解説
その他 必要に応じて資料を配付

参考図書

- ・「はじめての子どもの教育原理」 福元真由美著 出版社：有斐閣
- ・「やさしい教育原理」 田嶋 一他著 出版社：有斐閣
- ・「教育の原理を学ぶ」 遠藤 克弥・山崎 真之著 出版者：川島書店

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職中等		14147	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	1				

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

授業計画

- 1 「介護等体験」の目的と概要
- 2 社会福祉施設 1
- 3 社会福祉施設 2
- 4 介護の心構えと実際
- 5 高齢者の心と身体
- 6 特別支援学校
- 7 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
- 8 「介護等体験」に臨む心構え・留意事項

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校校長会『介護等体験ガイドブック 新フィリア』ジ
アース教育新社

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。
このクラスではKAISEIのI（知性）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学修する。

- 1 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
- 2 特別活動の4つの内容である「学級活動（ホームルーム）」「生徒会活動（児童会活動）」「クラブ活動（部活動）」「学校行事」について理解する。
- 3 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と概要を説明（オリエンテーション）
- 2 教育課程における特別活動の位置づけ
- 3 特別活動の歴史の変遷
- 4 ① 各校種における特別活動の内容と目標
② 特別活動の内容1「学級活動」について
- 5 特別活動の内容2「生徒会（児童会）活動」について
- 6 特別活動の内容3「学校行事」について
- 7 学校目標と特別活動の指導計画について
- 8 演習1 学級活動の指導計画を作成する。その1
- 9 演習2 学校行事の特別活動の指導計画を作成する。
- 10 演習3 事前に作成した計画に基づき校外学習を施設を利用して行う。
- 11 演習4 校外学習を終えて
- 12 演習5 学級活動の指導計画を作成する。その2
- 13 クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
- 14 特別活動と社会とのかかわり
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（中高）			14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

- 1 特別支援教育（インクルーシブ教育含む）の理念や制度
- 2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
- 3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
- 4 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
- 5 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
- 6 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
- 7 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
- 8 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
- 9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
- 10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
- 11 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
- 12 特別支援教育コーディネーター等との連携
- 13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
- 14 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
- 15 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援
- 16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

1回の欠席で5点減点とする

テキスト

特別支援学級はじめての第一歩 坂本裕著

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）

留意事項

必要な場合授業時に指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習（中・高）	ET		14214	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長			

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスでは KAISEI パーソナリティの A(自律)、I(知性)、及び E(倫理)を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である（１）使命感・責任感・資質に関する知識、（２）社会性や対人関係能力、（３）教科の指導力について、十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業などの演習で、実際の教育現場での実践を想定しながら、確認していく。

授業計画

- ☆今、教育界を取り巻く社会の動きは？
・学習指導要領の改訂・生徒指導提要の改訂・人権三法・合理的配慮・インクルーシブ教育・これからの未来を語るキーワード
- ☆教師の人権感覚
・チェックシートから教師の人権感覚を考える
- ☆年度当初の「学年会議」を想定した実践演習
・「黄金の三日間」が勝負！
- ☆年度当初の「学年会議」「教科会議」を想定した実践演習
・中学１年生学級担任の所信表明・学年目標（指導方針）・三日間計６時間の学級活動の計画
- ☆外国語教育はこう変わっている①
・中学校学習指導要領 外国語科の改訂のポイント・先進校の実践に学ぶ
- ☆外国語教育はこう変わっている②
・先進校の実践に学ぶ・教育実習での授業を振り返る
- ☆主体的・対話的で深い学び①
・新学習指導要領が示す具体的な改定のポイント・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
- ☆主体的・対話的で深い学び②
・宿泊行事の企画会議を想定した実践演習
- ☆Integrated English①
・教科の指導力についての講義
- ☆Integrated English②
・教科の指導力についての講義と討論

- ☆「通知表の所見」を想定した「評価活動」の実践演習
・視聴覚資料を見て児童生徒の「行動の評価」を考える・通知表所見の表現の工夫
- ☆生徒指導の実践演習
・生徒指導の場面を想定してのケース検討と実践演習
- ☆「総合的な学習（探求）の時間」の実践演習②
・「総合的な学習（探求）の時間」の単元計画を考える
- ☆「道徳の時間」の読み物教材を検討する実践演習
- 資質能力の確認・まとめ ～講評

授業の方法

講義とグループワークを中心に授業を行う。グループワークでは、学年会議・教科会議を想定した実践演習や、総合的な学習の時間の単元計画などの作成、また生徒指導でのケース検討やロールプレイングなどを行い、実際の教育現場での実践を想定した演習を行う。

準備学修

これまでの教職関係の授業資料を準備し、復習しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20％とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

適宜、授業資料を配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

教職に対する情熱をもって授業に参加・貢献する誠実な態度が必要である。授業で配布するレジメや資料を、整理してファイルすること。授業の後半で提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等		14217	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学教頭小学校校長			

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA（自律）でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK（思いやり：傾聴力）とI（知性）状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

- 生徒指導の意義と目的・「生徒指導提要」の改訂
- 教職員の人権感覚・組織対応
- 教育の現場の実践から学ぶ
- 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導①
- 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導②
- セクシャルマイノリティの理解
- 性に関する課題
- いじめ問題・情報モラル
- インターネット・携帯電話に関わる問題
- 少年非行①
- 少年非行②
- 自殺
- 安全防災教育・危機管理
- 進路指導とキャリア教育
- まとめテスト

授業の方法

授業は「生徒指導提要（令和4年12月）」にそって、毎回配布するレジメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視聴覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

テキスト「生徒指導提要（令和4年12月）」（文部科学省）を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「生徒指導提要（令和4年12月）」

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回の授業のレジメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（中等）	教職中		14231	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	選択	1	神戸市教育委員会指導課教育実習担当主事神戸市立学校教員指導力改善指導員・中学校長			

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を訪問し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

- 1 教育実習事前指導①
- 2 教育実習事前指導②
- 3 教育実習事前指導③
- 4 教育実習事前指導④
- 5 教育実習事前指導⑤
- 6 教育実習事前指導⑥
- 7 教育実習事後指導①
- 8 教育実習事後指導②

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

- ・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
- ・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと
- ・Webで実習予定校の概要を調べる

課題・評価方法、その他

平常点70%、模擬授業30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』最新版
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』最新版
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、模擬授業、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎回の授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

学生に関する 規 程 一 覧

・学費に関する規程		P. 311
・授業料減免に関する規程		P. 311
・ステラ・マリス奨学生に関する規程	...	P. 312
・試験に関する規程		P. 313
・卒業研究に関する内規		P. 313
・学生の留学に関する規程		P. 314
・科目等履修生に関する規程		P. 315
・聴講生に関する規程		P. 315
・転科に関する規程		P. 316
・健康診断規程		P. 316
・保健室規程		P. 316
・図書館規程		P. 317
・図書館利用規程		P. 317
・図書管理規程		P. 318

学費に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学学則第49条に基づき、学費の取扱いに関する必要事項を定めることを目的とする。

2 入学初年度の学費の納入については、入学志願者募集要項に示したとおりとする。

(学費)

第2条 学費の費目及び額は、別表のとおりとする。

(学費の納入)

第3条 学費は、所定の金額を春学期、秋学期に分け、春学期分は4月1日から4月30日まで、秋学期分は10月1日から10月31日までの間に納入する。

2 前項の規定に拘わらず、特別の事情がある場合は、分納又は延納することができる。分納又は延納を希望する者は、原則として、各学期の開始までに願い出、承認を得なければならない。

3 納入した学費は、返還しない。

(単位の付与及び卒業)

第4条 学費の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者は除籍することができる。

2 学費未納入期間の単位の修得は認められない。この場合、原則として卒業見込証明書の発行は、行わない。

3 所定の学費を完納した後でなければ卒業することができない。

(学籍異動に伴う学費の納入)

第5条 修業年限を超えた者で、未修得単位が春学期又は秋学期のみで修得できる場合の学費は、その学期の学費のみとする。

2 修業年限を超えた者で、春学期又は秋学期の登録単位がそれぞれ4単位以下の場合は、その学期の学費の半額とする。

第6条 学期の途中において休学又は復学する者は、その学期の学費を納入しなければならない。

2 春学期又は秋学期若しくは学年を通じて休学する場合は、在籍料として、一学期60,000円、年間120,000円を納入しなければならない。

第7条 学期の途中で退学する者は、その学期の学費を納入しなければならない。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、理事会が決定する。

別表 (第2条関係)

2022年度以前入学生適用

学 科	費 目	金 額
英語観光学科	入学金	300,000
	授業料(年額)	840,000
	施設設備費(年額)	200,000
心理こども学科	入学金	300,000
	授業料(年額)	840,000
	施設設備費(年額)	200,000

2023年度以降入学生適用

学 科	費 目	金 額
英語観光学科	入学金	200,000
	授業料(年額)	880,000
	施設設備費(年額)	260,000
心理こども学科	入学金	200,000
	授業料(年額)	880,000
	施設設備費(年額)	260,000

※ 編入学生に適用する学費は、編入する学年に適用されている学費と同額とする。

授業料減免に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、本学の学生で、修学の熱意はありながら、経済的理由により修学が困難と認められた者に対して、修学を継続させることを目的に授業料を減免する制度について定めたものである。

(種別)

第2条 授業料減免は、1種、2種、緊急の3種類とする。

(年額及び採用者数)

第3条 1種授業料減免の額は、年間授業料の2分の1とし、採用者数は4名以内とする。(各学年1名で在学中に1回限りを原則とする。)

2 2種授業料減免の額は、年間授業料の4分の1とし、採用者数は4名以内とする。(各学年1名で在学中に1回限りを原則とする。)

3 緊急授業料減免の額は、年間授業料の2分の1とし、採用者数は若干名とする。(在学中に1回限りを原則とする。)

(出願資格)

第4条 授業料減免を受ける者(以下「授業料減免者」という。)の資格は、神戸海星女子学院大学に在籍する学生で、向学心に富むが、学資の支弁の困難な者とする。学力および家計基準については、別に定める。

(募集)

第5条 授業料減免者の1次募集は4月に行う。ただし、1次募集で採用枠に余裕があった場合は、9月に2次募集を行う。なお、緊急授業料減免申請の場合は、この限りではない。

(申請手続)

第6条 1種又は2種授業料減免を受けようとする者は、所定の期日までに次の各号の書類を提出しなければならない。

(1) 願書(所定様式)

(2) 家庭の経済状況を証明するもの

2 緊急授業料減免を受けようとする者は、前項(1)(2)の書類の他に大学の定める書類を提出しなければならない。

(選考)

第7条 授業料減免者の採用は、日本学生支援機構基準を参考に、学生委員会で選考し、学長が決定する。

(採用手続)

第8条 授業料減免者として採用された者は、すみやかに所定の手続きを取り、誓約書を提出しなければならない。手続きを怠った場合は、採用を取り消すことがある。

(授業料減免の方法)

第9条 授業料減免は、採用手続完了後、届出口座へ振込みで行う。ただし、授業料減免採用決定後、当該時点において納付すべき学納金に未納がある場合、一部又は全部を届出口座へ振込むことなく授業料に充当する。

(授業料減免の取消及び返還)

第10条 学長は、授業料減免採用者が次の各号のいずれかに該当するときは、学生委員会の議を経て、授業料減免を取り消し、返還を求めるものとする。

(1) 休学又は退学となったとき、もしくは除籍となったとき

(2) 願書及び提出書類に虚偽の記載を行ったとき

(3) その他授業料減免採用者の資格に著しく欠けるものと認められたとき

(4) 授業料減免を必要としなくなったとき

(補則)

第11条 「高等教育の修学支援新制度」の授業料減免を受ける者が、本学の授業料減免者として採用された場合は、納付すべき年間の授業料を限度として、授業料減免額について調整を行うものとする。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、理事会の議決を要する。

ステラ・マリス奨学生に関する規程

- (目的)
- 第1条 この規程は、ステラ・マリス奨学生の認定に関する事項を定めることを目的とする。
- (申請資格)
- 第2条 申請資格については以下のとおりである。
- (1) 1年以上在籍していること。
 - (2) 学生生活で大学の広報活動を前年度もしくは前学期に複数回経験し、クラブや学校行事に積極的であること。
 - (3) 2～4年次春学期の申請については、前学期に18単位以上を修得し、G.P.A.が3.50以上であること。ただし、諸事情により基準となるG.P.A.値は変動することがある。
 - (4) 成績が同一学年、同一学科の上位5%以内であること。
 - (5) 4年次秋学期の申請については、3年次春・秋学期ともに18単位以上を修得し、成績が基準を満たした上で、4年次春学期の学内活動及び大学の広報活動に複数回参加していること。
 - (6) 英語観光学科の学生の場合、TOEICにおいて別表2に示す所要の得点を達成していることが望ましい。
 - (7) 心理こども学科の学生の場合、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の資格等を卒業時に取得することを明確な目標としていること。
- (授業料の減免)
- 第3条 授業料の減免額は別表1を目安として学内活動等を合わせて評価し、決定する。
- 2 本学の授業料減免に関する規程に定められた奨学金等と重複して、減免を受けることはできない。
- (申請手続き)
- 第4条 申請資格を有する学生で、ステラ・マリス奨学生として授業料の減免を受けようとする者は、授業料免除申請書に所要の事項を記入して教学課に提出をするものとする。

- (選考)
- 第5条 授業料免除者の選考委員は、大学運営会議の構成員とする。
- 2 選考は、大学運営会議構成員のうち学長から指示された委員が、学修計画や学内のクラブ及び学校行事等での活動について面談して調査し、各申請者の可否と免除額についての意見を学長に伝える。
- 3 採用は、選考委員の意見を参考として、学長が決定する。
- 4 ステラ・マリス奨学生に採用された学生は、所定の宣誓書を提出しなければならない。
- (奨学生の心構え)
- 第6条 ステラ・マリス奨学生は、大学の広報活動やクラブ活動等に積極的に参加して、大学行事において主導的役割を果たすこと。
- (規程の改廃)
- 第7条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、理事会で決定する。

別表1 (第2条関連)

前学期のG.P.Aに伴う学費減免額の目安	
G. P. A. の基準	授業料の減免額
3.80以上	半額
3.60以上	10万円
3.50以上	5万円

諸事情により、減免額は変更されることがある。
同一学年、同一学科上位5%以内の成績であること（申請を希望する者は教学課で確認すること）
4年次生は3年次の春・秋学期両方のG.P.A.が基準値以上の者。

別表2 (第2条関連)

英語観光学科のTOEIC申請基準スコアの目安	
2年次	500点以上
3年次	550点以上
4年次	600点以上

試験に関する規程

(総則)

第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学学則第20条第3項の規定に基づき、試験に関して必要な事項を定めるものとする。

第2条 試験は、神戸海星女子学院大学学則第20条第1項の規定に基づき、履修した授業科目に対してのみ行い、その試験に合格した者には所定の単位を与えるものとする。

第3条 試験は定期試験、追試験及び再試験に分けられる。ただし、レポート等をもって試験に代える場合がある。その場合は、この規程に定める各条の適用を受けるものとする。

2 実技・実習科目及び卒業研究については、実技・実習又は卒業研究の提出をもって定期試験に代えることができる。

第4条 教員は、その担当科目の試験終了後、期限内に成績を決定し教学課に提出しなければならない。

第5条 試験を受ける者は、授業料及びその他の学費を完納していること。

第6条 試験中不正行為を行った場合は、当該科目の履修を無効とする。
(定期試験)

第7条 定期試験とは、行事予定表に示す試験実施週に行うものをいう。

第8条 定期試験は、春学期末及び秋学期末に行う。

2 集中講義等の科目については、前項の定めにかかわらず、当該授業終了後に行うことができる。

第9条 定期試験に出席できない場合は、事前又は当日速やかに教学課に連絡し、指示を受けなければならない。無断で欠席した場合は受験を放棄したものとみなされ、追試験を受けることができない。

(追試験)

第10条 病気その他やむを得ない理由で定期試験に出席できない者に対しては、追試験を行う。

第11条 追試験は、第8条に定める試験の終了後、一定の期間に行う。ただし、短期留学等の特別の理由があるときには、当該試験の終了後、

臨時に行うことがある。

第12条 追試験を受けるには、当該試験から2日以内に「追試験受験願」を教学課に提出しなければならない。病気等の場合は医師の診断書、就職試験の場合はキャリアセンターの認印、やむを得ない理由の場合は保証人の証明書を添付するものとする。

第13条 追試験の受験を認められた者は、所定の追試験受験料を納入しなければならない。

第14条 追試験の受験許可は、「追試験受験願」により教務部長が行う。

第15条 追試験の成績は、原則として2割減点とする。

第16条 父母及び兄弟姉妹の死亡による忌引、教育実習及び介護等の体験のため定期試験に出席できない者に対する追試験には、第15条を適用しない。

第17条 追試験を定められた日時に受験しない場合は、理由の如何を問わず受験を放棄したものとみなす。

(再試験)

第18条 再試験は、4年次生の定期試験不合格者に限って行う。

第19条 再試験は、第8条に定める試験の終了後、一定の期間に行う。ただし、短期留学等の特別の理由があるときには、当該試験の終了後、臨時に行うことがある。

第20条 再試験の受験を認められた者は、所定の再試験受験料を納入しなければならない。

第21条 再試験の受験許可は、「成績報告書」により教務部長が行う。

第22条 再試験は合・否をもって評価し、合格点は60点とする。

第23条 再試験を定められた日時に受験しない場合は、理由の如何を問わず受験を放棄したものとみなす。

(その他)

第24条 その他試験に関する細則は、履修要項に定める。

(規程の改廃)

第25条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

卒業研究に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、卒業研究について具体的な事項を定めることを目的とする。

(卒業研究の提出)

第2条 本学を卒業しようとする者は、卒業研究を提出し、審査に合格しなければならない。

(卒業研究計画書の提出)

第3条 卒業研究を提出しようとする者は、7月15日までに卒業研究計画書を教学課に提出しなければならない。

(卒業研究の様式)

第4条 卒業研究は、所定の様式にしたがって作成しなければならない。また要約を添付しなければならない。

(卒業研究の提出期限)

第5条 卒業研究の提出期限は、1月15日17時とする。秋留学の学生に関しては、卒業研究の提出期限を、2月20日17時とする。期限に遅れた場合は受理しない。

(卒業研究の提出方法)

第6条 卒業研究は、本人が教学課に直接提出しなければならない。郵送等による提出は認めない。

(卒業研究の審査)

第7条 指導教員を主査、同学科の他の教員を副査とし、査読と口頭試問によって行う。口頭試問の詳細については別に定める。

第8条 卒業研究指導教員は、秋学期科目成績報告締切日17時までに卒業研究を審査し、評価を教学課に提出しなければならない。秋留学の学生に関しては、卒業研究指導教員は、卒業研究の提出期限の2日後の17時までに卒業研究を審査し、評価を教学課に提出しなければならない。

(卒業研究の再提出)

第9条 卒業研究の評価が60点未満の場合は、再提出するよう指示することがある。

第10条 卒業研究指導教員は、卒業研究を再提出させる場合、秋学期科目成績報告締切日の17時までに学科主任と教務部長にその旨報告しなければならない。秋留学の学生に関しては、卒業研究の提出期限の2日後の17時までとする。

第11条 卒業研究の再提出を指示された者は、所定の用紙に記入し、再試験受験料を納入しなければならない。

第12条 卒業研究の再提出期限は、教務部長が指定した日とする。秋留学の学生に関しては、教務部長が別に定める。期限に遅れた場合は受理しない。

第13条 卒業研究の再提出先は、教学課とする。

第14条 再提出の卒業研究は合否をもって評価し、合格点は60点とする。評価の期限は秋学期再試験成績締切日の17時までとする。

第15条 卒業研究が不合格のため卒業できなかった学生については、春学期での卒業研究の提出を認め、その期限を7月15日17時とする。卒業研究指導教員は春学期科目成績報告締切日の17時までに卒業研究を審査し、評価を教学課に提出する。評価が60点に満たず再提出となる場合、卒業研究指導教員は春学期科目成績報告締切日17時までに学科主任と教務部長にその旨報告をする。再提出を指示された学生は所定の手続きを行い、8月20日17時までに教学課へ再提出する。担当教員は春学期再試験成績締切日の17時までに合否をもって評価する。

第16条 前各条について、期限当日が大学の休日の場合、原則として翌日を期限とする。

(改廃)

第17条 この内規の改廃は、教務委員会が行う。

学生の留学に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学（以下「**本学**」という）学生の外国の大学等への長期、中期、短期、認定留学、特別認定留学及び交換留学に関して、必要な事項を定めることを目的とする。

(留学先、期間及び留学資格)

第2条 留学区分、期間及び留学資格については、別表1のとおりとする。
(応募書類)

第3条 応募に必要な書類は、次のとおりとする。

- (1) 長期、中期留学
・応募申込書 ・留学計画書 ・その他関係書類
- (2) 短期留学
・応募申込書 ・留学計画書
- (3) 認定留学
・応募申込書 ・留学計画書 ・その他関係書類
- (4) 特別認定留学
・特別認定留学申請書 ・留学計画書 ・研修内容を明示したパンフレットの写し
- (5) 交換留学
・応募申込書 ・留学計画書 ・その他関係書類

(書類の提出・審査)

第4条 留学に応募する者は、前条に定める書類を教学課に提出し、国際交流委員会及び在籍学科会議において留学の可否の審査を受けなければならない。

2 国際交流委員会は、前項の審査結果を学長に報告し、学長が留学の可否を決定する。

(留学中の学費等)

第5条 留学を許可された者は、在学中と同額の学費を本学に納入するものとする。

2 英語観光学科在籍の留学を許可された者に対して、留学費用を補助するため、留学奨学金又は留学支援金を給付する。心理こども学科在籍の留学を許可され条件を満たした者に対して、留学費用を補助するため、留学支援金を給付する。

3 留学奨学金・支援金の取扱いについては、神戸海星女子学院大学

留学奨学金・支援金に関する規程に定める。

4 特別認定留学を留学支援金の対象外とする。

5 交換留学に関しては、留学先での学費は本学に納入した学費を充当する。

(単位認定願)

第6条 帰国した学生が、留学先で修得した単位を本学の単位として認定を受けようとする場合は、単位認定願に留学先が作成した成績証明書等を教学課に提出し、国際交流委員会及び在籍学科会議において単位認定の審査を受けなければならない。

(単位の認定)

第7条 留学先で修得した単位は、それぞれ所定の単位を超えない範囲で、本学において修得したものとして読み替えることができる。

ただし、それぞれ所定の単位を超えない範囲とは、次のとおりとする。

- ・長期留学 30単位（読替）
- ・中期留学 15単位（読替）
- ・短期留学 4単位（学外科目）
- ・認定留学 長期の場合30単位（読替）
中期の場合15単位（読替）
- ・交換留学 長期の場合30単位（読替）
中期の場合15単位（読替）
- ・特別認定留学 2単位（学外科目）

在学中の読替単位は、30単位までとする。

2 特別認定留学については、留学先において60時間以上の授業を受講するとともに、帰国後2週間以内に修了証書及び授業プログラムを教学課に提出しなければならない。なお、単位の認定は、夏季休業期間中に留学した場合は、当該年度の秋学期、春季休業期間中に留学した場合は、翌年度の春学期とする。

3 国際交流委員会は、認定願及び添付書類の審査を行う他、必要のある場合は、試験等を行うことができる。

4 国際交流委員会は、前項の審査結果を学長に報告し、学長が単位認定の可否を決定する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

別表1 (第2条関連)

区 分	期 間	留 学 資 格
長期留学	約8カ月間、ただし復帰する学期の開始に支障がない期間延長が可能	1 年次修了後の学生で次の条件を満たす者 ・ 本学が指定する試験を受け一定のレベルに達していること
中期留学	春学期又は秋学期の約4カ月間、ただし復帰する学期の開始に支障がない期間延長が可能	・ 留学の趣旨を本人及び保護者が理解していること
短期留学	夏季休業期間中の約4週間	本学学生で次の条件を満たす者 ・ 留学の趣旨を本人及び保護者が理解していること ・ 海外での研修に耐える心身の健康を持ち合わせていること
認定留学	・ 中期 春学期又は秋学期の3～4カ月間 ・ 長期 約8カ月間 ※ただし中・長期とも復帰する学期の開始に支障がない期間延長が可能	1 年次修了後の学生で次の条件を満たす者 ・ 本学が指定する試験を受け一定のレベルに達していること ・ 留学の趣旨を本人及び保護者が理解していること
交換留学	・ 中期 春学期又は秋学期の約4カ月間 ・ 長期 約8カ月間 ※ただし中・長期とも復帰する学期の開始に支障がない期間延長が可能	1 年次修了後の学生で次の条件を満たす者 ・ 本学が指定する試験を受け一定のレベルに達していること ・ 留学の趣旨を本人及び保護者が理解していること
特別 認定留学	夏季休業期間中又は3月中	本学学生で次の条件を満たす者 ・ 留学の趣旨を本人及び保護者が理解していること ・ 海外での研修に耐える心身の健康を持ち合わせていること

科目等履修生に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学学則45条に基づき、科目等履修生に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(提供科目)

第2条 広く一般社会人に学修の機会を提供するため、本学の特定の授業科目の履修を希望する者があるときは、学長は教務部長に諮り、科目等履修生としてこれを許可することができる。ただし、原則として、卒業研究及び演習を履修することはできない。

2 学外実習科目の履修は、本学の卒業生に限ることとする。

(履修資格)

第3条 科目等の履修を希望する者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 高等学校の卒業生

ただし、3年次、4年次配当科目については、短期大学を卒業した者又は大学において2年間の課程を修了した者

(2) 上記(1)と同等の学力があると認められる者

(履修手続)

第4条 科目等の履修を希望する者は、検定料を添えて次の書類を提出しなければならない。

(1) 科目等履修願書

(2) 履歴書

(3) 健康診断書

(4) 科目等の履修資格を有することの証明書

(履修期間)

第5条 科目等履修の期間は半年とし、継続履修を希望するときは、改めて願い出なければならない。

(履修単位)

第6条 科目等履修生が1学期間に履修できる科目等の単位数の合計は、原則10単位以内とする。

(単位認定)

第7条 科目等履修生が、受講した授業科目の試験を受けて合格すれば、当該授業科目の単位を認定する。ただし、科目等履修生としての在籍期間は、本大学の正規の在学期間に加えることはできない。

(受講料)

第8条 科目等の履修を許可された者は、受講料を納入しなければならない。その金額は別途これを定める。

(履修生証)

第9条 科目等履修生は、履修生証の交付を受け、これを携帯しなければならない。ただし、科目等履修生には学生運賃割引証の交付等、正規学生と同様の特典は認められない。

(義務)

第10条 科目等履修生は、本大学の諸規則を遵守しなければならない。なお、履修生としてふさわしくない行為があった者には、科目等履修の許可を取り消すことがある。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

聴講生に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学学則46条に基づき、聴講生に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(提供科目)

第2条 本学の特定の授業科目について、聴講を希望する者があるときは、学長は教務部長に諮り、聴講生としてこれを許可することができる。ただし、原則として、卒業研究、演習、実験・実習を伴う科目、及び教職課程並びに保育士養成課程については、聴講を認めない。

(聴講資格)

第3条 聴講を希望する者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 高等学校卒業生

(2) その他、上記と同等の学力があると認められる者

(聴講手続)

第4条 聴講を希望する者は、検定料を添えて次の書類を提出しなければならない。

(1) 聴講願書

(2) 履歴書

(3) 健康診断書

(4) 聴講の資格を有することの証明書

(聴講期間)

第5条 聴講の期間は半年とし、聴講継続を希望するときは、改めて願

い出なければならない。

(聴講科目数)

第6条 聴講生が1学期間に聴講できる科目数は、6単位相当以内とする。

(単位認定)

第7条 聴講生は受講した授業科目の試験を受けることができる。また、試験に合格した授業科目については、願い出に基づき証明書を発行するが、単位は与えられない。

(受講料)

第8条 聴講を許可された者は、聴講料を納入しなければならない。その金額は別途これを定める。

(聴講生証)

第9条 聴講生は、聴講生証の交付を受け、これを携帯しなければならない。ただし、聴講生には学生運賃割引証の交付等、正規学生と同等の特典は認められない。

(義務)

第10条 聴講生は本大学の諸規則を遵守しなければならない。なお、聴講生としてふさわしくない行為があった者には、聴講の許可を取り消すことがある。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は教授会の議を経て、学長が行う。

転科に関する規程

- (目的)
- 第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学学則第10章第39条の2に基づき、転科について必要な事項を定めるものとする。
- (許可)
- 第2条 転科は、転科希望対象学科に欠員があり、教育上支障を生ずる恐れがない場合に許可される。ただし、第2志望で入学した学生には、原則として転科は認められない。
- (転科願)
- 第3条 秋学期からの転科を希望する場合は当該年度の7月末までに、春学期からの転科を希望する場合は前年度の1月末までに、別紙様式により、学長にその旨を願い出なければならない。
- 第4条 転科願を提出する前に、担任教員と面談し、許可を得なければならない。
- (審査)
- 第5条 転科の可否は、学長、教務部長、両学科主任が面接を行い、その結果を教授会に報告し、教授会で審議・決定する。
- (回数)
- 第6条 転科は、各学生につき1回しか許可されない。
- (在籍年次)
- 第7条 転科した者は、在籍年数の年次に所属する。転科に伴う単位認定については、別に定める。
- (規程の改廃)
- 第8条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

健康診断規程

- (趣旨)
- 第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学の学生に対する健康診断及び事後措置等について必要な事項を定めるものとする。
- (実施機関)
- 第2条 健康診断は、神戸海星女子学院大学保健室（以下「保健室」という。）が主管する。
- (健康診断の種類)
- 第3条 健康診断は、定期健康診断及び臨時健康診断とする。
- 2 定期健康診断は、毎年定期に行う。
- 3 臨時健康診断は、保健室が必要と認めたときに行う。
- (受診の義務)
- 第4条 学生は健康診断を受けなければならない。
- 2 学生は、やむを得ない理由により健康診断を受けることができないときは、速やかに保健室員に申し出て、指示を受けなければならない。
- (健康診断の結果の通知)
- 第5条 保健室員は、健康診断の結果を学長に報告するとともに、学生に通知し健康に異常のある学生には必要な医療を受けるように指示するものとする。
- (事後処理)
- 第6条 学長は、健康診断の結果、健康に異常があると通知された学生に対して保健室員と協議のうえ、学生の健康回復に必要な指導を行わなければならない。
- 2 健康診断の結果、健康に異常が認められた学生は、前項の指導に従わなければならない。
- (健康診断票)
- 第7条 健康診断の結果は、健康診断票に記録し、卒業後5年間はこれを保存するものとする。
- (証明書の発行)
- 第8条 第3条の健康診断を受けた者が、健康診断証明書の発行を願ったときは、健康診断証明書を発行するものとする。
- (規程の改廃)
- 第9条 この規程は、教授会の議を経て、学長が行う。

保健室規程

- (趣旨)
- 第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学学則第53条第2項の規定に基づき、神戸海星女子学院大学保健室（以下「保健室」という。）に関して、必要な事項を定めるものとする。
- (実施機関)
- 第2条 保健室は、学生、職員の心身の健康維持及び増進を図ることを目的として設置する。
- (業務)
- 第3条 保健室は、次の業務を行う。
- (1) 定期及び臨時の健康診断に関すること。
- (2) 救急処置に関すること。
- (3) 健康相談及び保健の指導助言に関すること。
- (4) 学生の健康診断証明書の発行に関すること。
- (5) その他保健管理に関すること。
- (保健室責任者)
- 第4条 保健室に保健室責任者を置く。
- 2 保健室責任者は、本学職員の中から学長がこれを委嘱する。
- (校医)
- 第5条 第3条に規定する業務を行うために、校医を置くものとする。
- (改廃)
- 第6条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

図 書 館 規 程

(名称及び目的)

- 第1条 神戸海星女子学院大学学則第52条第2項の規程に基づき、本学に神戸海星女子学院大学図書館（以下「図書館」という。）を置く。
- 2 図書館は研究・教育に必要な資料を組織的に保管・管理し、本学教職員、学生、その他図書館館長（以下「館長」という。）の許可を得た者に対し、情報サービスを行い、本学の研究・教育の円滑な実施に寄与することを目的とする。
- 3 本学の研究・教育に必要な資料（以下「資料」という。）はすべてを図書館に収蔵する。
- (館長)
- 第2条 図書館に館長を置く。
- 2 館長は学長が教授会に諮ったうえ、理事会の承認を得て、理事長がこれを任命する。
- 3 館長は学長の委任を受け、館務を総括する。
- 4 館長の任期は3年とする。
- (事務職員)
- 第3条 図書館に事務職員等を置く。

- 2 事務職員等の職務区分及び事務分掌規程、業務細則については別に定める。
- 3 図書館に課長又は係長をおくことができる。
- 4 課長又は係長は、学長と事務長が合議のうえ、理事会に推薦し、理事会の承認を得て、これを任命する。
- 5 課長又は係長は、館長の命を受け、館務を処理する。
- (図書委員会)
- 第4条 図書館に館長の諮問及び資料の購入選択のための機関として、図書委員会を置く。
- 2 図書委員会については、図書委員会規程に定める。
- (図書資料の管理)
- 第5条 図書資料の管理については、図書管理規程に定める。
- (図書館利用)
- 第6条 閲覧・帯出等利用については、図書館利用規程に定める。
- (規程の改廃)
- 第7条 本規程の改正には、館長がこれを提案し、教授会の議を経た後、理事会の承認を得なければならない。

図 書 館 利 用 規 程

(目的)

- 第1条 神戸海星女子学院大学図書館規程第6条にもとづく図書館利用については、この規程の定めるところによる。
- (利用者の資格)
- 第2条 図書館を利用することができるものは、次の各号に掲げるものとする。
- (1) 学校法人海星女子学院の教職員
 - (2) 神戸海星女子学院大学（以下「本学」という。）の学生
 - (3) 神戸海星女子学院高等学校（以下「高校」という。）の生徒
 - (4) 本学及び高校の卒業生
 - (5) その他、特に館長が許可した者
- (身分証明証等の提示)
- 第3条 図書館を利用する者は、次の証明証を携帯しなければならない。
- (1) 本学教職員及び学生は身分証明証
 - (2) 本学卒業生は利用許可証
 - (3) 前条第4号に該当する者は館長が交付する利用許可証
- 2 前項の証明証等は、図書館職員の要求があったときは、これを提示しなければならない。
- (休館日)
- 第4条 定期休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。
- (1) 土曜日及び日曜日
 - (2) 大学が定める休日
 - (3) 夏季・冬季休業中の一定期間
 - (4) 蔵書整理日（毎月1回）
- 2 臨時に休館するときは、そのつど館長が定めて掲示する。
- (開館時間)
- 第5条 開館時間は、授業のある期間は図書館利用案内に示し、授業のない期間は9時から17時とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは、開館時間を臨時変更することができる。
- (館内利用)
- 第6条 図書資料は原則として開架されているから、利用者は自由に書架から取り出して閲覧することができる。閲覧が終われば、返却台に戻さなければならない。
- 2 開架されていない図書資料を閲覧するには、身分証明証を係員に提出しなければならない。
- (館外利用)
- 第7条 第2条によって利用資格を認められた者は、係員から渡された

図書資料を館外に帯出することができる。ただし、本学教職員を除き次の各号に掲げる図書資料は帯出を許されない。

- (1) 禁帯出の印のある図書資料
 - (2) 新聞、雑誌、大学紀要
 - (3) その他、館長が帯出を不適当と認める図書資料
- 2 視聴覚資料及び機材は、館内で利用するものとし、貸出は行わない。ただし、館長が特に必要と認めるときは、所定の手続きにより貸出を受けることができる。
- 第8条 館外帯出の期間及び冊数は次のとおりとする。ただし、期間内であっても必要に応じて返却を求めることがある。
- | | | |
|---------------|-----|-----|
| (1) 本学教職員 | 1年 | 30冊 |
| (2) 本学学生及び高校生 | 14日 | 5冊 |
| (3) 卒業研究用貸出 | 30日 | 5冊 |
| (4) その他の利用者 | 30日 | 3冊 |
- 2 夏季・冬季休業中の本学学生に対する特別貸出期間は、別に定め、掲示板、ホームページに掲載する。
- 3 本学教員にあっても、年度末には資料を一度返納するものとする。
- 4 館長が必要と認めるときは、前項の帯出期間又は冊数について特別の取り扱いをすることができる。
- 5 卒業しようとする者は、卒業式の前日までに、帯出図書資料を返却しなければならない。
- 第9条 館外に帯出した図書資料は、帯出者が保管し、他人に転貸してはならない。
- 第10条 帯出期限を越えても返却しない者には、延滞日数だけ貸出を停止する。
- 第11条 督促を受けた者は、直ちに帯出図書資料を返却しなければならない。帯出期限から30日を超えても返却しない場合は、紛失とみなす。
- (弁償)
- 第12条 図書資料を紛失又は著しく汚損したときは、現品をもって弁償しなければならない。ただし、事情によりこれに相当する代価を支払わせることがある。
- (利用の停止)
- 第13条 この規程に違反した者は、利用を停止することができる。
- (改廃)
- 第14条 この規程の改廃は、館長がこれを提案し、図書委員会及び教授会の議を経て、学長の承認を得なければならない。

図 書 管 理 規 程

- (目的)
- 第1条 この規程は、神戸海星女子学院大学図書館規程第5条に掲げる図書資料の収集及び管理の基準を定める。
- (用語)
- 第2条 この規程にいう収集とは、図書資料の発注と検収をいい、管理とは、図書資料の登録、保管、点検及び除籍をいう。
- (責任)
- 第3条 図書資料の収集及び管理の責任は、図書館長にある。
- (図書資料の所属)
- 第4条 この規程にいう図書資料とは、神戸海星女子学院大学の資産に属する。
- (資産区分)
- 第5条 図書資料は固定資産として計上する。ただし、次の各号に掲げるものは、固定資産とせず、消耗図書とする。
- (1) 事務用として使用するもの
 - (2) 消耗度の高いもの
 - (3) 長期保存を要しないもの
 - (4) 個人研究費で購入したもの
 - (5) その他、保存に適さないもの
- 2 第1項各号の認定は、司書の判断にもとづいて、館長がこれを行う。
- (価格評価)
- 第6条 図書資料の価格は、取得に要する価格とする。
- 2 交換又は寄贈によるものについては、その定価による。ただし、定価表示のないもの、又は古書については、時価又は評価額によって算定する。
- 3 合冊製本されたものについては、各冊の製本代とする。
- (収書)
- 第7条 収書については、図書委員会規程第3条に定めるところによる。
- (発注)
- 第8条 図書資料を購入するときは、司書が発注書によって、これを行う。
- 2 価格を確認する必要があるときは、発注に先立って見積書をとらなければならない。
- 3 特に契約を必要とするときは、契約書をもって発注書にかえること

- ができる。
- (検収)
- 第9条 図書資料の受け入れに当たっては、発注書又は契約書と照合して、現品を検収しなければならない。
- (登録)
- 第10条 検収された図書資料は、目録分類によって整理し、これに所定の蔵書印を押印し図書原簿に登録する。
- 2 第5条によって消耗図書とする図書資料は、その旨原簿において表示する。
- (保管)
- 第11条 前条によって登録された図書資料は、所定の場所に保管される。
- 2 図書館以外の場所に保管されるものについては、帳簿に記録し、その所在を明確にしなければならない。
- 3 保管された図書資料の利用については、別に定める図書館利用規程による。
- (点検)
- 第12条 保管の実状を確認するため、毎年一回点検を行う。
- 2 点検の結果について、館長は経理担当者及び学長に報告しなければならない。
- (除籍)
- 第13条 固定資産とした図書資料で、次の各号に該当するものは、除籍することができる。
- (1) 紛失図書であって、所在不明となってから3年を経過したもの
 - (2) 破損、汚損または摩耗度が甚だしく修理不能のもの
 - (3) 図書資料として価値を失ったもの
- (除籍時の処理)
- 第14条 固定資産とした図書資料を除籍するときは、その事由を具し、図書委員会の議に附し、学長の承認を受けなければならない。
- 2 除籍した図書資料は、原簿から抹消され、除籍簿に記入される。
- 3 除籍した図書資料は、廃棄しなければならない。
- (改廃)
- 第15条 この規程の改廃は、館長がこれを提案し、大学の事務長と協議のうえ、学長の承認を得なければならない。

索

引

- ・ シラバス索引 (科目コード順) P. 321
- ・ シラバス索引 (五十音順) P. 326

2024年度 シラバス索引 (科目コード順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
共通科目				
キリスト教入門	11101	尾崎 秀夫	I	157
聖書概論	11105	森 陽子	I	157
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫	I	158
聖書と現代	11113	森 陽子	II	158
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫	III	159
基礎演習 I	11201	一尾 敏正／南 夏世	I	159
基礎演習 II	11205	一尾 敏正／南 夏世	I	160
海星学 I	11206	佐伯 瑠璃子／南 夏世／成木 智子／中國 佐恵子	II	160
海星学 II	11207	佐伯 瑠璃子／南 夏世／成木 智子／中國 佐恵子	II	161
人間学 1	11209	尾崎 秀夫	I	161
人間学 2	11213	芝山 豊	III	162
キャリアデザイン入門	11301	前田 典子	I	162
文学入門	11309	箕野 聡子	I	163
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	I	173
心理学概論	11317	中植 満美子	I	163
統計学入門	11321	埴岡 忠清	I	164
ジェンダー論	11325	浅井 由美	I	164
日本国憲法	11329	浅野 宜之	I	165
健康科学	11333	殿垣 哲也	I	165
健康スポーツ 1	11337	殿垣 哲也	I	166
日本文化史	11353	箕野 聡子	II	166
簿記会計学	11357	埴岡 忠清	II	167
現代家族関係論	11365	浅井 由美	II	167
社会福祉論	11369	西橋 隆三	III	168
人権教育論	11373	松井 敦	II	168
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	II	169
家政学概論	11381	浅井 由美	II	169
経営学入門	11385	地頭所 里紗	I	170
手話コミュニケーション I	11393	嘉田 眞典／八木 篤子	II	170
手話コミュニケーション II	11397	嘉田 眞典／八木 篤子	II	171
日本語表現法	11401	箕野 聡子	I	172
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子	II	172
情報リテラシー 1	11501	渡辺 卓也	I	173
情報リテラシー 2	11505	渡辺 卓也	I	174
オフィス情報処理 1	11509	渡辺 卓也	II	174
オフィス情報処理 2	11513	渡辺 卓也	II	175
女性と社会	11517	浅井 由美	III	171
英語 1	11601	宮副 紀子	I	175
英語 2	11605	宮副 紀子	I	176
英語 3	11609	石原 敬子	I	176
英語 4	11613	吉野 美智子	I	177
英語 5	11617	David John SANDEMAN	II	177
英語 6	11621	木下 奈美	II	178
英語 7	11625	James C. JENSEN	II	178
英語 8	11629	木下 奈美	II	179
フランス語 1	11633	平田 淳子	I	179
フランス語 2	11637	平田 淳子	I	180
フランス語 3	11641	平田 淳子	I	180
フランス語 4	11645	平田 淳子	I	181
フランス語 5	11649	平田 淳子	II	181
フランス語 6	11653	平田 淳子	II	182
フランス語 7	11657	平田 淳子	II	182
フランス語 8	11661	平田 淳子	II	183
中国語 1	11665	坂口 文馨	I	183
中国語 2	11669	沈 竑	I	184
中国語 3	11673	坂口 文馨	I	184
中国語 4	11677	沈 竑	I	185
中国語 5	11681	坂口 文馨	II	185
中国語 6	11685	王 嬌	II	186
中国語 7	11689	坂口 文馨	II	186
中国語 8	11693	王 嬌	II	187
韓国語 1	11697	宋 京珠	I	187
韓国語 2	11701	宋 京珠	I	188
韓国語 3	11705	宋 京珠	I	188
韓国語 4	11709	宋 京珠	I	189
韓国語 5	11713	安 在善	II	189
韓国語 6	11717	安 在善	II	190

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
韓国語 7	1 1 7 2 1	安 在善	Ⅱ	190
韓国語 8	1 1 7 2 5	安 在善	Ⅱ	191
専門科目 (英語観光学科)				
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	箕野 聡子	Ⅲ	195
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	佐伯 瑠璃子	Ⅲ	195
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	酒井 新一郎	Ⅲ	196
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	箕野 聡子	Ⅲ	196
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	佐伯 瑠璃子	Ⅲ	197
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	酒井 新一郎	Ⅲ	197
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	一尾 敏正	Ⅳ	198
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	箕野 聡子	Ⅳ	198
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	宮副 紀子	Ⅳ	199
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	酒井 新一郎	Ⅳ	199
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	吉野 美智子	Ⅳ	200
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	一尾 敏正	Ⅳ	200
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	箕野 聡子	Ⅳ	201
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	宮副 紀子	Ⅳ	201
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	酒井 新一郎	Ⅳ	202
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	吉野 美智子	Ⅳ	202
ホスピタリティ精神論	1 3 2 7 2	一尾 敏正	Ⅰ	212
日本文化論	1 3 2 7 3	箕野 聡子	Ⅱ	214
翻訳・通訳論入門	1 3 3 0 1	樫本 雄三／和泉 有香	Ⅱ	215
ことばと社会	1 3 4 0 5	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	213
異文化理解	1 3 4 0 9	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	212
英米文学入門	1 3 4 1 3	吉野 美智子	Ⅰ	213
コミュニケーションと文化	1 3 4 1 9	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	214
観光概論	1 3 4 2 6	一尾 敏正	Ⅰ	217
国際観光交流論	1 3 4 2 7	一尾 敏正	Ⅰ	217
環境ツーリズム論	1 3 4 3 0	酒井 新一郎	Ⅱ	218
観光事業総論	1 3 4 3 1	酒井 新一郎	Ⅰ	219
観光と世界遺産	1 3 4 3 2	酒井 新一郎	Ⅱ	219
観光ビジネス実務論	1 3 4 3 4	酒井 新一郎	Ⅱ	220
企業研究	1 3 4 4 0	一尾 敏正	Ⅲ	220
海外ツーリズム研修	1 3 4 4 5	酒井 新一郎	Ⅱ	221
ツーリズム実務特論	1 3 4 5 0	酒井 新一郎	Ⅱ/Ⅲ	221
児童文学	1 3 5 0 1	宮副 紀子／箕野 聡子	Ⅱ	216
英米文学研究	1 3 5 2 1	宮副 紀子	Ⅲ	229
Business English Ⅰ	1 3 6 0 5	David John SANDEMAN	Ⅲ	222
Business English Ⅱ	1 3 6 0 9	David John SANDEMAN	Ⅲ	222
ビジネス翻訳	1 3 6 2 1	樫本 雄三	Ⅲ	229
児童英語教育概論	1 3 7 0 1	高田 悦子	Ⅰ	234
英語科教育法Ⅰ	1 3 7 0 5	天野 史子	Ⅰ	235
英語科教育法Ⅱ	1 3 7 0 9	宮副 紀子	Ⅱ	235
英語学概論	1 3 7 1 3	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	215
キッズ・イングリッシュⅠ	1 3 7 2 5	高田 悦子	Ⅱ	236
キッズ・イングリッシュⅡ	1 3 7 2 9	天野 史子	Ⅱ	236
キッズ・イングリッシュⅢ (実習)	1 3 7 3 3	天野 史子	Ⅲ	238
英語科教育法Ⅲ	1 3 7 3 7	吉野 美智子	Ⅲ	237
英語科教育法Ⅳ	1 3 7 4 1	吉野 美智子	Ⅲ	237
外国語教授法	1 3 7 4 5	天野 史子	Ⅲ	238
TOEIC/TOEFL入門 1	1 3 8 0 6	宮副 紀子	Ⅰ	204
TOEIC/TOEFL入門 2	1 3 8 0 7	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	206
教職概論 (中高)	1 3 8 0 9	松井 敦	Ⅰ	239
教職概論 (キッズ)	1 3 8 0 9	松井 敦	Ⅰ	239
教育・学校心理学	1 3 8 1 5	濱田 誠二郎	Ⅰ	240
TOEIC/TOEFL 1	1 3 8 2 2	和泉 有香	Ⅱ	209
TOEIC/TOEFL 2	1 3 8 2 3	和泉 有香	Ⅱ	211
道德教育指導論 (中等)	1 3 8 2 9	松井 敦	Ⅱ/Ⅲ	243
比較文化論	1 3 8 3 0	箕野 聡子	Ⅲ	230
ホスピタリティ・マネジメント	1 3 8 3 1	一尾 敏正	Ⅱ	231
ビジネス中国語	1 3 8 3 2	王 嬌	Ⅲ	233
観光マーケティング論	1 3 8 3 3	一尾 敏正	Ⅲ	231
宿泊事業論	1 3 8 3 5	一尾 敏正	Ⅲ	232
観光フランス語	1 3 8 3 7	平田 淳子	Ⅲ	234
観光地理論	1 3 8 4 0	酒井 新一郎	Ⅰ	218
神戸学	1 3 8 4 1	箕野 聡子	Ⅲ	233
航空事業論	1 3 8 4 3	石井 由美子	Ⅲ	232
教育相談 (カウンセリングを含む)	1 3 8 5 2	濱田 誠二郎	Ⅲ	242
教育経営論 (中高)	1 3 8 5 3	堀 正人	Ⅲ	242

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）	1 3 8 5 4	松井 敦	Ⅱ	240
教育方法論	1 3 8 5 6	堀 正人	Ⅱ	241
教育における I C T活用	1 3 8 5 9	渡辺 卓也	Ⅱ	241
Reading 101	1 3 9 0 3	佐伯 瑠璃子	I	203
Writing 102	1 3 9 0 5	David John SANDEMAN	I	203
Pronunciation 104	1 3 9 0 8	石原 敬子	I	204
Oral Communication 200	1 3 9 0 9	David John SANDEMAN	I	205
Reading 201	1 3 9 1 1	佐伯 瑠璃子	I	205
Writing 202	1 3 9 1 3	David John SANDEMAN	I	206
Pronunciation 204	1 3 9 1 6	和泉 有香	I	207
Oral Communication 300	1 3 9 1 7	David John SANDEMAN	Ⅱ	207
Reading 301	1 3 9 1 9	木下 奈美	Ⅱ	208
Writing 302	1 3 9 2 1	Cory McKENZIE	Ⅱ	208
Pronunciation 304	1 3 9 2 4	和泉 有香	Ⅱ	209
Oral Communication 400	1 3 9 2 5	James C. JENSEN	Ⅱ	210
Reading 401	1 3 9 2 7	木下 奈美	Ⅱ	210
Writing 402	1 3 9 2 9	David John SANDEMAN	Ⅱ	211
Oral Communication 500	1 3 9 3 9	James C. JENSEN	Ⅲ	223
Reading 501	1 3 9 4 1	吉野 美智子	Ⅲ	223
Writing 502	1 3 9 4 3	David John SANDEMAN	Ⅲ	224
Oral Communication 600	1 3 9 4 7	Cory McKENZIE	Ⅲ	224
Reading 601	1 3 9 4 9	宮副 紀子	Ⅲ	225
Writing 602	1 3 9 5 1	Cory McKENZIE	Ⅲ	225
Oral Communication 700	1 3 9 5 5	David John SANDEMAN	Ⅲ	226
English for Academic Purposes 701	1 3 9 5 7	David John SANDEMAN	Ⅲ	226
Oral Communication 800	1 3 9 6 1	David John SANDEMAN	Ⅳ	227
English for Academic Purposes 801	1 3 9 6 3	David John SANDEMAN	Ⅳ	227
TOEIC/TOEFL 3	1 3 9 6 4	和泉 有香	Ⅲ	228
TOEIC/TOEFL 4	1 3 9 6 6	和泉 有香	Ⅲ	228
インターンシップ（海外）	1 3 9 6 7	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	216
インターンシップ（国内）	1 3 9 6 9	酒井 新一郎	Ⅱ	230
専門科目（心理こども学科）				
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	南 夏世	Ⅲ	247
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	中植 満美子	Ⅲ	247
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	渡邊 恵梨佳	Ⅲ	248
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	南 夏世	Ⅲ	248
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	中植 満美子	Ⅲ	249
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	渡邊 恵梨佳	Ⅲ	249
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	浅井 由美	Ⅳ	250
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	濱田 誠二郎	Ⅳ	250
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	森 晴美	Ⅳ	251
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	中植 満美子	Ⅳ	251
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	成木 智子	Ⅳ	252
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	渡邊 恵梨佳	Ⅳ	252
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	浅井 由美	Ⅳ	253
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	濱田 誠二郎	Ⅳ	253
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	森 晴美	Ⅳ	254
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	中植 満美子	Ⅳ	254
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	成木 智子	Ⅳ	255
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	渡邊 恵梨佳	Ⅳ	255
発達心理学	1 7 2 0 1	濱田 誠二郎	I	256
感情・人格心理学	1 7 3 1 1	中園 佐恵子	I	256
臨床心理学概論	1 7 3 2 7	中園 佐恵子	Ⅱ	257
知覚・認知心理学	1 7 3 3 1	中植 満美子	Ⅱ	257
心理学統計法	1 7 3 3 9	安岡 勇輝	Ⅱ	258
心理学実験	1 7 3 4 2	中園 佐恵子	Ⅱ	258
心理的アセスメント	1 7 3 4 4	中植 満美子	Ⅱ	259
心理調査・データ処理法	1 7 3 4 5	新美 裕之	Ⅱ	259
臨床心理学実習（心理テスト法）	1 7 3 7 5	中植 満美子	Ⅲ	260
心理学的支援法	1 7 3 8 3	中園 佐恵子	Ⅲ	260
心理学研究法	1 7 3 8 7	中園 佐恵子	Ⅲ	261
社会・集団・家族心理学	1 7 3 9 9	中園 佐恵子	Ⅲ	261
生活文化概論	1 7 4 0 5	渋谷 美智	I	262
教育・学校心理学	1 7 4 1 1	濱田 誠二郎	I	262
子どもの理解と援助	1 7 4 1 2	浅田 裕子	Ⅲ	263
初等音楽2	1 7 4 2 1	南 夏世	I	263
子どもと表現（音楽）	1 7 4 2 3	南 夏世	Ⅱ	264
子どもと人間関係	1 7 4 3 4	成木 智子	I	264
児童文学	1 7 4 3 7	宮副 紀子／箕野 聡子	Ⅱ	265

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
子どもと言葉	1 7 4 3 9	森 晴美	Ⅱ	265
乳幼児心理学	1 7 4 4 5	渡邊 恵梨佳	Ⅱ	266
学習・言語心理学	1 7 4 4 7	中園 佐恵子	Ⅱ	266
子どもと環境	1 7 4 5 4	成木 智子	Ⅱ	267
初等英語科指導法	1 7 4 6 7	高田 悦子	Ⅱ	267
キッズ・イングリッシュⅡ	1 7 4 6 9	天野 史子	Ⅱ	268
初等音楽4	1 7 4 7 7	南 夏世	Ⅲ	268
教育相談（カウンセリングを含む）	1 7 4 9 7	濱田 誠二郎	Ⅲ	269
地域子育て支援Ⅰ	1 7 5 0 2	渋谷 美智	Ⅳ	269
地域子育て支援Ⅱ	1 7 5 0 3	渋谷 美智	Ⅳ	270
ボランティア論	1 7 5 0 5	西橋 隆三	Ⅰ	270
子どもと表現（造形）	1 7 5 1 0	森 晴美	Ⅱ	271
初等英語	1 7 5 1 1	高田 悦子	Ⅰ	271
初等体育	1 7 5 1 3	山本 正実	Ⅱ	272
子どもと健康	1 7 5 1 4	森 晴美	Ⅰ	272
教育原理	1 7 5 2 1	澤井 一夫	Ⅱ	273
子ども家庭福祉	1 7 5 2 3	久松 睦典	Ⅱ	273
情緒障害児・知的障害児教育	1 7 5 3 9	濱田 誠二郎	Ⅲ	274
福祉心理学	1 7 5 4 3	新美 裕之	Ⅳ	274
保育内容総論	1 7 5 5 5	渡邊 恵梨佳	Ⅰ	275
保育内容の研究・表現（造形表現）	1 7 6 0 1	森 晴美	Ⅲ	275
教育原理	1 7 6 0 7	渡邊 恵梨佳	Ⅰ	276
教職概論（小）	1 7 6 1 3	松井 敦	Ⅰ	276
教職概論（幼保）	1 7 6 1 3	森 晴美	Ⅰ	277
幼児教育学原理	1 7 6 1 7	森 晴美	Ⅱ	277
幼児教育課程論	1 7 6 2 3	渡邊 恵梨佳	Ⅱ	278
保育内容の指導・人間関係	1 7 6 3 0	成木 智子	Ⅱ	278
保育内容の研究・言葉	1 7 6 3 3	森 晴美	Ⅲ	279
社会的養護Ⅰ	1 7 6 3 9	曾田 里美	Ⅰ	279
社会的養護Ⅱ	1 7 6 4 0	曾田 里美	Ⅲ	292
子どもの保健	1 7 6 4 3	俊野 尚彦	Ⅱ	280
子どもの健康と安全	1 7 6 4 7	成木 智子	Ⅱ/Ⅲ	280
子どもの食と栄養	1 7 6 5 0	成木 智子	Ⅲ	281
保育内容の指導・表現（音楽）	1 7 6 5 6	南 夏世	Ⅱ	281
教育方法論	1 7 6 5 8	堀 正人	Ⅱ	282
教育におけるICT活用	1 7 6 5 9	渡辺 卓也	Ⅱ	282
初等国語科指導法	1 7 6 6 1	藤田 昌央	Ⅱ/Ⅲ	283
特別支援教育（幼小）	1 7 6 8 3	濱田 誠二郎	Ⅱ	283
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法	1 7 6 8 4	都賀 純	Ⅱ	284
保育・教職実践演習（幼保）	1 7 6 8 6	渡邊 恵梨佳／森 晴美	Ⅳ	284
保育・教職実践演習（小）	1 7 6 8 6	濱田 誠二郎	Ⅳ	285
教育実習指導（幼稚園）Ⅰ	1 7 6 9 1	渡邊 恵梨佳	Ⅱ	285
介護等の体験（事前指導）	1 7 6 9 7	浅井 由美	Ⅱ	286
教育実習指導（幼稚園）Ⅱ	1 7 7 0 7	渡邊 恵梨佳	Ⅲ	286
教育経営論	1 7 7 1 3	堀 正人	Ⅲ	287
保育内容の研究・健康	1 7 7 1 7	竹安 知枝	Ⅲ	287
保育内容の研究・環境	1 7 7 2 1	渋谷 美智	Ⅲ	288
幼児教育指導法	1 7 7 2 5	森 晴美	Ⅲ	288
幼児理解の理論と方法（教育相談を含む）	1 7 7 2 7	成木 智子	Ⅲ	289
初等音楽科指導法	1 7 7 3 3	南 夏世	Ⅱ/Ⅲ	289
初等図画工作科指導法	1 7 7 3 7	初田 隆	Ⅱ/Ⅲ	290
初等家庭科指導法	1 7 7 4 1	浅井 由美	Ⅱ/Ⅲ	290
初等体育科指導法	1 7 7 4 5	山本 正実	Ⅱ/Ⅲ	291
道徳教育指導論	1 7 7 4 9	松井 敦	Ⅱ	291
生徒指導論（進路指導を含む）	1 7 7 5 3	松井 敦	Ⅱ/Ⅲ	292
子ども家庭支援論	1 7 7 5 9	浅井 由美	Ⅲ	294
子ども家庭支援の心理学	1 7 7 6 3	島田 麻美子	Ⅲ	293
子育て支援	1 7 7 6 8	成木 智子	Ⅳ	293
乳児保育Ⅰ	1 7 7 7 8	渋谷 美智	Ⅰ	294
乳児保育Ⅱ	1 7 7 7 9	渋谷 美智	Ⅱ	295
障害児保育	1 7 7 8 2	成木 智子	Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ	295
障害者・障害児心理学	1 7 7 8 3	中園 佐恵子	Ⅱ	296
教育実習指導（小学校）	1 7 7 8 5	濱田 誠二郎	Ⅲ	296
保育実習指導ⅠA	1 7 8 1 2	渋谷 美智	Ⅲ	297
保育実習指導ⅠB	1 7 8 1 3	成木 智子	Ⅱ	297
保育実習指導Ⅱ	1 7 8 2 1	成木 智子	Ⅲ	298
神経・生理心理学	1 7 8 2 7	古谷 真樹	Ⅱ	298
司法・犯罪心理学	1 7 8 3 1	十倉 利廣	Ⅱ	299
健康・医療心理学	1 7 8 3 5	石川 慎一	Ⅲ	299
心理演習	1 7 8 3 9	中植 満美子	Ⅳ	300

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
公認心理師の職責	1 7 8 4 3	中植 満美子	Ⅳ	300
産業・組織心理学	1 7 8 4 7	安岡 勇輝	Ⅳ	301
精神疾患とその治療	1 7 8 5 1	石川 慎一	Ⅳ	301
人体の構造と機能及び疾病	1 7 8 5 5	俊野 尚彦	Ⅳ	302
関係行政論	1 7 8 5 9	安岡 勇輝	Ⅳ	302
教職に関する科目（英語観光学科）				
教育原理	1 4 1 1 5	澤井 一夫	Ⅱ	305
介護等の体験（事前指導）	1 4 1 4 7	浅井 由美	Ⅱ	305
特別活動論	1 4 1 8 5	澤井 一夫	Ⅱ	306
特別支援教育（中高）	1 4 1 8 7	濱田 誠二郎	Ⅱ	306
教職実践演習（中・高）	1 4 2 1 4	宮副 紀子／松井 敦	Ⅳ	307
生徒指導論	1 4 2 1 7	松井 敦	Ⅱ／Ⅲ	307
教育実習指導（中等）	1 4 2 3 1	吉野 美智子	Ⅳ	308

2024年度 シラバス索引 (五十音順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
B Business English I	1 3 6 0 5	David John SANDEMAN	Ⅲ	222
Business English II	1 3 6 0 9	David John SANDEMAN	Ⅲ	222
E English for Academic Purposes 701	1 3 9 5 7	David John SANDEMAN	Ⅲ	226
English for Academic Purposes 801	1 3 9 6 3	David John SANDEMAN	Ⅳ	227
O Oral Communication 200	1 3 9 0 9	David John SANDEMAN	I	205
Oral Communication 300	1 3 9 1 7	David John SANDEMAN	Ⅱ	207
Oral Communication 400	1 3 9 2 5	James C. JENSEN	Ⅱ	210
Oral Communication 500	1 3 9 3 9	James C. JENSEN	Ⅲ	223
Oral Communication 600	1 3 9 4 7	Cory McKENZIE	Ⅲ	224
Oral Communication 700	1 3 9 5 5	David John SANDEMAN	Ⅲ	226
Oral Communication 800	1 3 9 6 1	David John SANDEMAN	Ⅳ	227
P Pronunciation 104	1 3 9 0 8	石原 敬子	I	204
Pronunciation 204	1 3 9 1 6	和泉 有香	I	207
Pronunciation 304	1 3 9 2 4	和泉 有香	Ⅱ	209
R Reading 101	1 3 9 0 3	佐伯 瑠璃子	I	203
Reading 201	1 3 9 1 1	佐伯 瑠璃子	I	205
Reading 301	1 3 9 1 9	木下 奈美	Ⅱ	208
Reading 401	1 3 9 2 7	木下 奈美	Ⅱ	210
Reading 501	1 3 9 4 1	吉野 美智子	Ⅲ	223
Reading 601	1 3 9 4 9	宮副 紀子	Ⅲ	225
T TOEIC/TOEFL 1	1 3 8 2 2	和泉 有香	Ⅱ	209
TOEIC/TOEFL 2	1 3 8 2 3	和泉 有香	Ⅱ	211
TOEIC/TOEFL 3	1 3 9 6 4	和泉 有香	Ⅲ	228
TOEIC/TOEFL 4	1 3 9 6 6	和泉 有香	Ⅲ	228
TOEIC/TOEFL入門 1	1 3 8 0 6	宮副 紀子	I	204
TOEIC/TOEFL入門 2	1 3 8 0 7	佐伯 瑠璃子	I	206
W Writing 102	1 3 9 0 5	David John SANDEMAN	I	203
Writing 202	1 3 9 1 3	David John SANDEMAN	I	206
Writing 302	1 3 9 2 1	Cory McKENZIE	Ⅱ	208
Writing 402	1 3 9 2 9	David John SANDEMAN	Ⅱ	211
Writing 502	1 3 9 4 3	David John SANDEMAN	Ⅲ	224
Writing 602	1 3 9 5 1	Cory McKENZIE	Ⅲ	225
い 異文化理解	1 3 4 0 9	佐伯 瑠璃子	I	212
インターンシップ (海外)	1 3 9 6 7	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	216
インターンシップ (国内)	1 3 9 6 9	酒井 新一郎	Ⅱ	230
え 英語 1	1 1 6 0 1	宮副 紀子	I	175
英語 2	1 1 6 0 5	宮副 紀子	I	176
英語 3	1 1 6 0 9	石原 敬子	I	176
英語 4	1 1 6 1 3	吉野 美智子	I	177
英語 5	1 1 6 1 7	David John SANDEMAN	Ⅱ	177
英語 6	1 1 6 2 1	木下 奈美	Ⅱ	178
英語 7	1 1 6 2 5	James C. JENSEN	Ⅱ	178
英語 8	1 1 6 2 9	木下 奈美	Ⅱ	179
英語科教育法Ⅰ	1 3 7 0 5	天野 史子	I	235
英語科教育法Ⅱ	1 3 7 0 9	宮副 紀子	Ⅱ	235
英語科教育法Ⅲ	1 3 7 3 7	吉野 美智子	Ⅲ	237
英語科教育法Ⅳ	1 3 7 4 1	吉野 美智子	Ⅲ	237
英語学概論	1 3 7 1 3	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	215
英米文学研究	1 3 5 2 1	宮副 紀子	Ⅲ	229
英米文学入門	1 3 4 1 3	吉野 美智子	I	213
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	箕野 聡子	Ⅲ	195
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	佐伯 瑠璃子	Ⅲ	195
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	酒井 新一郎	Ⅲ	196
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	南 夏世	Ⅲ	247
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	中植 満美子	Ⅲ	247
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	渡邊 恵梨佳	Ⅲ	248
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	箕野 聡子	Ⅲ	196
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	佐伯 瑠璃子	Ⅲ	197
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	酒井 新一郎	Ⅲ	197
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	南 夏世	Ⅲ	248
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	中植 満美子	Ⅲ	249
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	渡邊 恵梨佳	Ⅲ	249
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	一尾 敏正	Ⅳ	198
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	箕野 聡子	Ⅳ	198
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	宮副 紀子	Ⅳ	199
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	酒井 新一郎	Ⅳ	199
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	吉野 美智子	Ⅳ	200
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	浅井 由美	Ⅳ	250

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅲ	17109	濱田 誠二郎	Ⅳ	250
演習Ⅲ	17109	森 晴美	Ⅳ	251
演習Ⅲ	17109	中植 満美子	Ⅳ	251
演習Ⅲ	17109	成木 智子	Ⅳ	252
演習Ⅲ	17109	渡邊 恵梨佳	Ⅳ	252
演習Ⅳ	13113	一尾 敏正	Ⅳ	200
演習Ⅳ	13113	箕野 聡子	Ⅳ	201
演習Ⅳ	13113	宮副 紀子	Ⅳ	201
演習Ⅳ	13113	酒井 新一郎	Ⅳ	202
演習Ⅳ	13113	吉野 美智子	Ⅳ	202
演習Ⅳ	17113	浅井 由美	Ⅳ	253
演習Ⅳ	17113	濱田 誠二郎	Ⅳ	253
演習Ⅳ	17113	森 晴美	Ⅳ	254
演習Ⅳ	17113	中植 満美子	Ⅳ	254
演習Ⅳ	17113	成木 智子	Ⅳ	255
演習Ⅳ	17113	渡邊 恵梨佳	Ⅳ	255
お オフィス情報処理 1	11509	渡辺 卓也	Ⅱ	174
オフィス情報処理 2	11513	渡辺 卓也	Ⅱ	175
か 海外ツーリズム研修	13445	酒井 新一郎	Ⅱ	221
外国語教授法	13745	天野 史子	Ⅲ	238
介護等の体験（事前指導）	17697	浅井 由美	Ⅱ	286
介護等の体験（事前指導）	14147	浅井 由美	Ⅱ	305
海星学Ⅰ	11206	佐伯 瑠璃子／南 夏世／成木 智子／中園 佐恵子	Ⅱ	160
海星学Ⅱ	11207	佐伯 瑠璃子／南 夏世／成木 智子／中園 佐恵子	Ⅱ	161
学習・言語心理学	17447	中園 佐恵子	Ⅱ	266
家政学概論	11381	浅井 由美	Ⅱ	169
環境ツーリズム論	13430	酒井 新一郎	Ⅱ	218
関係行政論	17859	安岡 勇輝	Ⅳ	302
観光概論	13426	一尾 敏正	Ⅰ	217
観光事業総論	13431	酒井 新一郎	Ⅰ	219
観光地理論	13840	酒井 新一郎	Ⅰ	218
観光と世界遺産	13432	酒井 新一郎	Ⅱ	219
観光ビジネス実務論	13434	酒井 新一郎	Ⅱ	220
観光フランス語	13837	平田 淳子	Ⅲ	234
観光マーケティング論	13833	一尾 敏正	Ⅲ	231
韓国語 1	11697	宋 京珠	Ⅰ	187
韓国語 2	11701	宋 京珠	Ⅰ	188
韓国語 3	11705	宋 京珠	Ⅰ	188
韓国語 4	11709	宋 京珠	Ⅰ	189
韓国語 5	11713	安 在善	Ⅱ	189
韓国語 6	11717	安 在善	Ⅱ	190
韓国語 7	11721	安 在善	Ⅱ	190
韓国語 8	11725	安 在善	Ⅱ	191
感情・人格心理学	17311	中園 佐恵子	Ⅰ	256
き 企業研究	13440	一尾 敏正	Ⅲ	220
基礎演習Ⅰ	11201	一尾 敏正／南 夏世	Ⅰ	159
基礎演習Ⅱ	11205	一尾 敏正／南 夏世	Ⅰ	160
キッズ・イングリッシュⅠ	13725	高田 悦子	Ⅱ	236
キッズ・イングリッシュⅡ	13729	天野 史子	Ⅱ	236
キッズ・イングリッシュⅡ	17469	天野 史子	Ⅱ	268
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）	13733	天野 史子	Ⅲ	238
キャリアデザイン入門	11301	前田 典子	Ⅰ	162
教育・学校心理学	13815	濱田 誠二郎	Ⅰ	240
教育・学校心理学	17411	濱田 誠二郎	Ⅰ	262
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法	17684	都賀 純	Ⅱ	284
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）	13854	松井 敦	Ⅱ	240
教育経営論	17713	堀 正人	Ⅲ	287
教育経営論（中高）	13853	堀 正人	Ⅲ	242
教育原理	17521	澤井 一夫	Ⅱ	273
教育原理	14115	澤井 一夫	Ⅱ	305
教育実習指導（小学校）	17785	濱田 誠二郎	Ⅲ	296
教育実習指導（中等）	14231	吉野 美智子	Ⅳ	308
教育実習指導（幼稚園）Ⅰ	17691	渡邊 恵梨佳	Ⅱ	285
教育実習指導（幼稚園）Ⅱ	17707	渡邊 恵梨佳	Ⅲ	286
教育相談（カウンセリングを含む）	13852	濱田 誠二郎	Ⅲ	242
教育相談（カウンセリングを含む）	17497	濱田 誠二郎	Ⅲ	269
教育におけるICT活用	13859	渡辺 卓也	Ⅱ	241
教育におけるICT活用	17659	渡辺 卓也	Ⅱ	282
教育方法論	13856	堀 正人	Ⅱ	241
教育方法論	17658	堀 正人	Ⅱ	282

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	教職概論 (キッズ)	13809	松井 敦	I	239
	教職概論 (小)	17613	松井 敦	I	276
	教職概論 (中高)	13809	松井 敦	I	239
	教職概論 (幼保)	17613	森 晴美	I	277
	教職実践演習 (中・高)	14214	宮副 紀子／松井 敦	IV	307
	キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫	I	158
	キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫	Ⅲ	159
	キリスト教入門	11101	尾崎 秀夫	I	157
け	経営学入門	11385	地頭所 里紗	I	170
	健康・医療心理学	17835	石川 慎一	Ⅲ	299
	健康科学	11333	殿垣 哲也	I	165
	健康スポーツ1	11337	殿垣 哲也	I	166
	現代家族関係論	11365	浅井 由美	Ⅱ	167
こ	航空事業論	13843	石井 由美子	Ⅲ	232
	公認心理師の職責	17843	中植 満美子	IV	300
	神戸学	13841	箕野 聡子	Ⅲ	233
	国際観光交流論	13427	一尾 敏正	I	217
	子育て支援	17768	成木 智子	IV	293
	ことばと社会	13405	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	213
	子ども家庭支援の心理学	17763	島田 麻美子	Ⅲ	293
	子ども家庭支援論	17759	浅井 由美	Ⅲ	294
	子ども家庭福祉	17523	久松 睦典	Ⅱ	273
	子どもと環境	17454	成木 智子	Ⅱ	267
	子どもと健康	17514	森 晴美	I	272
	子どもと言葉	17439	森 晴美	Ⅱ	265
	子どもと人間関係	17434	成木 智子	I	264
	子どもと表現 (音楽)	17423	南 夏世	Ⅱ	264
	子どもと表現 (造形)	17510	森 晴美	Ⅱ	271
	子どもの健康と安全	17647	成木 智子	Ⅱ/Ⅲ	280
	子どもの食と栄養	17650	成木 智子	Ⅲ	281
	子どもの保健	17643	俊野 尚彦	Ⅱ	280
	子どもの理解と援助	17412	浅田 裕子	Ⅲ	263
	コミュニケーションと文化	13419	佐伯 瑠璃子	I	214
さ	産業・組織心理学	17847	安岡 勇輝	IV	301
し	ジェンダー論	11325	浅井 由美	I	164
	児童英語教育概論	13701	高田 悦子	I	234
	児童文学	13501	宮副 紀子／箕野 聡子	Ⅱ	216
	児童文学	17437	宮副 紀子／箕野 聡子	Ⅱ	265
	司法・犯罪心理学	17831	十倉 利廣	Ⅱ	299
	社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	Ⅱ	169
	社会・集団・家族心理学	17399	中園 佐恵子	Ⅲ	261
	社会的養護 I	17639	曾田 里美	I	279
	社会的養護 II	17640	曾田 里美	Ⅲ	292
	社会福祉論	11369	西橋 隆三	Ⅲ	168
	宿泊事業論	13835	一尾 敏正	Ⅲ	232
	手話コミュニケーション I	11393	嘉田 眞典／八木 篤子	Ⅱ	170
	手話コミュニケーション II	11397	嘉田 眞典／八木 篤子	Ⅱ	171
	障害児保育	17782	成木 智子	Ⅱ/Ⅲ/IV	295
	障害者・障害児心理学	17783	中園 佐恵子	Ⅱ	296
	情緒障害児・知的障害児教育	17539	濱田 誠二郎	Ⅲ	274
	情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	I	173
	情報リテラシー 1	11501	渡辺 卓也	I	173
	情報リテラシー 2	11505	渡辺 卓也	I	174
	女性と社会	11517	浅井 由美	Ⅲ	171
	初等英語	17511	高田 悦子	I	271
	初等英語科指導法	17467	高田 悦子	Ⅱ	267
	初等音楽 2	17421	南 夏世	I	263
	初等音楽 4	17477	南 夏世	Ⅲ	268
	初等音楽科指導法	17733	南 夏世	Ⅱ/Ⅲ	289
	初等家庭科指導法	17741	浅井 由美	Ⅱ/Ⅲ	290
	初等国語科指導法	17661	藤田 昌央	Ⅱ/Ⅲ	283
	初等図画工作科指導法	17737	初田 隆	Ⅱ/Ⅲ	290
	初等体育	17513	山本 正実	Ⅱ	272
	初等体育科指導法	17745	山本 正実	Ⅱ/Ⅲ	291
	神経・生理心理学	17827	古谷 真樹	Ⅱ	298
	人権教育論	11373	松井 敦	Ⅱ	168
	人体の構造と機能及び疾病	17855	俊野 尚彦	IV	302
	心理演習	17839	中植 満美子	IV	300
	心理学概論	11317	中植 満美子	I	163

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
心理学研究法	17387	中國 佐恵子	Ⅲ	261
心理学実験	17342	中國 佐恵子	Ⅱ	258
心理学的支援法	17383	中國 佐恵子	Ⅲ	260
心理学統計法	17339	安岡 勇輝	Ⅱ	258
心理調査・データ処理法	17345	新美 裕之	Ⅱ	259
心理的アセスメント	17344	中植 満美子	Ⅱ	259
せ 生活文化概論	17405	渋谷 美智	Ⅰ	262
聖書概論	11105	森 陽子	Ⅰ	157
聖書と現代	11113	森 陽子	Ⅱ	158
精神疾患とその治療	17851	石川 慎一	Ⅳ	301
生徒指導論	14217	松井 敦	Ⅱ/Ⅲ	307
生徒指導論（進路指導を含む）	17753	松井 敦	Ⅱ/Ⅲ	292
ち 地域子育て支援Ⅰ	17502	渋谷 美智	Ⅳ	269
地域子育て支援Ⅱ	17503	渋谷 美智	Ⅳ	270
知覚・認知心理学	17331	中植 満美子	Ⅱ	257
中国語1	11665	坂口 文馨	Ⅰ	183
中国語2	11669	沈 竑	Ⅰ	184
中国語3	11673	坂口 文馨	Ⅰ	184
中国語4	11677	沈 竑	Ⅰ	185
中国語5	11681	坂口 文馨	Ⅱ	185
中国語6	11685	王 嬌	Ⅱ	186
中国語7	11689	坂口 文馨	Ⅱ	186
中国語8	11693	王 嬌	Ⅱ	187
つ ツーリズム実務特論	13450	酒井 新一郎	Ⅱ/Ⅲ	221
と 統計学入門	11321	埴岡 忠清	Ⅰ	164
道德教育指導論	17749	松井 敦	Ⅱ	291
道德教育指導論（中等）	13829	松井 敦	Ⅱ/Ⅲ	243
特別活動論	14185	澤井 一夫	Ⅱ	306
特別支援教育（中高）	14187	濱田 誠二郎	Ⅱ	306
特別支援教育（幼小）	17683	濱田 誠二郎	Ⅱ	283
に 日本国憲法	11329	浅野 宜之	Ⅰ	165
日本語表現法	11401	箕野 聡子	Ⅰ	172
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子	Ⅱ	172
日本文化史	11353	箕野 聡子	Ⅱ	166
日本文化論	13273	箕野 聡子	Ⅱ	214
乳児保育Ⅰ	17778	渋谷 美智	Ⅰ	294
乳児保育Ⅱ	17779	渋谷 美智	Ⅱ	295
乳幼児心理学	17445	渡邊 恵梨佳	Ⅱ	266
人間学1	11209	尾崎 秀夫	Ⅰ	161
人間学2	11213	芝山 豊	Ⅲ	162
は 発達心理学	17201	濱田 誠二郎	Ⅰ	256
ひ 比較文化論	13830	箕野 聡子	Ⅲ	230
ビジネス中国語	13832	王 嬌	Ⅲ	233
ビジネス翻訳	13621	榎本 雄三	Ⅲ	229
ふ 福祉心理学	17543	新美 裕之	Ⅳ	274
フランス語1	11633	平田 淳子	Ⅰ	179
フランス語2	11637	平田 淳子	Ⅰ	180
フランス語3	11641	平田 淳子	Ⅰ	180
フランス語4	11645	平田 淳子	Ⅰ	181
フランス語5	11649	平田 淳子	Ⅱ	181
フランス語6	11653	平田 淳子	Ⅱ	182
フランス語7	11657	平田 淳子	Ⅱ	182
フランス語8	11661	平田 淳子	Ⅱ	183
文学入門	11309	箕野 聡子	Ⅰ	163
ほ 保育・教職実践演習（小）	17686	濱田 誠二郎	Ⅳ	285
保育・教職実践演習（幼保）	17686	渡邊 恵梨佳／森 晴美	Ⅳ	284
保育原理	17607	渡邊 恵梨佳	Ⅰ	276
保育実習指導ⅠA	17812	渋谷 美智	Ⅲ	297
保育実習指導ⅠB	17813	成木 智子	Ⅱ	297
保育実習指導Ⅱ	17821	成木 智子	Ⅲ	298
保育内容総論	17555	渡邊 恵梨佳	Ⅰ	275
保育内容の研究・表現（造形表現）	17601	森 晴美	Ⅲ	275
保育内容の研究・環境	17721	渋谷 美智	Ⅲ	288
保育内容の研究・健康	17717	竹安 知枝	Ⅲ	287
保育内容の研究・言葉	17633	森 晴美	Ⅲ	279
保育内容の指導・人間関係	17630	成木 智子	Ⅱ	278
保育内容の指導・表現（音楽）	17656	南 夏世	Ⅱ	281
簿記会計学	11357	埴岡 忠清	Ⅱ	167
ホスピタリティ・マネジメント	13831	一尾 敏正	Ⅱ	231
ホスピタリティ精神論	13272	一尾 敏正	Ⅰ	212

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	ボランティア論	1 7 5 0 5	西橋 隆三	I	270
	翻訳・通訳論入門	1 3 3 0 1	檜本 雄三／和泉 有香	II	215
よ	幼児教育学原理	1 7 6 1 7	森 晴美	II	277
	幼児教育課程論	1 7 6 2 3	渡邊 恵梨佳	II	278
	幼児教育指導法	1 7 7 2 5	森 晴美	III	288
	幼児理解の理論と方法（教育相談を含む）	1 7 7 2 7	成木 智子	III	289
り	臨床心理学概論	1 7 3 2 7	中園 佐恵子	II	257
	臨床心理学実習（心理テスト法）	1 7 3 7 5	中植 満美子	III	260